医師国家試験出題基準

令和６年版

厚生労働省医政局医事課

目　次

医師国家試験出題基準改定部会委員名簿（令和５年３月時点）
令和６年版医師国家試験出題基準・ブループリントの趣旨 1
医師国家試験出題基準の利用法 2
ブループリント（医師国家試験設計表） 5
主な検査項目の表記 9
必修の基本的事項 15
医学総論
Ⅰ　保健医療論 30
Ⅱ　予防と健康管理・増進 35
Ⅲ　人体の正常構造と機能 40
Ⅳ　生殖、発生、成長、発達、加齢 46
Ⅴ　病因、病態生理 49
Ⅵ　症候 53
Ⅶ　診察 61
Ⅷ　検査 63
Ⅸ　治療 71
医学各論
Ⅰ　先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常 84
Ⅱ　精神・心身医学的疾患 87
Ⅲ　皮膚・頭頸部疾患 89
Ⅳ　呼吸器・胸壁・縦隔疾患 96
Ⅴ　心臓・脈管疾患 99
Ⅵ　消化器・腹壁・腹膜疾患 102
Ⅶ　血液・造血器疾患 106
Ⅷ　腎・泌尿器・生殖器疾患 109
Ⅸ　神経・運動器疾患 114
Ⅹ　内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患 120
Ⅺ　アレルギー性疾患、膠原病、免疫病 124
Ⅻ　感染性疾患 126
ⅩⅢ　生活環境因子・職業性因子による疾患 129
索引
欧文索引 132
邦文索引 136
参考
医師国家試験改善検討部会報告書 175

医師国家試験出題基準改定部会委員名簿

（所属は令和５年３月時点）

	氏　名	所　属
部　会　長	國土　典宏	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
参　与	釜萢　敏	公益社団法人日本医師会
	小西　靖彦	静岡県立総合病院
	坂井　建雄	日本医学会医学用語管理委員会、順天堂大学
	清水　貴子	社会福祉法人聖隷福祉事業団
	高木　康	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
	中谷　晴昭	千葉大学
	奈良　信雄	一般社団法人日本医学教育評価機構
	伴　信太郎	中津川市地域総合医療センター、愛知医科大学
	吉田　穂波	神奈川県立保健福祉大学
第 117 回国家試験		
委 員 長	永田　康浩	長崎大学
副委員長	細野　茂春	自治医科大学附属さいたま医療センター
委　員	赤井　靖宏	奈良県立医科大学
	綾部　琢哉	帝京平成大学
	安藤　康宏	国際医療福祉大学病院
	池添　隆之	福島県立医科大学
	池松　禎人	社会福祉法人十善会病院
	石坂　信和	社会福祉法人同愛記念病院
	稲森　正彦	横浜市立大学
	伊豫田　明	東邦大学
	岩崎　真一	名古屋市立大学
	上原　由紀	藤田医科大学
	宇於崎　宏	帝京大学
	大久保　由美子	帝京大学
	大塚　文男	岡山大学大学院
	大平　善之	聖マリアンナ医科大学
	岡山　雅信	神戸大学
	折舘　伸彦	横浜市立大学
	勝沼　俊雄	東京慈恵会医科大学附属第三病院
	金子　祐子	慶應義塾大学
	河野　博隆	帝京大学

氏　名	所　属
菊池　健太郎	帝京大学医学部附属溝口病院
北島　美香	熊本大学
金城　紀与史	沖縄県立中部病院
小松　弘幸	宮崎大学
齋藤　登	獨協医科大学埼玉医療センター
相良　博典	昭和大学
杉浦　一充	藤田医科大学
外園　千恵	京都府立医科大学
高村　昭輝	富山大学
谷垣　伸治	杏林大学
土屋　静馬	昭和大学
冨田　泰彦	杏林大学
猶木　克彦	北里大学
長江　千愛	聖マリアンナ医科大学
中田　雅彦	東邦大学
難波　大夫	名古屋市立大学
西尾　善彦	鹿児島大学
野崎　実穂	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター
橋本　英樹	東京大学
花島　律子	鳥取大学
平島　奈津子	国際医療福祉大学三田病院
福島　裕之	東京歯科大学市川総合病院
藤野　善久	産業医科大学
三井　良之	近畿大学
宮岡　等	北里大学
宮城　悦子	横浜市立大学
宮崎　淳	国際医療福祉大学
森下　英理子	金沢大学
守谷　俊	自治医科大学附属さいたま医療センター
安井　孝周	名古屋市立大学
山田　隆之	東北医科薬科大学
山本　卓明	福岡大学
山本　俊幸	福島県立医科大学
萬　知子	杏林大学
渡辺　昌文	山形大学
オブザーバー　堀岡　伸彦	文部科学省高等教育局医学教育課企画官

令和６年版医師国家試験出題基準・ブループリントの趣旨

１　医師国家試験出題基準とは

（１）定義

医師国家試験出題基準（ガイドライン）は、医師国家試験の「妥当な範囲」と「適切なレベル」とを項目によって整理したもので、試験委員が出題に際して準拠する基準である。

（２）基本的考え方

①全体を通じて、臨床実習での学習成果を中心とした臨床研修開始前の到達度を確認することに主眼を置く。

②「必修の基本的事項」では、医師としての基本的姿勢を含めた基本的診療能力を主題として出題する。

③「医学総論」、「医学各論」では、原則、我が国のどの医療機関であっても対応できるような内容に限定する。

（３）卒前教育等との関係

大学医学部・医科大学における医学教育は、大学の自主性に基づいて実施されているが、大学医学部・医科大学卒業後、医師国家試験に合格し、医籍に登録されると医師となるのであるから、医師の任務を果たすのに必要な内容は、一連の医学教育に包含されるべきものである。一方、試験委員が準拠する医師国家試験出題基準は、卒前教育・卒後臨床研修・専門医の育成等を含めた一連の医師養成課程の中で、医師が医療現場での第一歩を踏み出す際に少なくとも具有すべき基本的知識・技能・態度を各項目に分類し、具体的に示したものである。これは、卒前教育の全てを網羅するものではなく、また、卒前教育のあり方及び内容を拘束するものではないが、医師の任務を果たすのに必要な事項を示すものである。

２　ブループリントとは

ブループリント（医師国家試験設計表）は、医師国家試験出題基準の各項目（章、大項目等）の出題割合を示したものである。これに基づき、医療に対するニーズが拡大している近年の状況を踏まえ、社会的に要請の高い分野を含めた幅広い領域から出題するほか、頻度や緊急性の高い疾患についても優先的に出題することになる。

医師国家試験出題基準の利用法

はじめに

医師国家試験は、医師法第 9 条に基づき「臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能」について行われる。また、医師法の一部改正により、平成 16 年 4 月 1 日から臨床研修が必修化され、同法第 16 条の 2 において、診療に従事しようとする医師は、2 年以上、臨床研修を受けなければならないとされていることから、第 9 条にいう「知識と技能」とは、医療に第一歩を踏み出し、指導医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であると考えられる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、医師国家試験出題基準である。医師試験委員会は、医師国家試験の妥当な内容、範囲及び適切なレベル等を確保するため、この基準に拠って出題する。

従って、医師国家試験出題基準は大学医学部・医科大学の卒前教育で扱われている内容の全てを網羅するのではなく、また、これらの教育のあり方を拘束するものではない。

利用方法

利用者は以下の各項に従う。

なお、各項目は、医師国家試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致しない点があるほか、各項目間で内容が重複することがある。また、用語については、日本医学会医学用語辞典 Web 版の内容を考慮し定めている。

１．大・中・小項目、レベル分類、備考

（1）大項目は、中項目を束ねる見出しである。

（2）中項目には、医師国家試験の出題範囲となる事項名・疾病名・障害名を包括する疾患概念や分類名を記載している。

（3）小項目には、中項目の内容に属する事項名・疾病名・障害名を具体的に記載し、可能な限り出題範囲を明確化している。

（4）レベル分類には、小項目で求められる知識の範囲を明確化している。

レベル分類	病態・疾患の概要	診療のレベル		出題内容
		初療	継続診療	
a	○プライマリ・ケア領域で頻度が高い病態・疾患 ○緊急対応が必要な病態・疾患	指導下で診断から治療まで行え、必要に応じて適切にコンサルトできる	継続診療に必要な問題解決ができる	○病態生理 ○臨床推論 ○初期対応・救急対応 ○継続診療
b	○臨床研修で経験すべき病態・疾患	基本的事項を理解し、指導の下に初療ができる	適切に診療依頼ができる	○病態生理 ○臨床推論 ○初期対応
c	○臨床研修で経験すべき病態・疾患の範囲を超えるもの	疾患概念を説明でき、鑑別疾患として想起できる		○病名想起

（5）備考には、小項目に関する内容のうち、基本的臨床能力の観点から特に重要な事項を記載している。ただし、原語表記を明確化しておく必要がある場合はこの限りでない。

２．ブループリント(医師国家試験設計表)について

項目・評価領域ごとに出題割合を規定したものである。
利用者は、以下の各項に従う。

（１）「必修の基本的事項」

「必修の基本的事項」では、各大項目に出題割合を記載している。

これは、「必修の基本的事項」における問題全体のうち、当該大項目に関する問題の出題割合を示したものである。

（２）「医学総論」及び「医学各論」

「医学総論」及び「医学各論」では、各章と各大項目に出題割合を記載している。各章に記載されている出題割合は、当該章に関する問題の医学総論(又は医学各論)全体に対する割合を示しており、また、大項目に記載されている出題割合は、当該大項目のその章全体に対する割合を示している。

【例】　医学総論　　Ⅶ　診察　　約７％
　　３　小児の診察　　約 20％

※　「医学総論」において、「Ⅶ 診察」に関する問題を全問題の約７％出題し、さらに「Ⅶ 診察」の問題のうち、「３ 小児の診察」に関する問題を約 20％(「医学総論」全体からみると約 1.4％)出題することを意味する。

なお、「医学総論」においては「必修の基本的事項」の出題項目を、「医学各論」においては「必修の基本的事項」と「医学総論」の出題項目についても、それぞれ出題することができる。

（３）中項目以下の取扱い

出題割合の記載のない中項目以下の事項については、試験委員会の判断で出題が可能であるが、日常臨床で遭遇する機会の多い疾患や病態の出題を優先する。

３．その他

（１）括弧は以下のルールに基づいて使用した。試験委員の判断で、括弧内・外の語を単独または併記して使用できる。

（　）：直前の語の説明又は限定
　　【例】外耳(耳介、外耳道、鼓膜)
〈　〉：直前の語と同義
　　【例】世界保健機関〈WHO〉
［　］：(　)や〈　〉の中に(　)や〈　〉がある場合の大きな括り
　　【例】薬剤耐性[antimicrobial resistance〈AMR〉]
｛　｝：省略しても意味または分類の変わらない語
　　【例】蛋白｛質｝

（２）関連する語を列記する際に、読点「、」及び中点「･」を以下のルールに基づいて使用した。ただし、検索の利便性を確保する観点から、索引には中点を使用せずに掲載している場合がある。

読点「、」：単純に列記する場合
　　【例】眼窩、｛眼｝瞼裂
中点「･」：前後の語での重複を排して列記する場合
　　【例】内分泌機能検査、代謝機能検査 → 内分泌・代謝機能検査

（3）疾病名・障害名等は、一部で各論の章に重複して記載されている。重複していない項目についても、章または大項目の標題である臓器・病態に限定されずに出題することができる。また、年齢・性による違いに注目して出題することができる。

（4）医学総論の「Ⅲ 人体の正常構造と機能」に関しては、臨床的事項を理解するのに必要な内容に限って出題する。

ブループリント（医師国家試験設計表）

〔出題割合は概数なので、必ずしも合計が 100%にならない場合もある。最右列の数字は該当頁。〕

【必修の基本的事項】

1	医師のプロフェッショナリズム	約 4%	16
2	社会と医療	約 6%	16
3	診療情報と諸証明書	約 2%	16
4	医療の質と安全の確保	約 4%	17
5	人体の構造と機能	約 3%	17
6	医療面接	約 6%	18
7	主要症候	約 15%	19
8	一般的な身体診察	約 13%	21
9	検査の基本	約 5%	22
10	臨床判断の基本	約 4%	23
11	救急初期診療	約 9%	23
12	主要疾患・症候群	約 10%	24
13	治療の基本	約 4%	26
14	基本的手技	約 4%	27
15	死、緩和ケア、終末期ケア	約 2%	27
16	チーム医療と多職種連携	約 2%	27
17	生活習慣とリスク	約 5%	28
18	一般教養的事項	約 2%	28

【医学総論】

Ⅰ　保健医療論　　約 13%

1	健康・疾病・障害の概念と社会環境	約 20%	30
2	社会保障制度と医療経済	約 10%	30
3	保健・医療・福祉・介護の仕組み	約 15%	30
4	保健・医療・福祉・介護の資源	約 15%	31
5	保健・医療・福祉・介護関係法規	約 15%	31
6	地域保健、地域医療	約 15%	33
7	国際保健	約 10%	34

Ⅱ　予防と健康管理･増進　　約 17%

1	予防医学と健康保持増進	約 12%	35
2	人口統計と保健統計	約 8%	35
3	疫学とその応用	約 8%	35
4	母子保健	約 12%	36
5	成人保健	約 4%	36
6	高齢者保健	約 4%	36
7	精神保健福祉	約 8%	36
8	感染症対策	約 16%	37
9	国民栄養と食品保健	約 4%	37
10	学校保健	約 4%	37
11	産業保健	約 8%	37
12	環境保健	約 12%	38

Ⅲ　人体の正常構造と機能　　約 9%

1	個体の構造	約 8%	40
2	皮膚、頭頸部、感覚器、発声器	約 15%	40
3	呼吸器、胸郭、胸壁	約 8%	41
4	心臓、脈管	約 8%	41
5	消化器、腹壁、腹膜	約 8%	42
6	血液、造血器	約 8%	42
7	腎、泌尿器、生殖器	約 8%	42
8	心理、精神、神経、運動器	約 15%	43
9	内分泌、代謝、栄養	約 8%	44
10	免疫	約 15%	45

Ⅳ　生殖、発生、成長、発達、加齢　約 9%

1	妊娠	約 15%	46
2	分娩	約 15%	46
3	産褥	約 8%	46
4	胎児	約 8%	46
5	新生児	約 15%	47
6	小児期	約 15%	47
7	思春期、青年期	約 8%	48
8	加齢、老化	約 15%	48

Ⅴ　病因、病態生理　約 12%

1	疾病と影響因子	約 6%	49
2	先天異常	約 11%	49
3	損傷、炎症	約 11%	49
4	感染	約 11%	50
5	アレルギー、免疫異常	約 6%	50
6	腫瘍	約 11%	50
7	循環障害、臓器不全	約 6%	51
8	内分泌・代謝・栄養の異常	約 11%	51
9	中毒、放射線障害	約 11%	51
10	医原病	約 6%	52
11	死	約 11%	52

Ⅵ　症候　約 12%

1	全身症候	約 17%	53
2	皮膚、外表	約 6%	53
3	頭頸部、感覚器	約 11%	54
4	呼吸器、心臓、血管	約 11%	55
5	消化器	約 11%	56
6	血液、造血器、免疫	約 11%	57
7	腎、泌尿器、生殖器	約 11%	57
8	心理、精神機能	約 6%	57
9	神経、運動器	約 11%	58
10	内分泌、代謝、栄養	約 6%	60

Ⅶ　診察　約 7%

1	二次・三次救急の診察	約 30%	61
2	高齢者の診察と評価	約 30%	61
3	小児の診察	約 20%	61
4	胎児・新生児の診察と評価	約 10%	62
5	妊・産・褥婦と胎児の診察	約 10%	62

Ⅷ　検査　約 9%

1	検体検査	約 23%	63
2	生体機能検査	約 23%	65
3	皮膚・感覚器・発声機能検査	約 8%	66
4	心理・精神機能検査	約 8%	67
5	妊娠・分娩・胎児・新生児の検査	約 8%	67
6	画像検査	約 15%	68
7	内視鏡検査	約 15%	70

Ⅸ　治療　約 13%

1	食事・栄養療法	約 10%	71
2	薬物療法	約 10%	71
3	輸液、輸血、血液浄化	約 10%	72
4	手術、周術期の管理、麻酔	約 10%	72
5	臓器・組織・細胞移植、人工臓器、再生医療	約 5%	74
6	放射線治療	約 5%	74
7	インターベンショナルラジオロジー〈IVR〉	約 5%	75
8	内視鏡治療	約 5%	76
9	リハビリテーション	約 10%	76
10	二次・三次救急の治療	約 15%	77
11	緩和ケア	約 10%	79
12	その他の治療法	約 5%	80

【医学各論】

Ⅰ　先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常　約 5%

1	妊娠の異常	84
2	分娩・産褥の異常	84
3	胎児・新生児の異常	85
4	性分化・染色体異常、先天異常および成長・発達の障害	86

Ⅱ　精神・心身医学的疾患　約 5%

1	症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動障害	87
2	気分障害、統合失調症と類縁疾患	87
3	不安症、ストレス関連症、身体的苦痛症または身体的体験症	87
4	生理的障害、身体的要因に関連した障害	88
5	小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害	88
6	成人のパーソナリティ・行動障害	88

Ⅲ　皮膚・頭頸部疾患　約 11%

1	炎症性皮膚疾患	89
2	腫瘍・母斑性皮膚疾患	89
3	その他の皮膚疾患	90
4	視機能異常、視神経疾患	91
5	眼窩・外眼部・前眼部・眼球の疾患	91
6	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患	92
7	外耳・中耳疾患	92
8	内耳・神経疾患	92
9	鼻腔・副鼻腔・喉頭疾患	93
10	咽頭・口腔・唾液腺疾患	93
11	損傷、奇形	94

Ⅳ　呼吸器・胸壁・縦隔疾患　約 7%

1	感染性呼吸器疾患	96
2	気管・気管支・肺の形態・機能異常、外傷	96
3	免疫学的機序が考えられる肺疾患	96
4	実質性・間質性肺障害	97
5	肺循環異常	97
6	気管支・肺・胸膜・縦隔の腫瘍	97
7	胸膜・縦隔・横隔膜・胸郭の形態・機能異常と外傷	98
8	呼吸調節異常	98

Ⅴ　心臓・脈管疾患　約 10%

1	不整脈	99
2	心不全	99
3	先天性心疾患	99
4	弁膜症	99
5	虚血性心疾患	100
6	心筋・心膜疾患、心臓腫瘍、外傷	100
7	血圧異常	100
8	脈管疾患	101

Ⅵ　消化器・腹壁・腹膜疾患　約 13%

1	食道疾患	102
2	胃・十二指腸疾患	102
3	小腸・結腸疾患	102
4	直腸・肛門疾患	102
5	消化管共通疾患	103
6	肝疾患	103
7	胆道疾患	104
8	膵疾患	104
9	横隔膜・腹膜・腹壁疾患	104
10	急性腹症	105
11	損傷、異物	105
12	その他の重要な小児領域の疾患	105

Ⅶ 血液・造血器疾患　約 5%

1	赤血球系疾患	106
2	白血球系疾患とその他の骨髄性疾患	106
3	リンパ系疾患	106
4	出血性疾患と血栓傾向	107
5	その他の重要な小児領域の疾患	107

Ⅷ 腎・泌尿器・生殖器疾患　約 12%

1	糸球体病変	109
2	血管・尿細管・間質病変	109
3	腎機能の障害による異常	110
4	腎・尿路結石と尿路閉塞性疾患	110
5	腎・尿路・生殖器の炎症	110
6	腎・尿路・男性生殖器の腫瘍	111
7	女性生殖器の類腫瘍・腫瘍	111
8	月経異常、不妊、不育	111
9	更年期・閉経後障害	112
10	その他の尿路・生殖器異常	112

Ⅸ 神経・運動器疾患　約 9%

1	脳血管障害	114
2	脳腫瘍	114
3	神経・運動器の感染性・炎症性疾患	114
4	神経変性・代謝性・脱髄疾患、中毒	115
5	末梢神経・神経筋接合部・筋疾患	115
6	発作性・機能性・自律神経系疾患	116
7	脊椎・脊髄疾患、骨・関節系統疾患	116
8	上肢・下肢の運動器疾患、非感染性骨・関節・四肢軟部疾患	116
9	骨・軟部腫瘍と類似疾患	117
10	神経・運動器の外傷、脳・脊髄の形成異常、神経皮膚症候群、その他	118
11	その他の重要な小児領域の疾患	119

Ⅹ 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患　約 8%

1	間脳・下垂体疾患	120
2	甲状腺疾患	120
3	副甲状腺〈上皮小体〉疾患とカルシウム・リン代謝異常	120
4	副腎皮質・髄質疾患	120
5	その他の内分泌疾患	121
6	糖{質}代謝異常	121
7	脂質代謝異常	121
8	蛋白・アミノ酸代謝異常	121
9	その他の代謝異常	122
10	その他の重要な小児領域の疾患	122
11	乳腺・乳房疾患	122

Ⅺ アレルギー性疾患、膠原病、免疫病　約 5%

1	アレルギー性疾患	124
2	膠原病と類縁疾患	124
3	原発性免疫不全症	125
4	続発性免疫不全症	125
5	その他の重要な小児領域の疾患	125

Ⅻ 感染性疾患　約 8%

1	ウイルス	126
2	細菌	126
3	抗酸菌〈マイコバクテリア〉	127
4	真菌、寄生虫、その他の病原体	127

ⅩⅢ 生活環境因子・職業性因子による疾患　約 5%

1	食中毒、病害動物による疾患	129
2	アルコールによる障害、薬物依存・中毒	129
3	喫煙による影響	129
4	産業中毒とその他の職業性疾患	129
5	物理的原因・生活環境因子による障害	130

主な検査項目の表記

出題に際して、主な検査項目の表記については以下に準拠する。ただし、以下に掲載していない検査も出題され得る。なお、「２　血液学検査」、「３　生化学検査」、「４　免疫血清学検査」及び「７　生体機能検査」の※印のある項目は、出題に際して基準範囲を記載しなくてもよい。

１　一般臨床検査

分類	項目
尿検査	肉眼的所見
	尿量
	比重
	浸透圧
	pH
	尿蛋白
	尿糖
	ウロビリノゲン
	ケトン体
	ビリルビン
	アミラーゼ
	尿潜血
	尿沈渣所見
	細菌検査
	尿細胞診
	白血球反応
	妊娠反応
	微量アルブミン
	【例】尿所見：蛋白１＋、糖(－)、沈渣に赤血球10～20/HPF、白血球多数/HPF、赤血球円柱＋。
糞便検査	肉眼的所見
	顕微鏡検査(虫卵など)
	便潜血反応、免疫学的便潜血検査
	便細菌検査
喀痰検査	肉眼的所見
	細胞診
	細菌検査
脳脊髄液検査	初圧
	圧(Queckenstedt現象)
	肉眼的所見
	細胞数(種類と比率)
	蛋白定量
	糖定量
	IgG%
	ミエリン塩基性蛋白
	クロール定量
	細菌検査
	細胞診
	オリゴクローナルバンド

分類	項目
穿刺液検査	肉眼的所見
	比重
	蛋白定量
	細胞数(種類)
	細胞診
	細菌検査

２　血液学検査

分類	項目	
赤沈	赤沈	※
血球検査	赤血球	※
	ヘモグロビン<Hb>	※
	ヘマトクリット<Ht>	※
	平均赤血球容積<MCV>	※
	平均赤血球ヘモグロビン<MCH>	※
	平均赤血球ヘモグロビン濃度<MCHC>	※
	網赤血球	※
	白血球	※
	白血球分画	※
	血小板	※
	末梢血・骨髄血塗抹	
	【例】血液所見：赤血球396万、Hb 12.9 g/dL、Ht 38%、網赤血球1.2%、白血球7,800(桿状核好中球12%、分葉核好中球51%、好酸球2%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球28%)、血小板20万。	
凝固・線溶・血小板機能検査	出血時間	
	プロトロンビン時間<PT>	
	活性化部分トロンボプラスチン時間<APTT>	
	血漿アンチトロンビン	
	トロンビン・アンチトロンビン複合体<TAT>	
	フィブリノゲン	
	FDP	
	Dダイマー	
	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体<PIC>	
	血小板凝集能	
	ループスアンチコアグラント<LAC>	

分類	項目	
溶血に関する検査	赤血球浸透圧抵抗試験	
	Ham試験	
輸血関連検査	血液型	
	交差適合試験〈クロスマッチ〉	

3　生化学検査

分類	項目	
蛋白・蛋白分画	総蛋白〈TP〉	※
	蛋白分画	※
	アルブミン〈Alb〉	※
	α_1・β_2-マイクログロブリン	
	IgG、IgA、IgM、IgE	
	フェリチン	
	心筋トロポニンT	
	心筋トロポニンI	
生体色素	総ビリルビン	※
	直接ビリルビン	※
酵素、アイソザイム	AST	※
	ALT	※
	LD〈LDH〉	
	ALP	
	γ-GT〈γ-GTP〉	
	コリンエステラーゼ〈ChE〉	
	アミラーゼ	
	リパーゼ	
	CK	
	CK-MB	
	アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉	
	ペプシノゲン	
含窒素成分	尿素窒素〈BUN〉	※
	クレアチニン〈Cr〉	※
	尿酸〈UA〉	※
	アンモニア	
糖代謝関連	{随時}血糖	※
	空腹時血糖〈FBS〉	※
	ブドウ糖負荷試験〈OGTT〉	
	HbA1c	
脂質代謝関連	総コレステロール〈TC〉	※
	トリグリセリド〈TG〉	※
	HDLコレステロール	※
	LDLコレステロール	※

分類	項目	
電解質、酸塩基平衡	Na	※
	K	※
	Cl	※
	Ca	※
	P	※
	Mg	
	浸透圧	
重金属、微量元素	Cu	
	Fe	※
	総鉄結合能〈TIBC〉	
	不飽和鉄結合能〈UIBC〉	
ビタミン	ビタミンB_1	
	ビタミンB_{12}	
	葉酸	
	25水酸化ビタミンD	
ホルモン　下垂体	甲状腺刺激ホルモン〈TSH〉	
	成長ホルモン〈GH〉	
	黄体化ホルモン〈LH〉	
	副腎皮質刺激ホルモン〈ACTH〉	
	卵胞刺激ホルモン〈FSH〉	
	プロラクチン〈PRL〉	
	抗利尿ホルモン、バソプレシン〈ADH〉	
ホルモン　甲状腺	遊離トリヨードサイロニン〈FT_3〉	
	遊離サイロキシン〈FT_4〉	
	サイログロブリン	
	カルシトニン	
ホルモン　副甲状腺〈上皮小体〉	副甲状腺ホルモン〈PTH〉	
ホルモン　副腎	コルチゾール	
	アルドステロン	
	17α-ヒドロキシプロゲステロン	
	アドレナリン	
	ノルアドレナリン	
ホルモン　消化管	ガストリン	
ホルモン　膵島	インスリン	
	グルカゴン	
	Cペプチド〈CPR〉	
ホルモン　腎臓	血漿レニン活性〈PRA〉	
	アンジオテンシン	
	エリスロポエチン	
ホルモン　性腺・胎盤	エストラジオール〈E_2〉	
	プロゲステロン	
	テストステロン	
	絨毛性ゴナドトロピン〈hCG〉	

分類		項目	
ホルモン	心臓	心房性ナトリウム利尿ペプチド〈hANP〉	
		脳性ナトリウム利尿ペプチド〈BNP〉	
	尿中ホルモン	5-ヒドロキシインドール酢酸〈5-HIAA〉	
		遊離コルチゾール	
		カテコラミン	
		メタネフリン・ノルメタネフリン	
		バニリルマンデル酸〈VMA〉	
腫瘍マーカー		α-フェトプロテイン〈AFP〉	
		CEA	
		CA19-9	
		CA125	
		PSA	
線維化マーカー		KL-6	

4　免疫血清学検査

分類	項目	
炎症マーカー	C反応性蛋白〈CRP〉	※
感染マーカー	プロカルシトニン	
感染の抗原・抗体	梅毒血清反応	
	Weil-Felix反応	
	ASO	
	トキソプラズマ抗体	
	寒冷凝集反応	
	マイコプラズマ抗体	
	ウイルス血清反応	
	β-D-グルカン	
	HTLV-1抗体	
	HIV抗体	
	HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体	
	HCV抗体	
自己抗体	リウマトイド因子〈RF〉	
	抗CCP抗体	
	抗核抗体	
	抗dsDNA抗体	
	抗Sm抗体	
	抗RNP抗体	
	抗SS-A抗体	
	抗SS-B抗体	
	抗Scl-70抗体	
	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	

分類	項目	
自己抗体	抗セントロメア抗体	
	抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体〈抗ARS抗体〉	
	抗Jo-1抗体	
	抗MDA5抗体	
	抗Mi-2抗体	
	抗TIF1-γ抗体	
	抗カルジオリピン抗体	
	抗β2グリコプロテインI抗体	
	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体〈MPO-ANCA〉	
	抗好中球細胞質プロテイナーゼ-3抗体〈PR3-ANCA〉	
	抗ミトコンドリア抗体	
	抗平滑筋抗体	
	抗サイログロブリン抗体	
	抗甲状腺ペルオキシダーゼ〈TPO〉抗体	
	抗TSH受容体抗体〈TRAb〉	
	抗GAD抗体	
	抗インスリン抗体	
	直接・間接Coombs試験	
	抗アクアポリン4抗体	
	抗アセチルコリン受容体抗体	
免疫蛋白	免疫電気泳動	
	Bence Jones蛋白	
アレルギーに関する検査	アレルゲン検査	
	IgE、特異的IgE	
	皮膚反応(パッチテスト、プリックテスト、皮内反応)	
	再投与試験	
補体	血清補体価(CH_{50})、C3、C4	
	免疫複合体	
細胞免疫・食菌能検査	リンパ球表面抗原検査	
	CD4/CD8比	
	好中球機能検査	
	リンパ球刺激試験	
	ツベルクリン反応	
	結核菌特異的全血インターフェロンガンマ遊離試験〈IGRA〉	
移植免疫	組織適合検査 【例】HLA-B27、HLA-B51	

5　微生物学検査

分類	項目
病原体検査	細菌検査(塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験)
	結核・抗酸菌検査(塗抹、Gaffky号数、培養、感受性試験、核酸検査)
	スピロヘータ
	リケッチア
	クラミジア
	マイコプラズマ
	ウイルス
	真菌
	原虫
	寄生虫
	核酸検査
	抗原迅速検査

注)細菌の学名はイタリック体で、ウイルスはローマン体で表記。

【例】*Staphylococcus aureus*

poliovirus

6　病理組織学検査、細胞診

分類	項目
光顕・電顕標本	
染色法	Hematoxylin-eosin染色<H-E染色> 【例】生検組織のH-E染色標本
	PAS染色 【例】腎生検のPAS染色標本
	PAM染色
	SudanⅢ染色
	Congo-Red染色
	Gram染色 【例】喀痰のGram染色標本
	Ziehl-Neelsen染色
	Grocott染色
	May-Giemsa染色 【例】骨髄血塗抹May-Giemsa染色
	Papanicolaou染色
	免疫組織化学染色
	酵素組織化学染色
	Gomori-Trichrome染色

7　生体機能検査

分類	項目	
動脈血ガス分析	pH	※
	$PaCO_2$	※
	PaO_2	※
	HCO_3^-	※
	【例】動脈血ガス分析(room air)： pH 7.41、$PaCO_2$ 41 Torr、PaO_2 83 Torr、HCO_3^- 25 mEq/L。	
呼吸機能	%VC	
	FEV_1%	
心機能	{12誘導}心電図検査	
	Holter心電図検査	
	運動負荷心電図検査	
	心臓カテーテル検査	
消化器系	唾液分泌検査	
	食道・胃24時間pHモニタリング検査	
	食道内圧検査	
	肛門内圧検査	
	BT-PABA試験	
	尿素呼気試験	
内分泌・代謝機能	インスリン負荷試験	
	グルカゴン負荷試験	
	ブドウ糖負荷試験	
	絶食試験	
	TRH負荷試験	
	CRH負荷試験	
	GHRH負荷試験	
	LHRH負荷試験	
	デキサメタゾン抑制試験	
	水制限試験	
	高張食塩水負荷試験	
	ACTH試験	
	甲状腺^{123}I摂取率	
	フロセミド負荷試験	
	PTH負荷試験<Ellsworth-Howard試験>	
	プロゲステロン負荷試験	
	エストロゲン・プロゲステロン負荷試験	
	ゴナドトロピン負荷試験	
腎機能	クレアチニンクリアランス	
	糸球体濾過量<GFR>	
	レノグラム	
神経	脳波検査	
	針筋電図検査	
	末梢神経伝導検査	

8　内視鏡検査

分類	検査名	画像名
内視鏡検査	上部消化管内視鏡検査	～像
	下部消化管内視鏡検査	
	気管支鏡検査	
	カプセル内視鏡検査	
	小腸内視鏡検査	
	喉頭内視鏡検査	
	色素内視鏡検査	
	超音波内視鏡検査	

9　画像検査

分類	検査名	画像名
超音波検査	頸部超音波検査	～像
	乳房超音波検査	
	腹部超音波検査	
	心エコー検査	～図
	カラードプラ心エコー検査	
	経食道心エコー検査	
	前立腺経直腸超音波検査	～像
	経腟超音波検査	
	迅速簡易超音波検査<FAST>	
エックス線撮影	頭部エックス線撮影	～写真
	胸部エックス線撮影	
	腹部エックス線撮影	
	骨盤エックス線撮影	
	関節エックス線撮影	
	脊椎エックス線撮影	
	四肢エックス線撮影	
	産科的骨盤エックス線撮影	
	マンモグラフィ	マンモグラム
エックス線造影撮影	上部消化管造影検査	～像
	小腸造影検査	
	注腸造影検査	
	内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査<ERCP>	
	静脈性尿路造影検査	
	逆行性尿路造影検査	
	子宮卵管造影検査<HSG>	
	血管造影検査	
	選択的動脈造影検査	
	デジタルサブトラクション血管造影検査<DSA>	

分類	検査名	画像名
CT	単純・造影CT	単純・造影CT 【例】腹部造影CT
	ダイナミックCT	ダイナミックCT
	三次元CT<3D-CT>	三次元CT<3D-CT>
	三次元CT血管撮影<3D-CTA>	三次元CT血管像<3D-CTA>
	大腸CT<CTコロノグラフィ>	大腸CT<CTコロノグラム>
MR	単純・造影MRI	単純・造影MRI 【例】頭部単純MRIのT2強調矢状断像
	磁気共鳴血管撮影<MRA>	～像<MRA>
	磁気共鳴胆管膵管撮影<MRCP>	～像<MRCP>
核医学検査	ポジトロン断層撮影<PET>	～像<PET>
	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影<PET/CT>	～像<PET/CT>
	シングルフォトンエミッションCT<SPECT>	シングルフォトンエミッションCT<SPECT>
	シンチグラフィ	シンチグラム 【例】$^{99m}TcO_4^-$甲状腺シンチグラム

注)検査名に下線がある場合は、下線部分を省いて画像名の欄の語を続ける。画像名の欄のないものは、波形名等として下線部分を省いて表記する。

【例】検査名…　腹部超音波検査、心電図検査
　　画像名…　腹部超音波像、心電図

必修の基本的事項

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
1　医師のプロフェッショナリズム　約４％	A　医の倫理	①　生と死にかかわる倫理的問題
		②　医師の職業倫理指針
		③　善行、無危害、自律尊重、正義
	B　患者の権利と義務	①　自己決定権
		②　インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、共同意思決定〈シェアードディシジョンメイキング〉
		③　個人情報の保護(守秘義務)
		④　ジュネーブ宣言、リスボン宣言
		⑤　患者中心の医療
		⑥　患者・家族の医療への参加
		⑦　患者・市民参画
2　社会と医療　約６％	A　医療制度、医療財政	①　医師法
		②　医療法
		③　医療保険制度
		④　介護保険制度
		⑤　国民医療費
	B　患者・障害者のもつ心理・社会的問題	①　疾病・障害の概念と構造
		②　生活の質[quality of life〈QOL〉]
		③　リハビリテーションの理念
		④　ノーマライゼーション
		⑤　患者・障害者の心理と態度
		⑥　患者・障害者の社会活動と社会参加
		⑦　家族機能
		⑧　アドバンス・ケア・プランニング〈ACP〉
		⑨　行動変容
	C　保健・医療・福祉・介護・教育の制度と連携	①　職種の役割と制度
		②　職種間コミュニケーション
		③　部門間連携
	D　社会資源	①　社会保障制度(所得、介護、障害)
		②　人的、物的、精神的、経済的支援
		③　社会復帰
	E　医学研究と倫理	①　人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針
		②　遺伝子治療等臨床研究に関する指針
	F　臨床研究と倫理性	①　ヘルシンキ宣言
		②　臨床試験・治験の倫理と制度
3　診療情報と諸証明書　約２％	A　診療録、医療記録	①　診療録・医療記録の管理と保存
		②　診療録の内容
		③　診療情報の開示
		④　プライバシー保護、セキュリティ
		⑤　問題志向型医療記録〈POMR〉
		⑥　SOAP(主観的所見、客観的所見、評価、計画)
	B　診療に関する諸記録	①　処方箋
		②　入院診療計画書
		③　検査・画像・手術の記録

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
		④　退院時要約
	C　診断書、検案書、証明書	①　診断書
		②　出生証明書
		③　死産証書
		④　死胎検案書
		⑤　死亡診断書
		⑥　死体検案書
4　医療の質と安全の確保　約４％	A　医療の質の確保	①　医療の質の定義〈WHO〉
		②　医療の質(安全性、有効性、患者中心性、適時性、効率性、公平性)、質改善手法
		③　医療の質の評価(構造・過程・結果)
		④　クリニカルパス
		⑤　病院機能評価、国際標準化
	B　医療事故の発生と再発の防止	①　医療過誤、医療事故
		②　医療事故の発生要因(ヒューマンエラー、システムエラー)、医療事故の分析手法、再発防止策の立案
		③　医療安全文化の醸成
		④　医療事故の内容
		⑤　ヒヤリ・ハット、インシデント、アクシデント
		⑥　インシデントレポート
		⑦　医療安全管理マニュアル
		⑧　医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医療安全管理者
		⑨　医療安全支援センター
		⑩　医療事故調査制度
		⑪　医療事故情報収集等事業
	C　薬剤耐性・院内感染対策	①　院内感染対策委員会
		②　院内感染サーベイランス
		③　院内感染対策チーム〈ICT〉
		④　感染対策マニュアル
		⑤　標準予防策〈standard precautions〉
		⑥　感染経路別予防策
		⑦　抗菌薬の適正使用[antimicrobial stewardship〈AMS〉]
		⑧　薬剤耐性[antimicrobial resistance〈AMR〉]
		⑨　針刺し切創
	D　医療裁判	①　医事紛争、医療訴訟
	E　医薬品・医療機器の副作用・不具合	①　有害事象と副作用
		②　副作用への対応(報告義務、治療、補償)
		③　添付文書
	F　血液・血液製剤の安全性	①　使用記録保管義務
	G　医療情報	①　診療情報管理・情報セキュリティ
5　人体の構造と機能　約３％	A　周産期	①　遺伝子、染色体
		②　妊娠
		③　分娩
		④　産褥

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
	B　胎児・新生児期	①　胎児・新生児期の身体機能(循環、呼吸、発達)
		②　胎児・新生児期の健康問題
	C　小児期	①　小児期の身体・心理・精神機能(発達、栄養)
		②　小児期の健康問題
	D　思春期	①　思春期の身体・心理・精神機能(思春期発現、生殖機能)
		②　思春期の健康問題
	E　青年期、壮年期	①　青年・壮年期の身体・心理・精神機能
		②　青年・壮年期の健康問題
	F　更年期	①　更年期の身体・心理・精神機能(内分泌、閉経)
		②　更年期の健康問題
	G　老年期	①　老年期の身体・心理・精神機能(高齢者総合機能評価[comprehensive geriatric assessment〈CGA〉])
		②　老年期の健康問題
6　医療面接　約６％	A　医療面接の意義	①　患者医師関係の構築
		②　医療情報の収集
		③　病状説明
		④　患者の教育、動機付け
	B　マナー、オープニング	①　身だしなみ
		②　椅子の配置、座り方
		③　礼儀、振舞い
		④　挨拶、自己紹介
		⑤　患者本人であることの確認
		⑥　プライバシー・体調・環境への配慮
	C　良好なコミュニケーション	①　言語的コミュニケーション
		②　準言語的コミュニケーション
		③　非言語的コミュニケーション
		④　傾聴の仕方
		⑤　患者中心型モデルに基づく面接
		⑥　面接者の態度(共感的態度、理解的態度、支持的態度、問題解決への援助的態度、評価的態度、解釈的態度、調査的態度、逃避的態度)
		⑦　感情面への対応(共感、支持、反映、肯定、尊重、支援、探索)
	D　病歴情報	①　主訴
		②　現病歴
		③　常用薬、アレルギー歴
		④　既往歴
		⑤　家族歴
		⑥　嗜好
		⑦　生活習慣
		⑧　社会歴
		⑨　生活環境、家庭環境
		⑩　海外渡航歴
		⑪　システムレビュー〈review of systems〉
	E　心理・社会的情報	①　解釈モデル
		②　心理・社会的状況

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
		③　健康観、検査や治療に対する希望・好み
		④　受療行動、対処行動、他医受診、処方内容
	F　話の伝え方	①　平易な表現、理解の確認、質問の有無の確認
		②　告知、悪い知らせの伝え方
	G　治療への動機付け	①　患者の理解度
		②　動機付けインタビュー
	H　説明と報告	①　指導医への報告
		②　カンファレンスでのプレゼンテーション
7　主要症候 約15％	A　全身症候	①　発熱
		②　全身倦怠感
		③　食思〈欲〉不振
		④　体重減少・増加
		⑤　ショック
		⑥　意識障害
		⑦　けいれん発作
		⑧　めまい
		⑨　脱水
		⑩　浮腫
	B　皮膚、粘膜	①　皮疹、粘膜疹
		②　瘙痒
	C　頭頸部、感覚器	①　視力障害・視野異常
		②　眼痛
		③　眼球運動障害、複視
		④　結膜充血、眼脂
		⑤　聴力障害（難聴）
		⑥　耳鳴
		⑦　鼻出血
		⑧　咽頭痛
		⑨　嗄声
	D　呼吸器、心臓、血管	①　咳嗽・喀痰
		②　血痰、喀血
		③　喘鳴
		④　呼吸困難、息切れ
		⑤　チアノーゼ
		⑥　胸痛、胸部圧迫感
		⑦　失神
		⑧　動悸
		⑨　高血圧
	E　消化器	①　嚥下障害、誤嚥
		②　腹痛
		③　胸やけ
		④　悪心、嘔吐
		⑤　吐血、下血・血便
		⑥　便通異常（便秘・下痢）

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
		⑦　黄疸
		⑧　腹部膨満・腫瘤
	F　血液、造血器、免疫	①　貧血
		②　リンパ節腫脹
		③　出血傾向・血栓傾向
	G　腎、泌尿器、生殖器	①　尿量の異常(乏尿、無尿、多尿)
		②　排尿障害(尿失禁、排尿困難)
		③　血尿、蛋白尿
		④　月経異常、無月経
		⑤　不正性器出血
	H　心理、精神機能	①　幻覚、妄想、興奮
		②　抑うつ、躁
		③　不安、恐怖
		④　認知障害
		⑤　せん妄
		⑥　睡眠障害
	I　神経、運動器	①　構音障害、失語
		②　頭痛
		③　運動麻痺、筋力低下
		④　運動失調
		⑤　不随意運動
		⑥　歩行障害
		⑦　感覚障害
		⑧　腰・背部痛
		⑨　筋肉痛
		⑩　関節痛、関節腫脹
		⑪　関節変形
	J　内分泌、代謝、栄養、乳腺疾患	①　肥満、やせ
		②　乳房のしこり・左右差・皮膚の陥凹
		③　甲状腺腫
	K　周産期	①　正常妊娠・分娩
		②　妊娠・分娩・産褥の異常
		③　胎児・新生児の異常
	L　小児特有の全身症状	①　哺乳力低下
		②　体重増加不良
		③　活動性低下・不機嫌
		④　発達の遅れ
		⑤　性発達の異常
8　一般的な身体診察 約13%	A　診察のあり方	①　診察前後の標準予防策〈standard precautions〉
		②　安全への配慮
		③　患者への配慮(プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮)
		④　患者への声かけと診察に必要な例示
	B　診察の基本手技	①　視診
		②　聴診

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
		③　打診
		④　触診
	C　診察時の患者の体位	①　立位
		②　座位、半座位
		③　臥位(仰臥位、腹臥位、側臥位)
		④　砕石位
	D　全身の診察	①　意識レベル、精神状態、認知機能の評価
		②　体格の評価(身長、体重)
		③　バイタルサイン(体温、呼吸、脈拍、血圧、酸素飽和度)
		④　全身の外観(体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声)
		⑤　リンパ節の触診
	E　頭頸部の診察	①　頭部
		②　眼瞼、眼球
		③　耳、鼻、副鼻腔
		④　口唇、口腔、咽頭、扁桃
		⑤　甲状腺、頸部血管、気管、唾液腺
	F　胸部の診察	①　胸郭
		②　呼吸音(気管呼吸音、気管支呼吸音、肺胞呼吸音)、副雑音
		③　心音、心雑音
		④　背部の叩打痛
		⑤　乳房
	G　腹部の診察	①　形状
		②　肝臓、脾臓、腎臓
		③　圧痛、腹膜刺激徴候、筋性防御
		④　腹水
		⑤　腸雑音、血管雑音
	H　肛門と直腸の診察	
	I　生殖器の診察	①　男性
		②　女性
		③　妊婦
	J　筋骨格系の診察	①　四肢、脊柱(弯曲、疼痛、叩打痛)
		②　関節(可動域、腫脹、疼痛、変形)
		③　徒手筋力テスト
	K　神経系の診察	①　脳神経
		②　髄膜刺激症候
		③　運動系
		④　腱反射、病的反射
		⑤　感覚(痛覚、温度覚、触覚、深部感覚)
		⑥　小脳機能
	L　四肢の診察	①　浮腫
		②　動脈、静脈
9　検査の基本　約５％	A　意義と目標	①　診断
		②　治療効果判定

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
		③　スクリーニング、健康診断
	B　検査の安全性	①　実施の説明
		②　患者確認と検体の確認
		③　検査の合併症
		④　検査の精度管理
	C　検体の採取	①　採血
		②　採尿、採便
		③　採痰
		④　穿刺
		⑤　生検
		⑥　擦過
	D　検体の保存	①　保存方法
		②　保存期間
	E　結果の解釈	①　基準値、カットオフ値
		②　誤差、生理的変動、性差と年齢差
		③　パニック値と緊急対応
	F　一般臨床検査	①　尿検査
		②　糞便検査
		③　胸水・腹水の検査
		④　脳脊髄液検査
		⑤　妊娠反応検査
	G　血液学検査	①　血球検査
		②　凝固・線溶系検査
		③　血液型、輸血関連検査
	H　生化学検査	①　一般的な生化学検査
		②　蛋白分画、免疫電気泳動
	I　免疫血清学検査	①　炎症マーカー
		②　自己抗体
		③　血清学的診断
	J　遺伝子関連検査	①　病原体遺伝子〈核酸〉検査
		②　遺伝学的検査
	K　感染症検査	①　採取法
		②　塗抹検査
		③　染色法(Gram染色を含む)
		④　培養検査
		⑤　薬剤感受性試験
		⑥　病原体の迅速検査
	L　病理組織学検査、細胞診	①　組織診
		②　細胞診
	M　動脈血ガス分析	①　適応と採血法
		②　結果の解釈
	N　生体機能検査	①　呼吸機能検査
		②　心電図検査
		③　脈波検査〈ABI〉
		④　内分泌・代謝機能検査

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
		⑤　脳波検査
		⑥　針筋電図検査、末梢神経伝導検査
	O　画像・内視鏡検査	①　エックス線撮影
		②　CT(単純、造影)
		③　超音波検査
		④　磁気共鳴画像〈MRI〉
		⑤　核医学検査(PETを含む)
		⑥　内視鏡検査
10　臨床判断の基本 約４％	A　根拠に基づいた医療〈EBM〉	①　患者の問題の定式化〈PICO/PECO〉
		②　情報収集法、文献検索法
		③　クリティカル・アプレイザル(学術批判的吟味)
		④　患者への適用(総合的臨床判断)
		⑤　研究デザイン
		⑥　メタ分析〈メタアナリシス〉
		⑦　診療ガイドライン
		⑧　エビデンスレベル
	B　臨床疫学的指標	①　内的妥当性、外的妥当性
		②　バイアス、交絡因子
		③　アウトカム、エンドポイント
		④　推定と信頼区間
		⑤　相対危険度〈relative risk〉(リスク比)、寄与危険度〈attributable risk〉(リスク差)、オッズ比〈odds ratio〉
		⑥　検査前確率〈事前確率〉、検査後確率〈事後確率〉
		⑦　感度、特異度
		⑧　尤度比
		⑨　receiver operating characteristics〈ROC〉曲線、カットオフ値
	C　測定の精度	①　精密度、再現性
	D　医療技術の効率性	①　費用対効果分析
11　救急初期診療 約９％	A　救急患者の診察	①　バイタルサインの把握
		②　トリアージ(致死的な病態・疾患・外傷の鑑別)
		③　重要臓器機能の障害を招く病態・疾患
		④　外傷患者初期診療
		⑤　緊急治療の要否の判断
		⑥　部位別治療優先順位の判断
		⑦　院外心停止〈OHCA〉
	B　基本的な救急処置	①　一次救命処置〈BLS〉
		②　二次救命処置〈ALS〉
		③　気道確保(気管挿管、外科的気道確保)
		④　人工呼吸療法
		⑤　除細動、緊急ペーシング
		⑥　蘇生的輸液療法(静脈確保を含む)
		⑦　基本的緊急薬物療法
		⑧　止血法
		⑨　輸血療法

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
		⑩　脳保護療法(脳ヘルニア対策、体温管理療法)
		⑪　体温異常に対する救急処置
		⑫　致死的骨折の固定法(頸椎、骨盤、大腿)
	C　症状・傷病別の初期対応	①　心停止
		②　失神
		③　意識障害
		④　ショック
		⑤　けいれん、けいれん重積状態(てんかん重積状態)
		⑥　頭痛
		⑦　高体温、低体温{症}
		⑧　運動障害、感覚障害
		⑨　めまい
		⑩　呼吸困難、喘鳴
		⑪　胸痛、背部痛
		⑫　腹痛、腰痛
		⑬　急性消化管出血
		⑭　誤飲、誤嚥
		⑮　尿閉
		⑯　精巣痛
		⑰　損傷(外傷、熱傷、溺水)
		⑱　薬物中毒
		⑲　敗血症
		⑳　精神科救急
	D　災害医療	①　大規模災害(地震、津波、多数傷病者事故、テロ)
		②　救護活動の基本(指揮と統制、安全、情報伝達、評価、トリアージ、治療、搬送)
12　主要疾患・症候群　約10%	A　妊娠・周産期の異常	①　流・早産
		②　妊娠高血圧症候群
		③　妊娠糖尿病
	B　精神・心身医学的疾患	①　うつ病、双極性障害〈躁うつ病〉
		②　統合失調症
		③　パニック障害、社交〈社会〉不安障害、広場恐怖、適応障害〈適応反応症〉、心的外傷後ストレス障害〈PTSD〉、身体的苦痛症〈身体症状症〉、過換気症候群
	C　心身症	
	D　皮膚・頭頸部疾患	①　湿疹、皮膚炎(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎)
		②　蕁麻疹
		③　薬疹
		④　ウイルス性発疹症(麻疹、風疹、水痘、ヘルペス)
		⑤　皮膚潰瘍、褥瘡
		⑥　結膜炎、角膜炎
		⑦　白内障
		⑧　緑内障
		⑨　糖尿病・高血圧・動脈硬化による眼底変化
		⑩　急性中耳炎
		⑪　アレルギー性鼻炎

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
	E　呼吸器・胸壁・縦隔疾患	①　上気道炎、扁桃炎、気管支炎、細気管支炎
		②　肺炎
		③　肺結核、肺真菌症
		④　気管支喘息(小児喘息を含む)
		⑤　慢性閉塞性肺疾患<COPD>
		⑥　肺癌
		⑦　間質性肺疾患
		⑧　自然気胸、緊張性気胸、外傷性気胸
		⑨　急性呼吸窮迫症候群<ARDS>
		⑩　睡眠時無呼吸症候群
		⑪　肺塞栓症
	F　心臓・脈管疾患	①　不整脈
		②　先天性心疾患
		③　弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)
		④　急性心筋梗塞、急性冠症候群、狭心症
		⑤　心筋症、心筋炎
		⑥　高血圧症
		⑦　急性大動脈解離、大動脈瘤破裂
		⑧　末梢性動脈疾患
		⑨　深部静脈血栓症、下肢静脈瘤
		⑩　心不全、肺水腫
	G　消化器・腹壁・腹膜疾患	①　胃食道逆流症<GERD>
		②　食道静脈瘤、胃静脈瘤
		③　食道癌
		④　胃潰瘍、十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>
		⑤　胃癌
		⑥　急性胃腸炎
		⑦　便秘症
		⑧　乳児下痢症
		⑨　急性虫垂炎
		⑩　炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、Crohn病)
		⑪　機能性消化管障害(機能性ディスペプシア<FD>、過敏性腸症候群)
		⑫　大腸癌
		⑬　痔瘻、痔核
		⑭　急性肝炎、慢性肝炎、脂肪肝
		⑮　肝硬変、肝不全、肝性脳症
		⑯　肝癌
		⑰　胆石症、胆嚢炎、胆管炎
		⑱　急性膵炎、慢性膵炎
		⑲　膵癌
		⑳　鼠径ヘルニア
		㉑　腸閉塞
		㉒　腸重積症
		㉓　汎発性腹膜炎
	H　血液・造血器疾患	①　鉄欠乏性貧血、二次性貧血

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
		②　急性白血病、慢性白血病
		③　播種性血管内凝固〈DIC〉
		④　悪性リンパ腫、骨髄腫
	I　腎・泌尿器・生殖器疾患	①　急性糸球体腎炎症候群、慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群、間質性腎炎
		②　糖尿病腎症
		③　急性腎障害〈AKI〉、慢性腎臓病〈CKD〉
		④　腎細胞癌、膀胱癌
		⑤　尿路結石、尿路感染症
		⑥　前立腺肥大症、前立腺癌、精巣癌
		⑦　更年期障害
		⑧　月経異常
		⑨　子宮内膜症、子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌
		⑩　卵巣癌、卵巣嚢腫
	J　神経・運動器疾患	①　認知症
		②　緊張型頭痛、片頭痛
		③　脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫
		④　脳梗塞、一過性脳虚血発作
		⑤　Parkinson病
		⑥　髄膜炎、脳炎、脳症
		⑦　熱性けいれん
		⑧　てんかん
		⑨　脳性麻痺
		⑩　頭部外傷、脊髄損傷
		⑪　変形性脊椎症、脊柱管狭窄症
		⑫　椎間板ヘルニア
		⑬　変形性関節症
		⑭　骨折、脱臼、捻挫
	K　内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患	①　甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症
		②　糖尿病
		③　脂質異常症
		④　高尿酸血症
		⑤　骨粗鬆症
		⑥　乳癌
	L　アレルギー性疾患、膠原病・リウマチ性疾患	①　アナフィラキシー
		②　関節リウマチ
		③　全身性エリテマトーデス〈SLE〉
		④　血管炎症候群
		⑤　結晶誘発性関節炎、痛風、偽痛風
	M　生活環境因子・職業性因子による疾患	①　アルコール依存症、薬物依存症
		②　たばこ(主流煙・副流煙)関連疾患
		③　熱中症、寒冷による障害
		④　中毒(食中毒を含む)
13　治療の基本　約４％	A　一般的な治療の基本	①　食事・栄養療法
		②　患者教育・カウンセリング
		③　薬物療法

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
		④　輸液、輸血
		⑤　手術、周術期の管理、麻酔
		⑥　臓器・組織移植、人工臓器
		⑦　放射線治療
		⑧　内視鏡治療
		⑨　リハビリテーション
		⑩　救急患者の治療
		⑪　緩和ケア
		⑫　在宅医療
14　基本的手技 約４％	A　一般的手技	①　静脈採血
		②　静脈確保
		③　動脈採血
		④　穿刺(腰椎、胸腔、腹腔)
		⑤　胃管の挿入と抜去
		⑥　尿道カテーテルの挿入と抜去
		⑦　気道確保
	B　注射	①　皮内
		②　皮下
		③　筋肉
		④　静脈
	C　外科手技	①　清潔操作
		②　手洗い、ガウンテクニック
		③　Personal Protective Equipment〈PPE〉の着脱と廃棄
		④　縫合、結紮、抜糸
		⑤　創の消毒、被覆(ドレッシング)
15　死、緩和ケア、終末期ケア 約２％	A　死の判定と診断	①　心臓死、脳死、脳死判定
		②　異状死
		③　死亡診断、死体検案
	B　緩和ケア	①　緩和ケアの概念
		②　緩和ケアチーム
		③　緩和ケア病棟〈PCU〉
		④　全人的苦痛〈トータルペイン〉
		⑤　苦痛のアセスメント
		⑥　苦痛の緩和
	C　終末期ケア	①　死に至る心の過程
		②　終末期患者とのコミュニケーション
		③　終末期における意志決定(尊厳死、リビングウィル)
		④　終末期における水・栄養管理
		⑤　終末期の治療
		⑥　家族ケア(悲嘆のケア〈グリーフケア〉)
16　チーム医療と多職種連携 約２％	A　医療機関でのチームワーク	①　医師を含む医療専門職の連携
		②　多職種の各専門性の理解
		③　医療専門職間の連携
		④　ガイドライン・プロトコール

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目
	B　地域でのチームワーク	①　病診連携、病病連携
		②　保健・医療・福祉・介護・教育の連携
		③　家族との連携
		④　地域連携パス
		⑤　地域包括ケアシステム
	C　コンサルテーション	①　対診
		②　転医
	D　社会生活支援	①　生活への復帰
		②　社会保障制度(所得、介護、障害)
		③　人的支援
		④　物的支援(福祉用具)
17　生活習慣とリスク 約５％	A　基本概念	①　国民健康づくり運動
		②　非感染性疾患<NCD>(生活習慣病を含む)のリスクファクター
		③　健康寿命の延伸と生活の質[quality of life<QOL>]の向上
		④　行動変容
		⑤　健康づくり支援のための環境整備
	B　栄養、食生活	①　食事摂取基準
		②　栄養マネジメント<栄養管理>
		③　食行動
	C　身体活動、運動	①　身体活動とエネルギー消費
		②　運動の効用
	D　休養・心の健康	①　睡眠の質、不眠
		②　ストレス対策
		③　過重労働対策
		④　自殺の予防
	E　喫煙	①　喫煙状況・種類(燃焼式・加熱式)
		②　喫煙の有害性
		③　受動喫煙
		④　禁煙支援
	F　飲酒	①　飲酒状況
		②　飲酒の有害性
		③　アルコール依存への支援
	G　健康の社会環境モデル	①　社会的な健康規定要因(Social Determinants of Health)<SDH>
		②　環境(社会経済的・構造的)レベルと個人レベルの要因
		③　行動レベルと行動変容
18　一般教養的事項 約２％	A　医学史、人文・社会科学、自然科学、芸術、哲学などに関連する一般教養的知識や考え方	
	B　診療に必要な一般的な医学英語	

医　学　総　論

Ⅰ　保健医療論[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
1　健康・疾病・障害の概念と社会環境　約20%	A　健康の概念	①　健康の定義	歴史的変遷
	B　環境と健康	①　宿主	
		②　病因	リスクファクター
		③　環境	
		④　行動	
	C　社会環境の変動と国民の健康	①　人口構造	
		②　疾病構造	
		③　生活様式	
		④　家族構成	
		⑤　地域社会構造	
		⑥　産業構造	
	D　疾病・障害の概念と社会	①　身体機能と構造〈body functions and structures〉、活動〈activities〉、参加〈participation〉	
		②　生活の質[quality of life〈QOL〉]	
		③　ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	
2　社会保障制度と医療経済　約10%	A　社会保障の概念と制度	①　公的扶助	自助・互助・公助
		②　社会保険	
		③　公衆衛生と医療	
		④　社会福祉	
	B　医療保険、介護保険、年金保険、公費医療	①　医療保険の種類と対象	
		②　介護保険	
		③　年金保険	
		④　公費医療の種類と対象	
	C　医療経済	①　国民医療費	
		②　医療費負担と給付	
3　保健・医療・福祉・介護の仕組み　約15%	A　保健・医療・福祉・介護の組織と連携	①　国と地方公共団体	
		②　保健所	
		③　地方衛生研究所	
		④　市町村保健センター	
		⑤　社会福祉関係施設	民生委員・社会福祉協議会
		⑥　児童相談所、福祉施設	
		⑦　特別支援学校	
		⑧　地域包括支援センター	
		⑨　医療安全支援センター	
	B　少子化社会・障害児〈者〉への対応	①　健やか親子21	
		②　次世代育成支援対策	
		③　障害者基本計画	
	C　在宅ケア	①　在宅医療	訪問診療、往診
		②　訪問看護	
		③　在宅介護	訪問介護、通所介護〈デイサービス〉
		④　在宅リハビリテーション	訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション〈デイケア〉

Ⅰ　保健医療論[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	D　遠隔医療	①　遠隔診療	
		②　診療支援	
4　保健・医療・福祉・介護の資源　約15%	A　保健・医療・福祉・介護の施設と機能	①　病院	
		②　診療所	
		③　地域医療支援病院	
		④　特定機能病院	
		⑤　臨床研究中核病院	
		⑥　療養病床	
		⑦　保険薬局	お薬手帳
		⑧　介護保険施設	介護老人福祉施設〈特別養護老人ホーム〉、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院
		⑨　居宅サービス、ショートステイ、グループホーム	
		⑩　訪問看護ステーション	
		⑪　居宅介護支援事業所	介護支援専門員〈ケアマネジャー〉
		⑫　要介護認定	介護保険主治医意見書、ケアプラン、要支援、要介護、直接・間接生活介護、BPSD・機能訓練・医療関連行為
	B　保健・医療・福祉・介護従事者	①　保健・医療・福祉・介護従事者の現状と役割	
		②　多職種連携とチーム医療	多職種連携教育[interprofessional education〈IPE〉]
		③　医行為と診療補助行為	医療的行為
5　保健・医療・福祉・介護関係法規　約15%	A　医事	①　医師法	
		②　医療法	
		③　刑法	秘密漏示、文書偽造、過失傷害、堕胎
		④　民法	説明義務、注意義務、過失(予見性、回避義務)
		⑤　死産の届出に関する規定	
		⑥　死体解剖保存法	
		⑦　臓器の移植に関する法律	
		⑧　医学及び歯学の教育のための献体に関する法律	
		⑨　個人情報保護法	
	B　薬事	①　医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律〈医薬品医療機器等法〉	未承認薬・適応外使用の取扱い
		②　毒物及び劇物取締法	
		③　麻薬及び向精神薬取締法	
		④　覚せい剤取締法	

Ⅰ　保健医療論[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	C　地域保健	①　地域保健法	
		②　健康増進法	
	D　母子保健	①　母子保健法	
		②　母体保護法	
		③　児童虐待の防止等に関する法律	
	E　成人・高齢者保健	①　高齢者の医療の確保に関する法律〈高齢者医療確保法〉	
		②　配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律〈DV法〉	
		③　高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律	
	F　精神保健	①　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律〈精神保健福祉法〉	
		②　自殺対策基本法	
		③　心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律〈医療観察法〉	
		④　民法(成年後見制度)	
	G　感染症対策	①　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律〈感染症法〉	
		②　検疫法	
		③　予防接種法	
	H　疾病対策	①　がん対策基本法	
		②　健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法〈循環器病対策基本法〉	
		③　アレルギー疾患対策基本法	
		④　アルコール健康障害対策基本法	
		⑤　肝炎対策基本法	
	I　食品保健	①　食品衛生法	
	J　学校保健	①　学校保健安全法	
	K　産業保健	①　労働基準法	医師の働き方改革
		②　労働安全衛生法	
		③　労働者災害補償保険法	
		④　じん肺法	
	L　環境保健	①　環境基本法	
		②　公害健康被害の補償等に関する法律	
		③　水道法	
		④　下水道法	
		⑤　廃棄物の処理及び清掃に関する法律〈廃棄物処理法〉	
		⑥　建築物における衛生的環境の確保に関する法律〈建築物衛生法〉	
	M　医療保険	①　健康保険法	
		②　国民健康保険法	
		③　高齢者医療確保法	

Ⅰ　保健医療論[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	N　難病対策、社会福祉、介護	①　難病の患者に対する医療等に関する法律〈難病法〉	
		②　児童福祉法	
		③　生活保護法	
		④　老人福祉法	
		⑤　障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)	障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法
		⑥　障害者差別解消法	
		⑦　介護保険法	
6　地域保健、地域医療　約15%	A　地域保健・地域医療と医師の役割	①　医師会	
		②　医療連携	地域医療構想
		③　地域社会との連携	自治体との連携
	B　医療計画	①　医療圏	
		②　基準病床数	
		③　地域医療支援病院の整備	
		④　病院・診療所・薬局の連携、地域包括ケア	
		⑤　へき地医療・救急医療の確保	
		⑥　医療従事者の確保	地域医療支援センター
		⑦　地域連携	
	C　プライマリヘルスケアとプライマリ・ケア	①　アルマ・アタ〈Alma Ata〉宣言	
		②　地域診断	
		③　社会的な健康規定要因	
		④　地域保健福祉活動	
	D　健康増進とヘルスプロモーション	①　健康増進の概念	
		②　ヘルスプロモーションの概念、オタワ憲章、バンコク憲章、アデレード宣言	Health in all policies
	E　救急医療	①　救急医療体制	
		②　初期・二次・三次救急医療	
		③　救急医療機関、救命救急センター、救急指定病院、休日夜間急患センター、在宅当番医	
		④　救急医療情報	
		⑤　救急搬送、救急医療用ヘリコプター〈ドクターヘリ〉、ドクターカー、救急車	
		⑥　応急処置〈病院前救護〉	特定行為、救急隊員、救急救命士
	F　災害医療	①　災害時保健医療	
		②　医療救護班、災害派遣医療チーム	[disaster medical assistance team〈DMAT〉]
		③　災害拠点病院	
		④　トリアージ	staging care unit〈SCU〉
		⑤　地域医療搬送、広域医療搬送	

Ⅰ　保健医療論[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
	G　離島・へき地医療	①　へき地医療拠点病院	
		②　へき地診療所	
		③　無医地区	
		④　へき地保健医療対策	
		⑤　へき地医療支援機構	
7　国際保健　約10%	A　世界の保健・医療問題	①　持続可能な開発のための2030アジェンダ〈SDGs〉	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ〈UHC〉
		②　母子の健康状況	
		③　感染症、エピデミック〈流行〉、パンデミック	国際保健規則〈International Health Regulations〉
		④　非感染性疾患〈NCD〉	
	B　国際保健・医療協力	①　国際機関	国際連合〈UN〉、世界保健機関〈WHO〉、国際労働機関〈ILO〉
		②　二国間協力、多国間協力	国際協力機構〈JICA〉、政府開発援助〈ODA〉、非政府機関〈NGO〉

Ⅱ　予防と健康管理・増進[約17%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
1　予防医学と健康保持増進 約12%	A　地域社会と公衆衛生	①　コミュニティヘルス	
		②　公衆衛生の概念と機能	
	B　予防医学	①　予防医学の概念	
		②　一次・二次・三次予防	
		③　population strategyとhigh risk strategy	
	C　健康保持・増進	①　健康教育・学習、保健指導、健康相談	
		②　健康保持・増進の概念	
	D　健康診断・診査と健康管理	①　健康管理の概念・方法	
		②　健康診断・診査と事後指導	
2　人口統計と保健統計 約８%	A　人口静態	①　日本の人口	
		②　国勢調査	
		③　世界の人口	
	B　人口動態	①　出生と死亡	
		②　結婚と離婚	
		③　死産	
		④　再生産率、合計特殊出生率	
		⑤　生命表	平均余命、平均寿命
	C　疾病・障害の分類・統計	①　国際疾病分類〈ICD〉	
		②　国際生活機能分類〈ICF〉	
		③　国民生活基礎調査	
		④　患者調査	
3　疫学とその応用 約８%	A　疫学の概念	①　宿主、病因、環境	リスクファクター
		②　疾病の自然史	
		③　頻度と分布	
		④　標本の抽出	母集団、偶然誤差
		⑤　疫学的因果関係	ヒルの基準(関連強固性、時間性、一貫性、整合性、量反応関係、生物学的妥当性など)
	B　疫学指標	①　頻度を表す指標	死亡率、罹患率、有病率
		②　関連を表す指標	相対危険度〈relative risk〉(リスク比)、寄与危険度〈attributable risk〉(リスク差)、オッズ比〈odds ratio〉
		③　指標の比較	年齢調整率、標準化死亡比〈SMR〉
	C　統計解析	①　確率分布と期待値	標準偏差
		②　検定と推定	有意水準、95%信頼区間、標準誤差
		③　分析モデル	線形回帰、ロジスティック回帰、比例ハザードモデル、生存分析
	D　観察研究	①　記述疫学	
		②　横断研究	
		③　症例対照研究	

Ⅱ　予防と健康管理・増進[約17%]

大項目	中項目	小項目	備考
		④　コホート研究	
	E　介入研究	①　臨床試験	
		②　ランダム化比較試験<RCT>	intention to treat<ITT>、プラセボ、遮蔽化(マスキング)
	F　システマティックレビューとメタ分析<メタアナリシス>	①　システマティックレビュー	
		②　メタ分析<メタアナリシス>	
4　母子保健 約12%	A　現状と動向	①　出生	
		②　妊産婦死亡	
		③　死産	
		④　周産期死亡	
		⑤　新生児・乳児死亡	
		⑥　人工妊娠中絶	
	B　母性保健、周産期の保護	①　家族計画、不妊	
		②　母子健康手帳	
		③　妊産婦健康診査	
		④　産休制度、育児休業制度	
		⑤　環境因子と胎児障害	飲酒、喫煙、感染症、薬物、環境汚染、放射線
	C　小児の保健・福祉	①　乳児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査	
		②　育児指導	
		③　養育医療	
		④　自立支援医療	
		⑤　新生児マススクリーニング	
		⑥　児童虐待の予防	
5　成人保健 約４%	A　現状と動向	①　非感染性疾患<NCD>(生活習慣病を含む)の罹患と死亡	
	B　非感染性疾患<NCD>(生活習慣病を含む)と保健対策	①　非感染性疾患<NCD>(生活習慣病を含む)のリスクファクター	
		②　予防対策とその評価	
		③　特定健康診査、特定保健指導	
		④　がん検診	
6　高齢者保健 約４%	A　現状と動向	①　高齢者の人口・死因・受療率・有訴率	
		②　要支援・要介護の原因	
	B　高齢者の健康保持・増進	①　加齢と健康状態	
		②　日常生活動作<ADL>	
		③　生活の質[quality of life<QOL>]	
		④　閉じこもり、廃用症候群	運動器症候群<ロコモティブシンドローム>、サルコペニア、フレイル
		⑤　介護予防	
7　精神保健福祉 約８%	A　現状と動向	①　精神障害者	
		②　心の健康づくり	自殺対策、依存症対策

Ⅱ　予防と健康管理・増進[約17%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
		③　精神保健福祉センター	精神医療審査会
		④　精神障害者社会復帰施設	
	B　精神的健康の保持・増進	①　精神保健福祉相談	学校精神保健、産業精神保健
		②　地域精神保健福祉活動	地域移行
8　感染症対策 約16%	A　感染症の疫学	①　主な感染症の疫学と流行状況	積極的疫学調査
		②　感染症発生動向調査〈サーベイランス〉	
		③　母子感染	
		④　院内感染	
	B　医師と自治体の対応	①　健康診断、入院、届出	
		②　就業制限	学校における出席停止
	C　予防接種と検疫	①　集団予防と個人予防	
		②　予防接種	副反応、有害事象
		③　生ワクチン、不活化ワクチン、mRNAワクチン	
		④　検疫	
		⑤　人獣共通感染症対策	
		⑥　バイオテロ対策	
9　国民栄養と食品保健 約４%	A　国民栄養の現状と対策	①　食事調査	
		②　国民健康・栄養調査	
		③　食事摂取基準	
		④　食生活指針	食事バランスガイド
		⑤　栄養教育・指導	
	B　食品の安全性と機能性	①　食品添加物	1日の摂取許容量〈ADI〉
		②　食品中の汚染物質	ハサップ手法〈HACCP〉
		③　遺伝子組換え食品	
		④　保健機能食品、特別用途食品、健康食品	
10　学校保健 約４%	A　学校保健の現状と動向	①　学齢期好発疾患と予防	
		②　体格、体力	
	B　学校医と保健管理	①　学校医の職務	
		②　養護教諭	
		③　健康診断	
		④　児童の慢性疾患と保健管理	
		⑤　学校における感染症の予防	
		⑥　学校精神保健	引きこもり、自殺の予防
		⑦　児童の事故と対策(学校安全教育・安全管理)	
11　産業保健 約８%	A　産業保健の仕組み	①　労働者の安全衛生管理	
		②　労働者の健康増進	
		③　労働災害の補償	
	B　現状と動向	①　業務上疾病の発生状況	
		②　労働力の動向	正規雇用、非正規雇用、高齢者労働

II　予防と健康管理・増進[約17%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	C　産業医と労働安全衛生管理	①　労働衛生管理体制	
		②　産業医の資格と職務	
		③　健康管理、作業環境管理、作業管理	SDS(安全データシート)
		④　許容濃度、管理濃度	化学物質の自発的管理
		⑤　生物学的モニタリング	
		⑥　労働災害	
		⑦　健康保持増進対策	トータルヘルスプロモーションプラン〈THP〉
		⑧　労働安全衛生マネジメントシステム	
		⑨　過重労働対策	
		⑩　メンタルヘルス対策	
		⑪　都道府県労働局、労働基準監督署、産業保健総合支援センター、地域産業保健センター	
		⑫　健康診断と事後指導	
12　環境保健　約12%	A　環境と適応	①　環境の概念	
		②　生態系と生物濃縮	
		③　有害物質の吸収・排泄	
	B　地球環境の変化と健康影響	①　地球温暖化	
		②　オゾン層破壊	
		③　酸性雨	
		④　砂漠化	
	C　環境汚染の発生要因と健康影響	①　環境汚染の概念(エピソード)	環境保全
		②　大気汚染、水質汚濁、土壌汚染	汚染の指標
		③　内分泌かく乱化学物質、ダイオキシン類	
		④　農薬、重金属類	
		⑤　石綿	
	D　上水道と下水道	①　水質基準	
		②　浄水法と消毒	
		③　水系感染	
		④　汚染処理	
	E　公害の健康被害と対策	①　公害の概念	
		②　主な公害のエピソード	
		③　公害健康被害補償制度	
	F　環境汚染の評価と対策	①　環境基準、排出規制	
		②　環境モニタリング	
		③　環境影響評価〈環境アセスメント〉	
	G　廃棄物処理	①　一般廃棄物	
		②　産業廃棄物	
		③　感染性廃棄物	医療廃棄物
		④　リサイクル	
	H　騒音・振動の健康影響と対策	①　騒音の聴器・聴覚への影響、騒音性難聴	

Ⅱ　予防と健康管理・増進[約17%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		②　騒音の生理的・心理的影響	
		③　全身振動	
		④　局所振動	
		⑤　低周波空気振動	
		⑥　評価と対策	
	I　放射線の健康影響と管理	①　非電離放射線の健康影響	
		②　電離放射線の健康影響	
		③　放射線管理	職業被ばく、医療被ばく、被ばく低減3原則
		④　放射性廃棄物	
	J　居住・衣服環境と健康	①　屋内環境の管理	換気、採光、照明、冷暖房
		②　建築物衛生	
		③　衣服の機能と健康	

Ⅲ　人体の正常構造と機能[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
1　個体の構造 約８％	A　細胞、組織		
	B　局所解剖	①　周囲臓器との位置関係	
		②　画像検査との相関	
2　皮膚、頭頸部、感覚器、発声器 約15％	A　皮膚の構造・機能	①　表皮、真皮、付属器、脈管、神経、皮下組織	
		②　角化、メラニン生成、免疫機能、Langerhans細胞、細胞間接着、基底膜、肥満細胞	
		③　細胞間脂質	
		④　結合組織の代謝	
		⑤　発汗	
		⑥　皮脂	
		⑦　毛周期	
		⑧　経皮吸収	
	B　頭蓋・頭蓋腔の構造	①　前頭蓋窩、中頭蓋窩、後頭蓋窩、トルコ鞍、視神経管、上眼窩裂、錐体、内耳道、頸静脈孔、大後頭孔	
	C　顔面の構造	①　眼窩、眼瞼、鼻、副鼻腔、外鼻孔、鼻根、人中、口唇、口角、三叉神経、顔面神経	
	D　頸部の構造	①　頸筋膜、頸筋群、頸動脈、頸静脈、迷走神経、反回神経、副神経、舌下神経、舌神経、腕神経叢、横隔神経、交感神経幹、星状神経節	
	E　頭頸部の生理的間隙	①　咽後間隙、副咽頭間隙	
	F　視覚系の構造・機能	①　眼球[角膜、結膜、強膜、前房・後房、隅角、ぶどう膜(虹彩、毛様体、脈絡膜)、瞳孔、水晶体、硝子体、網膜]、視路(視神経、視{神経}交叉、視索、外側膝状体、視放線)、視中枢	
		②　眼球付属器(眼瞼、涙器、外眼筋、眼窩)	
		③　視機能[視力、光覚(暗順応)、色覚、視野、調節、両眼視、眼圧、眼位、眼球運動、輻湊、開瞼、閉瞼]	
	G　聴覚系の構造・機能	①　聴器[外耳(耳介、外耳道、鼓膜)、中耳(耳小骨、蝸牛窓、前庭窓、乳突洞、耳管)、内耳(蝸牛、コルチ器、有毛細胞)]	
		②　聴覚生理、聴力(伝音機構、感音機構、聴覚の電気現象)	
	H　前庭平衡系の構造・機能	①　末梢前庭器官(球形嚢、卵形嚢、三半規管、内リンパ嚢)	
		②　前庭反射	

Ⅲ　人体の正常構造と機能[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	Ⅰ　嗅覚系・味覚系の構造・機能	①　嗅上皮	
		②　味蕾	
	Ｊ　発声器の構造・機能	①　声帯、内喉頭筋、粘膜波動、上喉頭神経、反回神経(下喉頭神経)	
	Ｋ　体性感覚系の構造・機能	①　痛覚	
		②　温度覚	
		③　触覚、圧覚	
		④　深部感覚	
３　呼吸器、胸郭、胸壁　約８％	Ａ　胸郭の構造・機能	①　胸膜、胸壁、横隔膜	横隔神経、肋間神経、迷走神経、反回神経、交感神経幹
		②　乳房(乳腺、Montgomery腺)	
		③　縦隔	上縦隔、前縦隔、中縦隔、後縦隔
		④　胸腺	
	Ｂ　上気道・下気道の構造・機能	①　鼻、鼻腔、喉頭、声帯、気管、気管支	
		②　吸気の加温・加湿	
		③　保護・防御機能	
		④　呼吸機能	
	Ｃ　肺の構造・機能	①　気管、気管支、肺胞	
		②　肺血管系	
		③　肺のリンパ管とリンパ節	
		④　肺表面活性物質	
		⑤　肺気量分画	
		⑥　換気、死腔	換気力学(胸腔内圧、肺コンプライアンス、抵抗、closing volume)
		⑦　換気血流比	
		⑧　拡散	
		⑨　肺胞気-動脈血酸素分圧較差〈A-aDO_2〉	換気分布
		⑩　呼吸の調節(換気量)	
		⑪　血液中のガス運搬	
		⑫　酸塩基平衡	
		⑬　代謝	
		⑭　防御機能	
	Ｄ　呼吸運動	①　呼吸筋	
		②　呼吸調節、末梢受容体、呼吸中枢、無呼吸反射	
４　心臓、脈管　約８％	Ａ　心臓・血管の構造・機能	①　心臓、大血管、冠血管、末梢血管	
		②　心臓の興奮と伝導	洞結節、房室結節
		③　心周期と時相	
		④　心機能、心筋収縮性・拡張性	
		⑤　心拍出量	
		⑥　血圧	

Ⅲ　人体の正常構造と機能[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		⑦　循環血液量	
		⑧　体循環	冠循環
		⑨　肺循環	
		⑩　循環動態の調節	
		⑪　容量血管と抵抗血管	
		⑫　末梢血管抵抗	
		⑬　静脈還流	
	B　リンパ管の構造と機能	①　リンパ管とリンパ節	
		②　胸管	
5　消化器、腹壁、腹膜　約８％	A　口腔・咽頭の構造・機能	①　歯、舌、唾液腺、口蓋、扁桃、耳管、上・中・下咽頭	
		②　咬合、咀しゃく、消化、食塊形成、唾液	摂食機能、口腔環境
		③　嚥下	嚥下機能
	B　消化管の構造・機能	①　消化管壁の構造	
		②　脈管系	門脈系、上腸間膜血管
		③　神経系	
		④　消化管運動	食道内圧、胃腸反射
		⑤　消化管の消化・吸収	
		⑥　胃液の分泌	
		⑦　消化管生理活性物質	消化管ホルモン、増殖因子
		⑧　消化管の免疫	腸内細菌叢
		⑨　排便機能	直腸肛門反射
	C　肝・胆道・膵の構造・機能	①　肝・胆道・膵の構造	
		②　肝臓の機能	
		③　胆汁および胆汁分泌	胆嚢収縮の調節
		④　腸肝循環	胆汁酸
		⑤　膵内外分泌	
	D　腹壁・腹膜の構造・機能	①　腹壁の筋肉・筋膜	
		②　神経系	
		③　腹腔内臓器、腹膜	
6　血液、造血器　約８％	A　血液・造血器の構造・機能	①　骨髄、リンパ組織、脾臓	
		②　血球の産生・崩壊とその調節	造血幹細胞
		③　血球の形態・機能	
		④　髄外造血	
		⑤　鉄・造血ビタミンの代謝	ヘプシジン、葉酸、ビタミンB_{12}
		⑥　止血機能と血管壁、血小板、凝固・線溶系	
		⑦　血漿とその成分	蛋白分画
		⑧　造血因子、サイトカイン	エリスロポエチン、顆粒球コロニー刺激因子〈G-CSF〉、トロンボポエチン
7　腎、泌尿器、生殖器　約８％	A　腎の構造・機能	①　腎（糸球体、尿細管、間質、血管系）	
		②　体液の分布と組成	

Ⅲ　人体の正常構造と機能[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		③　尿の生成	糸球体濾過、クリアランス、尿の濃縮と希釈
		④　水・電解質の代謝調節	ホメオスタシス
		⑤　酸塩基平衡	
		⑥　腎の内分泌機能	エリスロポエチン、ビタミンD、レニン
		⑦　血圧の調節	
	B　尿路の構造・機能	①　腎杯、腎盂、尿管、膀胱、前立腺、尿道	
		②　蓄尿、排尿	
	C　男性生殖器の構造・機能	①　精巣、精巣上体、精管、精嚢、前立腺、陰茎	
		②　造精機能	
		③　勃起	
		④　射精	
		⑤　脈管系	
		⑥　神経系	
		⑦　視床下部・下垂体・副腎・精巣系	
	D　女性生殖器の構造・機能	①　外陰、会陰、腟、子宮、子宮支持組織、卵巣、卵管、骨盤底筋群、Douglas窩、Bartholin腺	
		②　脈管系	
		③　視床下部・下垂体・卵巣系	
		④　性周期(排卵、子宮内膜の周期性変化、月経、性器外周期、基礎体温)	
8　心理、精神、神経、運動器　約15％	A　心理・精神機能	①　意識	
		②　知覚	
		③　記憶	
		④　見当識	
		⑤　知能	
		⑥　思考	
		⑦　感情、気分	
		⑧　意欲と行動	
		⑨　自我	
		⑩　気質、性格、パーソナリティ〈人格〉	
	B　精神機能と身体	①　睡眠	レム〈REM〉睡眠、ノンレム睡眠
		②　日内〈概日〉リズム〈サーカディアンリズム〉	
		③　神経伝達物質	
	C　中枢神経・末梢神経の構造・機能	①　頭蓋、脳、脊柱、脊椎、脊髄、神経根	
		②　脳室、脳槽、髄膜	髄液の分泌・循環・吸収
		③　大脳皮質と機能局在	高次脳機能
		④　大脳基底核とその連絡路	

Ⅲ　人体の正常構造と機能[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		⑤　視床	
		⑥　視床下部、下垂体	
		⑦　海馬、扁桃体、辺縁系	
		⑧　脳幹	
		⑨　小脳とその連絡路	
		⑩　脳神経	
		⑪　嗅覚路	
		⑫　視覚路	
		⑬　聴覚・前庭路	
		⑭　脊髄の機能局在と主な伝導路	
		⑮　末梢神経	
		⑯　自律神経系	
		⑰　運動系伝導路	
		⑱　感覚系伝導路	デルマトーム
		⑲　反射	求心路、中枢、遠心路
	D　脳・脊髄血管系とその支配領域	①　内頸動脈領域	
		②　椎骨・脳底動脈領域	
		③　Willis動脈輪	
		④　脳静脈系	硬膜静脈洞
		⑤　脊髄動脈系	
	E　運動器の構造・機能	①　骨、軟骨、筋、腱、靱帯、末梢神経	
		②　骨格(頭蓋、脊柱、胸郭、骨盤、四肢)	
		③　関節(関節軟骨、滑膜、関節包、半月板、椎間板)	
		④　骨の成長と骨形成・吸収	成長軟骨
		⑤　神経支配	
		⑥　運動生理	
9　内分泌、代謝、栄養　約８％	A　内分泌器官の構造・機能	①　内分泌器官	視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺<上皮小体>、副腎皮質・髄質、膵島、腎、性腺
		②　ホルモンの種類	
		③　ホルモンの合成・分泌とその調節	
		④　ホルモンの作用機序	
		⑤　内分泌系と免疫系・精神神経系	ホメオスタシス
	B　代謝と栄養	①　代謝と内分泌	
		②　代謝経路	
		③　代謝調節	
		④　食事摂取基準	
		⑤　栄養素の役割とバランス	

Ⅲ　人体の正常構造と機能[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
10　免疫 約15％	A　免疫系臓器	①　中枢性免疫系臓器(骨髄、胸腺)	
		②　末梢性免疫系臓器(リンパ節、脾、扁桃、粘膜関連リンパ組織〈MALT〉)	
	B　自然免疫	①　好中球、好酸球、単球、NK細胞	
	C　獲得免疫	①　Tリンパ球〈T細胞〉	ヘルパーT細胞、細胞傷害性T細胞〈CTL〉、制御性T細胞〈Treg〉
		②　Bリンパ球〈B細胞〉、形質細胞	
		③　抗原提示細胞(マクロファージ、樹状細胞)、リンパ濾胞	
	D　免疫系の調節	①　免疫グロブリン	
		②　補体	
		③　サイトカイン、ケモカイン	腫瘍壊死因子〈TNF〉、インターロイキン〈IL〉-1、IL-6、IL-17
		④　免疫応答とその調節	細胞傷害性Tリンパ球抗原4〈CTLA-4〉、Programmed cell death 1 receptor〈PD-1〉、PD-1 ligand 1〈PD-L1〉
		⑤　組織適合{性}抗原〈HLA〉	
		⑥　免疫寛容	

Ⅳ　生殖、発生、成長、発達、加齢[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
1　妊娠　約15％	A　妊娠の成立・維持	①　受精	
		②　受精卵の卵割と輸送	
		③　着床	
		④　妊娠維持の機構	
		⑤　妊娠持続期間	
	B　胎児付属物	①　胎盤	
		②　卵膜	
		③　臍帯	
		④　羊水	
	C　胎児・胎盤系	①　胎児・胎盤循環	動脈管、静脈管、卵円孔
		②　胎児発育	
		③　内分泌機能	
		④　ガス・物質交換と代謝	
	D　妊娠による母体変化	①　妊娠徴候	
		②　妊娠による臓器の変化	
	E　妊婦の栄養		
2　分娩　約15％	A　分娩の3要素	①　産道(骨産道、軟産道)	
		②　娩出物(胎児、胎児付属物)	胎向、胎位、胎勢
		③　娩出力(陣痛、腹圧)	
	B　分娩の経過	①　前徴	産徴、前陣痛〈前駆陣痛〉
		②　分娩開始	
		③　分娩時期(第1期〈開口期〉、第2期〈娩出期〉、第3期〈後産期〉)	
		④　破水	
		⑤　児頭の浮動・下降・進入・固定・嵌入	
		⑥　回旋(第1～4回旋)	
		⑦　児頭の変形	応形機能、骨重積、産瘤
		⑧　児の娩出	排臨、発露
		⑨　胎盤娩出	
3　産褥　約８％	A　産褥の経過	①　後陣痛	
		②　子宮復古	
		③　悪露	
		④　産褥無月経、授乳性無月経	
		⑤　全身の復古	
	B　乳汁分泌	①　乳汁分泌の機序	
		②　初乳	
		③　成熟乳〈成乳〉	
4　胎児　約８％	A　胎児の発育	①　妊卵〈胚〉、胎芽、胎児	
		②　器官形成期	薬物、放射線の影響
		③　成長の評価	
		④　妊娠期間、胎児の形態	
	B　器官形成と臓器の成熟	①　皮膚	
		②　感覚器	
		③　呼吸器	

Ⅳ　生殖、発生、成長、発達、加齢[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		④　循環器	
		⑤　消化器	
		⑥　血液、造血器	
		⑦　腎、泌尿器、生殖器	Wolff管、Müller管
		⑧　神経、運動器	
		⑨　内分泌、代謝	
		⑩　免疫	
5　新生児 約15％	A　成熟徴候	①　在胎週数	
		②　出生時の身長・体重	
		③　身体的特徴	
		④　頭囲、胸囲	
		⑤　大泉門	
	B　新生児の生理	①　呼吸	
		②　循環	臍帯脱落
		③　体温	
		④　腎臓、体液	
		⑤　肝臓、ビリルビン代謝	生理的黄疸
		⑥　消化	胎便、移行便、生理的体重減少
		⑦　血液、免疫	IgG、IgA、IgM、胎児ヘモグロビン
6　小児期 約15％	A　小児の成長	①　発育区分	乳児期、幼児期、学童期
		②　身体発育	成長速度曲線、身長、体重、頭囲、胸囲、プロポーション
		③　生歯	
		④　骨年齢	
		⑤　成長の評価	成長曲線、成長速度曲線、発育指数(Kaup指数、Rohrer指数、肥満度)
	B　小児の発達	①　反射(原始反射と姿勢反射)	
		②　運動	運動発達評価
		③　精神	
		④　言語発達	
		⑤　生活習慣	
		⑥　社会性	
		⑦　視力、聴力	
		⑧　評価	スクリーニング法、発達指数、知能指数
	C　小児栄養	①　栄養所要量	
		②　母乳栄養	
		③　人工栄養	
		④　離乳	
		⑤　幼児・学童の栄養	
		⑥　栄養状態の評価	
		⑦　過剰と欠乏	

Ⅳ　生殖、発生、成長、発達、加齢[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
7　思春期、青年期　約８％	A　身体の成長・発達	①　成長スパート〈growth spurt〉	
		②　二次性徴	
		③　思春期の発来機序	
	B　精神発達	①　発達区分	
		②　発達理論	
		③　思春期危機	
		④　自我〈自己〉同一性形成	
		⑤　学習と社会経験	
8　加齢、老化　約15％	A　加齢による変化、疾患の特徴	①　加齢による機能低下	骨密度測定、運動器症候群〈ロコモティブシンドローム〉、サルコペニア、フレイル
		②　加齢による疾患の特徴	
	B　高齢者の生理的特徴	①　予備力・適応能力の低下	
		②　検査値の加齢変化	
	C　高齢者の心理的特徴	①　認知機能の低下	
		②　感情・意欲・性格の変化	
		③　行動の変化	
	D　高齢者の疾患の特徴と頻度の変化	①　非定型的症状	
		②　多疾患合併	ポリファーマシー
		③　老年症候群	摂食嚥下障害、歩行障害・転倒、排泄障害、栄養障害
		④　日常生活障害	運動器不安定症
	E　寿命	①　アドバンス・ケア・プランニング〈ACP〉	
		②　人生のプロセス	ライフサイクル

V　病因、病態生理[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
1　疾病と影響因子 約６％	A　疾病の自然経過	①　病因発生	
		②　病期(前臨床期、臨床期)	
		③　病型	
	B　内因と外因	①　疾患関連遺伝子	
		②　遺伝子異常と環境因子	遺伝子-環境交互作用(gene-environment interaction)
	C　生活・職業・社会環境と疾病	①　生活習慣〈ライフスタイル〉	
		②　環境因子	
		③　労働環境	
		④　ワークライフバランス	妊娠・出産・育児と労働
		⑤　技術革新と健康障害	
	D　ストレス	①　心理・社会的要因	
		②　自律神経・内分泌機能の変化	
		③　感情と行動の変化	
		④　ストレス関連疾患の誘発と症状増悪	
		⑤　災害、移民	
2　先天異常 約11%	A　原因と分類	①　単一遺伝子病	
		②　多因子遺伝	
		③　細胞質遺伝	
		④　染色体異常	
		⑤　環境因子による奇形	
	B　遺伝形式	①　Mendel遺伝様式	顕性遺伝(優性遺伝)、潜性遺伝(劣性遺伝)
		②　非Mendel遺伝様式	
	C　染色体異常の種類	①　染色体異常の原因	
		②　数的異常	
		③　構造異常	欠失、転座、iso染色体
		④　モザイク	
		⑤　隣接遺伝子症候群	
	D　遺伝相談	①　遺伝カウンセリング	
		②　出生前診断	
3　損傷、炎症 約11%	A　創傷の治癒過程	①　一次治癒、二次治癒	
		②　肉芽組織、瘢痕組織、肥厚性瘢痕、ケロイド	
		③　創傷治癒に影響する因子	
	B　物理的損傷	①　鋭的外傷、穿通性損傷	刺創、銃創、杙創
		②　鈍的外傷、非穿通性損傷	墜落、転落、転倒、狭圧
		③　爆傷	
		④　熱傷	
		⑤　凍傷・凍瘡	
		⑥　電撃傷	
		⑦　放射線障害	
		⑧　褥瘡	

V　病因、病態生理[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	C　化学的損傷	①　アルカリによる損傷	
		②　酸による損傷	
	D　炎症の局所的変化	①　組織反応	
		②　症候	
	E　炎症の全身的変化	①　呼吸・循環の変化	
		②　代謝性反応	
		③　免疫反応	
4　感染　約11%	A　概念	①　病原体	
		②　感染防御機構	易感染性宿主<compromised host>
		③　感染と発症	キャリア(保菌者)
		④　感染様式と経路	
	B　病態	①　市中感染症	
		②　院内<病院>感染症	
		③　菌交代現象、菌交代症	
		④　薬剤耐性[antimicrobial resistance<AMR>]	
		⑤　日和見感染症<opportunistic infection>	
		⑥　二次感染、複数菌感染	
		⑦　性感染症<STD、STI>	
		⑧　垂直感染	母子感染(子宮、産道、母乳)
		⑨　輸入感染症	
		⑩　新興・再興感染症	
		⑪　人獣共通感染症	
		⑫　バイオテロに関連する感染症	
5　アレルギー、免疫異常　約６%	A　免疫異常疾患	①　免疫不全	
		②　自己免疫疾患	
	B　アレルギー	①　Coombs分類	アナフィラキシー
6　腫瘍　約11%	A　腫瘍の疫学	①　罹患<発生>率	
		②　生存率	
		③　死亡率	
		④　予防	
	B　腫瘍の病因	①　発がん因子	
		②　がんと遺伝的要因・外的要因	
		③　がん遺伝子、がん抑制遺伝子	
	C　腫瘍の病理・病態	①　腫瘍の定義	
		②　良性、悪性	
		③　上皮性、非上皮性	
		④　腫瘍細胞の異型性と多形性	
		⑤　潜在がん、偶発がん、上皮内がん、表在がん	
		⑥　早期がん、進行がん、転移がん、重複がん	

V　病因、病態生理[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		⑦　局所浸潤	
		⑧　転移	リンパ行性転移、血行性転移
		⑨　播種	
		⑩　悪液質	
		⑪　再発	
7　循環障害、臓器不全　約６％	A　血行障害	①　阻血、虚血	
		②　充血	
		③　うっ血	
		④　出血	
	B　梗塞	①　血栓	
		②　塞栓	
	C　リンパ還流障害	①　水腫	
		②　リンパ漏、リンパ浮腫	
	D　ショック	①　血流分布異常性ショック	アナフィラキシー、感染性〈敗血症性〉、神経原性
		②　循環血液量減少性ショック	出血性、体液喪失
		③　心原性ショック	心筋性、機械性、不整脈
		④　閉塞性ショック	心タンポナーデ、肺血栓塞栓症、緊張性気胸
	E　血圧異常	①　高血圧	高血圧緊急症
		②　低血圧	起立性低血圧、起立性調節障害
	F　臓器不全	①　多臓器不全〈MOF〉、多臓器機能障害症候群〈MODS〉	
8　内分泌・代謝・栄養の異常　約11%	A　ホルモンの合成・分泌の異常	①　欠乏と過剰	
		②　機能異常	
	B　エネルギー及び栄養素の欠乏と過剰	①　低栄養、肥満	
		②　糖{質}・脂質・蛋白{質}代謝(核酸代謝を含む)の異常	
		③　ビタミン、無機質〈ミネラル〉、必須〈微量〉元素、必須〈微量〉栄養素	
9　中毒、放射線障害　約11%	A　中毒の発生要因		
	B　中毒の病態生理	①　毒物の吸収・分布・代謝・排泄	
		②　中毒量、致死量、LD_{50}	用量反応曲線
		③　急性中毒、慢性中毒	
		④　発がん性	
		⑤　生殖毒性	
		⑥　依存	
	C　放射線の身体的影響	①　急性期反応〈障害〉	
		②　晩期反応〈障害〉	
		③　妊娠時期と放射線感受性	

V　病因、病態生理[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
	D　放射線の確率的影響・確定的影響	①　閾<しきい>線量、Linear Non-Threashold(LNT)仮説	
		②　放射線による発がん	
		③　遺伝的影響	
	E　被ばくの種類	①　内部被ばく	
		②　外部被ばく	
10　医原病　約６％	A　診断に伴う医原病	①　医師の対応による医原病	医師による偏見・スティグマ
		②　診断による医原病	診断プロセス、認知バイアス
	B　治療に伴う医原病		
11　死　約11%	A　死因の究明	①　病死及び自然死、外因死、不詳の死	突然死、乳幼児突然死症候群<SIDS>
		②　診療関連死	
		③　監察医制度	
		④　司法解剖、行政解剖、承諾解剖、病理解剖	
		⑤　臨床病理検討会<CPC>	
	B　死後変化	①　早期死体現象	
		②　晩期死体現象	
		③　死後経過時間の推定	

Ⅵ　症候[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
1　全身症候 約17%	A　発熱		
	B　全身倦怠感		
	C　体重減少・増加		
	D　ショック		
	E　意識障害		
	F　けいれん		
	G　めまい		
	H　脱水		皮膚の緊張度〈ツルゴール〉
	I　浮腫		
	J　黄疸		
	K　顔貌の異常		
2　皮膚、外表 約６%	A　皮疹	①　紅斑	
		②　紫斑、出血斑	
		③　色素斑、色素異常	
		④　丘疹	
		⑤　結節	
		⑥　腫瘤	
		⑦　水疱	
		⑧　膿疱	
		⑨　嚢腫	
		⑩　膨疹	
		⑪　びらん	
		⑫　潰瘍	
		⑬　毛細血管拡張〈telangiectasia〉	
		⑭　硬化、瘢痕、萎縮	
		⑮　鱗屑、痂皮	
		⑯　苔癬化	
		⑰　壊疽	
	B　粘膜疹	①　アフタ	
	C　爪・毛髪異常	①　脱毛	
		②　爪の異常	
	D　光線過敏		
	E　皮膚分泌異常	①　発汗	
		②　皮脂	
	F　デルマドローム		
	G　多形皮膚萎縮		
	H　脈管異常	①　血管・リンパ管奇形	
	I　小奇形		
	J　リンパ節腫脹	①　リンパ節転移	Virchow結節
	K　循環障害	①　末梢循環障害	
	L　角化異常		
	M　瘙痒		
	N　疼痛		

Ⅵ　症候[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
3　頭頸部、感覚器　約11%	A　頸部の異常	①　頸部腫瘤	
		②　甲状腺腫	
		③　頸部腫脹	
	B　視機能障害	①　視力障害	
		②　光覚異常	夜盲、昼盲
		③　色覚異常	
		④　視野異常	視野狭窄、半盲、暗点
		⑤　斜視、斜位	
		⑥　異常眼球運動、眼振	
	C　眼症状	①　眼精疲労	
		②　眼痛	
		③　眼の充血	
		④　眼脂	
		⑤　流涙	
		⑥　眼の乾燥感	
		⑦　羞明	
		⑧　飛蚊症、光視症	
		⑨　変視症	
		⑩　眼球運動異常、複視	
	D　眼組織の異常	①　角膜混濁	
		②　房水セル、房水フレア	
		③　虹彩ルベオーシス	
		④　水晶体混濁	
		⑤　白色瞳孔	
		⑥　網膜・脈絡膜の異常	
	E　外眼部の異常	①　眼瞼下垂、{眼}瞼裂狭小	
		②　閉瞼不全、兎眼	
	F　眼球の異常	①　眼球突出	
		②　眼球陥凹	
	G　耳の異常	①　難聴	伝音難聴、感音難聴、混合性難聴
		②　耳鳴	
		③　耳閉感	
		④　耳漏	
		⑤　耳痛	
	H　鼻の異常	①　鼻閉	
		②　鼻漏	
		③　鼻出血	Kiesselbach部位
		④　嗅覚障害	
	I　咽頭・口腔の異常	①　咽頭痛	
		②　いびき	
		③　嚥下障害	
		④　味覚障害	
	J　口および口腔内の異常	①　舌の異常	舌苔、巨大舌、潰瘍、硬結
		②　口腔粘膜の異常	アフタ

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		③　唾液分泌異常	口腔乾燥症
		④　口腔内感染	
		⑤　歯、歯肉の異常	う歯
		⑥　口臭	
		⑦　開口障害、咀しゃく障害	
4　呼吸器、心臓、血管　約11%	A　喉頭の異常	①　嗄声、音声障害	
		②　咳嗽	
		③　呼吸困難	
		④　咽喉頭異常感	
	B　気管・気管支の異常	①　咳嗽	
		②　喀痰	
		③　血痰、喀血	
		④　喘鳴	
	C　呼吸の異常	①　呼吸困難、息切れ	低酸素〈O_2〉血症、高二酸化炭素〈CO_2〉血症、低二酸化炭素〈CO_2〉血症
		②　頻呼吸	
		③　徐呼吸	
		④　無呼吸	
	D　呼吸リズムの異常	①　Kussmaul呼吸	
		②　Cheyne-Stokes呼吸	
		③　Biot呼吸	
		④　呼気延長	
	E　呼吸音の変化	①　呼吸音の増強	
		②　呼吸音の減弱・消失	
		③　気管呼吸音	
		④　気管支呼吸音	
		⑤　肺胞呼吸音	
	F　副雑音	①　水泡音〈coarse crackles〉	
		②　捻髪音〈fine crackles〉	
		③　いびき音〈rhonchi〉	
		④　笛音〈wheezes〉	
		⑤　喘鳴〈stridor〉	
		⑥　胸膜摩擦音	
		⑦　声音振盪	増強、減弱
	G　胸痛		
	H　失神		
	I　胸水		
	J　異常心音	①　Ⅲ音	
		②　Ⅳ音	
		③　opening snap	
		④　収縮中期クリック	
		⑤　奔馬調律	
		⑥　心膜ノック音	
	K　心雑音	①　無害性雑音	

VI　症候[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
		②　収縮期駆出性<収縮中期性>雑音	
		③　汎<全>収縮期雑音	
		④　拡張期輪転様雑音<拡張期ランブル>	
		⑤　拡張早期灌水様雑音<拡張早期雑音>	
		⑥　連続性雑音	
		⑦　心膜摩擦音	
	L　不整脈	①　脈拍の欠損、絶対的不整脈	期外収縮、心房細動
	M　脈拍異常	①　速脈、遅脈	
		②　大脈、小脈	
		③　奇脈	
	N　心不全	①　浮腫	
		②　頸静脈怒張	
		③　息切れ	
	O　血管雑音		
	P　血圧異常	①　高血圧	
		②　低血圧	
	Q　間欠性跛行	①　四肢の跛行	
	R　Raynaud現象		
	S　その他	①　チアノーゼ	
		②　ばち指	
5　消化器 約11%	A　食欲異常	①　食思<欲>不振	
		②　過食	
	B　嚥下障害	①　嚥下痛	
		②　通過障害	
		③　誤嚥	
	C　上部消化管逆流症状	①　胸やけ、呑酸	
		②　悪心、嘔吐	
	D　腹痛	①　内臓痛	
		②　体性痛	
		③　関連痛	
	E　腹膜刺激症状	①　筋性防御	
		②　反跳痛	Blumberg徴候
	F　消化管出血	①　吐血	
		②　下血	黒色便<タール便>、血便
	G　便通異常	①　下痢	
		②　便秘	
	H　皮膚の異常	①　黄疸	{灰}白色便
		②　腹壁血管怒張	
	I　腹部膨隆、腹部腫瘤	①　鼓腸	
		②　腹水	
		③　腹部腫瘤	
	J　臓器腫大	①　肝腫大	
		②　脾腫	

Ⅵ　症候[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
6　血液、造血器、免疫　約11%	A　貧血		
	B　リンパ節腫脹	①　反応性	
		②　腫瘍性	
	C　脾腫	①　反応性	
		②　腫瘍性	
	D　出血傾向	①　紫斑	
		②　点状出血	
		③　関節内出血、筋肉内出血	
	E　血栓傾向	①　動脈血栓	
		②　静脈血栓	
7　腎、泌尿器、生殖器　約11%	A　尿の量の異常	①　無尿	
		②　乏尿	
		③　多尿	
	B　下部尿路症状	①　排尿症状	尿勢低下、尿線途絶、排尿遅延、腹圧排尿
		②　蓄尿症状	頻尿、夜間頻尿、尿意切迫感、尿失禁、遺尿〈夜尿〉
		③　排尿後症状	残尿感
	C　その他の排尿の異常	①　排尿痛	
		②　尿閉	
	D　尿の性状の異常	①　蛋白尿	
		②　糖尿	
		③　ビリルビン尿	
		④　血尿	
		⑤　膿尿	
		⑥　血色素〈ヘモグロビン〉尿	
		⑦　ミオグロビン尿	
		⑧　乳び尿	
	E　精液の性状	①　血精液症	
	F　男性性機能の異常	①　勃起障害	
		②　射精障害	
	G　女性生殖器の異常	①　外生殖器〈外陰部〉の異常	
		②　女性性器・膀胱の下垂・脱出	
		③　帯下	
		④　月経異常(月経痛、中間痛〈排卵痛〉、月経周期と量の異常)	
		⑤　性器出血	
		⑥　不妊、不育	
	H　妊娠時の異常	①　妊娠悪阻	
		②　性器出血	
		③　下腹痛	
		④　破水	
8　心理、精神機能　約６%	A　知能障害	①　知的障害〈精神遅滞〉	
		②　認知症	
		③　二次性認知症	

Ⅵ　症候[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	B　記憶障害	①　Korsakoff症候群	
		②　健忘	
	C　発達障害	①　学習障害	
		②　言語発達遅滞	
	D　失見当識		
	E　知覚障害	①　錯覚	
		②　幻覚	
	F　思考障害	①　思路障害	
		②　妄想	
		③　強迫観念	
	G　感情障害	①　不安、パニック発作	
		②　恐怖	
		③　うつ状態	
		④　躁状態	
		⑤　両価性	
	H　自我障害	①　離人症、転換、解離	
		②　させられ〈作為〉体験	
	I　意欲と行動の障害	①　食欲異常	
		②　性欲異常	
		③　精神運動性興奮	
		④　昏迷	
		⑤　緊張病症候群	
		⑥　注意欠如、多動	
		⑦　無為、自閉	
	J　睡眠障害	①　不眠	
		②　過眠	
	K　不定愁訴	①　心気症	
	L　病識欠如		
	M　疎通性障害		
	N　脳器質精神症候群		
	O　意識障害	①　意識混濁	
		②　もうろう状態	
		③　せん妄	
9　神経、運動器 約11%	A　高次脳機能障害	①　失語	Broca失語、Wernicke失語
		②　失行	
		③　失認	
		④　注意障害	
		⑤　遂行機能障害	
	B　広範な脳機能障害	①　植物状態	
		②　失外套症候群	
		③　無動性無言症	
		④　閉じ込め症候群〈locked-in syndrome〉	
	C　脳神経障害		

Ⅵ　症候[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	D　言語障害	①　構音障害	
		②　言語発達障害	
	E　髄膜刺激症候	①　項部硬直	髄膜炎、くも膜下出血
		②　Kernig徴候	
		③　jolt accentuation	
	F　頭囲の異常	①　大頭	
		②　小頭	
		③　狭頭	
	G　筋の障害	①　筋萎縮	
		②　筋力低下	
		③　筋肉痛	
		④　筋けいれん	
	H　反射異常	①　中枢神経(脳・脊髄)症状	Babinski徴候<Babinski反射>、Chaddock反射
		②　末梢神経症状	
	I　運動系の異常	①　運動麻痺	
		②　不随意運動	振戦、ミオクローヌス、舞踏運動、ジストニア、固定姿勢保持困難<asterixis>、アテトーシス、チック
		③　運動失調	
		④　錐体路徴候	痙縮
		⑤　錐体外路徴候	筋強剛、無動、寡動
		⑥　起立・歩行障害	
	J　平衡・感覚・自律神経系の障害	①　感覚障害	
		②　平衡障害	
		③　自律神経障害	
	K　頭蓋内圧亢進	①　脳ヘルニア	
	L　脊髄・神経根障害	①　脊髄障害	横断性脊髄症、Brown-Séquard症候群
		②　神経根障害	神経根症
		③　末梢神経障害	
	M　脊柱の異常	①　姿勢の異常	不良姿勢
		②　脊柱変形	側弯、後弯、前弯、円背、平背
		③　脊椎運動制限	
	N　関節やその周辺構造の障害	①　関節拘縮	良肢位<機能肢位>
		②　関節強直	
		③　関節弛緩	
		④　関節動揺性	
		⑤　関節不安定性	
		⑥　関節痛	
		⑦　関節腫脹	
		⑧　関節破壊、関節変形	

Ⅵ　症候[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		⑨　腱断裂	
		⑩　腱拘縮	
		⑪　付着部痛	アキレス腱付着部痛
	O　その他	①　頭痛、頭重感	
		②　肩凝り	
		③　背部痛	炎症性腰背部痛
		④　腰痛	
		⑤　坐骨神経痛	
10　内分泌、代謝、栄養　約６％	A　肥満、やせ		
	B　身長の異常	①　高身長、低身長	
	C　体毛の異常	①　多毛、脱毛、男性化徴候	
	D　乳腺の異常	①　女性化乳房、乳汁漏出	
	E　糖尿		

Ⅶ　診察[約７％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
1　二次・三次救急の診察　約30％	A　初診時の評価	①　バイタルサイン	動脈血酸素飽和度〈SpO_2〉
		②　意識レベル	Japan coma scale〈JCS〉、Glasgow coma scale〈GCS〉
		③　心停止	院外心停止〈OHCA〉
		④　血液ガス・電解質分析	ガス交換・酸塩基平衡・電解質の評価
		⑤　臓器障害の状態把握	
		⑥　運動機能障害の判定	
		⑦　緊急治療の要否・部位別治療優先順位の判断	
		⑧　重症度と緊急度	
	B　病態に応じた診察、評価と原因の鑑別	①　ショック	ショック指数〈shock index〉
		②　意識障害	
		③　脳血管障害	
		④　急性呼吸不全	
		⑤　急性心不全	
		⑥　急性冠症候群	
		⑦　急性腹症	
		⑧　急性消化管出血	
		⑨　急性肝不全	肝性昏睡
		⑩　急性腎障害	
		⑪　内分泌・代謝疾患	糖尿病性昏睡、低血糖昏睡、甲状腺クリーゼ、副腎不全
		⑫　精神科救急	自傷他害、精神運動興奮
		⑬　重症感染症	
		⑭　外傷	
		⑮　急性中毒	トキシドローム
		⑯　熱傷(電撃症、化学的損傷を含む)	
		⑰　バイオテロ	
		⑱　急性放射線障害	
2　高齢者の診察と評価　約30％	A　高齢者の診察	①　診察時の注意	
		②　既往歴・合併症の評価	
	B　高齢者総合機能評価[comprehensive geriatric assessment〈CGA〉]	①　日常生活動作〈ADL〉、手段的日常生活動作〈IADL〉	
		②　認知機能	
		③　気分・意欲	
		④　運動機能	
		⑤　嚥下障害	
		⑥　生活環境	
		⑦　介護の必要度	フレイルの評価
3　小児の診察　約20％	A　乳幼児の診察	①　一般的診察	
		②　成長・発達の評価	
		③　育児環境の評価	
		④　乳幼児の救急時の状態把握	

Ⅶ　診察[約７％]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	B　学童期の児の診察	①　一般的診察	
		②　成長・発達の評価	
		③　生活環境の評価	
		④　心理的評価	
	C　思春期の児の診察	①　一般的診察	
		②　二次性徴の評価	
		③　心理的評価	
4　胎児・新生児の診察と評価 約10％	A　胎児の診察	①　胎児の位置の診断	胎位、胎向、胎勢
		②　胎動	
		③　胎児心拍数の測定	
		④　発育・成熟の診断	
		⑤　出生前診断	
	B　胎児付属物の診察	①　胎盤・臍帯・羊水の診断	羊水量、羊水の性状、胎盤の位置、臍帯動脈血pH
	C　新生児の診察	①　一般的診察、Apgarスコア	
		②　神経学的診察	フロッピーインファント
		③　診察時の注意	
		④　外表奇形	
5　妊・産・褥婦と胎児の診察 約10％	A　妊婦の診察	①　妊娠の診断	
		②　妊娠時期の診断	
		③　妊婦健康診査	
		④　胎位・胎向の診断	
		⑤　頸管成熟度	Bishopスコア
		⑥　プレコンセプションケア・カウンセリング	
	B　産婦の診察	①　分娩時期の診断	
		②　胎児下降度の診断・表現法	
		③　児頭回旋の診断・表現法	
		④　頸管開大度の診断・表現法	
		⑤　陣痛の観察	胎児心拍数陣痛図〈CTG〉
		⑥　パルトグラム	
		⑦　胎盤剥離徴候	
	C　褥婦の診察	①　性器の復古	
		②　全身の復古	
		③　乳汁分泌	

Ⅷ　検査[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
1　検体検査 約23％	A　検体の採取と保存	①　採血(種類、部位)	静脈血、動脈血、毛細血管血
		②　採尿	
		③　採便	
		④　喀痰採取	
		⑤　穿刺	胸水、腹水、脳脊髄液、骨髄、Douglas窩、関節液、嚢胞貯留液、膿、羊水
		⑥　生検、細胞診	
		⑦　新生児・乳幼児の採血と穿刺法	
		⑧　法医学的試料の採取	
		⑨　抗凝固剤、血清・血漿分離法、検体保存法	
		⑩　保存期間	
	B　一般臨床検査	①　尿	定性、定量、沈渣
		②　糞便	潜血、虫卵
		③　喀痰	
		④　脳脊髄液	
		⑤　穿刺液	
		⑥　関節液	
		⑦　精液	
		⑧　子宮頸管粘液	
		⑨　腟分泌物	
	C　血液学検査	①　赤血球沈降速度(赤沈)	
		②　血球(網赤血球、赤血球・白血球・血小板形態を含む)	May-Giemsa染色、Wright染色、ペルオキシダーゼ染色、PAS染色、エステラーゼ染色、鉄染色、フローサイトメトリー
		③　凝固・線溶・血小板機能検査	
		④　骨髄検査	骨髄穿刺、骨髄生検
		⑤　溶血に関する検査	
		⑥　血液型、交差適合試験〈クロスマッチ〉、輸血関連検査	
	D　生化学検査	①　蛋白、蛋白分画	
		②　生体色素	ビリルビン
		③　酵素、アイソザイム	
		④　含窒素成分	
		⑤　糖質および糖代謝関連物質	
		⑥　脂質および脂質代謝関連物質	
		⑦　水、電解質、酸塩基平衡	
		⑧　重金属、微量元素	
		⑨　ビタミン	
		⑩　ホルモン	
		⑪　血中薬物・毒物と代謝産物	
		⑫　腫瘍マーカー	

Ⅷ　検査[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
	E　免疫血清学検査	①　炎症反応	CRP
		②　感染病原体の抗原・抗体	
		③　自己抗体	
		④　免疫グロブリン	クラス、サブクラス
		⑤　IgE、特異的IgE検査	
		⑥　補体	
		⑦　細胞性免疫	ツベルクリン反応
		⑧　食菌能	
		⑨　移植免疫	組織適合{性}抗原<HLA>
		⑩　細胞表面抗原	
		⑪　抗体検査法	補体結合反応<CF>、赤血球凝集抑制試験<HI>、中和試験<NT>、酵素結合免疫吸着法<ELISA>、二重免疫拡散<DID>法
	F　微生物学検査	①　病原微生物の同定・検鏡	単染色、Gram染色、Ziehl-Neelsen染色、墨汁染色<墨汁法>、PAS染色、Grocott染色、Giemsa染色、Gimenez染色
		②　病原微生物の培養・分離・同定	
		③　免疫学的検査による診断	結核菌特異的全血インターフェロンガンマ遊離測定法<IGRA>、微生物抗原検査
		④　薬剤感受性試験	
		⑤　病原体別検査	
		⑥　ウレアーゼ試験、尿素呼気試験、尿中・血清抗体、便中抗原	*Helicobacter pylori*
		⑦　核酸増幅検査(PCR法、RT-PCR法、pulsed field gel electrophoresis)	
	G　病理組織学検査、細胞診	①　生検検体採取法、内視鏡的鉗子生検、ポリープ切除、内視鏡的粘膜切除、経皮的生検	
		②　生検・手術切除検体取扱法	固定法
		③　標本作製法(凍結切片を含む)	
		④　迅速診断の適応、標本の取扱法、診断限界	
		⑤　細胞診(検体の採取、取扱法、染色法、報告様式)	Papanicolaou染色
		⑥　病理学的組織検体の染色法	H-E染色、PAS染色、PAM染色、SudanⅢ染色、Congo-Red染色、Gram染色、Ziehl-Neelsen染色、Grocott染色、KB<Klüver-Barrera>染色、May-Giemsa染色、免疫組織化学染色、酵素組織化学染色、FISH法
		⑦　電子顕微鏡による病理検査	固定法

Ⅷ　検査[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	H　染色体検査、体細胞遺伝子検査	①　分染法	
		②　常染色体	
		③　性染色体	
		④　悪性腫瘍細胞の遺伝子検査	
2　生体機能検査 約23％	A　呼吸機能検査	①　スパイロメトリ	
		②　肺気量分画	
		③　肺拡散能	
		④　flow-volume曲線	
		⑤　動脈血ガス分析	
		⑥　睡眠時無呼吸症候群検査	ポリソムノグラフィー
		⑦　ピークフローメトリ	
	B　心血管機能検査	①　心電図検査	Holter心電図検査
		②　心エコー検査	ドプラ法、カラードプラ法
		③　心筋シンチグラフィ	
		④　心血管CT・MRI	
		⑤　心臓カテーテル検査	
		⑥　心臓電気生理学的検査〈EPS〉	
		⑦　足関節上腕血圧比〈ABI〉	
	C　消化管機能検査	①　唾液分泌検査	
		②　消化管運動機能検査	食道内圧検査、肛門内圧検査
		③　pHモニタリング	
		④　蛋白漏出試験	α_1-アンチトリプシン法
		⑤　ガストリン・ペプシノゲン測定	
	D　肝・胆道機能検査	①　色素排泄試験	ICG〈indocyanine green〉試験
	E　膵機能検査	①　外分泌機能検査	BT-PABA試験〈PFD試験〉
		②　内分泌機能検査	経口グルコース負荷試験〈75g OGTT試験〉
	F　内分泌・代謝機能検査	①　血中・尿中ホルモン測定	
		②　内分泌機能検査、負荷試験	
		③　代謝機能検査	
		④　核医学的機能検査	甲状腺^{123}I摂取率
	G　腎機能検査	①　推算糸球体濾過量〈eGFR〉	クレアチニンクリアランス、血清シスタチンC
		②　尿蛋白・酵素	尿中アルブミン、β_2-マイクログロブリン
	H　排尿機能検査	①　尿流測定	
		②　膀胱内圧測定	
		③　残尿量測定	
	I　脳波検査	①　波形診断	発作性異常波
		②　異常脳波賦活法	
		③　聴性脳幹反応〈ABR〉	
	J　筋電図・神経伝導検査	①　針筋電図検査	
		②　反復誘発筋電図検査	

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		③　末梢神経伝導検査	
3　皮膚・感覚器・発声機能検査　約８％	A　皮膚検査	①　プリックテスト、皮内テスト	
		②　針反応	
		③　パッチテスト、光パッチテスト	
		④　光線テスト	
		⑤　薬剤リンパ球刺激試験(DLST)	
		⑥　皮膚温測定法、サーモグラフィ	
		⑦　Tzanck試験	
		⑧　Nikolsky現象	
		⑨　ダーモスコピー	
		⑩　苛性カリ<KOH>直接鏡検法	
		⑪　皮膚描記法	Darier徴候
		⑫　硝子圧法	
		⑬　発汗テスト	
	B　視器一般検査	①　徹照法	
		②　細隙灯顕微鏡検査	
		③　眼圧検査	
		④　眼底検査、蛍光眼底造影検査	
		⑤　隅角検査	
		⑥　涙液分泌検査	
		⑦　スペキュラーマイクロスコピー	
		⑧　角膜知覚検査	
		⑨　角膜曲率測定	
		⑩　眼軸長検査	
		⑪　光干渉断層計<OCT>	
	C　視機能検査	①　視力検査	
		②　視野検査	
		③　色覚検査	
		④　光覚<暗順応>検査	
		⑤　屈折検査	
		⑥　調節検査	
		⑦　眼位検査	
		⑧　両眼視機能検査	
		⑨　網膜電図検査<ERG>	
		⑩　視覚誘発電位<VEP>	
	D　聴覚・平衡機能検査	①　純音聴力検査<気導・骨導聴力閾値検査>	
		②　自記オージオメトリ	
		③　語音聴力検査	
		④　音叉検査	
		⑤　他覚的聴力検査	聴性脳幹反応<ABR>、耳音響放射<OAE>
		⑥　幼児聴力検査	遊戯聴力検査、行動反応聴力検査<BOA>
		⑦　ティンパノメトリ	あぶみ骨筋反射

Ⅷ　検査[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		⑧　平衡機能検査	重心動揺検査
		⑨　眼球運動・眼振の検査	自発眼振、頭位・頭位変換眼振、温度眼振(カロリックテスト)、回転眼振
	E　嗅覚・味覚検査	①　オルファクトメトリ	
		②　電気味覚検査	
		③　濾紙ディスク検査	
	F　発声・発語検査	①　発声機能検査	
		②　構音検査	
4　心理・精神機能検査　約８％	A　心理学的検査	①　質問紙法	状態特性不安検査<STAI>
		②　投影法	Rorschachテスト、Beckのうつ病自己評価尺度
		③　評価尺度	簡易精神症状評価尺度[Brief Psychiatric Rating Scale<BPRS>]、Hamiltonうつ病評価尺度<Hamilton Rating Scale for Depression>
	B　知能検査	①　Wechsler成人知能検査<WAIS-Ⅲ>	
		②　Wechsler児童用知能検査<WISC-Ⅳ>	
		③　田中・Binet知能検査	
		④　Wechsler記憶検査<WMS-R>	
		⑤　スクリーニング検査	Mini-Mental State Examination<MMSE>、改訂長谷川式簡易知能評価スケール
	C　神経心理学的検査	①　標準型失語症検査<SLTA>	
		②　リバーミード行動記憶検査<RBMT>	
		③　Wechsler記憶スケール<WMS>	
		④　前頭葉機能検査<FAB>	
	D　発達検査	①　津守・稲毛式発達検査	
		②　スクリーニング法	日本版Denver式発達スクリーニング検査、遠城寺式分析的乳幼児発達検査法
5　妊娠・分娩・胎児・新生児の検査　約８％	A　妊娠の検査	①　妊娠反応	
		②　超音波検査	
	B　妊娠中の検査	①　血液検査	血液型、不規則抗体、感染症検査
		②　超音波検査	子宮頸管長
		③　分泌物検査	B群連鎖球菌
		④　出生前検査・診断	羊水検査、NIPT、着床前診断
	C　分娩の検査	①　超音波検査	
		②　胎児心拍数陣痛図<CTG>	

Ⅷ　検査[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	D　胎児発育・成熟の検査	①　超音波検査	頭殿長<CRL>、大横径<BPD>、大腿骨長<FL>、腹囲<AC>、推定胎児体重<EFBW>
		②　胎児成熟度検査	肺サーファクタント、マイクロバブルテスト
	E　胎児の健全性<健常性、fetal well-being>の検査	①　胎児心拍数陣痛図<CTG>	
		②　ノンストレステスト<NST>	
		③　コントラクションストレステスト<CST>	
		④　biophysical profile score<BPS>	
		⑤　超音波ドプラ法	パルスドプラ法
		⑥　羊水量	
		⑦　胎動	
		⑧　血液ガス分析	臍帯動脈血pH
	F　胎盤・臍帯・羊水の検査	①　超音波検査	羊水ポケット、羊水指数<AFI>
	G　先天異常の検査	①　羊水検査	
		②　絨毛検査	
		③　胎児血液検査	
		④　超音波検査	
	H　新生児の検査	①　新生児マススクリーニング	タンデムマス・スクリーニング
		②　マイクロバブルテスト	
6　画像検査 約15%	A　超音波検査	①　原理と検査技術	
		②　ドプラ法、カラードプラ法、パワードプラ法	造影超音波診断法
		③　超音波所見	高・低エコー域、音響陰影、音響増強
		④　エコー下穿刺生検	
		⑤　血流測定	
	B　電離放射線	①　種類と性質	
		②　放射性同位元素	
		③　放射能	
	C　放射線の単位と測定	①　単位[吸収線量(Gy)、線量当量(Sv)、放射能(Bq)]	
		②　測定	
	D　放射線防護3原則	①　行為の正当化	
		②　防護の最適化	
		③　線量限度の適用	
	E　画像検査における医療情報	①　画像情報システム	
		②　画像診断支援システム	
	F　エックス線単純撮影	①　種類と適応	デジタルラジオグラフィ<DR>、コンピューテッドラジオグラフィ<CR>
		②　兆候(サイン)	
	G　血管造影検査	①　種類、適応、禁忌	

Ⅷ　検査[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		②　合併症	
	H　消化管造影検査	①　種類、適応、禁忌	
		②　合併症	
	I　尿路膀胱造影検査	①　種類、適応、禁忌	
		②　合併症	
	J　その他の造影検査	①　咽頭造影検査	嚥下機能検査
		②　胆道〈胆嚢・胆管〉造影検査	
		③　内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査〈ERCP〉	
		④　子宮卵管造影検査〈HSG〉	
		⑤　関節造影検査	
		⑥　脊髄腔造影検査〈ミエログラフィ〉	
	K　CT	①　原理、CT値	window幅、windowレベル
		②　適応	
		③　multidetector-row CT〈MDCT〉	ヘリカルCT
		④　三次元再構成画像(冠状断、矢状断)	
		⑤　三次元CT血管撮影〈3D-CTA〉	
		⑥　大腸CT〈CTコロノグラフィ〉	
	L　造影CT	①　適応と禁忌	
		②　造影効果	
		③　ダイナミックCT	動脈優位相、門脈相、平衡相
	M　磁気共鳴画像検査〈MRI〉の原理と技術	①　原理、MR信号	
		②　安全管理	体内植込みデバイス
		③　撮像法	T1強調像、T2強調像、プロトン密度強調像、T2*強調像、FLAIR像、拡散強調像、脂肪抑制法
		④　磁気共鳴胆管膵管撮影〈MRCP〉	
		⑤　磁気共鳴血管撮影〈MRA〉	
	N　造影磁気共鳴画像検査〈造影MRI〉	①　種類、適応、禁忌	
		②　造影効果	
		③　ダイナミックMRI	
	O　造影剤	①　種類	バリウム、ヨード造影剤、ガドリニウム造影剤
		②　禁忌	
		③　副作用	
		④　アナフィラキシー	
		⑤　造影剤腎症	危険因子、予防
		⑥　腎性全身性線維症〈NSF〉	
	P　核医学検査の原理と技術	①　放射性医薬品	
		②　ポジトロン核種	^{18}F
		③　トレーサー原理	^{18}F-FDG
	Q　シンチグラフィ	①　種類と適応	
		②　撮影法	早期相、遅延相、動態検査

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		③　シングルフォトンエミッションCT<SPECT>	
		④　ポジトロン断層撮影<PET>	
		⑤　ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影<PET/CT>	
7　内視鏡検査　約15％	A　内視鏡の種類と原理	①　硬性鏡	
		②　ファイバースコープ	
		③　電子スコープ	画像強調内視鏡
		④　拡大内視鏡	
		⑤　カプセル内視鏡	
		⑥　超音波内視鏡	
	B　内視鏡検査の適用部位	①　外耳、中耳	
		②　鼻腔、副鼻腔	
		③　咽頭、喉頭	
		④　気管、気管支	気管支肺胞洗浄<BAL>
		⑤　胸腔、縦隔	
		⑥　食道、胃、十二指腸	
		⑦　小腸	バルーン内視鏡
		⑧　結腸、直腸、肛門	
		⑨　胆道、膵管	
		⑩　腹腔	
		⑪　泌尿器(腎杯、腎盂、尿管、膀胱、尿道)	
		⑫　女性性器	コルポスコピー、子宮鏡
		⑬　関節腔	
		⑭　血管	
	C　内視鏡検査の基本手技と合併症	①　適応と禁忌	検査前全身状態の評価
		②　前処置とその合併症	咽頭麻酔、局所麻酔、鎮痛薬、消化管運動抑制薬、腸管洗浄
		③　基本手技	挿入、観察、生検、擦過、散布
		④　合併症	穿孔、出血

IX　治療[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
1　食事・栄養療法　約10%	A　食事・栄養療法の基本	①　栄養アセスメント	
		②　栄養サポートチーム〈NST〉	
		③　食事摂取基準量	
		④　栄養療法	食事療法
		⑤　妊産婦の栄養マネジメント〈栄養管理〉	
		⑥　乳幼児の栄養マネジメント〈栄養管理〉	
		⑦　高齢者の栄養マネジメント〈栄養管理〉	
	B　栄養摂取の方法	①　経口栄養	
		②　経管・経腸栄養	
		③　経静脈栄養	末梢静脈栄養、中心静脈栄養
	C　適応	①　過栄養	
		②　栄養不良	
		③　ビタミン欠乏症	
		④　微量元素欠乏	
	D　合併症	①　機械的合併症	
		②　代謝性合併症	
2　薬物療法　約10%	A　薬物の選択	①　病態	
		②　薬物動態	
		③　患者要因	
	B　薬物動態	①　吸収、分布、代謝、排泄	
		②　一回投与、反復投与	
		③　治療薬物モニタリング〈TDM〉	
		④　ゲノム要因	
	C　薬効	①　薬物の相互作用(相乗、拮抗、酵素誘導、酵素阻害)	併用禁忌
		②　食物・嗜好品との相互作用	
		③　薬効の評価、プラセボ効果	
		④　適応と禁忌	
	D　用法・用量	①　投与経路と種類の特徴(経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻)	
		②　剤型	
		③　服薬計画	併用薬
		④　服薬指導	
		⑤　アドヒアランス	
		⑥　新生児、小児、妊婦、高齢者	ポリファーマシー
		⑦　肝・腎障害	
	E　有害事象	①　種類	
		②　機序	
		③　対策	
	F　疾患に応じた薬物治療	①　中枢神経作用薬	
		②　自律神経作用薬	

IX　治療[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
		③　循環器作用薬	
		④　呼吸器作用薬	
		⑤　消化器作用薬	
		⑥　利尿薬	
		⑦　グルココルチコイド及び非ステロイド性抗炎症薬〈NSAID〉	
		⑧　抗菌薬	感受性試験、抗菌スペクトル
		⑨　抗腫瘍薬	
		⑩　分子標的薬	
		⑪　免疫チェックポイント阻害薬	
		⑫　疾患修飾性抗リウマチ薬〈DMARD〉	
		⑬　免疫抑制薬	
		⑭　麻薬性鎮痛薬・鎮静薬	
3　輸液、輸血、血液浄化　約10%	A　輸液	①　適応と一般的注意	
		②　輸液の種類と用法	
	B　輸血	①　適応と一般的注意	
		②　適正使用	
		③　血液型、交差適合試験〈クロスマッチ〉	
		④　同種輸血と自己輸血	
		⑤　成分輸血(赤血球液、洗浄赤血球液、濃厚血小板、新鮮凍結血漿、血漿分画製剤)	アルブミン製剤、免疫グロブリン製剤、血液凝固因子製剤
		⑥　交換輸血	
		⑦　輸血副作用	アナフィラキシー
		⑧　輸血後GVHD	
		⑨　輸血関連急性肺障害	
		⑩　輸血による感染症	
	C　血液浄化	①　血液透析	
		②　腹膜透析	
		③　血漿交換	
		④　血液濾過	
		⑤　血液吸着	
4　手術、周術期の管理、麻酔　約10%	A　手術	①　手術適応	
		②　手術時期	
		③　消毒と滅菌	
		④　出血	
		⑤　止血	
		⑥　凝固・線溶異常	
		⑦　外科的侵襲に対する反応	
	B　基本的な手術手技	①　切開法	
		②　止血法	
		③　縫合法、結紮法	
		④　切除術	

IX　治療[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		⑤　摘出術	
		⑥　植皮術	
		⑦　ドレナージ	
		⑧　減圧法	
		⑨　整復・固定術	
		⑩　鏡視下手術	腹腔鏡、胸腔鏡、関節鏡
	C　術後合併症	①　手術部位感染症〈SSI〉	清潔操作
		②　呼吸器合併症	
		③　腎不全	
		④　肝機能障害	
		⑤　急性呼吸窮迫症候群〈ARDS〉	
		⑥　心不全	
		⑦　ショック	
		⑧　多臓器不全〈MOF〉	
		⑨　多臓器機能障害症候群〈MODS〉	
	D　術前麻酔管理	①　術前評価	術前合併症の評価と対処
		②　麻酔前投薬	
	E　全身麻酔	①　吸入麻酔	
		②　静脈麻酔	
		③　筋弛緩薬とその拮抗薬	
		④　覚醒	
	F　麻酔導入	①　気道確保	
		②　気管挿管	
		③　声門上器具	
		④　急速・緩徐導入	
	G　術中麻酔管理	①　麻酔の維持	
		②　輸液	
		③　輸血	
		④　酸塩基平衡	
		⑤　呼気終末二酸化炭素濃度〈$ETCO_2$〉	
		⑥　P/F〈PaO_2/FIO_2〉比	
		⑦　人工呼吸	
		⑧　悪性高熱症	
		⑨　体温	
		⑩　モニタリング	
		⑪　麻酔事故	
		⑫　麻酔合併症	
		⑬　年齢に応じた麻酔法	小児・高齢者麻酔
		⑭　産科麻酔	
		⑮　緊急手術	
		⑯　低体温療法	
	H　術後管理と集中治療	①　体位	
		②　術後鎮痛法	
		③　呼吸循環管理	

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		④　脳圧管理	
		⑤　輸液管理	
		⑥　栄養管理、血糖管理	静脈栄養・経腸栄養の選択
		⑦　ドレーン管理	
		⑧　感染予防	
		⑨　手術創の処置	創傷被覆・保護材
		⑩　離床	
	I　局所麻酔	①　脊髄くも膜下麻酔	
		②　硬膜外麻酔	
		③　伝達麻酔法	
		④　浸潤・表面麻酔	
		⑤　適応、禁忌	
		⑥　局所麻酔薬中毒	
	J　疼痛の管理	①　ペインクリニック	
		②　神経障害性疼痛	
		③　アロディニア	
		④　術後創部痛	
		⑤　神経ブロック	末梢神経、神経叢、星状神経節
5　臓器・組織・細胞移植、人工臓器、再生医療　約５％	A　移植の種類と適応	①　臓器・組織・細胞移植	
	B　提供者〈ドナー〉と被移植者〈レシピエント〉	①　自家・同種・異種移植	
		②　生体臓器提供、心停止下での臓器提供、脳死下での臓器提供	
		③　日本臓器移植ネットワーク、アイバンク、組織バンク、骨髄バンク	
		④　臓器提供、意思表示、同意の条件	意思表示カード
		⑤　倫理的・社会的・文化的配慮	
	C　移植と免疫		
	D　人工臓器の種類と適応	①　人工腎臓、血液浄化法	
		②　人工血管、人工弁(機械弁、生体弁、同種生体弁)	
		③　人工心肺、機械的補助循環(VAD、ECMO、PCPS、IABP)	
		④　ペースメーカ、植え込み型除細動器	
		⑤　人工関節・骨・腱・靱帯	
		⑥　眼内レンズ	
		⑦　人工聴覚器(人工内耳・中耳)	
6　放射線治療　約５％	A　生物学的原理	①　DNA損傷と修復	
		②　細胞死と細胞生存曲線	
		③　正常組織の放射線感受性	
		④　腫瘍の放射線感受性	
		⑤　放射線治療可能比〈正常組織耐容線量/腫瘍致死線量〉	

IX　治療[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	B　放射線効果の修飾	①　細胞周期	
		②　酸素効果	
		③　回復・再増殖・再酸素化・再分布〈4R〉	
		④　線エネルギー付与〈LET〉	
		⑤　線量率効果	
		⑥　化学療法の併用	
		⑦　温熱効果	
	C　空間的線量分布	①　深部線量百分率	
		②　線量分布図	
		③　治療計画	
		④　標的体積、リスク臓器	
	D　時間的線量配分	①　通常分割照射	
		②　多〈過〉分割照射	
		③　少〈寡〉分割照射	
	E　外照射	①　多門照射	
		②　定位放射線照射	
		③　強度変調放射線治療〈IMRT〉	
		④　画像誘導放射線治療〈IGRT〉	
		⑤　粒子線治療	
	F　小線源治療	①　密封小線源治療	腔内照射、組織内照射
	G　核医学治療	①　放射性同位元素〈RI〉内用療法〈内{部}照射療法〉	α線、β線
	H　放射線治療の適応	①　根治照射	
		②　予防照射	
		③　緩和照射	
	I　集学的治療	①　術前・術中・術後〈周術期〉照射	
		②　化学放射線療法	
	J　照射の合併症	①　急性放射線障害	
		②　晩発性放射線障害	
7　インターベンショナルラジオロジー〈IVR〉約５％	A　血管系治療	①　適応	
		②　動脈塞栓術〈TAE〉	出血、動脈瘤、腫瘍、血管奇形、子宮
		③　動脈化学塞栓療法〈TACE〉	肝細胞癌
		④　動注化学療法	
		⑤　経皮的血管形成術〈PTA〉、ステント留置{術}	
		⑥　ステントグラフト内挿術	胸部・腹部大動脈瘤
		⑦　血栓溶解療法、血栓回収術	
		⑧　カテーテルアブレーション	
		⑨　動脈瘤コイル塞栓術	脳動脈瘤
		⑩　硬化療法	静脈瘤
		⑪　中心静脈〈CV〉ポート留置術	
	B　非血管系治療	①　適応	

IX　治療[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		②　方法(エックス線透視下・超音波下・CT{ガイド}下治療)	
		③　経皮的ドレナージ	胆道、尿路、膿瘍
		④　砕石術、採石術	胆石、腎結石
		⑤　拡張術、ステント留置{術}	気道、食道、胆道、消化管
		⑥　経皮的胃瘻造設	
		⑦　神経ブロック	
		⑧　経皮的局所療法	ラジオ波焼灼術、凍結療法、硬化療法
		⑨　経皮的生検	CTガイド下生検
8　内視鏡治療　約５％	A　種類と適応	①　止血、凝固、結紮、クリッピング	
		②　硬化療法	
		③　切開、切除	
		④　拡張、ステント留置{術}	
		⑤　照射、レーザー	
		⑥　異物除去術	
		⑦　内視鏡下手術	内視鏡的粘膜下層剥離術〈ESD〉、腹腔鏡下手術
9　リハビリテーション　約10%	A　リハビリテーションの概念	①　理念	国際障害疾病分類〈ICF〉
		②　急性期リハビリテーション	
		③　回復期リハビリテーション	
		④　維持期リハビリテーション	
		⑤　地域リハビリテーション	
		⑥　小児リハビリテーション	
		⑦　がんリハビリテーション	
		⑧　リハビリテーション・チーム	
		⑨　自立生活支援	
		⑩　社会参加	
	B　リハビリテーションの技術	①　理学療法	筋力増強訓練、関節可動域訓練、基本動作訓練、歩行訓練、促通訓練
		②　作業療法	
		③　言語聴覚療法	失語症訓練、構音障害訓練、摂食・嚥下訓練
		④　日常生活動作〈ADL〉訓練	
		⑤　認知リハビリテーション	
		⑥　物理療法	
		⑦　リハビリテーション工学	
		⑧　職業リハビリテーション	
		⑨　福祉用具	義肢、装具、移動機器(杖、白杖、歩行器、車椅子、リフト)、自助具、コミュニケーションエイド
		⑩　住宅改修	
	C　身体障害のリハビリテーション	①　脳血管障害	
		②　頭部外傷	
		③　脊髄損傷	

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
		④　脳性麻痺	
		⑤　神経・筋疾患	
		⑥　骨・関節疾患	
		⑦　切断	
		⑧　視覚障害〈ロービジョン〉	ロービジョンケア
		⑨　音声・言語・咀しゃく機能障害	
		⑩　内部障害	心臓、呼吸器、腎臓、膀胱、直腸、小腸
		⑪　廃用症候群	
	D　精神・知的・発達障害のリハビリテーション	①　生活指導、療育	
		②　作業療法	
		③　レクリエーション療法	
		④　生活技能訓練[social skills training〈SST〉]	
		⑤　デイケア、ナイトケア、ナイトホスピタル	
		⑥　作業所、授産所	就労支援
		⑦　地域生活支援センター	グループホーム、福祉ホーム、福祉工場、援護寮
		⑧　患者会、患者クラブ	
10　二次・三次救急の治療　約15%	A　二次・三次救急に必要な処置	①　気道確保	気管挿管、輪状甲状靭帯穿刺・切開〈輪状甲状軟骨間膜穿刺・切開〉、気管切開
		②　呼吸療法	酸素投与法、人工呼吸療法
		③　胸骨圧迫	心肺蘇生法〈CPR〉
		④　電気ショック(同期、非同期)	AED、除細動、カルディオバージョン
		⑤　致死的不整脈の治療	緊急ペーシング
		⑥　輸液療法	蘇生的投与速度・量、静脈選択と確保
		⑦　輸血療法	緊急度、投与法、合併症
		⑧　機械的呼吸・循環補助	PCPS、ECMO
		⑨　外科的気道確保	
		⑩　脳室ドレナージ	
		⑪　心嚢穿刺・ドレナージ	心膜開窓術
		⑫　胸腔穿刺・ドレナージ	
		⑬　腹腔穿刺・ドレナージ	
		⑭　膀胱穿刺・ドレナージ	
		⑮　内視鏡的止血術	
		⑯　緊急血液浄化法	
		⑰　消化管内圧減圧治療	胃管、イレウス管
	B　ショックの治療	①　循環血液量減少性ショック	
		②　心原性ショック	
		③　血流分布異常性ショック	
		④　閉塞性ショック	

IX　治療[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	C　重症救急病態	①　急性呼吸不全、急性呼吸窮迫症候群<ARDS>	
		②　急性心不全	
		③　急性腎障害<AKI>	
		④　急性肝不全	
		⑤　播種性血管内凝固<DIC>	
		⑥　多臓器不全<MOF>	
		⑦　二次性脳障害	
	D　外傷の治療・処置	①　創傷の治療・処置	洗浄、デブリドマン、止血、縫合、創閉鎖、皮膚欠損の処置、破傷風とガス壊疽の予防
		②　捻挫・骨折・脱臼の治療・処置	整復、固定(非観血的、観血的)
		③　頭部外傷	
		④　顔面・頸部外傷	眼外傷、頸部刺創
		⑤　胸部外傷	
		⑥　腹部外傷	
		⑦　骨盤・四肢外傷	
		⑧　脊椎・脊髄外傷	
		⑨　泌尿器・生殖器外傷	
		⑩　挫滅<圧挫>症候群<crush syndrome>	
		⑪　区画<コンパートメント>症候群	筋膜切開
		⑫　多発外傷、爆傷	部位別治療優先順位の判断、ダメージコントロール
	E　急性中毒の治療・処置	①　胃洗浄、腸洗浄	
		②　強制利尿	
		③　血液浄化法	
		④　解毒・拮抗薬	
		⑤　特殊な治療法	
	F　熱傷の治療・処置	①　全身療法	輸液の公式、感染防止
		②　重症度判定	熱傷面積の評価、熱傷指数、予後指数
		③　局所療法	減張切開、デブリドマン、局所療法薬、早期焼痂切除、植皮
		④　気道熱傷の治療	
		⑤　合併症	急性腎障害、Curling潰瘍、敗血症、栄養障害
	G　環境異常の治療	①　熱中症	
		②　低体温{症}	
		③　凍傷	
		④　減圧症、酸素欠乏症、高山病	
		⑤　急性放射線障害	

IX　治療[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	H　異物・溺水・刺咬症の治療・処置	①　異物	
		②　窒息、溺水	
		③　刺咬症	
	I　産科的救急治療・処置	①　母体・新生児搬送	
		②　急速遂娩	帝王切開、鉗子・吸引分娩
		③　胎児機能不全[non-reassuring fetal status<NRFS>]	
		④　産科ショック	
	J　新生児の救急治療・処置	①　新生児蘇生法	
		②　新生児集中治療室	
	K　乳児の救急治療・処置		
11　緩和ケア　約10%	A　全人的苦痛の緩和	①　緩和ケアの概念	
		②　全人的苦痛<トータルペイン>の種類と原因	スピリチュアルペイン
		③　身体的苦痛	
		④　精神的苦痛	
		⑤　社会的苦痛	
		⑥　チームアプローチ	
		⑦　家族ケア	
		⑧　緩和ケアチーム	
		⑨　ホスピス、緩和ケア病棟<PCU>	
		⑩　癒し環境	
	B　身体的苦痛の緩和	①　疼痛の種類と原因	がん疼痛、非がん疼痛、慢性疼痛
		②　疼痛緩和の薬物療法	がん疼痛、非がん疼痛、WHO方式がん疼痛治療法
		③　がん悪液質の概念と病状把握	
		④　全身倦怠感・食思<欲>不振・呼吸困難の治療とケア	
		⑤　胸水・腹水・全身浮腫の治療とケア	
		⑥　緩和的外科治療	
		⑦　緩和的放射線治療	
		⑧　インターベンショナルラジオロジー<IVR>	
		⑨　苦痛緩和のための鎮静<セデーション>	
	C　オピオイド<医療用麻薬>	①　オピオイドの種類と効果	弱オピオイド、強オピオイド
		②　タイトレーション	
		③　レスキュードーズ	
		④　オピオイドローテーション	
		⑤　鎮痛補助薬	
		⑥　オピオイドの副作用と対策	

IX　治療[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	備　考
	D　ホスピス・緩和ケア	①　ホスピスケアの基準	
		②　生活の質[quality of life<QOL>]の改善・維持	quality of death<QOD>
		③　緩和ケア病棟<PCU>	
		④　緩和ケアチーム	デスカンファレンス
		⑤　在宅ホスピス・緩和ケア	
		⑥　レスパイトケア	
		⑦　悲嘆のケア<グリーフケア>	
		⑧　遺族ケア	
12　その他の治療法　約５％	A　酸素療法(急性期、慢性期)	①　合併症	CO_2ナルコーシス
		②　在宅酸素療法	ネーザルハイフロー
	B　人工換気	①　持続的気道陽圧法<CPAP>	
		②　圧支持換気<PSV>	
		③　持続的陽圧換気<CPPV>	呼気終末陽圧換気<PEEP>
		④　同期式間欠的強制換気<SIMV>	
		⑤　非侵襲的陽圧換気<NPPV>	
	C　呼吸理学療法	①　排痰法	
		②　呼吸訓練	
	D　物理療法	①　凍結療法	
		②　温熱療法	
		③　電気治療	
	E　光線療法	①　新生児黄疸に対する治療	
		②　PUVA療法	
	F　レーザー療法		
	G　体外衝撃波結石破砕術<ESWL>		
	H　高気圧酸素治療	①　合併症	
	I　電気けいれん療法		
	J　免疫療法	①　減感作療法	
		②　免疫グロブリン大量療法	
		③　抗体療法	生物学的製剤
	K　生殖医療	①　人工授精<AIH>	
		②　生殖補助技術<生殖補助医療><ART>	体外受精-胚移植<IVF-ET>、顕微授精<ICSI>
	L　精神療法	①　精神分析療法	
		②　自律訓練法	
		③　森田療法	
		④　行動療法	
		⑤　認知行動療法	
		⑥　心理教育<psychoeducation>	
		⑦　芸術療法	
		⑧　遊戯療法	
		⑨　家族療法	
		⑩　集団療法	

IX　治療[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	備　　考
		⑪　カウンセリング	
	M　リエゾン精神医学〈精神科コンサルテーション〉		

医　学　各　論

Ⅰ　先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	レベル分類	備　考
1　妊娠の異常	A　妊娠初期の異常	①　妊娠悪阻	a	
		②　異所性妊娠	a	
		③　流産、切迫流産	a	
		④　胞状奇胎	b	
		⑤　頸管無力症	b	頸管縫縮術
		⑥　不育症、習慣流産	b	
	B　妊娠中・後期の異常	①　妊娠高血圧症候群、子癇、HELLP症候群、加重型妊娠高血圧腎症	a	高血圧合併、可逆性後頭葉白質脳症<PRES>、可逆性脳血管攣縮症候群<RCVS>、周産期心筋症
		②　早産、切迫早産	a	
		③　常位胎盤早期剥離	a	
		④　前置胎盤、癒着胎盤	a	
		⑤　多胎妊娠	b	
		⑥　前期破水	b	
		⑦　血液型不適合妊娠	b	
		⑧　胎盤機能不全	b	
		⑨　ハイリスク妊娠	c	
		⑩　過期妊娠	c	
		⑪　羊水過多症、羊水過少症	c	羊水指数<AFI>、最大羊水深度<MVP>、羊水ポケット、Potter症候群
		⑫　絨毛膜羊膜炎	c	細菌性腟症
	C　合併症妊娠	①　耐糖能異常合併妊娠(妊娠糖尿病、糖尿病、妊娠中の明らかな糖尿病)	a	
		②　妊娠貧血、鉄欠乏性貧血	b	
		③　甲状腺機能異常合併妊娠(亢進症・低下症)	b	
		④　免疫性血小板減少症<ITP>	c	
		⑤　膠原病と類縁疾患	c	
	D　母子感染	①　HBV、HCV、HIV、HTLV-Ⅰ、パルボウイルスB19(伝染性紅斑)、B群連鎖球菌、TORCH症候群	b	
2　分娩・産褥の異常	A　前期破水	①　前期破水、早期破水	b	
	B　陣痛の異常	①　微弱陣痛、過強陣痛	b	
	C　産道の異常	①　児頭骨盤不均衡<CPD>、狭骨盤	b	
	D　胎位の異常	①　骨盤位、横位	b	
	E　回旋進入の異常	①　後方後頭位、低在横定位、高在縦定位	b	
		②　不正軸進入	c	
	F　胎盤の異常	①　癒着胎盤	b	
	G　臍帯の異常	①　臍帯下垂、臍帯脱出	c	
	H　その他の難産	①　遷延分娩、分娩停止、肩甲難産	b	

Ⅰ　先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	レベル分類	備　考
	Ⅰ　分娩時裂傷	①　子宮破裂、頸管・腟・会陰裂傷	b	帝王切開後分娩
	J　出血と産科ショック	①　弛緩出血、子宮内反症、羊水塞栓症、血栓塞栓症	a	産科DIC、ショック指数<shock index>
		②　播種性血管内凝固<DIC>	a	
	K　産褥の異常	①　産褥期精神障害	a	
		②　子宮復古不全、産褥熱	b	
		③　乳腺炎、乳汁分泌不全	b	
		④　産褥血栓症、肺塞栓症	b	
3　胎児・新生児の異常	A　胎児異常	①　胎児機能不全[non-reassuring fetal status<NRFS>]	a	ノンストレステスト<NST>、胎児心拍数陣痛図<CTG>、biophysical profile score<BPS>
		②　多胎、双胎間輸血症候群	b	一児胎児死亡
		③　胎児発育不全[fetal growth restriction<FGR>]	b	
		④　胎児貧血	b	胎児母体間輸血症候群、胎児中大脳動脈最大血流速度
		⑤　肺低形成	b	
		⑥　胎児新生児溶血性疾患<HDFN>、血液型不適合妊娠	c	
		⑦　形態異常	c	
		⑧　胎児水腫・胸水・腹水	c	
		⑨　子宮内胎児死亡	c	
	B　新生児仮死	①　新生児仮死	a	Apgarスコア、臍帯動脈血液ガス
	C　新生児の分類と異常	①　低出生体重児、早期産児	a	
		②　巨大児	b	
		③　過期産児	c	
	D　新生児の呼吸障害	①　呼吸窮迫症候群<RDS>	a	
		②　胎便吸引症候群<MAS>	b	
		③　一過性多呼吸	b	
		④　未熟児無呼吸発作	b	
		⑤　新生児慢性肺疾患	c	Wilson-Mikity症候群
	E　新生児黄疸	①　高ビリルビン血症	a	
		②　新生児溶血性疾患	b	
	F　新生児のけいれん	①　低血糖、低カルシウム血症	b	
	G　新生児の感染症	①　敗血症、髄膜炎	a	B群連鎖球菌
	H　その他の新生児疾患	①　ビタミンK欠乏症	a	メレナ
		②　頭蓋内出血	b	
		③　帽状腱膜下出血	b	
		④　頭血腫	b	
		⑤　未熟{児}網膜症	b	

Ⅰ　先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		⑥　低体温{症}	c	
		⑦　先天性甲状腺機能低下症	c	新生児クレチン症
		⑧　未熟児貧血	c	
		⑨　分娩外傷	c	
		⑩　壊死性腸炎	c	
		⑪　髄膜瘤	c	
4　性分化・染色体異常、先天異常および成長・発達の障害	A　染色体・遺伝子異常	①　Down症候群	a	
		②　Turner症候群	b	
		③　Klinefelter症候群	b	
		④　trisomy(13番、18番)	c	
	B　性分化・性器の異常	①　腟欠損症、Mayer-Rokitansky-Küster-Hauser〈MRKH〉症候群	b	
		②　性分化疾患	c	
	C　内分泌の異常	①　アンドロゲン不応症〈精巣性女性化症候群〉	b	
		②　先天性副腎皮質過形成	c	
	D　成長・発達の障害		a	

Ⅱ　精神・心身医学的疾患[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	レベル分類	備　考
1　症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動障害	A　認知症	①　Alzheimer型認知症	a	
		②　脳血管性認知症	a	
		③　Lewy小体型認知症	a	
		④　前頭側頭葉変性症	b	
	B　器質性精神障害	①　Parkinson病、進行性核上性麻痺、Wernicke脳症、多発性硬化症	a	
	C　症状性精神障害	①　肝性脳症、Wilson病、甲状腺機能障害、副腎皮質機能障害、全身性エリテマトーデス〈SLE〉	a	
	D　せん妄		a	
	E　物質関連障害および嗜癖性障害	①　アルコール依存症	a	
		②　精神病性障害(アルコール精神病、覚醒剤精神病、大麻精神病)	b	急性中毒、耐性、依存、離脱症状
		③　ギャンブル障害〈ギャンブル依存〉、ゲーム依存	c	
2　気分障害、統合失調症と類縁疾患	A　気分〈感情〉障害	①　うつ病	a	
		②　双極性障害〈躁うつ病〉	a	双極Ⅰ型障害、双極Ⅱ型障害
	B　統合失調症	①　妄想型統合失調症	a	
		②　破瓜型統合失調症	a	
		③　緊張型統合失調症	a	
	C　妄想性障害		b	
	D　急性一過性精神病性障害〈非定型精神病〉		b	
	E　統合失調感情障害		b	
3　不安症、ストレス関連症、身体的苦痛症または身体的体験症	A　不安障害〈不安症〉	①　パニック障害〈パニック症〉	a	
		②　全般性不安障害〈全般不安症〉	b	
		③　社交〈社会〉不安障害〈社交不安症〉〈社交恐怖〉	b	
		④　広場恐怖症	b	
	B　強迫性障害〈強迫症〉	①　強迫症、身体醜形症、抜毛症、心気症	b	
	C　ストレス関連症	①　心的外傷後ストレス障害〈心的外傷後ストレス症〉〈PTSD〉	a	
		②　適応障害〈適応反応症〉	a	
	D　解離性〈転換性〉障害〈解離症〉	①　解離性健忘、解離性同一性障害〈解離性同一症〉、離人感・現実感喪失症、転換〈変換〉症〈解離性神経学的症状症〉	b	
	E　身体的苦痛症または身体的体験症	①　身体的苦痛症〈身体症状症〉	b	

Ⅱ　精神・心身医学的疾患[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
4　生理的障害、身体的要因に関連した障害	A　摂食障害	①　神経性やせ症〈神経性無食欲症〉	a	
		②　神経性過食症〈大食症〉	a	
	B　睡眠-覚醒障害	①　不眠症	a	
		②　睡眠時無呼吸症候群	b	
		③　むずむず脚症候群	b	
		④　レム〈REM〉睡眠行動障害	b	
		⑤　過眠症	c	ナルコレプシー
		⑥　概日リズム障害	c	
		⑦　睡眠時遊行症	c	
		⑧　周期性四肢運動障害	c	
	C　性機能不全		c	
	D　心身症		a	
5　小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害	A　知的障害〈知的発達症〉〈精神遅滞〉		a	知的発達症、知的発達障害
	B　学力の特異的発達障害	①　限局性学習障害〈発達性学習症〉	b	
	C　広汎性発達障害	①　発達性協調運動症〈発達性協調運動障害〉	c	
		②　常動運動症〈常動運動障害〉	c	
	D　自閉スペクトラム症		a	
	E　注意欠如多動性障害〈注意欠如多動症〉〈ADHD〉		a	
	F　秩序破壊的または非社会的行動症群	①　素行障害〈素行・非社会的行動症〉〈行為障害〉、反抗挑発症	b	
	G　場面緘黙		c	
	H　チック症〈チック障害〉	①　Tourette障害〈Tourette症〉	c	
	I　コミュニケーション症〈コミュニケーション障害〉	①　小児期発症流暢症〈小児期発症流暢障害(吃音)〉	c	
	J　小児期のストレス関連症〈関連障害〉	①　反応性アタッチメント症〈反応性愛着障害〉	c	
		②　脱抑制性対人交流症〈脱抑制型対人交流障害〉	c	
6　成人のパーソナリティ・行動障害	A　パーソナリティ障害〈パーソナリティ症〉	①　境界性パーソナリティ障害〈ボーダーラインパターン〉	b	
	B　習慣および衝動の障害	①　放火症、窃盗症	c	
	C　性嗜好(パラフィリア)症	①　窃視症、露出症、窃触症、小児性愛、フェティシズム	c	

Ⅲ　皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
1　炎症性皮膚疾患	A　湿疹、皮膚炎	①　アトピー性皮膚炎	a	Kaposi水痘様発疹症
		②　接触皮膚炎	a	
		③　脂漏性皮膚炎	a	
		④　皮脂欠乏性湿疹	a	
		⑤　貨幣状湿疹	b	
		⑥　自家感作性皮膚炎	b	
		⑦　うっ滞性皮膚炎	b	
	B　蕁麻疹	①　血管性浮腫	a	Quinke浮腫
	C　痒疹、紅皮症	①　結節性痒疹	a	
		②　色素性痒疹	b	
	D　薬疹、中毒疹	①　Stevens-Johnson症候群	a	
		②　中毒性表皮壊死症〈toxic epidermal necrolysis〉	a	
		③　薬剤性過敏症症候群〈drug-induced hypersensitivity syndrome〉	a	
		④　固定薬疹	b	
	E　紅斑症	①　多形滲出性紅斑	a	
		②　結節性紅斑	a	
	F　好中球性皮膚症	①　Sweet病	c	
		②　壊疽性膿皮症	b	
	G　皮膚血流障害	①　血栓性静脈炎	a	
		②　凍瘡	a	
		③　網状皮斑	b	リベド
2　腫瘍・母斑性皮膚疾患	A　母斑	①　脂腺母斑、表皮母斑、色素性母斑、太田母斑	b	
	B　母斑症	①　神経線維腫症1型〈von Recklinghausen病〉	b	café au lait斑
		②　結節性硬化症	b	
	C　血管腫	①　Kasabach-Merritt症候群	b	
		②　毛細血管奇形〈単純性血管腫〉	c	くも状血管拡張〈血管腫〉
		③　乳児血管腫〈イチゴ状血管腫〉	c	
		④　静脈奇形〈海綿状血管腫〉	c	
	D　リンパ管腫		b	
	E　皮膚良性腫瘍	①　粉瘤	a	
		②　脂漏性角化症	b	Leser-Trélat徴候
		③　ケラトアカントーマ	b	
		④　ケロイド	b	
		⑤　皮膚線維腫	c	
		⑥　毛細血管拡張性肉芽腫	c	
		⑦　グロムス腫瘍	c	
		⑧　色素性蕁麻疹	c	
	F　皮膚悪性腫瘍	①　有棘細胞癌	a	
		②　基底細胞癌	a	

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		③　悪性黒色腫	a	
		④　日光角化症	b	
		⑤　乳房外Paget病	b	
		⑥　Bowen病	b	
		⑦　血管肉腫	b	
	G　皮膚悪性リンパ腫	①　菌状息肉症	a	
		②　Sézary症候群	b	
3　その他の皮膚疾患	A　遺伝性水疱症	①　Hailey-Hailey病	b	
		②　先天性表皮水疱症	c	
	B　後天性水疱症	①　天疱瘡	a	Nikolsky現象
		②　水疱性類天疱瘡	a	
		③　後天性表皮水疱症	c	
	C　遺伝性角化症	①　魚鱗癬	b	
		②　掌蹠角化症	b	
		③　Darier病	b	
		④　汗孔角化症	c	
	D　炎症性角化症	①　乾癬	a	Auspitz現象、Köbner現象
		②　扁平苔癬	a	
		③　Gibertばら色粃糠疹	b	
		④　類乾癬	c	
	E　膿疱症	①　膿疱性乾癬	b	
		②　掌蹠膿疱症	b	関節炎
	F　光線過敏症	①　慢性光線性皮膚炎	b	
	G　色素異常症	①　尋常性白斑	b	
	H　遺伝性皮膚疾患	①　色素性乾皮症	b	
		②　弾性線維性仮性黄色腫	b	
		③　Werner症候群	c	
	I　発汗異常症	①　多汗症、無汗症	a	
	J　細菌感染症	①　せつ、癰	a	
		②　蜂巣炎〈蜂窩織炎〉	a	
		③　ひょう疽	a	
		④　丹毒	a	
		⑤　伝染性膿痂疹	a	
		⑥　ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群	a	
		⑦　壊死性筋膜炎	a	劇症型Ａ群β溶連菌感染症、*Vibrio vulnificus*
		⑧　ガス壊疽	b	
	K　皮膚抗酸菌症	①　非結核性抗酸菌症	b	
		②　尋常性狼瘡	c	
		③　皮膚腺病	c	
		④　硬結性紅斑	c	結核疹
	L　皮膚真菌症	①　白癬、カンジダ症	a	Celsus禿瘡
		②　癜風	b	

Ⅲ　皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		③　スポロトリコーシス	b	
	M　動物性皮膚疾患	①　疥癬	a	
	N　ウイルス感染症	①　単純ヘルペス	a	
		②　カポジ水痘様発疹症	a	
		③　尋常性疣贅	a	
	O　痤瘡	①　尋常性痤瘡、酒皶様皮膚炎	a	
	P　脱毛症	①　円形脱毛症	a	抜毛症
	Q　肉芽腫症	①　環状肉芽腫	c	糖尿病
	R　ムチン沈着症	①　浮腫性硬化症	b	糖尿病
		②　脛骨前粘液水腫	c	
	S　アミロイド沈着症	①　アミロイド苔癬	b	
4　視機能異常、視神経疾患	A　視機能異常	①　弱視	a	
		②　屈折異常	a	
		③　調節異常	a	
		④　色覚異常	c	
	B　視神経疾患	①　うっ血乳頭	a	
		②　視神経炎・症	b	
		③　視神経萎縮	b	
	C　眼位・眼球運動障害	①　斜視、斜位	a	
		②　眼筋麻痺	b	
		③　動眼神経麻痺	b	
		④　外転神経麻痺	b	
		⑤　滑車神経麻痺	c	
5　眼窩・外眼部・前眼部・眼球の疾患	A　眼窩の異常	①　眼窩腫瘍	b	
		②　眼球突出	b	
	B　眼瞼の異常	①　兎眼{症}	a	
		②　麦粒腫	a	
		③　霰粒腫	a	
		④　眼瞼内反	b	
		⑤　眼瞼外反	b	
		⑥　眼瞼炎	b	
		⑦　眼瞼腫瘍	b	
	C　眼表面・涙器の異常	①　結膜炎	a	
		②　結膜下出血	a	
		③　涙道狭窄・閉塞	b	
		④　涙嚢炎	b	
		⑤　翼状片	b	
		⑥　春季カタル	b	
		⑦　角膜感染症	b	
		⑧　角膜炎	b	
		⑨　角膜潰瘍	b	
		⑩　強膜炎	b	
		⑪　涙液分泌障害	c	
		⑫　角膜の色素沈着	c	Kayser-Fleischer輪

Ⅲ　皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
	D　眼組織の異常	①　白内障	a	眼内レンズ挿入術
		②　緑内障	a	
		③　水晶体偏位・脱臼	c	
6　ぶどう膜・網膜・硝子体疾患	A　ぶどう膜炎	①　Behçet病	a	
		②　前部ぶどう膜炎〈虹彩炎、虹彩毛様体炎〉	b	
		③　後部ぶどう膜炎〈脈絡膜炎、網脈絡膜炎〉	b	
		④　Vogt-小柳-原田病	b	
		⑤　サルコイドーシス	b	
	B　汎ぶどう膜炎	①　眼内炎	b	
	C　網膜の異常	①　糖尿病網膜症	a	
		②　網膜剝離	a	
		③　網膜静脈閉塞症	b	
		④　網膜動脈閉塞症	b	
		⑤　網膜色素変性	b	
		⑥　加齢黄斑変性	b	
		⑦　未熟{児}網膜症	b	
		⑧　変性近視	b	
		⑨　中心性漿液性脈絡網膜症	c	
		⑩　黄斑円孔、網膜上膜〈網膜前膜〉	c	
	D　硝子体の異常	①　硝子体出血	b	
		②　硝子体混濁	c	
	E　眼内腫瘍	①　脈絡膜腫瘍	c	
		②　網膜芽細胞腫	c	
7　外耳・中耳疾患	A　外耳道の異常	①　外耳道異物	a	
		②　耳性帯状疱疹〈Ramsay Hunt症候群〉	a	
		③　急性化膿性限局性外耳炎〈耳せつ〉	b	
		④　耳垢栓塞	b	
		⑤　聴器癌、外耳道癌	c	
		⑥　悪性外耳道炎	c	
	B　鼓膜の異常	①　鼓膜炎	c	
	C　中耳の異常	①　急性中耳炎	a	
		②　滲出性中耳炎	a	鼓膜チューブ挿入術
		③　慢性穿孔性〈化膿性〉中耳炎	b	鼓室形成術
		④　耳管機能不全	b	
		⑤　好酸球性中耳炎	c	
		⑥　真珠腫性中耳炎	c	乳突洞削開術
		⑦　耳硬化症	c	
8　内耳・神経疾患	A　内耳の異常	①　騒音性難聴	a	
		②　薬剤性難聴	a	
		③　老人性難聴	a	
		④　突発性難聴	a	

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		⑤　内耳炎	b	
		⑥　音響外傷	b	
		⑦　乳幼児の難聴	b	人工内耳埋込み術
		⑧　ウイルス性難聴	b	
		⑨　遺伝性難聴	b	若年発症型両側性感音難聴
		⑩　外リンパ瘻	c	
		⑪　機能性難聴	c	
	B　前庭の異常	①　Ménière病	a	遅発性内リンパ水腫
		②　良性発作性頭位めまい症	a	
		③　前庭神経炎	a	
		④　薬剤性平衡障害	a	
		⑤　動揺病	a	
	C　その他の神経の異常	①　顔面神経麻痺	a	Bell麻痺
		②　三叉神経痛	a	微小血管減圧術
		③　Horner症候群	a	
		④　舌下神経麻痺	b	
		⑤　小脳橋角部腫瘍	b	聴神経腫瘍
		⑥　舌咽神経麻痺、舌咽神経痛	b	
		⑦　反回神経麻痺	b	
		⑧　顔面けいれん、眼瞼けいれん	b	微小血管減圧術
		⑨　軟口蓋麻痺	c	
		⑩　頸静脈孔症候群	c	
9　鼻腔・副鼻腔・喉頭疾患	A　鼻・副鼻腔の異常	①　鼻せつ	a	
		②　鼻炎	a	
		③　副鼻腔炎	a	好酸球性副鼻腔炎
		④　歯性上顎洞炎	a	
		⑤　副鼻腔真菌症	b	
		⑥　術後副鼻腔嚢胞	b	
		⑦　鼻・副鼻腔癌	b	
	B　喉頭の異常	①　感冒〈かぜ症候群〉	a	
		②　クループ症候群	a	
		③　急性喉頭蓋炎	a	
		④　急性喉頭炎	a	
		⑤　喉頭癌	a	
		⑥　急性声門下喉頭炎	b	仮性クループ
		⑦　声帯ポリープ、声帯結節	b	
		⑧　慢性喉頭炎	c	
		⑨　喉頭乳頭腫	c	
10　咽頭・口腔・唾液腺疾患	A　口腔の異常	①　口角炎、舌炎	a	
		②　アフタ性口内炎	a	
		③　急性ヘルペス性口内炎	a	
		④　ヘルパンギーナ	a	
		⑤　口腔カンジダ症	b	
		⑥　白斑〈板〉症	b	

Ⅲ　皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		⑦　口腔・口唇の癌、舌癌	b	
	B　顎骨の異常	①　顎関節症	a	
		②　顎骨腫瘍	c	
	C　咽頭の異常	①　咽頭炎	a	
		②　口蓋扁桃肥大症、咽頭扁桃〈アデノイド〉増殖症	a	
		③　急性扁桃炎	a	
		④　扁桃周囲炎・膿瘍	a	
		⑤　咽後膿瘍	b	
		⑥　慢性扁桃炎	b	
		⑦　悪性リンパ腫	b	
		⑧　上咽頭癌	b	
		⑨　中咽頭癌	b	
		⑩　下咽頭癌	b	
		⑪　若年性血管線維腫	c	
	D　唾液腺の異常	①　唾石症	a	
		②　唾液腺炎	b	
		③　唾液腺良性腫瘍	b	多形腺腫、Warthin腫瘍
		④　唾液腺癌	c	
	E　頸部の異常	①　頸部リンパ節炎	a	頸部リンパ節結核
		②　頸部膿瘍	a	深頸部膿瘍、深頸部感染症
		③　リンパ節転移	a	
		④　先天性頸嚢胞・瘻	c	正中頸嚢胞、側頸嚢胞、下咽頭梨状陥凹瘻
		⑤　リンパ管腫	b	
11　損傷、奇形	A　物理・化学的外傷	①　熱傷	a	
		②　凍傷・凍瘡	a	
		③　電撃傷	a	
		④　褥瘡	a	
		⑤　角・結膜化学損傷	a	角・結膜アルカリ・酸損傷
		⑥　光線性眼障害	b	紫外線、赤外線、電離放射線、レーザー光線、可視光線
	B　眼の外傷	①　異物	a	
		②　鈍的眼外傷	b	
		③　鋭的眼外傷	b	
	C　耳の損傷	①　鼓膜損傷	b	外傷性耳小骨離断
		②　耳介血腫	c	
	D　顔面の骨折	①　側頭骨骨折	b	
		②　鼻骨骨折	b	
		③　顔面骨折	b	Le Fort型骨折、下顎骨骨折、頬骨骨折、上顎骨骨折

Ⅲ　皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		④　前頭骨骨折	b	
		⑤　吹き抜け骨折	b	
		⑥　視神経損傷、視神経管骨折	b	
	E　喉頭損傷		b	
	F　皮膚・頭頸部の先天異常	①　耳介奇形	c	
		②　先天性耳瘻孔	c	
		③　外耳道閉鎖症	c	Treacher Collins症候群
		④　中耳奇形	c	耳小骨連鎖異常
		⑤　内耳奇形	c	
	G　唇・口蓋の先天異常	①　唇裂、口蓋裂	c	

Ⅳ　呼吸器・胸壁・縦隔疾患[約７％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
1　感染性呼吸器疾患	A　気道感染症	①　感冒〈かぜ症候群〉、上気道炎	a	
		②　気管支炎、細気管支炎	a	
	B　肺実質感染症	①　市中肺炎	a	細菌、非定型病原体
		②　院内肺炎	a	耐性菌、日和見感染症〈opportunistic infection〉
		③　医療・介護関連肺炎	a	嚥下性肺疾患
	C　肺真菌症	①　アスペルギルス症、クリプトコックス症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎	a	
	D　抗酸菌症	①　肺結核症	a	
		②　非結核性抗酸菌症	a	*M. avium* *M. intracellulare* *M. kansasii*
	E　ウイルス	①　インフルエンザ、サイトメガロウイルス肺炎	a	
	F　寄生虫症	①　吸虫症、線虫症	c	
	G　胸膜・縦隔の感染症	①　胸膜炎	a	細菌性、結核性
		②　膿胸	b	
		③　縦隔炎	c	降下性縦隔炎
2　気管・気管支・肺の形態・機能異常、外傷	A　気管・気管支の異常	①　気管支拡張症	a	Kartagener症候群
		②　びまん性汎細気管支炎	a	
		③　閉塞性細気管支炎	a	
		④　気道異物	a	
		⑤　気管・気管支の狭窄・閉塞	b	
	B　肺の異常	①　気腫性嚢胞〈ブラ、ブレブ〉	a	
		②　無気肺	b	
		③　肺分画症	c	
	C　気管支・肺の異常	①　慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉、喘息COPDオーバーラップ〈ACO〉	a	慢性気管支炎、肺気腫
	D　外傷	①　気管・気管支損傷	b	
		②　肺損傷	b	
3　免疫学的機序が考えられる肺疾患	A　アレルギー性疾患	①　気管支喘息、咳喘息	a	
		②　アトピー咳嗽	a	
		③　好酸球性肺炎	a	急性、慢性
		④　アレルギー性気管支肺真菌症	b	アレルギー性気管支肺アスペルギルス症
		⑤　過敏性肺炎	b	
	B　全身性疾患に伴う肺病変	①　サルコイドーシス	a	
		②　膠原病および類縁疾患に伴う肺病変	b	
		③　顕微鏡的多発血管炎	b	ANCA関連血管炎
		④　多発血管炎性肉芽腫症	b	
		⑤　好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	b	
		⑥　悪性リンパ腫、白血病	b	
		⑦　Langerhans細胞組織球症	c	

Ⅳ　呼吸器・胸壁・縦隔疾患[約７％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		⑧　アミロイドーシス	c	
4　実質性・間質性肺障害	A　特発性間質性肺炎<IIPs>	①　特発性肺線維症<IPF>	a	
		②　非特異性間質性肺炎<NSIP>	b	
		③　特発性器質化肺炎<COP>	b	
	B　IIPs以外の原因不明疾患	①　肺リンパ脈管筋腫症<LAM>	c	
	C　医原性肺疾患及び化学物質による肺障害	①　薬剤性肺障害	b	分子標的薬
		②　化学薬品、重金属などによる肺障害	b	
		③　放射線肺炎	b	
		④　酸素中毒	c	
		⑤　パラコート中毒	c	
	D　急性呼吸不全	①　急性呼吸窮迫症候群<ARDS>	a	
	E　じん肺症	①　珪肺<silicosis>	b	
		②　石綿肺<asbestosis>	b	
	F　先天異常・代謝異常に基づく疾患	①　肺胞微石症	c	
		②　肺胞蛋白症	c	
5　肺循環異常	A　肺水腫	①　心原性肺水腫	a	
	B　肺血栓塞栓症	①　急性肺血栓塞栓症	a	
		②　慢性肺血栓塞栓症	b	
	C　肺高血圧症	①　左心系疾患に伴う肺高血圧症	a	
		②　肺動脈性肺高血圧症	b	特発性、遺伝性、続発性
		③　肺疾患あるいは低酸素血症に続発する肺高血圧症	b	
	D　肺性心		a	
	E　肺動静脈瘻		b	
6　気管支・肺・胸膜・縦隔の腫瘍	A　肺悪性腫瘍	①　肺癌	a	腺癌、扁平上皮癌、小細胞癌、大細胞神経内分泌癌、カルチノイド、大細胞癌
		②　転移性肺腫瘍	a	
	B　他の気管支・肺腫瘍	①　良性肺腫瘍	a	過誤腫、硬化性肺胞上皮腫
		②　気管・気管支腫瘍	c	
	C　縦隔腫瘍	①　悪性リンパ腫	a	
		②　胸腺腫瘍	b	重症筋無力症
		③　神経原性腫瘍	b	
		④　嚢胞性腫瘍	b	
		⑤　胚細胞腫瘍	c	
	D　胸膜腫瘍	①　胸膜中皮腫	a	胸膜プラーク
	E　癌性胸膜炎		a	
	F　癌性リンパ管症		a	

Ⅳ　呼吸器・胸壁・縦隔疾患[約７％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
7　胸膜・縦隔・横隔膜・胸郭の形態・機能異常と外傷	A　胸膜	①　気胸、緊張性気胸	a	
		②　血胸	b	
		③　乳び胸	c	
	B　縦隔	①　縦隔気腫、皮下気腫	a	
		②　気管食道瘻、食道気管瘻	a	
		③　上大静脈症候群	a	
		④　反回神経麻痺	a	嗄声
	C　胸壁、横隔膜	①　肋骨骨折	a	flail chest
		②　胸郭変形	b	漏斗胸
		③　横隔膜ヘルニア	b	
		④　横隔神経麻痺	c	
		⑤　横隔膜弛緩症	c	
8　呼吸調節異常	A　異常呼吸	①　睡眠時無呼吸症候群	a	中枢性、閉塞性
		②　過換気症候群	a	
		③　肺胞低換気症候群	b	原発性、肥満

V　心臓・脈管疾患[約10%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	レベル分類	備　考
1　不整脈	A　上室{性}頻脈性不整脈	①　上室期外収縮	a	
		②　発作性上室頻拍	a	カテーテルアブレーション
		③　WPW症候群	a	
		④　心房粗動	a	
		⑤　心房細動	a	カテーテルアブレーション、Maze手術
	B　心室{性}頻脈性不整脈	①　心室期外収縮	a	
		②　心室頻拍	a	植え込み型除細動器
		③　心室細動	a	
	C　徐脈性不整脈	①　洞不全症候群	a	ペースメーカ
		②　房室ブロック	a	
	D　心臓{性}突然死をきたす症候群	①　QT延長症候群	b	torsades de pointes
		②　Brugada症候群	b	
		③　致死性不整脈	b	植え込み型除細動器
2　心不全	A　心不全	①　左心不全	a	左室駆出率の保たれた心不全(HFpEF)、左室駆出率の低下した心不全(HFrEF)
		②　右心不全	a	肺高血圧症
		③　急性心不全	a	慢性心不全の急性増悪
		④　慢性心不全	a	
	B　心原性ショック		a	
3　先天性心疾患	A　左右短絡疾患	①　心房中隔欠損症	a	経皮的心房中隔欠損閉鎖術
		②　心室中隔欠損症	a	
		③　動脈管開存症	b	経皮的動脈管閉鎖術
		④　房室中隔欠損症<心内膜床欠損症>	c	
	B　右左短絡疾患	①　Fallot四徴症	b	Blalock-Taussig短絡手術
		②　三尖弁閉鎖症	c	Fontan手術
		③　肺動脈閉鎖症	c	純型肺動脈閉鎖
	C　その他の複雑心奇形	①　Ebstein奇形	b	
		②　完全大血管転位症	b	Rastelli手術、Jatene手術
		③　大動脈縮窄症、大動脈離断症	b	
		④　総肺静脈還流異常症	b	
		⑤　修正大血管転位症	c	
		⑥　両大血管右室起始症	c	
		⑦　単心房、単心室	c	内臓心房錯位、無脾症、多脾症、Fontan手術
4　弁膜症	A　僧帽弁疾患	①　僧帽弁狭窄症	a	
		②　僧帽弁閉鎖不全症	a	僧帽弁逸脱症候群
	B　大動脈弁疾患	①　大動脈弁狭窄症	a	経カテーテル大動脈弁留置術<TAVI>

V　心臓・脈管疾患[約10%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		②　大動脈弁閉鎖不全症	a	
	C　その他	①　三尖弁閉鎖不全症	a	
		②　感染性心内膜炎	a	
		③　連合弁膜症	b	
		④　リウマチ性心炎	c	
5　虚血性心疾患	A　狭心症	①　労作性狭心症	a	冠動脈バイパス術、経皮的冠動脈インターベンション
		②　冠攣縮性狭心症	a	
	B　急性冠症候群	①　急性心筋梗塞(ST上昇型・非ST上昇型心筋梗塞)、不安定狭心症	a	心筋梗塞後合併症、経皮的冠動脈インターベンション、冠動脈バイパス術
		②　心臓{性}突然死	a	
	C　陳旧性心筋梗塞		a	心室瘤
	D　無痛性虚血性心疾患		a	
	E　川崎病		a	冠動脈瘤
6　心筋・心膜疾患、心臓腫瘍、外傷	A　心筋炎	①　ウイルス性心筋炎	a	
	B　特発性心筋症	①　肥大型心筋症	a	心臓{性}突然死
		②　拡張型心筋症	a	心臓移植
		③　拘束型心筋症	b	
	C　二次性心筋疾患	①　心アミロイドーシス	b	
		②　心サルコイドーシス	b	
		③　アルコール性心筋症	b	
		④　虚血性心筋症	b	
		⑤　筋ジストロフィー	c	
	D　心膜疾患	①　急性心膜炎	a	
		②　心嚢液貯留	a	
		③　収縮性心膜炎	b	
	E　心タンポナーデ		a	
	F　心臓腫瘍	①　粘液腫	c	
		②　転移性腫瘍	c	
	G　外傷	①　心臓外傷	c	
		②　血管損傷	c	
	H　その他	①　たこつぼ心筋症	b	
		②　心臓震盪	b	
7　血圧異常	A　本態性高血圧		a	
	B　二次性高血圧	①　腎実質性高血圧症	a	
		②　腎血管性高血圧症	a	
		③　内分泌性高血圧症	a	原発性アルドステロン症、Cushing症候群、褐色細胞腫、先端巨大症、甲状腺機能亢進症
		④　睡眠時無呼吸症候群	a	
	C　高血圧緊急症		a	

V　心臓・脈管疾患[約10%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
	D　起立性低血圧		a	Shy-Drager症候群
8　脈管疾患	A　大動脈疾患	①　胸部大動脈瘤	a	
		②　腹部大動脈瘤	a	
		③　胸腹部大動脈瘤	a	
		④　大動脈解離	a	DeBakey分類、Stanford分類
		⑤　高安動脈炎	b	
		⑥　Marfan症候群	b	大動脈弁輪拡張症、Bentall手術
	B　末梢動脈疾患	①　閉塞性動脈硬化症	a	
		②　Raynaud症候群	a	
		③　急性動脈閉塞症	a	
		④　Buerger病	b	
	C　静脈疾患	①　深部静脈血栓症 [deep vein thrombosis <DVT>]	a	肺血栓塞栓症、下大静脈フィルター留置術
	D　リンパ管疾患	①　リンパ浮腫	b	

Ⅵ　消化器・腹壁・腹膜疾患[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
1　食道疾患	A　機能異常	①　食道アカラシア	b	
	B　炎症、感染症	①　胃食道逆流症<GERD>、非びらん性胃食道逆流症<NERD>	a	
		②　逆流性食道炎	a	Barrett上皮、Barrett食道
	C　腫瘍	①　食道癌	a	
	D　血管病変	①　食道静脈瘤	a	胃静脈瘤（バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術<BRTO>）
	E　損傷、外傷	①　Mallory-Weiss症候群	a	
		②　食道穿孔・破裂	b	Boerhaave症候群
2　胃・十二指腸疾患	A　形態異常	①　上腸間膜動脈性十二指腸閉塞症<上腸間膜動脈症候群>	b	
	B　機能異常	①　機能性ディスペプシア<FD>	a	
		②　胃切除後症候群	a	ダンピング症候群
	C　炎症、感染症	①　急性胃炎、急性胃粘膜病変	a	
		②　慢性胃炎	a	萎縮性胃炎、自己免疫性胃炎(A型胃炎)
		③　消化性潰瘍(胃潰瘍、十二指腸潰瘍)	a	
		④　ヘリコバクター・ピロリ感染症	a	
		⑤　胃アニサキス症	a	
	D　腫瘍	①　胃ポリープ	a	胃底腺ポリープ、過形成性ポリープ
		②　胃癌	a	スキルス型胃癌
		③　胃腺腫	b	
		④　十二指腸腫瘍	b	十二指腸腺腫・癌、十二指腸乳頭部腫瘍
3　小腸・結腸疾患	A　機能異常	①　便秘症	a	
		②　過敏性腸症候群	a	
		③　吸収不良症候群	b	短腸症候群
	B　炎症、感染症	①　感染性腸炎	a	感染性胃腸炎、感染性大腸炎
		②　虫垂炎	a	McBurney圧痛点、Lanz圧痛点
		③　薬物性腸炎	a	偽膜性腸炎、出血性腸炎
		④　Crohn病	a	
		⑤　潰瘍性大腸炎	a	
		⑥　放射線性腸炎	c	
		⑦　腸結核	c	
	C　腫瘍	①　大腸ポリープ、大腸腺腫	a	
		②　結腸癌	a	
		③　小腸癌	c	
4　直腸・肛門疾患	A　形態異常	①　直腸脱	b	
	B　炎症、感染症	①　肛門周囲膿瘍、痔瘻	a	

Ⅵ　消化器・腹壁・腹膜疾患[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
	C　腫瘍	①　直腸癌	a	
		②　肛門癌、肛門管癌	b	
	D　血管病変	①　痔核	a	
	E　損傷、外傷	①　裂肛	b	
5　消化管共通疾患	A　炎症、感染症	①　抗血小板薬による粘膜障害	b	
		②　消化管アレルギー、好酸球性胃腸炎、好酸球性食道炎	b	
		③　消化管Behçet	c	
	B　腫瘍	①　悪性リンパ腫	b	粘膜関連リンパ組織〈MALT〉リンパ腫
		②　消化管粘膜下腫瘍〈SMT〉	b	Gastrointestinal stromal tumor〈GIST〉、平滑筋腫、脂肪腫、血管腫
		③　消化管ポリポーシス	b	家族性腺腫性ポリポーシス〈FAP〉、Turcot症候群、Peutz-Jeghers症候群、Gardner症候群
		④　消化管神経内分泌腫瘍	c	Neuroendocrine tumor〈NET〉
	C　代謝性疾患	①　消化管アミロイドーシス	c	
	D　形態異常	①　食道憩室、胃憩室、十二指腸憩室、Meckel憩室、大腸憩室	a	憩室炎、憩室出血
	E　血管性病変	①　虚血性腸炎	a	胃前庭部毛細血管拡張症〈GAVE〉
		②　毛細血管拡張症〈angioectasia〉	c	
6　肝疾患	A　形態異常	①　肝嚢胞	c	
	B　炎症、感染症	①　急性肝炎	a	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、D型肝炎、E型肝炎
		②　劇症肝炎	a	B型肝炎ウイルスの再活性化
		③　慢性肝炎	a	B型肝炎、C型肝炎
		④　肝硬変	a	特発性細菌性腹膜炎
		⑤　原発性胆汁性胆管炎〈原発性胆汁性肝硬変〉	a	肝内胆汁うっ滞
		⑥　薬物性肝障害	a	細胞障害型、胆汁うっ滞型
		⑦　自己免疫性肝炎	b	
		⑧　肝膿瘍	b	細菌性・アメーバ性肝膿瘍
		⑨　寄生虫性肝疾患	c	肝包虫症、日本住血吸虫症
	C　腫瘍	①　肝細胞癌	a	
		②　肝内胆管癌	a	
		③　転移性肝癌	a	
		④　肝血管腫	b	

Ⅵ　消化器・腹壁・腹膜疾患[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
	D　血管病変	①　門脈圧亢進症	a	特発性門脈圧亢進症、肝外門脈閉塞症
		②　Budd-Chiari症候群	b	
	E　代謝性疾患	①　ビリルビン代謝の異常	a	Gilbert症候群、Dubin-Johnson症候群、Rotor症候群
		②　脂肪肝	a	非アルコール性脂肪性肝疾患〈NAFLD〉、非アルコール性脂肪性肝炎〈NASH〉
		③　アルコール性肝障害	a	アルコール性肝炎
		④　ヘモクロマトーシス	c	
		⑤　Wilson病	c	
7　胆道疾患	A　形態異常	①　膵・胆管合流異常症	c	
	B　炎症、感染症	①　胆嚢炎	a	
		②　胆管炎	a	Charcot 3徴、Reynolds 5徴、急性閉塞性化膿性胆管炎
		③　原発性硬化性胆管炎	c	
	C　腫瘍	①　胆嚢ポリープ	a	
		②　胆嚢癌、胆管癌	a	
		③　胆嚢腺筋腫症	b	
	D　代謝性疾患	①　胆石症	a	
8　膵疾患	A　炎症、感染症	①　急性膵炎	a	重症急性膵炎、被包化壊死〈WON〉、仮性嚢胞
		②　慢性膵炎・膵石症	a	
		③　自己免疫性膵炎	b	
	B　腫瘍	①　膵癌	a	
		②　膵嚢胞性腫瘍	b	膵管内乳頭粘液性腫瘍〈IPMN〉、粘液性嚢胞腫瘍〈MCN〉
		③　膵神経内分泌腫瘍	b	インスリノーマ、グルカゴノーマ、ガストリノーマ〈Zollinger-Ellison症候群〉、WDHA症候群
9　横隔膜・腹膜・腹壁疾患	A　形態異常	①　食道裂孔ヘルニア	a	
		②　鼠径ヘルニア	a	
		③　大腿ヘルニア	a	
		④　閉鎖孔ヘルニア	b	
		⑤　腹壁瘢痕ヘルニア	b	
	B　炎症、感染症	①　細菌性腹膜炎	a	
		②　横隔膜下・Douglas窩膿瘍	c	
	C　腫瘍	①　癌性腹膜炎	a	
		②　腹膜中皮腫	c	
		③　腹膜偽粘液腫	c	
		④　後腹膜腫瘍	c	

Ⅵ　消化器・腹壁・腹膜疾患[約13%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
10　急性腹症	A　形態異常	①　単純性腸閉塞	a	
		②　腸管軸捻転症	a	
	B　機能異常	①　麻痺性イレウス	a	
	C　炎症、感染症	①　急性腹膜炎	a	
	D　血管病変	①　嵌頓ヘルニア	a	
		②　絞扼性腸閉塞	a	
		③　腸間膜動脈閉塞症、非閉塞性腸管虚血症〈NOMI〉	b	
		④　腸間膜静脈血栓症	c	
	E　損傷、外傷	①　消化管穿孔	a	
11　損傷、異物	A　外傷	①　腹部外傷	a	
	B　損傷	①　消化管損傷	a	
		②　肝損傷	a	
		③　胆道損傷	b	
		④　膵損傷	b	
		⑤　脾損傷	b	
		⑥　横隔膜損傷	c	
	C　異物	①　消化管異物	a	食道異物
12　その他の重要な小児領域の疾患	A　食道の異常	①　先天性食道閉鎖症	b	Gross分類
	B　胃・十二指腸の異常	①　肥厚性幽門狭窄症	b	Ramstedt手術
		②　先天性十二指腸閉鎖・狭窄症	c	ダブルバブルサイン
	C　小腸・結腸の異常	①　乳児下痢症	b	
		②　新生児壊死性腸炎	b	
		③　腸重積症	b	カニ爪陰影欠損、target sign
		④　先天性小腸狭窄・閉鎖症	c	
		⑤　胎便性腹膜炎	c	
		⑥　腸回転異常症	c	中腸軸捻転
		⑦　Hirschsprung病〈先天性巨大結腸症、腸管無神経節症〉	c	
	D　直腸・肛門の異常	①　鎖肛	c	
	E　肝の異常	①　新生児肝炎	b	
		②　体質性黄疸	b	Crigler-Najjar症候群
		③　肝芽腫	c	α-フェトプロテイン〈AFP〉
	F　胆道の異常	①　胆道閉鎖症	b	肝門部空腸吻合術
	G　横隔膜・腹壁疾患	①　鼠径ヘルニア	a	
		②　尿膜管遺残	b	
		③　横隔膜ヘルニア	b	Bochdalekヘルニア
		④　臍ヘルニア	b	
		⑤　精巣水瘤	b	
		⑥　臍帯ヘルニア	c	
		⑦　腹壁破裂	c	

Ⅶ　血液・造血器疾患[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
1　赤血球系疾患	A　鉄代謝障害	①　鉄欠乏性貧血	a	
		②　鉄過剰症	c	ヘモクロマトーシス、ヘモジデローシス
	B　巨赤芽球性貧血	①　ビタミンB_{12}欠乏性貧血	a	悪性貧血
		②　葉酸欠乏性貧血	c	
	C　溶血性貧血	①　自己免疫性溶血性貧血	b	
		②　冷式抗体による溶血性貧血	b	寒冷凝集素症、発作性寒冷血色素尿症
		③　赤血球破砕症候群	b	
	D　造血不全症	①　再生不良性貧血	a	Fanconi貧血
		②　骨髄異形成症候群〈MDS〉	a	後天性鉄芽球性貧血
		③　発作性夜間ヘモグロビン尿症	b	GPIアンカー蛋白
		④　赤芽球癆	c	Diamond-Blackfan症候群
	E　二次性貧血	①　慢性疾患に伴う貧血〈ACD〉	a	
		②　腎性貧血、内分泌異常による貧血	a	
	F　出血性貧血		a	
	G　二次性赤血球増加症		b	エリスロポエチン産生過剰
2　白血球系疾患とその他の骨髄性疾患	A　無顆粒球症	①　薬剤性無顆粒球症	a	発熱性好中球減少症
	B　骨髄系腫瘍	①　急性骨髄性白血病	a	二次性白血病〈治療関連白血病〉
		②　慢性骨髄性白血病	a	Philadelphia染色体、*BCR-ABL*融合遺伝子
		③　原発性骨髄線維症	b	
		④　本態性血小板血症	b	
		⑤　真性赤血球増加症	b	*JAK2*遺伝子変異
		⑥　慢性好酸球性白血病	c	好酸球増多症候群〈HES〉
	C　類白血病反応		b	
3　リンパ系疾患	A　急性リンパ性白血病		a	
	B　Hodgkinリンパ腫		a	Hodgkin細胞、Reed-Sternberg細胞
	C　成熟B細胞性腫瘍	①　慢性リンパ性白血病	b	
		②　濾胞性リンパ腫	b	
		③　びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	a	
		④　多発性骨髄腫	a	M蛋白、Bence Jones蛋白、続発性アミロイドーシス
		⑤　粘膜関連リンパ組織〈MALT〉リンパ腫	b	
		⑥　マクログロブリン血症	b	Waldenstrom、過粘稠度症候群〈hyperviscosity症候群〉

Ⅶ　血液・造血器疾患[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		⑦　意義不明の単クローン性免疫グロブリン血症[monoclonal gammopathy of undetermined significance<MGUS>]	b	
		⑧　Burkittリンパ腫	c	
		⑨　原発性アミロイドーシス	c	
	D　成熟T細胞・NK細胞腫瘍	①　成人T細胞白血病・リンパ腫	b	
		②　末梢T細胞性リンパ腫	c	
	F　血球貪食症候群<hemophagocytic syndrome>	①　血球貪食性リンパ組織球症[Hemophagocytic lymphohistiocytosis<HLH>]	c	マクロファージ活性化症候群<MAS>
	G　伝染性単核{球}症		a	Epstein-Barr<EB>ウイルス感染症
4　出血性疾患と血栓傾向	A　血小板の異常	①　免疫性血小板減少症<ITP>	a	ヘリコバクター・ピロリ感染症
		②　血栓性血小板減少性紫斑病<TTP>	a	ADAMTS-13
		③　溶血性尿毒症症候群<HUS>	a	Vero毒素
		④　ヘパリン起因性血小板減少症<HIT>	a	HIT抗体
		⑤　二次性血小板減少症	b	脾機能亢進症、薬剤性
		⑥　後天性血小板機能異常症	b	
	B　凝固因子の異常	①　血友病	a	第Ⅷ因子、第Ⅸ因子
		②　播種性血管内凝固<DIC>	a	
		③　von Willebrand病	b	
		④　自己免疫性後天性凝固因子欠乏症(後天性血友病、後天性von Willebrand病)	b	交差混合試験 抗第Ⅷ因子インヒビター
		⑤　ビタミンK欠乏症	b	
	C　血管の異常による出血傾向	①　IgA血管炎	b	
		②　遺伝性出血性末梢血管拡張症<Osler病>	c	
	D　血栓性疾患	①　先天性血栓形成傾向	b	プロテインC・プロテインS・アンチトロンビン欠乏症
		②　後天性血栓形成傾向	b	抗リン脂質抗体症候群、血栓性血小板減少性紫斑病<TTP>、溶血性尿毒症症候群<HUS>
5　その他の重要な小児領域の疾患	A　小児血液疾患	①　ビタミンK欠乏症	a	
		②　サラセミア	b	
		③　新生児出血性疾患	b	
		④　異常ヘモグロビン症	c	
		⑤　遺伝性球状赤血球症	c	
		⑥　赤血球酵素異常症	c	
		⑦　先天性血小板機能異常症	c	血小板無力症、Bernard-Soulier症候群

Ⅶ　血液・造血器疾患[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
	Ｂ　小児造血器腫瘍	①　白血病	a	
		②　悪性リンパ腫	b	

Ⅷ　腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
1　糸球体病変	A　糸球体腎炎	①　急性糸球体腎炎	a	
		②　急速進行性糸球体腎炎症候群	a	血管炎症候群
		③　慢性糸球体腎炎	a	IgA腎症、膜性腎症
	B　原発性ネフローゼ症候群	①　微小変化群	a	
		②　巣状分節性糸球体硬化症	a	
		③　膜性腎症	a	
		④　膜性増殖性糸球体腎炎	c	
	C　全身疾患に伴う腎疾患	①　糖尿病腎症	a	
		②　IgA血管炎	b	
		③　アミロイド腎症	c	
		④　二次性膜性腎症	c	
	D　膠原病に伴う腎病変	①　顕微鏡的多発血管炎	a	ANCA関連血管炎
		②　全身性エリテマトーデス〈SLE〉	b	ループス腎炎
		③　全身性強皮症	b	血栓性微小血管症
		④　関節リウマチ	c	
		⑤　多発血管炎性肉芽腫症	c	ANCA関連血管炎
	E　血尿・蛋白尿	①　血尿	a	
		②　蛋白尿	a	
	F　遺伝性腎炎	①　Alport症候群	c	
		②　基底膜菲薄化症候群〈良性家族性血尿〉	c	
		③　Fabry病	c	
2　血管・尿細管・間質病変	A　腎血管疾患	①　高血圧性腎硬化症	a	
		②　腎血管性高血圧症	b	
		③　悪性腎硬化症、悪性高血圧症	b	
		④　腎梗塞	b	
		⑤　コレステロール塞栓症	b	
		⑥　全身性強皮症	b	強皮症腎クリーゼ
		⑦　腎静脈血栓症	c	
		⑧　結節性多発動脈炎	c	
	B　尿細管間質疾患	①　急性尿細管壊死	a	
		②　急性間質性腎炎	a	薬剤性
		③　骨髄腫腎	b	
		④　慢性間質性腎炎	b	
		⑤　Sjögren症候群	b	
		⑥　IgG4関連疾患	b	
		⑦　中毒性腎障害	b	
		⑧　尿酸腎症〈痛風腎〉	c	
	C　尿細管機能異常	①　尿細管性アシドーシス	b	
		②　シスチン尿症	b	
		③　腎性尿崩症	c	
		④　Bartter症候群	c	
		⑤　Gitelman症候群	c	
		⑥　Liddle症候群	c	

Ⅷ　腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	レベル分類	備　考
3　腎機能の障害による異常	A　急性腎障害〈AKI〉	①　急性腎障害(腎前性・腎性・腎後性)	a	
		②　急性尿細管壊死	a	
		③　横紋筋融解症	a	
		④　溶血性尿毒症症候群〈HUS〉	a	
	B　慢性腎臓病〈CKD〉		a	
	C　慢性腎不全	①　腎性貧血	a	
		②　ミネラル骨代謝異常〈CKD-MBD〉	a	
	D　長期透析患者の合併症	①　透析アミロイドーシス	c	
	E　水・電解質の異常	①　脱水と浮腫	a	
		②　ナトリウム代謝異常	a	
		③　カリウム代謝異常	a	
		④　カルシウム代謝異常	a	
		⑤　リン代謝異常	b	
		⑥　マグネシウム代謝異常	b	
	F　酸塩基平衡の異常	①　アシドーシス	a	
		②　アルカローシス	a	
4　腎・尿路結石と尿路閉塞性疾患	A　結石症	①　腎結石、尿管結石	a	サンゴ状結石、エックス線陰性結石
		②　膀胱結石、尿道結石	a	
	B　尿路閉塞性疾患	①　上部尿路閉塞性疾患	a	水腎症
		②　下部尿路閉塞性疾患	a	
	C　その他の異常	①　神経因性膀胱	a	
		②　膀胱尿管逆流症	a	
5　腎・尿路・生殖器の炎症	A　腎・尿路の炎症	①　急性腎盂腎炎	a	
		②　膀胱炎	a	間質性膀胱炎
		③　尿道炎	a	
		④　腎膿瘍	b	
		⑤　慢性腎盂腎炎	c	
	B　男性生殖器の炎症	①　前立腺炎	a	
		②　精巣上体炎	a	
		③　精巣炎	b	
		④　亀頭包皮炎	b	
	C　女性生殖器の炎症	①　腟炎	a	細菌性腟症、外陰腟カンジダ症、トリコモナス腟炎
		②　骨盤内炎症性疾患〈PID〉	a	
		③　外陰炎	b	
		④　Bartholin腺嚢胞、Bartholin腺炎	b	Bartholin腺膿瘍
		⑤　子宮頸管炎	b	
		⑥　子宮内膜炎・筋層炎	b	
		⑦　子宮留膿症・腫	b	
		⑧　卵管留膿症・腫	b	

Ⅷ　腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
	D　性感染症<STD、STI>	①　淋菌性尿道炎	a	
		②　非淋菌性尿道炎	a	クラミジア性尿道炎
		③　性器ヘルペス	a	
		④　尖圭コンジローマ	b	
6　腎・尿路・男性生殖器の腫瘍	A　腎・上部尿路腫瘍	①　腎細胞癌	a	
		②　腎盂・尿管癌	a	
	B　下部尿路腫瘍	①　膀胱癌	a	上皮内癌
		②　尿膜管癌	c	
	C　男性生殖器腫瘍	①　前立腺肥大症	a	
		②　前立腺癌	a	
		③　精巣癌(セミノーマ)	a	
		④　精巣癌(非セミノーマ)	a	
		⑤　陰茎癌	b	
7　女性生殖器の類腫瘍・腫瘍	A　外陰の腫瘍	①　Bowen病	b	
		②　外陰癌	b	
		③　外陰Paget病	c	
	B　子宮頸部の類腫瘍・腫瘍	①　子宮頸部上皮内腫瘍<CIN>	a	
		②　子宮頸癌	a	
		③　子宮頸管ポリープ	b	
	C　子宮体部の類腫瘍・腫瘍	①　子宮内膜増殖症	a	
		②　子宮体癌<子宮内膜癌>	a	
		③　子宮筋腫	a	
		④　子宮内膜ポリープ	b	
		⑤　子宮内膜異型増殖症	b	
		⑥　子宮肉腫	b	
	D　卵巣腫瘍	①　機能性卵巣嚢胞	a	
		②　表層上皮性・間質性腫瘍	a	
		③　茎捻転	a	
		④　胚細胞腫瘍	b	
		⑤　卵巣・卵管・腹膜癌	b	
		⑥　二次性<転移性>腫瘍	b	
		⑦　性索間質性腫瘍	c	
	E　子宮内膜症、子宮腺筋症	①　子宮内膜症	a	子宮内膜症性嚢胞<卵巣チョコレート嚢胞>
		②　子宮腺筋症	b	
	F　絨毛性疾患	①　胞状奇胎	b	
		②　存続絨毛症	c	
		③　絨毛癌	c	
	G　その他の婦人科腫瘍	①　腟癌	c	
8　月経異常、不妊、不育	A　無月経	①　視床下部性無月経	a	神経性やせ症<神経性無食欲症>
		②　下垂体性無月経	b	
		③　卵巣性無月経	b	
		④　子宮性無月経	b	

Ⅷ　腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	レベル分類	備　考
	B　月経周期と量の異常	①　希発月経	a	
		②　過多月経	a	
		③　過少月経	a	
	C　月経困難症	①　機能性月経困難症	b	
		②　器質性月経困難症	b	
	D　その他の月経異常	①　月経前症候群	a	
		②　機能性子宮出血	a	
		③　無排卵	b	
		④　黄体機能不全	b	
		⑤　高プロラクチン血症、乳汁漏出症	b	
		⑥　多嚢胞性卵巣症候群〈PCOS〉	b	
	E　不妊、不育	①　女性不妊症	a	生殖補助技術〈生殖補助医療〉〈ART〉、卵巣過剰刺激症候群
		②　閉塞性無精子症(新規)	a	
		③　非閉塞性無精子症(新規)	a	
		④　男性不妊症	b	精液検査
		⑤　不育症	c	抗リン脂質抗体症候群
	F　避妊		a	経口避妊薬、緊急避妊
9　更年期・閉経後障害	A　更年期障害		a	ホルモン補充療法
	B　閉経後障害	①　骨粗鬆症	a	
		②　萎縮性腟炎	b	
		③　脂質異常症	b	
		④　動脈硬化	b	
		⑤　冠動脈疾患	b	
10　その他の尿路・生殖器異常	A　腎・尿路の形態異常	①　重複腎盂尿管	a	
		②　異所性尿管開口	a	
		③　膀胱瘤	a	
		④　単純性腎嚢胞	b	
		⑤　嚢胞腎	b	
		⑥　馬蹄腎	b	
		⑦　膀胱憩室	b	
	B　男性生殖器の形態異常	①　尿道下裂	a	
		②　包茎	a	
		③　停留精巣	a	
		④　精巣・精索水瘤	a	
		⑤　精索静脈瘤	a	
		⑥　精巣捻転症	a	
	C　女性生殖器の形態異常	①　子宮の奇形	b	
		②　腟脱、子宮脱	b	直腸瘤
	D　尿路・生殖器の機能異常	①　夜尿症〈夜間遺尿症〉	a	
		②　過活動膀胱	a	
		③　腹圧性尿失禁	a	
		④　勃起障害	b	
		⑤　持続勃起症	c	

Ⅷ　腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
	E　尿路・生殖器の損傷	①　腎・尿路損傷	a	
		②　陰茎折症	a	
		③　精巣損傷	a	
		④　膀胱腟瘻	b	
		⑤　直腸腟瘻、膀胱腸瘻	b	
		⑥　子宮腔癒着{症}〈Asherman症候群〉	b	
		⑦　尿路・性器異物	c	
		⑧　女性性器損傷	c	
		⑨　尿管腟瘻	c	
		⑩　月経瘻	c	

Ⅸ　神経・運動器疾患[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
1　脳血管障害	A　脳内出血	①　高血圧性脳出血	a	
		②　アミロイドアンギオパチー	b	
	B　くも膜下出血	①　脳動脈瘤、解離性脳動脈瘤	a	脳血管攣縮、正常圧水頭症
	C　脳梗塞	①　心原性脳塞栓症	a	無症候性脳梗塞、Wallenberg症候群、Weber症候群、tissue plasminogen activator〈t-PA〉
		②　アテローム血栓性脳梗塞	a	
		③　ラクナ梗塞	a	
		④　一過性脳虚血発作	a	
		⑤　脳動脈狭窄・閉塞	a	
	D　その他の血管性障害	①　脳動脈解離	a	
		②　脳動静脈奇形	b	
		③　静脈洞血栓症	b	
		④　もやもや病	b	
		⑤　硬膜動静脈瘻	c	内頸動脈海綿静脈洞瘻
	E　脳卒中後遺症	①　偽性球麻痺	a	脳卒中後の急性期・回復期・維持期リハビリテーション
		②　廃用性萎縮	a	
		③　脳血管性認知症	a	
2　脳腫瘍	A　脳実質内腫瘍	①　神経膠腫	a	
		②　悪性リンパ腫	b	
		③　胚細胞腫瘍	c	
		④　血管芽腫	c	
	B　脳実質外腫瘍	①　髄膜腫	b	
		②　下垂体腫瘍(下垂体腺腫)	b	
		③　神経鞘腫	b	
		④　頭蓋咽頭腫	c	
	C　転移性脳腫瘍	①　転移性脳腫瘍	a	
		②　髄膜癌腫症〈癌性髄膜炎〉	c	
	D　頭蓋骨腫瘍	①　頭蓋骨転移	c	
3　神経・運動器の感染性・炎症性疾患	A　ウイルス感染症	①　脳炎	a	単純ヘルペス脳炎
		②　髄膜炎	a	
		③　進行性多巣性白質脳症	c	
		④　AIDS認知症〈HIV脳症〉	c	
		⑤　HTLV-Ⅰ関連脊髄症〈HAM〉	c	
	B　プリオン病	①　Creutzfeldt-Jakob病	b	
	C　細菌・真菌感染症	①　細菌性髄膜炎	a	
		②　脳膿瘍	a	
		③　真菌性髄膜炎	b	
		④　結核性髄膜炎	b	
	D　急性脳炎、急性脳症	①　急性散在性脳脊髄炎	b	インフルエンザ脳症
		②　急性小脳性失調症	b	
	E　骨・関節感染症	①　化膿性脊椎炎	b	椎間板炎、椎体炎
		②　結核性骨関節炎	b	結核性脊椎炎〈脊椎カリエス〉、結核性関節炎
		③　化膿性骨髄炎	b	Brodie骨膿瘍
		④　化膿性関節炎	b	乳児化膿性股関節炎

Ⅸ　神経・運動器疾患[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
4　神経変性・代謝性・脱髄疾患、中毒	A　認知症	①　Alzheimer型認知症	a	
		②　脳血管性認知症	a	
		③　Lewy小体型認知症	a	
		④　前頭側頭葉変性症	b	
	B　Parkinson病と類縁疾患	①　Parkinson病	a	ジスキネジア
		②　Parkinson症候群	a	血管性、薬剤性
		③　進行性核上性麻痺	b	
		④　大脳皮質基底核変性症	b	
		⑤　本態性振戦	b	
	C　Huntington病と類縁疾患	①　Huntington病	b	
		②　ジストニア	b	
		③　痙性斜頸	b	
		④　書痙	b	
	D　代謝性疾患	①　ビタミンB_{12}欠乏症	a	亜急性連合性脊髄変性症
		②　Wernicke脳症	b	
		③　ミトコンドリア病	b	MELAS、MERRF、Kearns-Sayre症候群、Leigh脳症
	E　白質変性症	①　副腎白質ジストロフィー	c	
	F　脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、痙性対麻痺	①　脊髄小脳変性症	b	
		②　多系統萎縮症	b	
		③　遺伝性痙性対麻痺	c	
	G　運動ニューロン疾患	①　筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉	a	
		②　球脊髄性筋萎縮症	b	
	H　脱髄疾患	①　多発性硬化症	b	
		②　視神経脊髄炎	b	
	I　中毒性疾患	①　一酸化炭素中毒〈CO中毒〉	a	
		②　低酸素脳症	a	
		③　悪性症候群	a	
5　末梢神経・神経筋接合部・筋疾患	A　末梢神経の炎症性・遺伝性・代謝性疾患	①　多発ニューロパチー	a	
		②　Guillain-Barré症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー	b	
		③　腫瘍随伴性多発ニューロパチー	b	
		④　単ニューロパチー	b	
		⑤　多発単ニューロパチー	b	
		⑥　遺伝性運動感覚性ニューロパチー	c	Charcot-Marie-Tooth病
		⑦　アミロイドニューロパチー	c	
	B　末梢神経の絞扼性疾患	①　手根管症候群	a	Tinel徴候
		②　肘部管症候群	a	
	C　神経痛	①　三叉神経痛	a	
		②　帯状疱疹後神経痛	a	
		③　Tolosa-Hunt症候群	c	

Ⅸ　神経・運動器疾患[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	レベル分類	備　考
	D　神経筋接合部・筋疾患	①　重症筋無力症	a	
		②　皮膚筋炎、多発性筋炎	a	
		③　Lambert-Eaton筋無力症候群	b	
		④　筋ジストロフィー	b	Duchenne型、Becker型、肢帯型、顔面肩甲上腕型
		⑤　筋強直性ジストロフィー	b	
		⑥　内分泌・代謝性ミオパチー	b	
		⑦　周期性四肢麻痺	b	
6　発作性・機能性・自律神経系疾患	A　全般てんかん〈全般起始発作〉	①　強直間代発作〈全般運動発作〉	a	
		②　欠神発作〈全般非運動発作〉	a	
	B　局在関連てんかん〈焦点起始発作〉	①　単純部分発作〈焦点意識保持発作〉	a	側頭葉てんかん、前頭葉てんかん
		②　複雑部分発作〈焦点意識減損発作〉	a	
	C　一次性頭痛	①　片頭痛	a	
		②　緊張型頭痛	a	
		③　群発頭痛	a	
	D　その他	①　てんかん重積状態	a	
7　脊椎・脊髄疾患、骨・関節系統疾患	A　脊椎・脊髄疾患	①　椎間板ヘルニア	a	
		②　変形性脊椎症	a	
		③　脊髄症、神経根症	a	
		④　脊柱管狭窄症	a	
		⑤　腰痛症	a	急性腰痛症
		⑥　斜頸	b	筋性斜頸
		⑦　側弯症	b	
		⑧　後弯症〈円背・亀背〉	b	
		⑨　脊柱靱帯骨化症	b	後縦靱帯骨化症、黄色靱帯骨化症
		⑩　脊椎分離症	b	
		⑪　脊椎すべり症	b	
		⑫　強直性脊椎炎	b	
		⑬　脊椎腫瘍・脊髄腫瘍	b	
		⑭　脊髄血管障害	c	
		⑮　横断性脊髄炎	c	
	B　骨系統疾患	①　軟骨無形成症	c	
		②　骨形成不全症	c	
	C　代謝性骨疾患	①　骨粗鬆症	a	
		②　くる病、骨軟化症	b	
		③　骨Paget病	b	
8　上肢・下肢の運動器疾患、非感染性骨・関節・四肢軟部疾患	A　肩関節の疾患	①　肩関節周囲炎	a	
		②　腱板断裂	a	
		③　反復性脱臼	b	
		④　胸郭出口症候群	c	
	B　肘関節の疾患	①　肘内障	a	
		②　上腕骨外側上顆炎	b	テニス肘

Ⅸ　神経・運動器疾患[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
	C　手の疾患	①　Dupuytren拘縮	b	
		②　強剛母指	c	
	D　股関節の疾患	①　変形性股関節症	a	Trendelenburg徴候
		②　発育性股関節形成不全<先天性股関節脱臼>	b	
		③　大腿骨頭すべり症	b	
		④　特発性大腿骨頭壊死症	b	
		⑤　Perthes病	c	
	E　膝関節の疾患	①　変形性膝関節症	a	
		②　Osgood-Schlatter病	b	
		③　半月板障害	b	
		④　膝蓋軟骨軟化症	c	
	F　下腿・足の疾患	①　外反母趾	a	
		②　内反足	b	
		③　変形性足関節症	c	
	G　骨壊死	①　Kienböck病、特発性膝骨壊死	c	
	H　滑膜炎、関節炎	①　関節リウマチ	a	
		②　痛風、偽痛風	a	
		③　滑液包炎、腱鞘炎	a	de Quervain病、ばね指
	I　関節症	①　変形性関節症	a	Heberden結節
		②　神経病性関節症	c	Charcot関節
		③　血友病性関節症	c	
	J　四肢軟部病変	①　ガングリオン	a	
		②　異所性骨化	b	
		③　腱付着部炎	c	
9　骨・軟部腫瘍と類似疾患	A　原発性良性骨腫瘍	①　骨軟骨腫	b	多発性軟骨性外骨腫
		②　内軟骨腫	b	
		③　類骨骨腫	c	
		④　骨巨細胞腫	c	
	B　原発性悪性骨腫瘍	①　骨肉腫	b	
		②　軟骨肉腫	b	
		③　Ewing肉腫	b	
		④　脊索腫	c	
	C　転移性骨腫瘍		a	
	D　骨腫瘍類似疾患	①　単発性骨嚢腫	c	
		②　動脈瘤様骨嚢腫	c	
		③　線維性骨異形成	c	
	E　良性軟部腫瘍	①　脂肪腫	b	
		②　血管腫	b	
		③　神経鞘腫	b	
		④　グロムス腫瘍	c	
		⑤　類腱腫	c	
	F　悪性軟部腫瘍	①　脂肪肉腫	c	
		②　滑膜肉腫	c	
		③　悪性末梢神経鞘腫	c	

Ⅸ　神経・運動器疾患[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		④　平滑筋肉腫	c	
10　神経・運動器の外傷、脳・脊髄の形成異常、神経皮膚症候群、その他	A　頭部外傷	①　脳挫傷	a	外傷性てんかん、高次脳機能障害
		②　脳振盪	a	
		③　びまん性軸索損傷	a	
		④　急性硬膜外血腫	a	
		⑤　急性硬膜下血腫、慢性硬膜下血腫	a	
		⑥　外傷性脳内血腫	a	
		⑦　頭蓋骨骨折	a	
		⑧　髄液漏・脳脊髄液減少症	c	
	B　脊髄損傷	①　頸髄・胸髄・腰髄損傷	a	脊椎脱臼骨折
	C　骨折	①　脊椎骨折	a	脊椎圧迫骨折
		②　骨盤骨折	a	
		③　四肢骨折	a	大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折
		④　開放骨折	a	golden period
	D　関節の外傷	①　捻挫〈靭帯損傷〉	a	
		②　関節内骨折	a	
		③　脱臼、亜脱臼	a	
	E　四肢軟部損傷	①　末梢神経損傷	a	腕神経叢損傷、分娩麻痺
		②　四肢血管損傷	a	
		③　筋断裂、腱断裂	a	
		④　区画〈コンパートメント〉症候群	a	Volkmann拘縮
		⑤　挫滅〈圧挫〉症候群〈crush syndrome〉	a	
	F　四肢切断	①　外傷性切断、関節離断	c	
	G　スポーツ外傷	①　肩関節脱臼	a	
		②　突き指	a	槌指〈mallet finger〉
		③　肉離れ	a	
		④　足関節捻挫	a	
		⑤　離断性骨軟骨炎	b	
		⑥　膝靭帯損傷	b	
		⑦　半月板損傷	b	
		⑧　アキレス腱断裂	b	
	H　外傷の合併症	①　塞栓症	a	脂肪塞栓症、静脈血栓塞栓症
		②　偽関節	b	
		③　関節拘縮	b	
		④　骨壊死	b	
		⑤　複合性局所疼痛症候群〈CRPS〉	b	
		⑥　変形治癒骨折	c	
	I　水頭症	①　閉塞性水頭症	b	
		②　特発性正常圧水頭症	b	
		③　交通性水頭症	c	
	J　先天奇形	①　頭蓋縫合早期癒合症	c	Crouzon病

IX　神経・運動器疾患[約９％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		②　二分頭蓋、脳瘤	c	
		③　二分脊椎、髄膜瘤	c	
		④　Chiari奇形	c	
		⑤　脊髄空洞症	c	
	K　神経皮膚症候群、母斑症	①　神経線維腫症	c	神経線維腫症1型〈von Recklinghausen病〉
		②　結節性硬化症	c	
		③　Sturge-Weber症候群	c	
		④　von Hippel-Lindau病	c	
11　その他の重要な小児領域の疾患	A　神経変性疾患	①　脊髄性筋萎縮症	b	Werdnig-Hoffmann病
	B　先天性筋疾患	①　先天性筋ジストロフィー	b	福山型
		②　先天性筋強直性ジストロフィー	b	
	C　けいれん性疾患、てんかん	①　熱性けいれん	a	
		②　欠神発作〈全般非運動発作〉	a	
		③　West症候群〈点頭てんかん〉	b	
		④　中心・側頭部に棘波をもつ良性小児てんかん	b	
		⑤　憤怒けいれん〈泣き入りひきつけ〉	c	
		⑥　Lennox-Gastaut症候群	c	
	D　脳・脊髄の形成異常	①　小頭症	c	
	E　その他	①　脳性麻痺	b	
		②　亜急性硬化性全脳炎〈SSPE〉	b	

X　内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患[約８％]

大　項　目	中　項　目	小　項　目	レベル分類	備　考
1　間脳・下垂体疾患	A　視床下部機能障害	①　中枢性摂食異常症	b	神経性食思<欲>不振症<拒食症>
		②　中枢性性早熟症	c	
		③　低ゴナドトロピン性性腺機能低下症	c	Kallmann症候群、Prader-Willi症候群
		④　視床下部腫瘍	c	頭蓋咽頭腫、胚{細胞}腫
	B　下垂体機能障害	①　先端巨大症	a	
		②　ADH不適合分泌症候群<SIADH>	a	
		③　下垂体腫瘍	a	下垂体腺腫、ラトケ嚢胞
		④　Cushing病	b	Nelson症候群
		⑤　高プロラクチン血症	b	プロラクチノーマ
		⑥　下垂体前葉機能低下症	b	Sheehan症候群
		⑦　中枢性尿崩症	b	
		⑧　視床下部下垂体炎	c	自己免疫性視床下部下垂体炎<リンパ球性下垂体炎>、IgG4関連疾患
2　甲状腺疾患	A　甲状腺機能障害	①　甲状腺機能亢進症	a	Basedow病<Graves病>、Plummer病
		②　甲状腺機能低下症	a	
	B　甲状腺の炎症	①　慢性甲状腺炎<橋本病>	a	
		②　亜急性甲状腺炎	a	
		③　無痛性甲状腺炎	b	
	C　甲状腺の腫瘍	①　単純性甲状腺腫	a	
		②　腺腫様甲状腺腫	b	
		③　甲状腺良性腫瘍	b	
		④　甲状腺悪性腫瘍	b	
3　副甲状腺<上皮小体>疾患とカルシウム・リン代謝異常	A　副甲状腺<上皮小体>機能障害	①　副甲状腺<上皮小体>機能亢進症	b	
		②　副甲状腺<上皮小体>機能低下症	b	
	B　カルシウム・リン代謝異常	①　骨粗鬆症	a	骨密度測定<DXA>
		②　くる病、骨軟化症	b	
		③　悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症	b	
		④　腫瘍性低リン血症性骨軟化症	c	
4　副腎皮質・髄質疾患	A　副腎皮質機能障害	①　Cushing症候群	a	副腎腺腫、副腎過形成(ACTH非依存性大結節性副腎皮質過形成<AIMAH>)
		②　アルドステロン過剰症、原発性アルドステロン症	a	副腎静脈サンプリング
		③　慢性副腎不全<Addison病>	a	Schmidt症候群
		④　急性副腎不全	a	
		⑤　医原性副腎皮質機能低下症	a	
		⑥　副腎偶発腫	b	

X　内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患[約８％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		⑦　副腎{皮質}癌	b	
	B　副腎髄質機能障害	①　褐色細胞腫	a	
		②　神経芽腫	c	
5　その他の内分泌疾患	A　性腺機能障害	①　原発性性腺機能低下症	c	Klinefelter症候群、Turner症候群
		②　多嚢胞性卵巣症候群〈PCOS〉	b	
	B　内分泌腫瘍	①　多発性内分泌腫瘍症	b	MENⅠ型・Ⅱ型
		②　膵神経内分泌腫瘍	b	
		③　消化管ホルモン産生腫瘍(消化管神経内分泌腫瘍)	c	
		④　異所性ホルモン産生腫瘍	c	
	C　その他の機能障害	①　ホルモン受容体異常症	c	
6　糖{質}代謝異常	A　糖尿病	①　1型糖尿病	a	劇症型、緩徐進行型
		②　2型糖尿病	a	
		③　二次性糖尿病、遺伝子異常による糖尿病	b	ステロイド糖尿病
		④　妊娠糖尿病	b	
	B　糖尿病の高血糖緊急症(急性合併症)	①　糖尿病ケトアシドーシス〈DKA〉	a	
		②　高血糖高浸透圧症候群	a	
		③　乳酸アシドーシス	a	
	C　糖尿病の慢性合併症	①　糖尿病腎症	a	
		②　糖尿病神経障害	a	
		③　糖尿病網膜症	b	
		④　糖尿病足病変	b	
		⑤　大血管障害	b	
	D　低血糖症	①　インスリノーマ	b	
		②　薬剤による低血糖	b	
		③　内分泌異常による低血糖	b	
		④　反応性低血糖	b	
		⑤　インスリン自己免疫症候群	c	
		⑥　膵外腫瘍	c	
	E　糖代謝異常	①　乳糖分解酵素障害症〈乳糖不耐症〉	c	
7　脂質代謝異常	A　脂質異常症	①　原発性高脂血症	a	家族性高コレステロール血症〈FH〉
		②　二次性高脂血症	b	
	B　肥満症	①　単純性肥満	a	
		②　メタボリックシンドローム	a	
		③　症候性肥満	b	
8　蛋白・アミノ酸代謝異常	A　血清蛋白の異常	①　低蛋白血症	b	
	B　アミロイドーシス	①　全身性アミロイドーシス	b	原発性、続発性

X　内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患[約８％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
9　その他の代謝異常	A　ビタミン類の代謝異常	①　ビタミン欠乏症	a	ビタミンB_1欠乏症(Wernicke脳症)、ナイアシン〈ニコチン酸〉欠乏（ペラグラ）
		②　ビタミン過剰症	c	
	B　プリン(尿酸)代謝の異常	①　痛風	a	
		②　高尿酸血症	a	Lesch-Nyhan症候群
	C　ポルフィリン代謝の異常	①　ポルフィリン症	c	
	D　ビリルビン代謝の異常	①　体質性黄疸	b	
	E　金属代謝の異常	①　Wilson病	b	Kayser-Fleischer輪
		②　ヘモクロマトーシス	c	
		③　亜鉛欠乏症候群〈腸性肢端皮膚炎〉	c	
	F　コラーゲン代謝の異常	①　Marfan症候群	b	
		②　Ehlers-Danlos症候群	c	
	G　エラスチン代謝の異常	①　弾性線維性偽性黄色腫	c	
10　その他の重要な小児領域の疾患	A　間脳、下垂体、甲状腺、副腎その他の疾患	①　成長ホルモン分泌不全性低身長	b	
		②　先天性甲状腺機能低下症	b	クレチン症
		③　先天性副腎皮質過形成	b	
		④　性早熟症〈思春期早発症〉	b	McCune-Albright症候群
	B　糖{質}代謝異常	①　アセトン血性嘔吐症〈周期性嘔吐症〉	a	
		②　新生児低血糖症	b	
	C　先天代謝異常	①　糖原病	c	von Gierke病、Pompe病
		②　ガラクトース血症	c	
		③　リピドーシス	c	Tay-Sachs病、Gaucher病、Niemann-Pick病、Fabry病
		④　ムコ多糖症	c	Hurler症候群、Hunter症候群
		⑤　先天性アミノ酸代謝異常症	c	フェニルケトン尿症〈高フェニルアラニン血症〉、ホモシスチン尿症、メープルシロップ尿症
		⑥　尿素サイクル異常症	c	オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症
		⑦　有機酸代謝異常症	c	
11　乳腺・乳房疾患	A　炎症、感染症	①　乳腺炎	b	
	B　腫瘍	①　乳癌	a	乳管癌、小葉癌、乳房Paget病
		②　乳管内乳頭腫	c	
		③　乳腺線維腺腫	c	

X　内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患[約８％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		④　遺伝性乳癌卵巣癌症候群	c	
	C　その他の疾患	①　乳腺症	b	

XI　アレルギー性疾患、膠原病、免疫病[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
1　アレルギー性疾患	A　全身性	①　アナフィラキシー	a	
		②　薬物アレルギー	a	
		③　食物アレルギー	a	食物依存性運動誘発アナフィラキシー
		④　職業性アレルギー	b	
		⑤　血清病	c	
		⑥　昆虫・ダニアレルギー	c	
	B　皮膚、粘膜	①　アレルギー性結膜炎	a	
		②　鼻アレルギー〈アレルギー性鼻炎〉	a	
		③　花粉症	a	口腔アレルギー症候群
		④　蕁麻疹	a	
		⑤　アトピー性皮膚炎	a	
		⑥　アレルギー性接触皮膚炎	a	
		⑦　血管性浮腫	a	好酸球性血管性浮腫
	C　呼吸器	①　気管支喘息	a	NSAID過敏喘息
		②　アレルギー性気管支肺真菌症	b	アレルギー性気管支肺アスペルギルス症
		③　過敏性肺炎	b	
2　膠原病と類縁疾患	A　関節リウマチとその類縁疾患	①　関節リウマチ	a	
		②　悪性関節リウマチ	b	リウマトイド血管炎
		③　成人Still病	b	
	B　脊椎関節炎とその類縁疾患	①　体軸性脊椎関節炎、強直性脊椎炎	b	
		②　末梢性脊椎関節炎	b	乾癬性関節炎、反応性関節炎
		③　掌蹠膿疱症性骨関節炎	b	SAPHO症候群
	C　全身性結合組織病とその関連疾患	①　全身性エリテマトーデス〈SLE〉	a	
		②　Sjögren症候群	a	
		③　全身性強皮症	a	
		④　皮膚筋炎、多発性筋炎	a	無筋症性皮膚筋炎、抗合成酵素症候群、免疫介在性壊死性筋症
		⑤　混合性結合組織病	b	
		⑥　抗リン脂質抗体症候群	b	
	D　血管炎症候群とその関連疾患	①　巨細胞性動脈炎	a	
		②　顕微鏡的多発血管炎	a	
		③　多発血管炎性肉芽腫症	a	
		④　Behçet病	a	
		⑤　リウマチ性多発筋痛症	a	
		⑥　高安動脈炎	b	
		⑦　結節性多発動脈炎	b	
		⑧　好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	b	
		⑨　IgA血管炎	b	

XI　アレルギー性疾患、膠原病、免疫病[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		⑩　クリオグロブリン血症性血管炎	c	
		⑪　抗糸球体基底膜抗体病	c	
	E　結晶誘発性関節炎	①　痛風	a	
		②　偽痛風	a	
	F　自己炎症性疾患	①　家族性地中海熱	b	
	G　その他の類縁疾患	①　サルコイドーシス	a	
		②　線維筋痛症	a	
		③　再発性多発軟骨炎	c	
		④　アミロイドーシス	b	
		⑤　IgG4関連疾患	b	
3　原発性免疫不全症	A　複合型免疫不全症	①　重症複合免疫不全症	c	
	B　抗体産生不全を主とする免疫不全症	①　選択的IgA欠損症	b	
		②　無ガンマグロブリン血症	c	
		③　高IgM症候群	c	
	C　他のよく定義された免疫不全症	①　Wiskott-Aldrich症候群	c	
		②　毛細血管拡張性失調症〈ataxia telangiectasia〉	c	
		③　胸腺低形成〈DiGeorge症候群〉	c	
	D　免疫調節不全症	①　Chédiak-Higashi症候群	c	
	E　食細胞機能不全症	①　慢性肉芽腫症、重症先天性好中球減少症	c	
	F　補体欠損症	①　遺伝性血管性浮腫	b	C1インヒビター欠損症
		②　先天性補体欠損症	c	
4　続発性免疫不全症	A　感染による免疫不全症	①　後天性免疫不全症候群〈AIDS〉	a	
	B　悪性腫瘍による免疫不全症		a	
	C　自己免疫疾患による免疫不全症		a	
	D　医原性免疫不全症		a	
5　その他の重要な小児領域の疾患	A　膠原病と類縁疾患	①　川崎病	a	
		②　若年性特発性関節炎〈JIA〉	b	
		③　リウマチ熱	c	心臓弁膜症

XII　感染性疾患[約８％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
1　ウイルス	A　ウイルスによる感染症	①　インフルエンザ	a	
		②　RSウイルス感染症	a	
		③　流行性耳下腺炎〈ムンプス〉	a	
		④　麻疹	a	
		⑤　風疹	a	先天性風疹症候群
		⑥　突発性発疹	a	
		⑦　コクサッキーウイルス感染症、エコー〈ECHO〉ウイルス感染症	a	ヘルパンギーナ、手足口病、急性出血性結膜炎
		⑧　アデノウイルス感染症	a	咽頭結膜熱、流行性角結膜炎
		⑨　ウイルス性下痢症	a	
		⑩　単純ヘルペスウイルス感染症	a	
		⑪　水痘・帯状疱疹	a	
		⑫　Epstein-Barr〈EB〉ウイルス感染症	a	
		⑬　パルボウイルスB19感染症	a	伝染性紅斑
		⑭　サイトメガロウイルス感染症	a	
		⑮　ヒトパピローマウイルス〈HPV〉感染症	a	尖圭コンジローマ、子宮頸癌
		⑯　ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感染症、後天性免疫不全症候群〈AIDS〉	a	
		⑰　ウイルス性肝炎	a	
		⑱　ウイルス性髄膜炎	a	
		⑲　ノロウイルス感染症	a	
		⑳　ロタウイルス感染症	a	
		㉑　新型コロナウイルス感染症	a	
		㉒　デング熱	b	
		㉓　伝染性軟属腫	b	
		㉔　ヒトT細胞白血病ウイルス〈HTLV-Ⅰ〉感染症	b	
		㉕　急性灰白髄炎〈ポリオ〉	c	
		㉖　ジカウイルス感染症	c	
		㉗　エボラ出血熱	c	
		㉘　日本脳炎	c	
2　細菌	A　クラミジア・マイコプラズマ・リケッチアによる感染症	①　クラミジア肺炎	a	
		②　性器クラミジア感染症	a	
		③　マイコプラズマ肺炎	a	
		④　オウム病	b	
		⑤　クラミジア結膜炎〈トラコーマ〉	b	
		⑥　ツツガ虫病	b	
		⑦　Q熱	c	

XII　感染性疾患[約８％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
	B　細菌(抗酸菌〈マイコバクテリア〉を除く)による感染症	①　連鎖球菌感染症	a	
		②　腸球菌感染症	a	
		③　肺炎球菌感染症	a	
		④　黄色ブドウ球菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌〈MRSA〉感染症	a	トキシックショック症候群〈TSS〉
		⑤　表皮ブドウ球菌感染症	a	
		⑥　淋菌感染症	a	
		⑦　髄膜炎菌感染症	a	Waterhouse-Friderichsen症候群
		⑧　ヘリコバクター・ピロリ感染症	a	
		⑨　リステリア感染症	a	
		⑩　モラクセラ・カタラリス感染症	a	
		⑪　サルモネラ感染症	a	腸チフス、パラチフス、非チフス性サルモネラ症
		⑫　百日咳	a	
		⑬　大腸菌感染症	a	腸管出血性大腸菌感染症
		⑭　クレブシエラ感染症	a	
		⑮　セラチア感染症	a	
		⑯　腸炎ビブリオ感染症	a	
		⑰　レジオネラ症	a	
		⑱　緑膿菌感染症	a	
		⑲　アシネトバクター感染症	a	
		⑳　ガス壊疽	a	壊死性筋膜炎
		㉑　クロストリジウム・ディフィシル腸炎	a	CDトキシン
		㉒　バクテロイデス感染症	a	
		㉓　梅毒	a	
		㉔　ヘモフィルス感染症	b	インフルエンザ{桿}菌感染症、軟性下疳
		㉕　細菌性赤痢	b	
		㉖　コレラ	b	
		㉗　破傷風	b	
		㉘　ボツリヌス症	b	バイオテロ
		㉙　放線菌症	b	
		㉚　ノカルジア症	b	
		㉛　ジフテリア	c	
3　抗酸菌〈マイコバクテリア〉	A　抗酸菌〈マイコバクテリア〉による感染症	①　結核	a	
		②　非結核性抗酸菌症	a	
		③　Hansen病	c	
4　真菌、寄生虫、その他の病原体	A　真菌、寄生虫、その他の病原体による感染症	①　カンジダ症	a	
		②　アスペルギルス症	a	
		③　白癬	a	

Ⅻ　感染性疾患[約８％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		④　ニューモシスチス肺炎	a	
		⑤　マラリア	a	
		⑥　アニサキス症	a	
		⑦　クリプトコックス症	b	
		⑧　癜風	b	
		⑨　アメーバ赤痢	b	
		⑩　トキソプラズマ症	b	
		⑪　トリコモナス症	b	
		⑫　スポロトリコーシス	c	
		⑬　回虫症	c	
		⑭　吸虫症	c	
		⑮　エキノコックス症	c	
		⑯　クリプトスポリジウム症	c	
		⑰　ジアルジア症	c	ランブル鞭毛虫
		⑱　プリオン病	c	Creutzfeldt-Jakob病、ウシ海綿状脳症〈BSE、狂牛病〉

XIII　生活環境因子・職業性因子による疾患[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
1　食中毒、病害動物による疾患	A　食中毒	①　細菌性食中毒	a	
		②　ウイルス性食中毒	a	
		③　化学性食中毒	b	
		④　自然毒食中毒	b	フグ、キノコ
	B　病害動物および鼠族・節足動物による疾患	①　節足動物による疾患	b	ダニ、クモ、ハチ、アリ、ムカデ
		②　毒蛇咬傷	c	
	C　旅行者疾患	①　旅行者下痢症	b	
2　アルコールによる障害、薬物依存・中毒	A　アルコールによる障害	①　急性アルコール中毒	a	
		②　アルコール依存症	a	
		③　アルコール精神病	a	Wernicke脳症
		④　慢性アルコール性臓器障害	a	
		⑤　妊婦・胎児への影響、胎児性アルコール症候群	b	
	B　薬物依存・中毒	①　睡眠薬依存・中毒	a	
		②　向精神薬依存・中毒	a	
		③　解熱鎮痛薬依存・中毒	a	
		④　麻薬依存・中毒	a	
		⑤　覚醒剤依存・中毒	b	
		⑥　有機溶剤依存・中毒	b	
	C　毒劇物中毒		b	
3　喫煙による障害	A　タバコ煙	①　タバコ煙中の有害物質、未成年者の喫煙、受動喫煙	a	
	B　喫煙による健康障害	①　タバコ依存	a	ニコチン代替療法
		②　呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉)、がん、循環器疾患	a	Brinkman指数
		③　妊婦・胎児への影響	a	
4　産業中毒とその他の職業性疾患	A　産業中毒	①　金属中毒	b	
		②　ガス中毒	b	
		③　有機溶剤中毒	b	
		④　化学物質中毒	b	
		⑤　農薬中毒	b	有機リン剤、有機塩素剤
	B　作業態様による障害	①　職業性腰痛	a	
		②　頸肩腕障害	a	
		③　VDT作業による障害	a	
	C　過重労働による障害	①　脳血管疾患	a	
		②　虚血性心疾患	a	
		③　自殺	a	
	D　職業性ストレスによる障害	①　適応障害	a	
		②　心身症	a	
		③　うつ病	a	
	E　職業性アレルギー	①　職業性喘息	b	
		②　過敏性肺炎	b	

XIII　生活環境因子・職業性因子による疾患[約５％]

大　項　目	中　項　目	小　　項　　目	レベル分類	備　考
		③　鼻アレルギー〈アレルギー性鼻炎〉	a	
		④　アレルギー性接触皮膚炎	a	
	F　その他の職業性疾患	①　職業がん	b	
		②　じん肺	b	
		③　酸素欠乏症	b	
5　物理的原因・生活環境因子による障害	A　低温・高温環境による疾患	①　熱中症	a	
		②　偶発性低体温｛症｝	a	
		③　凍傷・凍瘡	a	
	B　騒音障害	①　騒音性難聴	a	
	C　振動による障害	①　動揺病	b	
		②　手腕振動障害	b	
	D　気圧による障害	①　減圧症	b	
		②　高山病	b	
	E　電離放射線障害	①　急性放射線障害	b	
		②　放射線による発がん	b	
	F　非電離放射線障害		b	レーザー、紫外線、赤外線
	G　家庭用品による障害	①　誤飲	a	
		②　誤嚥	a	
		③　創傷	a	
		④　熱傷	a	
		⑤　急性中毒	a	
	H　家庭におけるアレルギー・過敏症	①　化学物質過敏症	c	
		②　シックハウス症候群〈シックビル症候群〉	c	
	I　事故による障害	①　交通事故	a	
		②　家庭内事故	a	転倒・転落
		③　自然災害	a	

索　　引

索　引

%

%VC・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

1

{12誘導}心電図検査・・・・・・・・・・・・12
13番・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
17α-ヒドロキシプロゲステロン・10
^{18}F・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
^{18}F-FDG・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
18番・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
1型糖尿病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
1歳6か月児健康診査・・・・・・・・・・・・36
1日の摂取許容量・・・・・・・・・・・・・・・37

2

25水酸化ビタミンD・・・・・・・・・・・・10
2型糖尿病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121

3

3D-CT・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
3D-CTA・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13, 69
Ⅲ音・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
3歳児健康診査・・・・・・・・・・・・・・・・36

4

4R・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
Ⅳ音・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55

5

5-HIAA・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
5-ヒドロキシインドール酢酸・・・・11

7

75g OGTT試験・・・・・・・・・・・・・・・・・65

9

95%信頼区間・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

A

A-aDO_2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
ABI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22, 65
ABR・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65, 66
AC・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
ACD・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・106
ACE・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
ACO・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
ACP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16, 48
ACTH・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
ACTH試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
ACTH非依存性大結節性副腎皮質過形成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・120
activities・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
ADAMTS-13・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
Addison病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・120
ADH・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
ADHD・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
ADH不適合分泌症候群・・・・・・・・・120
ADI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
ADL・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36, 61
ADL訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
AED・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
AFI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68, 84
AFP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11, 105
AIDS・・・・・・・・・・・・・・・・・・125, 126
AIDS認知症・・・・・・・・・・・・・・・・・・114
AIH・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
AIMAH・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・120
AKI・・・・・・・・・・・・・・・・・26, 78, 110
Alb・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Alma Ata宣言・・・・・・・・・・・・・・・・・33
ALP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Alport症候群・・・・・・・・・・・・・・・・109
ALS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23, 115
ALT・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Alzheimer型認知症・・・・・・・87, 115
AMR・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17, 50
AMS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
ANCA関連血管炎・・・・・・・・・・96, 109
angioectasia・・・・・・・・・・・・・・・・103
antimicrobial resistance・17, 50
antimicrobial stewardship・・・・17
Apgarスコア・・・・・・・・・・・・・・62, 85
APTT・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
ARDS・・・・・・・・・・・・25, 73, 78, 97
ART・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80, 112
asbestosis・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
Asherman症候群・・・・・・・・・・・・・・113
ASO・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
AST・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
asterixis・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
ataxia telangiectasia・・・・・・・125
attributable risk・・・・・・・・23, 35
Auspitz現象・・・・・・・・・・・・・・・・・90
A型胃炎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・102
A型肝炎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103

B

Babinski徴候・・・・・・・・・・・・・・・・・59
Babinski反射・・・・・・・・・・・・・・・・・59
BAL・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
Barrett上皮・・・・・・・・・・・・・・・・・102
Barrett食道・・・・・・・・・・・・・・・・・102
Bartholin腺・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
Bartholin腺炎・・・・・・・・・・・・・・・110
Bartholin腺膿瘍・・・・・・・・・・・・・110
Bartholin腺嚢腫・・・・・・・・・・・・・110
Bartter症候群・・・・・・・・・・・・・・・109
Basedow病・・・・・・・・・・・・・・・・・・120
*BCR-ABL*融合遺伝子・・・・・・・・・・・106
Becker型・・・・・・・・・・・・・・・・・・・116
Beckのうつ病自己評価尺度・・・・・67
Behçet病・・・・・・・・・・・・・・・92, 124
Bell麻痺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
Bence Jones蛋白・・・・・・・・・11, 106
Bentall手術・・・・・・・・・・・・・・・・・101
Bernard-Soulier症候群・・・・・・・107
biophysical profile score 68, 85
Biot呼吸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
Bishopスコア・・・・・・・・・・・・・・・・62
Blalock-Taussig短絡手術・・・・・・99
BLS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
Blumberg徴候・・・・・・・・・・・・・・・・56
BNP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
BOA・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
Bochdalekヘルニア・・・・・・・・・・・105
body functions and structures 30
Boerrhaave症候群・・・・・・・・・・・・102
Bowen病・・・・・・・・・・・・・・・・90, 111
BPD・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
BPRS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
BPS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68, 85
BPSD・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
Bq・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
Brief Psychiatric Rating Scale67
Brinkman指数・・・・・・・・・・・・・・・129
Broca失語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
Brodie骨膿瘍・・・・・・・・・・・・・・・114
Brown-Séquard症候群・・・・・・・・・59
BRTO・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・102
Brugada症候群・・・・・・・・・・・・・・・99
BSE・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・128
BT-PABA試験・・・・・・・・・・・・・・・・65
BT-PABA排泄試験・・・・・・・・・・・・・12
Budd-Chiari症候群・・・・・・・・・・104
Buerger病・・・・・・・・・・・・・・・・・・101
BUN・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Burkittリンパ腫・・・・・・・・・・・・・107
Bリンパ球・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
B群連鎖球菌・・・・・・・・・・67, 84, 85
B型肝炎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
B型肝炎ウイルスの再活性化・・・103
B細胞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

C

C1インヒビター欠損症・・・・・・・・125
C3・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

C4 11
Ca 10
CA125 11
CA19-9 11
café au lait斑 89
CD4/8比 11
CDトキシン 127
CEA 11
Celsus禿瘡 90
CF 64
CGA 18, 61
CH_{50} 11
Chaddock反射 59
Charcot 3徴 104
Charcot-Marie-Tooth病 115
Charcot関節 117
ChE 10
Chédiak-Higashi症候群 125
Cheyne-Stokes呼吸 55
Chiari奇形 119
CIN 111
CK 10
CKD 26, 110
CKD-MBD 110
CK-MB 10
Cl 10
closing volume 41
CO_2ナルコーシス 80
CO_2血症 55
coarse crackles 55
comprehensive geriatric assessment 18, 61
compromised host 50
Congo-Red染色 12, 64
Coombs分類 50
COP 97
COPD 25, 96, 129
CO中毒 115
CPAP 80
CPC 52
CPD 84
CPPV 80
CPR 10, 77
Cr 10
CR 68
Creutzfeldt-Jakob病 114, 128
CRH負荷試験 12
Crigler-Najjar症候群 105
CRL 68
Crohn病 25, 102
Crouzon病 118
CRP 11, 64
CRPS 118
crush syndrome 78, 118
CST 68
CT 13, 23, 69
CT{ガイド}下治療 76
CTG 62, 67, 68, 85
CTL 45
CTLA-4 45
CTガイド下生検 76
CTコロノグラフィ 13, 69
CT値 69
Cu 10
Curling潰瘍 78
Cushing症候群 100, 120
Cushing病 120
CVポート留置術 75
Cペプチド 10
C型肝炎 103
C反応性蛋白 11

D

Darier徴候 66
Darier病 90
de Quervain病 117
DeBakey分類 101
deep vein thrombosis 101
Diamond-Blackfan症候群 106
DIC 26, 78, 85, 107
DID法 64
DiGeorge症候群 125
disaster medical assistance team 33
DKA 121
DLST 66
DMARD 72
DMAT 33
DNA損傷と修復 74
Douglas窩 43, 63
Douglas窩膿瘍 104
Down症候群 86
DR 68
drug-induced hypersensitivity syndrome 89
DSA 13
Dubin-Johnson症候群 104
Duchenne型 116
Dupuytren拘縮 117
DVT 101
DV法 32
DXA 120
Dダイマー 9
D型肝炎 103

E

E_2 10
EBM 23
Ebstein奇形 99
EBウイルス感染症 107, 126
ECHOウイルス感染症 126
ECMO 74, 77
EFBW 68
eGFR 65
Ehlers-Danlos症候群 122
ELISA 64
Ellsworth-Howard試験 12
EPS 65
Epstein-Barrウイルス感染症 107, 126
ERCP 13, 69
ERG 66
ESD 76
ESWL 80
$ETCO_2$ 73
Ewing肉腫 117
E型肝炎 103

F

FAB 67
Fabry病 109, 122
Fallot四徴症 99
Fanconi貧血 106
FAP 103
FAST 13
FBS 10
FD 25, 102
FDP 9
Fe 10
fetal growth restriction 85
FEV_1% 12
FGR 85
FH 121
fine crackles 55
FISH法 64
FL 68
flail chest 98
FLAIR像 69
flow-volume曲線 65
Fontan手術 99
FSH 10
FT_3 10
FT_4 10

G

Gaffky号数 12
Gardner症候群 103
Gastrointestinal stromal tumor 103
Gaucher病 122
GAVE 103
GCS 61
G-CSF 42
gene-environment interaction 49
GERD 25, 102
GFR 12
GH 10
GHRH負荷試験 12
Gibertばら色粃糠疹 90
Giemsa染色 64
Gilbert症候群 104
Gimenez染色 64
GIST 103
Gitelman症候群 109
Glasgow coma scale 61
golden period 118
Gomori-Trichrome染色 12
GPIアンカー蛋白 106
Gram染色 12, 22, 64
Graves病 120

索引

Grocott染色 12, 64
Gross分類 105
growth spurt 48
Guillain-Barré症候群 115
GVHD 72
Gy 68

H

HACCP 37
Hailey-Hailey病 90
HAM 114
Hamilton Rating Scale for Depression 67
Hamiltonうつ病評価尺度 67
Ham試験 10
hANP 11
Hansen病 127
Hb 9
HbA1c 10
HBc抗体 11
HBs抗原 11
HBs抗体 11
HBV 84
hCG 10
HCO_3^- 12
HCV 84
HCV抗体 11
HDFN 85
HDLコレステロール 10
Health in all policies 33
Heberden結節 117
Helicobacter pylori 64
HELLP症候群 84
Hematoxylin-eosin染色 12
Hemophagocytic lymphohistiocytosis 107
hemophagocytic syndrome 107
HES 106
H-E染色 12, 64
HFpEF 99
HFrEF 99
HI 64
high risk strategy 35
Hirschsprung病 105
HIT 107
HIT抗体 107
HIV 84
HIV感染症 126
HIV抗体 11
HIV脳症 114
HLA 45, 64
HLH 107
Hodgkinリンパ腫 106
Hodgkin細胞 106
Holter心電図検査 12, 65
Horner症候群 93
HPV感染症 126
HSG 13, 69
Ht 9
HTLV-1抗体 11
HTLV-Ⅰ 84
HTLV-Ⅰ感染症 126
HTLV-Ⅰ関連脊髄症 114
Hunter症候群 122
Huntington病 115
Huntington病と類縁疾患 115
Hurler症候群 122
HUS 107, 110
hyperviscosity症候群 106

I

IABP 74
IADL 61
ICD 35
ICF 35, 76
ICG試験 65
ICSI 80
ICT 17
IgA 10, 47
IgA血管炎 107, 109, 124
IgA腎症 109
IgE 10, 11, 64
IgG 10, 47
IgG% 9
IgG4関連疾患 109, 120, 125
IgM 10, 47
IGRA 11, 64
IGRT 75
IIPs 97
IIPs以外の原因不明疾患 97
IL-1 45
IL-17 45
IL-6 45
ILO 34
IMRT 75
indocyanine green試験 65
intention to treat 36
interprofessional education 31
IPE 31
IPF 97
IPMN 104
iso染色体 49
ITP 84, 107
ITT 36
IVF-ET 80
IVR 75, 79

J

*JAK2*遺伝子変異 106
Japan coma scale 61
Jatene手術 99
JCS 61
JIA 125
JICA 34
jolt accentuation 59

K

K 10
Kallmann症候群 120
Kaposi水痘様発疹症 89
Kartagener症候群 96
Kasabach-Merritt症候群 89
Kaup指数 47
Kayser-Fleischer輪 91, 122
KB染色 64
Kearns-Sayre症候群 115
Kernig徴候 59
Kienböck病 117
Kiesselbach部位 54
KL-6 11
Klinefelter症候群 86, 121
Klüver-Barrera染色 64
Köbner現象 90
KOH直接鏡検法 66
Korsakoff症候群 58
Kussmaul呼吸 55

L

LAC 9
LAM 97
Lambert-Eaton筋無力症候群 116
Langerhans細胞 40
Langerhans細胞組織球症 96
Lanz圧痛点 102
LD 10
LD_{50} 51
LDH 10
LDLコレステロール 10
Le Fort型骨折 94
Leigh脳症 115
Lennox-Gastaut症候群 119
Lesch-Nyhan症候群 122
Leser-Trélat徴候 89
LET 75
Lewy小体型認知症 87, 115
LH 10
LHRH負荷試験 12
Liddle症候群 109
Linear Non-Threashold(LNT)仮説 52
locked-in syndrome 58

M

M. avium 96
M. intracellulare 96
M. kansasii 96
mallet finger 118
Mallory-Weiss症候群 102
MALT 45
MALTリンパ腫 103, 106
Marfan症候群 101, 122
MAS 85, 107
Mayer-Rokitansky-Küster-Hauser 症候群 86
May-Giemsa染色 12, 63, 64
Maze手術 99
McBurney圧痛点 102
McCune-Albright症候群 122
MCH 9

索引

MCHC 9
MCN 104
MCV 9
MDCT 69
MDS 106
Meckel憩室 103
MELAS 115
MEN Ⅰ型・Ⅱ型 121
Mendel遺伝様式 49
Ménière病 93
MERRF 115
Mg 10
MGUS 107
Mini-Mental State Examination<MMSE> 67
MODS 51, 73
MOF 51, 73, 78
monoclonal gammopathy of undetermined significance 107
Montgomery腺 41
MPO-ANCA 11
MR 13
MRA 13, 69
MRCP 13, 69
MRI 13, 23, 69
MRIの原理と技術 69
MRKH症候群 86
mRNAワクチン 37
MRSA感染症 127
MR信号 69
Müller管 47
multidetector-row CT 69
MVP 84
M蛋白 106

N

Na 10
NAFLD 104
NASH 104
NCD 28, 34, 36
Nelson症候群 120
NERD 102
NET 103
Neuroendocrine tumor 103
NGO 34
Niemann-Pick病 122
Nikolsky現象 66, 90
NIPT 67
NK細胞 45
NK細胞腫瘍 107
NOMI 105
non-reassuring fetal status 79, 85
NPPV 80
NRFS 79, 85
NSAID 72
NSAID過敏喘息 124
NSF 69
NSIP 97
NST 68, 71, 85
NT 64

O

OAE 66
OCT 66
ODA 34
odds ratio 23, 35
OGTT 10
OHCA 23, 61
opening snap 55
opportunistic infection 50, 96
Osgood-Schlatter病 117
Osler病 107

P

P 10
P/F比 73
$PaCO_2$ 12
PAM染色 12, 64
PaO_2 12
PaO_2/FIO_2比 73
Papanicolaou染色 12, 64
Parkinson症候群 115
Parkinson病 26, 87, 115
Parkinson病と類縁疾患 115
participation 30
PAS染色 12, 63, 64
PCOS 112, 121
PCPS 74, 77
PCR法 64
PCU 27, 79, 80
PD-1 45
PD-1 ligand 1<PD-L1> 45
PEEP 80
Personal Protective Equipmentの着脱と廃棄 27
Perthes病 117
PET 13, 23, 70
PET/CT 13, 70
Peutz-Jeghers症候群 103
PFD試験 65
pH 9, 12
Philadelphia染色体 106
pHモニタリング 65
PIC 9
PICO/PECO 23
PID 110
Plummer病 120
Pompe病 122
POMR 16
population strategy 35
Potter症候群 84
PPEの着脱と廃棄 27
PR3-ANCA 11
PRA 10
Prader-Willi症候群 120
PRES 84
PRL 10
Programmed cell death 1 receptor 45
PSA 11
PSV 80
psychoeducation 80
PT 9
PTA 75
PTH 10
PTH負荷試験 12
PTSD 24, 87
pulsed field gel electrophoresis 64
PUVA療法 80

Q

QOD 80
QOL 16, 30, 36
QOLの改善・維持 80
QOLの向上 28
QT延長症候群 99
quality of death 80
quality of life 16, 30, 36
quality of lifeの改善・維持 80
quality of lifeの向上 28
Queckenstedt現象 9
Quinke浮腫 89
Q熱 126

R

Ramsay Hunt症候群 92
Ramstedt手術 105
Rastelli手術 99
Raynaud現象 56
Raynaud症候群 101
RBMT 67
RCT 36
RCVS 84
RDS 85
receiver operating characteristics曲線 23
Reed-Sternberg細胞 106
relative risk 23, 35
REM睡眠 43
REM睡眠行動障害 88
review of systems 18
Reynolds 5徴 104
RF 11
rhonchi 55
RI内用療法 75
ROC曲線 23
Rohrer指数 47
Rorschachテスト 67
Rotor症候群 104
RSウイルス感染症 126
RT-PCR法 64

S

SAPHO症候群 124
Schmidt症候群 120
SCU 33
SDGs 34

SDH・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
SDS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
Sézary症候群・・・・・・・・・・・・・・・・・・90
Sheehan症候群・・・・・・・・・・・・・・・・120
shock index・・・・・・・・・・・・・・61, 85
Shy-Drager症候群・・・・・・・・・・・・・101
SIADH・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・120
SIDS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
silicosis・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
SIMV・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
Sjögren症候群・・・・・・・・・・・109, 124
SLE・・・・・・・・・・・・・26, 87, 109, 124
SLTA・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
SMR・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
SMT・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
SOAP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
Social Determinants of Health・28
social skills training・・・・・・・・77
SPECT・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13, 70
SpO_2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
SSI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
SSPE・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119
SST・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
staging care unit・・・・・・・・・・・・・33
STAI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
standard precautions・・・・・・17, 20
Stanford分類・・・・・・・・・・・・・・・・101
STD・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50, 111
Stevens-Johnson症候群・・・・・・・・・89
STI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50, 111
stridor・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
Sturge-Weber症候群・・・・・・・・・・・119
ST上昇型・非ST上昇型心筋梗塞・100
SudanⅢ染色・・・・・・・・・・・・・・12, 64
Sv・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
Sweet病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89

T

T1強調像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
T2*強調像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
T2強調像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
TACE・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
TAE・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
target sign・・・・・・・・・・・・・・・・・105
TAT・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
TAVI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
Tay-Sachs病・・・・・・・・・・・・・・・・・122
TC・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
TDM・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
telangiectasia・・・・・・・・・・・・・・・53
TG・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
THP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
TIBC・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Tinel徴候・・・・・・・・・・・・・・・・・・115
tissue plasminogen activator・114
TNF・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
Tolosa-Hunt症候群・・・・・・・・・・・115
TORCH症候群・・・・・・・・・・・・・・・・84
torsades de pointes・・・・・・・・・・99
Tourette症・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
Tourette障害・・・・・・・・・・・・・・・・・88
toxic epidermal necrolysis・・・89
TP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
t-PA・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・114
TPO抗体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
TRAb・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
Treacher Collins症候群・・・・・・・95
Treg・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
Trendelenburg徴候・・・・・・・・・・・117
TRH負荷試験・・・・・・・・・・・・・・・・12
trisomy・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
TSH・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
TSS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・127
TTP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
Turcot症候群・・・・・・・・・・・・・・・103
Turner症候群・・・・・・・・・・・・86, 121
Tzanck試験・・・・・・・・・・・・・・・・・66
Tリンパ球・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
T細胞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

U

UA・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
UHC・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
UIBC・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
UN・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

V

VAD・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
VDT作業による障害・・・・・・・・・・・129
VEP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
Vero毒素・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
Vibrio vulnificus・・・・・・・・・・・90
Virchow結節・・・・・・・・・・・・・・・・53
VMA・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
Vogt-小柳-原田病・・・・・・・・・・・・・92
Volkmann拘縮・・・・・・・・・・・・・・・118
von Gierke病・・・・・・・・・・・・・・・122
von Hippel-Lindau病・・・・・・・・・119
von Recklinghausen病・・・・89, 119
von Willebrand病・・・・・・・・・・・・107

W

WAIS-Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
Waldenstrom・・・・・・・・・・・・・・・・106
Wallenberg症候群・・・・・・・・・・・・114
Walthin腫瘍・・・・・・・・・・・・・・・・94
Waterhouse-Friderichsen症候群127
WDHA症候群・・・・・・・・・・・・・・・・104
Weber症候群・・・・・・・・・・・・・・・・114
Wechsler記憶スケール・・・・・・・・・67
Wechsler記憶検査・・・・・・・・・・・・67
Wechsler児童用知能検査・・・・・・・67
Wechsler成人知能検査・・・・・・・・・67
Weil-Felix反応・・・・・・・・・・・・・・11
Werdnig-Hoffmann病・・・・・・・・・・119
Werner症候群・・・・・・・・・・・・・・・90
Wernicke失語・・・・・・・・・・・・・・・58
Wernicke脳症・・87, 115, 122, 129
West症候群・・・・・・・・・・・・・・・・119
wheezes・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
WHO・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17, 34
WHO方式がん疼痛治療法・・・・・・・・79
Willis動脈輪・・・・・・・・・・・・・・・・44
Wilson-Mikity症候群・・・・・・・・・・85
Wilson病・・・・・・・・・・・87, 104, 122
windowレベル・・・・・・・・・・・・・・・69
window幅・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
WISC-Ⅳ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
Wiskott-Aldrich症候群・・・・・・・125
WMS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
WMS-R・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
Wolff管・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
WON・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・104
WPW症候群・・・・・・・・・・・・・・・・・99
Wright染色・・・・・・・・・・・・・・・・・63

Z

Ziehl-Neelsen染色・・・・・・・・12, 64
Zollinger-Ellison症候群・・・・・104

α

α_1・β_2-マイクログロブリン・・・10
α_1-アンチトリプシン法・・・・・・・・65
α-フェトプロテイン・・・・・11, 105
α線・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75

β

β_2-マイクログロブリン・・・・10, 65
β-D-グルカン・・・・・・・・・・・・・・・・11
β線・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75

γ

γ-GT<γ-GTP>・・・・・・・・・・・・・・・・10

あ

挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
アイソザイム・・・・・・・・・・・・・10, 63
アイバンク・・・・・・・・・・・・・・・・・74
アウトカム・・・・・・・・・・・・・・・・・23
亜鉛欠乏症候群・・・・・・・・・・・・・・122
亜急性硬化性全脳炎・・・・・・・・・・119
亜急性甲状腺炎・・・・・・・・・・・・・・120
亜急性連合性脊髄変性症・・・・・・115
アキレス腱断裂・・・・・・・・・・・・・・118
アキレス腱付着部痛・・・・・・・・・・・60
悪液質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
アクシデント・・・・・・・・・・・・・・・・17
悪性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
悪性関節リウマチ・・・・・・・・・・・・124
悪性外耳道炎・・・・・・・・・・・・・・・・92
悪性高血圧症・・・・・・・・・・・・・・・109
悪性高熱症・・・・・・・・・・・・・・・・・73
悪性黒色腫・・・・・・・・・・・・・・・・・90
悪性腫瘍細胞の遺伝子検査・・・・・65

索引

悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症 120
悪性腫瘍による免疫不全症 125
悪性症候群 115
悪性腎硬化症 109
悪性軟部腫瘍 117
悪性貧血 106
悪性末梢神経鞘腫 117
悪性リンパ腫 26，94，96，97，103，108，114
アシドーシス 110
アシネトバクター感染症 127
足の疾患 117
アスペルギルス症 96，127
アセトン血性嘔吐症 122
亜脱臼 118
圧覚 41
圧痛 21
圧 9
圧挫症候群 78，118
圧支持換気 80
アテトーシス 59
アテローム血栓性脳梗塞 114
アデノイド増殖症 94
アデノウイルス感染症 126
アデレード宣言 33
アトピー咳嗽 96
アトピー性皮膚炎 24，89，124
アドバンス・ケア・プランニング 16，48
アドヒアランス 71
アドレナリン 10
アナフィラキシー 26，50，51，69，72，124
アニサキス症 128
アフタ 53，54
アフタ性口内炎 93
あぶみ骨筋反射 66
アミノ酸代謝異常 121
アミラーゼ 9，10
アミロイドアンギオパチー 114
アミロイドーシス 97，121，125
アミロイド腎症 109
アミロイド苔癬 91
アミロイド沈着症 91
アミロイドニューロパチー 115
アメーバ性肝膿瘍 103
アメーバ赤痢 128
アリ 129
アルカリによる損傷 50
アルカローシス 110
アルコール依存症 26，87，129
アルコール依存への支援 28
アルコール健康障害対策基本法 32
アルコール性肝炎 104
アルコール性肝障害 104
アルコール性心筋症 100
アルコール精神病 87，129
アルコールによる障害 129
アルドステロン 10
アルドステロン過剰症 100，120
アルブミン 10
アルブミン製剤 72
アルマ・アタ宣言 33
アレルギー 50
アレルギー疾患対策基本法 32
アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 96，124
アレルギー性気管支肺真菌症 96，124
アレルギー性結膜炎 124
アレルギー性疾患 26，96，124
アレルギー性接触皮膚炎 124，130
アレルギー性鼻炎 24，124，130
アレルギー歴 18
アレルギーに関する検査 11
アレルゲン検査 11
アロディニア 74
アンジオテンシン 10
アンジオテンシン変換酵素 10
暗順応 40
暗順応検査 66
安全 24
安全管理 69
安全性 17
安全データシート 38
安全への配慮 20
アンチトロンビン欠乏症 107
暗点 54
アンドロゲン不応症 86
アンモニア 10

い

胃 70
胃アニサキス症 102
院内感染対策 17
胃液の分泌 42
胃潰瘍 25，102
胃管 77
易感染性宿主 50
胃管の挿入と抜去 27
医学及び歯学の教育のための献体に関する法律 31
医学研究と倫理 16
医学史 28
胃癌 25，102
息切れ 19，55，56
意義と目標 21
意義不明の単クローン性免疫グロブリン血症 107
育児環境の評価 61
育児休業制度 36
育児指導 36
育児と労働 49
胃憩室 103
医原性肺疾患及び化学物質による肺障害 97
医原性副腎皮質機能低下症 120
医原性免疫不全症 125
医原病 52
医行為と診療補助行為 31
移行便 47
医師会 33
意識 43
意識混濁 58
意識障害 19，24，53，58，61
意識レベル 21，61
医師と自治体の対応 37
医師による偏見 52
医師の職業倫理指針 16
医師の対応による医原病 52
医師の働き方改革 32
医師のプロフェッショナリズム 16
意思表示 74
意思表示カード 74
医師法 16，31
異種移植 74
萎縮 53
萎縮性胃炎 102
萎縮性腟炎 112
移植と免疫 74
胃食道逆流症 25，102
移植の種類と適応 74
移植免疫 11，64
異所性骨化 117
異所性尿管開口 112
異所性妊娠 84
異所性ホルモン産生腫瘍 121
石綿 38
医師を含む医療専門職の連携 27
医事 31
維持期リハビリテーション 76
医事紛争 17
胃・十二指腸疾患 102
胃・十二指腸の異常 105
異常眼球運動 54
異常呼吸 98
異状死 27
異常心音 55
異常脳波賦活法 65
異常ヘモグロビン症 107
胃静脈瘤 25，102
椅子の配置 18
胃切除後症候群 102
胃腺腫 102
胃洗浄 78
胃前庭部毛細血管拡張症 103
遺族ケア 80
依存 51，87
依存症対策 36
イチゴ状血管腫 89
一次救命処置 23
一次性頭痛 116
一児胎児死亡 85
一次治癒 49
一次・二次・三次予防 35
胃腸反射 42
一回投与 71
一過性多呼吸 85
一過性脳虚血発作 26，114
一貫性 35
一酸化炭素中毒 115
一般教養的事項 28
一般的手技 27
一般的診察 61，62

索引

一般的な生化学検査 22
一般的な身体診察 20
一般的な治療の基本 26
一般廃棄物 38
一般臨床検査 22, 63
胃底腺ポリープ 102
遺伝カウンセリング 49
遺伝学的検査 22
遺伝形式 49
遺伝子 17
遺伝子異常 86
遺伝子異常と環境因子 49
遺伝子異常による糖尿病 121
遺伝子−環境交互作用 49
遺伝子関連検査 22
遺伝子組換え食品 37
遺伝子治療等臨床研究に関する指針 16
遺伝性 97
遺伝性運動感覚性ニューロパチー 115
遺伝性角化症 90
遺伝性球状赤血球症 107
遺伝性痙性対麻痺 115
遺伝性血管性浮腫 125
遺伝性出血性末梢血管拡張症 107
遺伝性腎炎 109
遺伝性水疱症 90
遺伝性難聴 93
遺伝性乳癌卵巣癌症候群 123
遺伝性皮膚疾患 90
遺伝相談 49
遺伝的影響 52
移動機器 76
遺尿 57
医の倫理 16
いびき 54
いびき音 55
衣服環境と健康 39
衣服の機能と健康 39
異物 79, 94, 105
異物除去術 76
異物・溺水・刺咬症の治療・処置 79
胃ポリープ 102
移民 49
医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 31
医薬品・医療機器の副作用・不具合 17
医薬品医療機器等法 31
癒し環境 79
意欲 61
意欲と行動 43
意欲と行動の障害 58
意欲の変化 48
医療安全管理マニュアル 17
医療安全管理委員会 17
医療安全管理者 17
医療安全管理部門 17
医療安全支援センター 17, 30
医療安全文化の醸成 17
医療・介護関連肺炎 96
医療過誤 17
医療観察法 32
医療関連行為 31
医療機関でのチームワーク 27
医療機器の副作用・不具合 17
医療救護班 33
医療記録 16
医療記録の管理と保存 16
医療技術の効率性 23
医療計画 33
医療経済 16, 30
医療圏 33
医療裁判 17
医療事故 17
医療事故情報収集等事業 17
医療事故調査制度 17
医療事故の内容 17
医療事故の発生と再発の防止 17
医療事故の発生要因 17
医療事故の分析手法 17
医療従事者の確保 33
医療情報 17
医療情報の収集 18
医療制度 16
医療専門職間の連携 27
医療訴訟 17
医療的行為 31
医療の質 17
医療の質と安全の確保 17
医療の質の確保 17
医療の質の定義 17
医療の質の評価 17
医療廃棄物 38
医療被ばく 39
医療費負担と給付 30
医療法 16, 31
医療保険 30, 32
医療保険制度 16
医療保険の種類と対象 30
医療面接 18
医療面接の意義 18
医療用麻薬 79
医療連携 33
イレウス管 77
院外心停止 23, 61
陰茎 43
陰茎癌 111
陰茎折症 113
咽喉頭異常感 55
咽後間隙 40
咽後膿瘍 94
インシデント 17
インシデントレポート 17
飲酒 28, 36
飲酒状況 28
飲酒の有害性 28
インスリノーマ 104, 121
インスリン 10
インスリン自己免疫症候群 121
インスリン負荷試験 12
インターベンショナルラジオロジー 75, 79
インターロイキン−1 45
咽頭 21, 70
咽頭炎 94
咽頭結膜熱 126
咽頭・口腔・唾液腺疾患 93
咽頭・口腔の異常 54
咽頭造影検査 69
咽頭痛 19, 54
咽頭の異常 94
咽頭の構造・機能 42
咽頭扁桃増殖症 94
咽頭麻酔 70
院内感染 37
院内感染サーベイランス 17
院内感染症 50
院内感染対策チーム 17
院内感染対策委員会 17
院内肺炎 96
インフォームド・アセント 16
インフォームド・コンセント 16
インフルエンザ 96, 126
インフルエンザ{桿}菌感染症 127
インフルエンザ脳症 114

う

ウイルス 12, 96, 126
ウイルス感染症 91, 114
ウイルス血清反応 11
ウイルス性肝炎 126
ウイルス性下痢症 126
ウイルス性食中毒 129
ウイルス性心筋炎 100
ウイルス性髄膜炎 126
ウイルス性難聴 93
ウイルス性発疹症 24
ウイルスによる感染症 126
植え込み型除細動器 74, 99
右左短絡疾患 99
う歯 55
ウシ海綿状脳症 128
右心不全 99
うっ血 51
うっ血乳頭 91
うっ滞性皮膚炎 89
うつ状態 58
うつ病 24, 87, 129
ウレアーゼ試験 64
ウロビリノゲン 9
運動 28, 47
運動器 20, 43, 47, 58
運動器疾患 26
運動器症候群 36, 48
運動機能 61
運動機能障害の判定 61
運動器の感染性 114
運動器の外傷 118
運動器の構造・機能 44
運動器不安定症 48
運動系 21

運動系伝導路 44
運動系の異常 59
運動失調 20, 59
運動生理 44
運動ニューロン疾患 115
運動の効用 28
運動発達評価 47
運動負荷心電図検査 12
運動麻痺 20, 24, 59

え

鋭的外傷 49
鋭的眼外傷 94
栄養 18, 20, 21, 28, 44, 60
栄養アセスメント 71
栄養管理 28, 71, 74
栄養教育・指導 37
栄養サポートチーム 71
栄養疾患 26
栄養障害 48, 78
栄養所要量 47
栄養状態の評価 47
栄養摂取の方法 71
栄養素の役割とバランス 44
栄養の異常 51
栄養不良 71
栄養マネジメント 28
栄養療法 71
栄養療法の基本 71
会陰 43
会陰裂傷 85
疫学指標 35
疫学的因果関係 35
疫学とその応用 35
疫学の概念 35
エキノコックス症 128
エコーウイルス感染症 126
エコー下穿刺生検 68
壊死性筋膜炎 90, 127
壊死性腸炎 86
エステラーゼ染色 63
エストラジオール 10
エストロゲン・プロゲステロン負荷試験 12
壊疽 53
壊疽性膿皮症 89
エックス線陰性結石 110
エックス線撮影 13, 23
エックス線造影撮影 13
エックス線単純撮影 68
エックス線透視下・超音波下・CT{ガイド}下治療 76
エネルギー及び栄養素の欠乏と過剰 51
エビデンスレベル 23
エピソード 38
エピデミック 34
エボラ出血熱 126
エラスチン代謝の異常 122
エリスロポエチン 10, 42, 43
エリスロポエチン産生過剰 106
遠隔医療 31
遠隔診療 31
円形脱毛症 91
嚥下 42
嚥下機能 42
嚥下機能検査 69
嚥下訓練 76
嚥下障害 19, 54, 56, 61
嚥下性肺疾患 96
嚥下痛 56
援護寮 77
炎症 49, 102, 103, 104, 105, 122
炎症性角化症 90
炎症性腰背部痛 60
炎症性疾患 114
炎症性腸疾患 25
炎症性皮膚疾患 89
炎症の局所的変化 50
炎症の全身的変化 50
炎症反応 64
炎症マーカー 11, 22
遠心路 44
遠城寺式分析的乳幼児発達検査法 67
エンドポイント 23
円背 59, 116

お

横位 84
横隔神経 40, 41
横隔神経麻痺 98
横隔膜 41, 98
横隔膜下・Douglas窩膿瘍 104
横隔膜弛緩症 98
横隔膜損傷 105
横隔膜の形態・機能異常と外傷 97
横隔膜・腹壁疾患 105
横隔膜・腹膜・腹壁疾患 104
横隔膜ヘルニア 98, 105
応急処置 33
応形機能 46
黄色靭帯骨化症 116
黄色ブドウ球菌感染症 127
往診 30
黄体化ホルモン 10
黄体機能不全 112
黄疸 20, 53, 56
横断研究 35
横断性脊髄炎 116
横断性脊髄症 59
嘔吐 19, 56
黄斑円孔 92
オウム病 126
横紋筋融解症 110
太田母斑 89
オープニング 18
お薬手帳 31
屋内環境の管理 39
悪心 19, 56
汚染処理 38
汚染の指標 38
オゾン層破壊 38
オタワ憲章 33
オッズ比 23, 35
オピオイド 79
オピオイドの種類と効果 79
オピオイドの副作用と対策 79
オピオイドローテーション 79
主な感染症の疫学と流行状況 37
主な公害のエピソード 38
オリゴクローナルバンド 9
オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症 122
オルファクトメトリ 67
悪露 46
音叉検査 66
音響陰影 68
音響外傷 93
音響増強 68
音声・言語・咀しゃく機能障害 77
音声障害 55
温度覚 21, 41
温度眼振 67
温熱効果 75
温熱療法 80

か

海外渡航歴 18
開瞼 40
開口期 46
開口障害 55
介護 16, 28, 33
介護医療院 31
介護関連肺炎 96
介護支援専門員 31
介護の必要度 61
介護保険 30
介護保険施設 31
介護保険主治医意見書 31
介護保険制度 16
介護保険法 33
介護予防 36
介護療養型医療施設 31
介護老人福祉施設 31
介護老人保健施設 31
解釈的態度 18
解釈モデル 18
回旋 46
疥癬 91
回旋進入の異常 84
回虫症 128
改訂長谷川式簡易知能評価スケール 67
回転眼振 67
介入研究 36
{灰}白色便 56
海馬 44
回避義務 31
回復期リハビリテーション 76
回復・再増殖・再酸素化・再分布 75
開放骨折 118
海綿状血管腫 89
潰瘍 53, 54

索引

潰瘍性大腸炎……25，102
解離……58
解離症……87
解離性健忘……87
解離性障害……87
解離性神経学的症状症……87
解離性同一症……87
解離性同一性障害……87
解離性脳動脈瘤……114
下咽頭……42
下咽頭癌……94
下咽頭梨状陥凹瘻……94
カウンセリング……26，62，81
過栄養……71
過活動膀胱……112
過換気症候群……24，98
下顎骨骨折……94
化学性食中毒……129
化学的外傷……94
化学的損傷……50，61
化学物質過敏症……130
化学物質中毒……129
化学物質の自発的管理……38
化学放射線療法……75
化学薬品……97
化学療法の併用……75
過期産児……85
下気道の構造・機能……41
過期妊娠……84
過強陣痛……84
可逆性後頭葉白質脳症……84
可逆性脳血管攣縮症候群……84
蝸牛……40
蝸牛窓……40
核医学検査……13，23
核医学検査の原理と技術……69
核医学治療……75
核医学的機能検査……65
角化……40
角化異常……53
角・結膜アルカリ・酸損傷……94
角・結膜化学損傷……94
拡散……41
拡散強調像……69
核酸検査……12
核酸増幅検査……64
核酸代謝……51
覚醒……73
覚醒剤依存・中毒……129
覚醒剤精神病……87
覚せい剤取締法……31
喀痰……19，55，63
喀痰検査……9
喀痰採取……63
拡大内視鏡……70
拡張……76
拡張型心筋症……100
拡張期ランブル……56
拡張期輪転様雑音……56
拡張術……76
拡張早期灌水様雑音……56
拡張早期雑音……56
獲得免疫……45
角膜……40
角膜炎……24，91
角膜潰瘍……91
角膜感染症……91
角膜曲率測定……66
角膜混濁……54
角膜知覚検査……66
角膜の色素沈着……91
確率分布と期待値……35
過形成性ポリープ……102
下喉頭神経……41
過誤腫……97
可視光線……94
下肢静脈瘤……25
過失……31
過失傷害……31
下肢の運動器疾患……116
過少月経……112
過食……56
加重型妊娠高血圧腎症……84
過重労働対策……28，38
過重労働による障害……129
過剰と欠乏……47
下垂体……10，43，44，122
下垂体機能障害……120
下垂体疾患……120
下垂体腫瘍……114，120
下垂体性無月経……111
下垂体腺腫……114，120
下垂体前葉機能低下症……120
苛性カリ直接鏡検法……66
仮性クループ……93
仮性嚢胞……104
かぜ症候群……93，96
家族機能……16
家族ケア……27，79
家族計画……36
家族構成……30
家族性高コレステロール血症……121
家族性腺腫性ポリポーシス……103
家族性地中海熱……125
家族との連携……28
家族の医療への参加……16
家族療法……80
家族歴……18
下腿・足の疾患……117
肩関節周囲炎……116
肩関節脱臼……118
肩関節の疾患……116
過多月経……112
肩凝り……60
下大静脈フィルター留置術……101
喀血……19，55
滑車神経麻痺……91
褐色細胞腫……100，121
活性化部分トロンボプラスチン時間……9
カットオフ値……22，23
滑液包炎……117
活動……30
活動性低下・不機嫌……20
滑膜……44
滑膜炎……117
滑膜肉腫……117
過程……17
家庭環境……18
家庭内事故……130
家庭におけるアレルギー・過敏症……130
家庭用品による障害……130
カテーテルアブレーション……75，99
カテコラミン……11
寡動……59
可動域……21
カニ爪陰影欠損……105
加熱式……28
過粘稠度症候群……106
化膿性関節炎……114
化膿性骨髄炎……114
化膿性脊椎炎……114
化膿性中耳炎……92
痂皮……53
過敏性腸症候群……25，102
過敏性肺炎……96，124，129
下腹痛……57
花粉症……124
下部消化管内視鏡検査……13
下部尿路腫瘍……111
下部尿路症状……57
下部尿路閉塞性疾患……110
寡分割照射……75
過分割照射……75
カプセル内視鏡……70
カプセル内視鏡検査……13
貨幣状湿疹……89
カポジ水痘様発疹症……91
過眠……58
過眠症……88
カラードプラ法……65，68
カラードプラ<Doppler>心エコー検査……13
カリウム代謝異常……110
顆粒球コロニー刺激因子……42
カルシウム代謝異常……110
カルシウム・リン代謝異常……120
カルシトニン……10
カルチノイド……97
カルディオバージョン……77
加齢……48
加齢黄斑変性……92
加齢と健康状態……36
加齢による機能低下……48
加齢による疾患の特徴……48
加齢による変化……48
カロリックテスト……67
川崎病……100，125
簡易精神症状評価尺度……67
肝炎対策基本法……32
感音機構……40
感音難聴……54
感覚……21
感覚器……19，40，46，54
感覚器機能検査……66

索引

感覚系伝導路 44
感覚障害 20, 24, 59
感覚の障害 59
肝外門脈閉塞症 104
肝芽腫 105
肝癌 25
換気 39, 41
換気血流比 41
肝機能障害 73
換気分布 41
環境 30, 35
環境アセスメント 38
環境異常の治療 78
環境因子 49
環境因子と胎児障害 36
環境因子による奇形 49
環境影響評価 38
環境汚染 36
環境汚染の概念 38
環境汚染の発生要因と健康影響 38
環境汚染の評価と対策 38
環境基準 38
環境基本法 32
環境(社会経済的・構造的)レベルと個人レベルの要因 28
環境と健康 30
環境と適応 38
環境の概念 38
環境への配慮 18
環境保健 32, 38
環境保全 38
環境モニタリング 38
換気力学 41
換気量 41
冠血管 41
肝血管腫 103
間欠性跛行 56
観血的 78
汗孔角化症 90
肝硬変 25, 103
肝細胞癌 75, 103
観察 70
監察医制度 52
観察研究 35
鉗子 79
肝疾患 103
間質 42
間質性腫瘍 111
間質性腎炎 26
間質性肺疾患 25
間質性肺障害 97
間質性膀胱炎 110
間質病変 109
肝腫大 56
カンジダ症 90, 96, 127
患者医師関係の構築 18
患者会 77
患者確認と検体の確認 22
患者・家族の医療への参加 16
患者教育・カウンセリング 26
患者クラブ 77
患者・市民参画 16
患者・障害者のもつ心理・社会的問題 16
患者・障害者の社会活動と社会参加 16
患者・障害者の心理と態度 16
患者中心型モデルに基づく面接 18
患者中心性 17
患者中心の医療 16
患者調査 35
患者の教育 18
患者の権利と義務 16
患者の問題の定式化 23
患者の理解度 19
患者への声かけと診察に必要な例示 20
患者への適用 23
患者への配慮 20
患者本人であることの確認 18
患者要因 71
感受性試験 12, 72
冠循環 42
感情 43
感情・意欲・性格の変化 48
感情障害 58, 87
冠状断 69
感情と行動の変化 49
環状肉芽腫 91
感情面への対応 18
緩徐進行型 121
肝・腎障害 71
肝性昏睡 61
肝性脳症 25, 87
関節 21, 44
間接Coombs試験 11
関節液 63
関節エックス線撮影 13
関節炎 90, 117
関節可動域訓練 76
関節感染症 114
関節鏡 73
関節強直 59
関節腔 70
関節系統疾患 116
関節拘縮 59, 118
関節弛緩 59
関節疾患 77
関節腫脹 20, 59
関節症 117
関節造影検査 69
関節痛 20, 59
関節動揺性 59
関節内骨折 118
関節内出血 57
関節軟骨 44
関節の外傷 118
関節破壊 59
関節不安定性 59
関節変形 20, 59
関節包 44
関節やその周辺構造の障害 59
関節リウマチ 26, 109, 117, 124
関節リウマチとその類縁疾患 124
関節離断 118
乾癬 90
感染 50
感染経路別予防策 17
感染症 34, 36, 102, 103, 104, 105, 122
感染症検査 22, 67
感染症対策 32, 37
感染症の疫学 37
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 32
感染症発生動向調査 37
感染症法 32
感染性 51
感染性胃腸炎 102
乾癬性関節炎 124
感染性呼吸器疾患 96
感染性心内膜炎 100
感染性大腸炎 102
感染性腸炎 102
感染性廃棄物 38
感染対策マニュアル 17
感染と発症 50
感染による免疫不全症 125
感染の抗原・抗体 11
感染病原体の抗原・抗体 64
感染防御機構 50
感染防止 78
感染マーカー 11
感染様式と経路 50
感染予防 74
完全大血管転位症 99
肝損傷 105
肝臓 21, 47
肝臓の機能 42
肝・胆道機能検査 65
肝・胆道・膵の構造 42
肝・胆道・膵の構造・機能 42
嵌頓ヘルニア 105
感度 23
冠動脈疾患 112
冠動脈バイパス術 100
冠動脈瘤 100
肝内胆管癌 103
肝内胆汁うっ滞 103
肝の異常 105
間脳 122
間脳・下垂体疾患 120
肝嚢胞 103
肝膿瘍 103
カンファレンスでのプレゼンテーション 19
肝不全 25
肝包虫症 103
感冒 93, 96
肝門部空腸吻合術 105
管理濃度 38
寒冷凝集素症 106
寒冷凝集反応 11
寒冷による障害 26
関連強固性 35
冠攣縮性狭心症 100

索引

関連障害 88
関連痛 56
関連を表す指標 35
緩和ケア 27, 79, 80
緩和ケアチーム 27, 79, 80
緩和ケアの概念 27, 79
緩和ケア病棟 27, 79, 80
緩和照射 75
緩和的外科治療 79
緩和的放射線治療 79

が

臥位 21
外陰 43
外陰Paget病 111
外陰炎 110
外陰癌 111
外因死 52
外陰腟カンジダ症 110
外陰の腫瘍 111
外陰部の異常 57
外眼筋 40
外眼部の異常 54
外眼部の疾患 91
外傷 24, 61, 96, 100, 102, 103, 105
外傷患者初期診療 23
外照射 75
外傷性気胸 25
外傷性耳小骨離断 94
外傷性切断 118
外傷性てんかん 118
外傷性脳内血腫 118
外傷の合併症 118
外傷の治療・処置 78
外耳 40, 70
外耳・中耳疾患 92
概日リズム 43
概日リズム障害 88
外耳道 40
外耳道異物 92
外耳道癌 92
外耳道の異常 92
外耳道閉鎖症 95
外生殖器の異常 57
咳嗽 19, 55
外側膝状体 40
外的妥当性 23
外転神経麻痺 91
ガイドライン・プロトコール 27
概念 50
外反母趾 117
外表 53
外表奇形 62
外鼻孔 40
外部被ばく 52
外分泌機能検査 65
外リンパ瘻 93
ガウンテクニック 27
顎関節症 94
顎骨腫瘍 94
顎骨の異常 94
学習障害 58
学習と社会経験 48
学術批判的吟味 23
学童期 47
学童期の児の診察 62
学童の栄養 47
学力の特異的発達障害 88
学齢期好発疾患と予防 37
ガス壊疽 90, 127
ガス交換・酸塩基平衡・電解質の評価 61
ガス中毒 129
ガストリノーマ 104
ガストリン 10
ガストリン・ペプシノゲン測定 65
ガス・物質交換と代謝 46
画像強調内視鏡 70
画像検査 68
画像検査との相関 40
画像検査における医療情報 68
画像診断支援システム 68
画像情報システム 68
画像・内視鏡検査 23
画像の記録 16
画像誘導放射線治療 75
学校安全教育・安全管理 37
学校医と保健管理 37
学校医の職務 37
学校精神保健 37
学校における感染症の予防 37
学校における出席停止 37
学校保健 32, 37
学校保健安全法 32
学校保健の現状と動向 37
合併症 69, 70, 71, 77, 78, 80
合併症妊娠 84
合併症の評価 61
ガドリニウム造影剤 69
ガラクトース血症 122
がん 129
がん悪液質の概念と病状把握 79
眼圧 40
眼圧検査 66
眼位 40
眼位・眼球運動障害 91
眼位検査 66
がん遺伝子 50
眼窩 40
眼窩・外眼部・前眼部・眼球の疾患 91
眼窩腫瘍 91
眼窩の異常 91
眼外傷 78
眼球 21, 40
眼球運動 40
眼球運動異常 54
眼球運動・眼振の検査 67
眼球運動障害 19, 91
眼球陥凹 54
眼球突出 54, 91
眼球の異常 54
眼球の疾患 91
眼球付属器 40
眼筋麻痺 91
ガングリオン 117
眼瞼 21, 40
眼瞼炎 91
眼瞼下垂 54
眼瞼外反 91
眼瞼けいれん 93
眼瞼腫瘍 91
がん検診 36
眼瞼内反 91
眼瞼の異常 91
{眼}瞼裂狭小 54
眼脂 19, 54
眼症状 54
眼振 54
眼振の検査 67
眼軸長検査 66
癌性胸膜炎 97
癌性髄膜炎 114
眼精疲労 54
癌性腹膜炎 104
癌性リンパ管症 97
眼組織の異常 54, 92
がん対策基本法 32
含窒素成分 10, 63
眼痛 19, 54
眼底検査 66
がんと遺伝的要因・外的要因 50
がん疼痛 79
眼内炎 92
眼内腫瘍 92
眼内レンズ 74
眼内レンズ挿入術 92
眼表面・涙器の異常 91
顔貌 21
顔貌の異常 53
顔面・頸部外傷 78
顔面けいれん 93
顔面肩甲上腕型 116
顔面骨折 94
顔面神経 40
顔面神経麻痺 93
顔面の構造 40
顔面の骨折 94
がん抑制遺伝子 50
がんリハビリテーション 76

き

気圧による障害 130
既往歴 18
既往歴・合併症の評価 61
記憶 43
記憶障害 58
機械性 51
機械的合併症 71
機械的呼吸・循環補助 77
機械的補助循環 74
機械弁 74
気管 21, 41, 70

索引

気管・気管支腫瘍 97
気管・気管支損傷 96
気管・気管支の異常 55, 96
気管・気管支の狭窄・閉塞 96
気管・気管支・肺の形態・機能異常 96
器官形成期 46
器官形成と臓器の成熟 46
気管呼吸音 21
気管支 41, 70
気管支炎 25, 96
気管支拡張症 96
気管支鏡検査 13
気管支呼吸音 21, 55
気管支腫瘍 97
気管支喘息 25, 96, 124
気管支損傷 96
気管支の異常 55
気管支の狭窄・閉塞 96
気管支の形態・機能異常 96
気管支・肺・胸膜・縦隔の腫瘍 97
気管支・肺の異常 96
気管支肺胞呼吸音 55
気管支肺胞洗浄 70
気管食道瘻 98
気管切開 77
気管挿管 23, 73, 77
期外収縮 56
気胸 98
奇形 94
危険因子 69
気質 43
器質性月経困難症 112
器質性精神病 87
気腫性嚢胞 96
記述疫学 35
基準値 22
基準病床数 33
機序 71
寄生虫 12, 127
寄生虫症 96
寄生虫性肝疾患 103
基礎体温 43
拮抗 71
拮抗薬 78
喫煙 28, 36
喫煙状況・種類 28
喫煙による健康障害 129
喫煙による障害 129
喫煙の有害性 28
吃音 88
基底細胞癌 89
基底膜 40
基底膜菲薄化症候群 109
亀頭包皮炎 110
気道 76
気道異物 96
気道確保 23, 27, 73, 77
気道感染症 96
気導・骨導聴力閾値検査 66
気道熱傷の治療 78
機能異常 51, 102, 105
機能訓練 31
機能肢位 59
機能性月経困難症 112
機能性子宮出血 112
機能性疾患 116
機能性消化管障害 25
機能性ディスペプシア 25, 102
機能性難聴 93
機能性卵巣嚢胞 111
キノコ 129
亀背 116
希発月経 112
気分 43, 61
気分障害 87
基本概念 28
基本手技 70
基本的緊急薬物療法 23
基本的手技 27
基本的な救急処置 23
基本的な手術手技 72
基本動作訓練 76
奇脈 56
客観的所見 16
キャリア 50
吸引分娩 79
嗅覚系・味覚系の構造・機能 41
嗅覚障害 54
嗅覚・味覚検査 67
嗅覚路 44
吸気の加温・加湿 41
救急医療 33
救急医療の確保 33
救急医療機関 33
救急医療情報 33
救急医療体制 33
救急医療用ヘリコプター 33
救急患者の治療 27
救急患者の診察 23
救急救命士 33
救急指定病院 33
救急車 33
救急初期診療 23
救急隊員 33
救急搬送 33
球形嚢 40
救護活動の基本 24
吸収 71
吸収線量 68
吸収不良症候群 102
丘疹 53
求心路 44
休日夜間急患センター 33
嗅上皮 41
急性 96
急性アルコール中毒 129
急性胃炎 102
急性胃腸炎 25
急性一過性精神病性障害 87
急性胃粘膜病変 102
急性灰白髄炎 126
急性化膿性限局性外耳炎 92
急性肝炎 25, 103
急性間質性腎炎 109
急性冠症候群 25, 61, 100
急性肝不全 61, 78
急性合併症 121
急性期 80
急性期反応 51
急性期リハビリテーション 76
急性喉頭炎 93
急性喉頭蓋炎 93
急性硬膜下血腫 118
急性硬膜外血腫 118
急性呼吸窮迫症候群25, 73, 78, 97
急性呼吸不全 61, 78, 97
急性骨髄性白血病 106
急性散在性脳脊髄炎 114
急性糸球体腎炎 109
急性糸球体腎炎症候群 26
急性出血性結膜炎 126
急性消化管出血 24, 61
急性小脳性失調症 114
急性心筋梗塞 25, 100
急性心不全 61, 78, 99
急性心膜炎 100
急性腎盂腎炎 110
急性腎障害 26, 61, 78, 110
急性膵炎 25, 104
急性声門下喉頭炎 93
急性大動脈解離 25
急性中耳炎 24, 92
急性虫垂炎 25
急性中毒 51, 61, 87, 130
急性中毒の治療・処置 78
急性動脈閉塞症 101
急性尿細管壊死 109, 110
急性脳炎 114
急性脳症 114
急性肺血栓塞栓症 97
急性白血病 26
急性腹症 61, 105
急性副腎不全 120
急性腹膜炎 105
急性閉塞性化膿性胆管炎 104
急性ヘルペス性口内炎 93
急性扁桃炎 94
急性放射線障害 61, 75, 78, 130
急性腰痛症 116
急性リンパ性白血病 106
球脊髄性筋萎縮症 115
急速・緩徐導入 73
急速進行性糸球体腎炎症候群 109
急速遂娩 79
吸虫症 96, 128
吸入 71
吸入麻酔 73
救命救急センター 33
休養・心の健康 28
狭圧 49
胸囲 47
強オピオイド 79
境界性パーソナリティ障害 88
胸郭 21, 41, 44
胸郭出口症候群 116

索引

胸郭の形態・機能異常と外傷 97
胸郭の構造・機能 41
胸郭変形 98
共感 18
胸管 42
共感的態度 18
狂牛病 128
胸腔 27，70
胸腔鏡 73
胸腔穿刺・ドレナージ 77
胸腔内圧 41
胸骨圧迫 77
頬骨骨折 94
狭骨盤 84
強剛母指 117
鏡視下手術 73
経食道心エコー検査 13
狭心症 25，100
胸水 55，63
胸水・腹水・全身浮腫の治療とケア 79
胸水・腹水の検査 22
胸髄損傷 118
強制利尿 78
胸腺 41，45
胸腺腫瘍 97
胸腺低形成 125
強直間代発作 116
強直性脊椎炎 116，124
胸痛 19，24，55
狭頭 59
共同意思決定 16
強度変調放射線治療 75
強迫観念 58
強迫症 87
強迫性障害 87
強皮症腎クリーゼ 109
恐怖 20，58
胸腹部大動脈瘤 101
胸部圧迫感 19
胸部エックス線撮影 13
胸部外傷 78
胸部大動脈瘤 101
胸部の診察 21
胸部・腹部大動脈瘤 75
胸壁 41，98
胸壁疾患 25
強膜 40
胸膜 41，98
強膜炎 91
胸膜炎 96
胸膜腫瘍 97
胸膜・縦隔・横隔膜・胸郭の形態・機能異常と外傷 97
胸膜・縦隔の感染症 96
胸膜中皮腫 97
胸膜の腫瘍 97
胸膜プラーク 97
胸膜摩擦音 55
局在関連性てんかん 116
局所解剖 40
局所浸潤 51
局所振動 39
局所麻酔 70，74
局所麻酔薬中毒 74
局所療法 78
局所療法剤 78
虚血 51
虚血性心筋症 100
虚血性心疾患 100，129
虚血性腸炎 103
巨細胞性動脈炎 124
拒食症 120
居住・衣服環境と健康 39
巨赤芽球性貧血 106
居宅介護支援事業所 31
居宅サービス 31
巨大児 85
巨大舌 54
許容濃度 38
寄与危険度 23，35
起立性調節障害 51
起立性低血圧 51，101
起立・歩行障害 59
筋 44
筋萎縮 59
筋萎縮性側索硬化症 115
禁煙支援 28
禁忌 68，69，74
緊急血液浄化法 77
緊急手術 73
緊急治療の要否・部位別優先順位の判断 61
緊急治療の要否の判断 23
緊急度 77
緊急避妊 112
緊急ペーシング 23，77
筋強剛 59
筋強直性ジストロフィー 116
筋けいれん 59
菌交代現象 50
菌交代症 50
筋骨格系の診察 21
筋弛緩薬とその拮抗薬 73
筋疾患 77，115，116
筋ジストロフィー 100，116
菌状息肉症 90
筋性斜頸 116
筋性防御 21，56
金属代謝の異常 122
金属中毒 129
筋断裂 118
緊張型頭痛 26，116
緊張型統合失調症 87
緊張性気胸 25，51，98
緊張病症候群 58
筋電図・神経伝導検査 65
筋肉 27
筋肉痛 20，59
筋肉内出血 57
筋の障害 59
筋膜切開 78
筋力増強訓練 76
筋力低下 20，59

ぎ

偽関節 118
義肢 76
技術革新と健康障害 49
偽性球麻痺 114
偽痛風 26，117，125
偽膜性腸炎 102
逆流性食道炎 102
逆行性尿路造影検査 13
ギャンブル依存 87
ギャンブル障害 87
仰臥位 21
凝固 76
凝固因子の異常 107
凝固・線溶異常 72
凝固・線溶系 42
凝固・線溶系検査 22
凝固・線溶・血小板機能検査 9，63
行政解剖 52
業務上疾病の発生状況 37
魚鱗癬 90

く

空間的線量分布 75
空腹時血糖 10
区画症候群 78，118
口および口腔内の異常 54
唇・口蓋の先天異常 95
屈折異常 91
屈折検査 66
苦痛緩和のための鎮静 79
苦痛のアセスメント 27
苦痛への配慮 20
国と地方公共団体 30
クモ 129
くも状血管拡張 89
くも膜下出血 26，59，114
クラス 64
クラミジア 12
クラミジア結膜炎 126
クラミジア性尿道炎 111
クラミジア肺炎 126
クラミジア・マイコプラズマ・リケッチアによる感染症 126
クリアランス 43
クリオグロブリン血症性血管炎 125
クリッピング 76
クリティカル・アプレイザル 23
クリニカルパス 17
クリプトコックス症 96，128
クリプトスポリジウム症 128
クループ症候群 93
くる病 116，120
車椅子 76
クレアチニン 10
クレアチニンクリアランス 12，65
クレチン症 122
クレブシエラ感染症 127

クロストリジウム・ディフィシル腸炎 127
クロスマッチ 10, 63, 72
クロール定量 9

ぐ

隅角 40
隅角検査 66
偶然誤差 35
偶発がん 50
偶発性低体温{症} 130
グリーフケア 27, 80
グループホーム 31, 77
グルカゴノーマ 104
グルカゴン 10
グルカゴン負荷試験 12
グルココルチコイド及び非ステロイド性抗炎症薬 72
グロムス腫瘍 89, 117
群発頭痛 116

け

ケアプラン 31
ケアマネジャー 31
計画 16
経カテーテル大動脈弁留置術 99
頸管開大度の診断・表現法 62
経管・経腸栄養 71
頸管成熟度 62
頸管・腟・会陰裂傷 85
頸管縫縮術 84
頸管無力症 84
頸筋群 40
頸筋膜 40
頸肩腕障害 129
経口 71
経口栄養 71
蛍光眼底造影検査 66
経口グルコース負荷試験 65
経口避妊薬 112
脛骨前粘液水腫 91
経済的支援 16
憩室炎 103
形質細胞 45
憩室出血 103
痙縮 59
形状 21
頸静脈 40
経静脈栄養 71
頸静脈孔 40
頸静脈孔症候群 93
頸静脈怒張 56
頸髄・胸髄・腰髄損傷 118
痙性斜頸 115
痙性対麻痺 115
形態異常 85, 102, 103, 104 105
経腟超音波検査 13
経腸栄養 71
経腸栄養の選択 74
傾聴の仕方 18
頸椎 24
頸動脈 40
茎捻転 111
珪肺 97
経皮吸収 40
経皮血管形成術 75
経皮的胃瘻造設 76
経皮的冠動脈インターベンション 100
経皮的局所療法 76
経皮的心房中隔欠損閉鎖術 99
経皮的生検 64, 76
経皮的動脈管閉鎖術 99
経皮的ドレナージ 76
頸部外傷 78
頸部血管 21
頸部刺創 78
頸部腫脹 54
頸部腫瘤 54
頸部超音波検査 13
頸部の異常 54, 94
頸部膿瘍 94
頸部の構造 40
頸部リンパ節炎 94
頸部リンパ節結核 94
刑法 31
けいれん 24, 53
けいれん重積状態 24
けいれん性疾患 119
けいれん発作 19
結果 17
結核 127
結核菌特異的全血インターフェロンガンマ遊離試験 11, 64
結核・抗酸菌検査 12
結核疹 90
結核性 96
結核性関節炎 114
結核性骨関節炎 114
結核性髄膜炎 114
結核性脊椎炎 114
結果の解釈 22
血管 19, 55, 70
血管炎症候群 26, 109
血管炎症候群とその関連疾患 124
血管芽腫 114
血管奇形 75
血管系 42
血管系治療 75
血管雑音 21, 56
血管腫 89, 103, 117
血管性 115
血管性病変 103
血管性浮腫 89, 124
血管損傷 100
血管造影検査 13, 68
血管肉腫 90
血管・尿細管・間質病変 109
血管の異常による出血傾向 107
血管の構造・機能 41
血管病変 102, 103, 104, 105
血管・リンパ管奇形 53
血球 63
血球検査 9, 22
血球貪食症候群 107
血球貪食性リンパ組織球症 107
血球の形態・機能 42
血球の産生・崩壊とその調節 42
血胸 98
血行障害 51
血行性転移 51
結婚と離婚 35
結紮 27, 76
結紮法 72
血色素尿 57
欠失 49
血漿アンチトロンビン 9
血漿交換 72
血漿とその成分 42
血小板 9, 42
血小板機能検査 9, 63
血小板凝集能 9
血小板形態 63
血小板の異常 107
血小板無力症 107
血漿フィブリノゲン 9
血漿分画製剤 72
血漿分離法 63
結晶誘発性関節炎 26, 125
血漿レニン活性 10
欠神発作 116, 119
血清FDP 9
血清学的診断 22
血清・血漿分離法 63
血清抗体 64
血清シスタチンC 65
血清蛋白の異常 121
血清病 124
血清補体価 11
結石症 110
結節 53
結節性硬化症 89, 119
結節性紅斑 89
結節性多発動脈炎 109, 124
結節性痒疹 89
血栓 51
血栓回収術 75
血栓傾向 20, 57
血栓性血小板減少性紫斑病 107
血栓性疾患 107
血栓性静脈炎 89
血栓性微小血管症 109
血栓塞栓症 85
血栓溶解療法 75
血痰 19, 55
血中・尿中ホルモン測定 65
血中薬物・毒物と代謝産物 63
結腸 70
結腸癌 102
結腸疾患 102
結腸の異常 105
血糖 10
血糖管理 74

索引

血圧……21，41
血圧異常……51，56，100
血圧の調節……43
血液……20，42，47，57
血液学検査……22，63
血液ガス・電解質分析……61
血液ガス分析……68
血液型……10，22，63，67，72
血液型不適合妊娠……84，85
血液吸着……72
血液凝固因子製剤……72
血液・血液製剤の安全性……17
血液検査……67
血液浄化……72
血液浄化法……74，78
血液製剤の安全性……17
血液・造血器疾患……25
血液・造血器の構造・機能……42
血液中のガス運搬……41
血液透析……72
血液濾過……72
結合組織の代謝……40
血精液症……57
血尿……20，57，109
血尿・蛋白尿……109
血便……19，56
欠乏と過剰……51
結膜……40
結膜アルカリ・酸損傷……94
結膜炎……24，91
結膜化学損傷……94
結膜下出血……91
結膜充血……19
血友病……107
血友病性関節症……117
血流測定……68
血流分布異常性ショック……51，77
ケトン体……9
ケモカイン……45
ケラトアカントーマ……89
ケロイド……49，89
腱……44，74
検案書……17
検疫……37
検疫法……32
研究デザイン……23
健康観……19
健康管理……38
健康管理の概念・方法……35
健康教育・学習……35
健康・疾病・障害の概念と社会環境……30
腱拘縮……60
健康食品……37
健康診断……22，37
健康診断・診査と健康管理……35
健康診断・診査と事後指導……35
健康診断と事後指導……38
健康寿命の延伸と生活の質の向上28
健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法……32
健康相談……35
健康増進とヘルスプロモーション33
健康増進の概念……33
健康増進法……32
健康づくり支援のための環境整備28
肩甲難産……84
健康の概念……30
健康の社会環境モデル……28
健康の定義……30
健康保険法……32
健康保持・増進……35
健康保持・増進の概念……35
健康保持増進対策……38
検査・画像・手術の記録……16
検査後確率……23
検査前確率……23
検査前全身状態の評価……70
検査値の加齢変化……48
検査の安全性……22
検査の合併症……22
検査の基本……21
検査の精度管理……22
検査や治療に対する希望・好み・19
腱鞘炎……117
顕性遺伝……49
検体検査……63
検体の採取……22，64
検体の採取と保存……63
検体の保存……22
検体保存法……63
腱断裂……60，118
建築物衛生……39
建築物衛生法……32
建築物における衛生的環境の確保に関する法律……32
検定と推定……35
見当識……43
腱反射……21
腱板断裂……116
顕微鏡検査(虫卵など)……9
顕微鏡的多発血管炎・96，109，124
顕微授精……80
腱付着部炎……117
健忘……58
瞼裂狭小……54

げ

芸術……28
芸術療法……80
ゲーム依存……87
外科手技……27
外科的気道確保……23，77
外科的侵襲に対する反応……72
劇症肝炎……103
劇症型……121
劇症型A群β溶連菌感染症……90
下血……19，56
下水道法……32
月経……43
月経異常……20，26，57，111
月経困難症……112
月経周期と量の異常……57，112
月経前症候群……112
月経痛……57
月経瘻……113
解毒・拮抗薬……78
解熱鎮痛薬依存・中毒……129
ゲノム要因……71
下痢……19，56
減圧症……78，130
減圧法……73
原因と分類……49
幻覚……20，58
減感作療法……80
限局性学習障害……88
言語障害……59，77
言語聴覚療法……76
言語的コミュニケーション……18
言語発達……47
言語発達障害……59
言語発達遅滞……58
原始反射と姿勢反射……47
現実感喪失症……87
減弱……55
現状と動向……36，37
原虫……12
減張切開……78
原発性……98，121
原発性悪性骨腫瘍……117
原発性アミロイドーシス……107
原発性アルドステロン症……120
原発性硬化性胆管炎……104
原発性高脂血症……121
原発性骨髄線維症……106
原発性性腺機能低下症……121
原発性胆汁性肝硬変……103
原発性胆汁性胆管炎……103
原発性ネフローゼ症候群……109
原発性免疫不全症……125
原発性良性骨腫瘍……117
現病歴……18
原理……69
原理と検査技術……68

こ

抗ARS抗体……11
抗CCP抗体……11
抗dsDNA抗体……11
抗GAD抗体……11
高IgM症候群……125
抗Jo-1抗体……11
抗MDA5抗体……11
抗Mi-2抗体……11
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体……11
抗RNP抗体……11
抗Scl-70抗体……11
抗Sm抗体……11
抗SS-A抗体……11
抗SS-B抗体……11
抗TIF1-γ抗体……11
抗TSH受容体抗体……11
抗β2グリコプロテインI抗体……11

抗アクアポリン4抗体 11
抗アセチルコリン受容体抗体 11
高圧酸素療法 80
抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体 11
広域医療搬送 33
行為障害 88
行為の正当化 68
抗インスリン抗体 11
高温環境による疾患 130
構音検査 67
構音障害 20, 59
構音障害訓練 76
硬化 53
光覚 40
口角 40
光覚異常 54
口角炎 93
光覚検査 66
抗核抗体 11
降下性縦隔炎 96
硬化性肺胞上皮腫 97
硬化療法 75, 76
抗カルジオリピン抗体 11
光干渉断層計 66
交感神経幹 40, 41
交換輸血 72
口蓋 42
口蓋裂 95
公害健康被害の補償等に関する法律 32
公害健康被害補償制度 38
公害の概念 38
公害の健康被害と対策 38
口蓋の先天異常 95
口蓋扁桃肥大症 94
抗菌スペクトル 72
抗菌薬 72
抗菌薬の適正使用 17
抗凝固剤 63
口腔 21
口腔アレルギー症候群 124
口腔・咽頭の構造・機能 42
口腔環境 42
口腔カンジダ症 93
口腔乾燥症 55
口腔・口唇の癌 94
口腔疾患 93
口腔内感染 55
口腔粘膜の異常 54
口腔の異常 54, 93
抗血小板薬による粘膜障害 103
高血糖高浸透圧症候群 121
硬結 54
高血圧 19, 51, 56
高血圧合併 84
高血圧緊急症 51, 100
高血圧症 25
高血圧性腎硬化症 109
高血圧性脳出血 114
高血圧による眼底変化 24
硬結性紅斑 90
光顕・電顕標本 12
抗原迅速検査 12
抗原提示細胞 45
膠原病および類縁疾患に伴う肺病変 96
膠原病と類縁疾患 84, 124, 125
膠原病に伴う腎病変 109
膠原病・リウマチ性疾患 26
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 11
咬合 42
抗合成酵素症候群 124
抗好中球細胞質プロテイナーゼ-3抗体 11
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体 11
虹彩 40
虹彩炎 92
虹彩毛様体炎 92
虹彩ルベオーシス 54
抗サイログロブリン抗体 11
交差混合試験 107
交差適合試験 10, 63, 72
後産期 46
好酸球 45
好酸球性胃腸炎 103
好酸球性血管性浮腫 124
好酸球性食道炎 103
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 96, 124
好酸球性中耳炎 92
好酸球性肺炎 96
好酸球性副鼻腔炎 93
好酸球増多症候群 106
抗酸菌 127
抗酸菌検査 12
抗酸菌症 96
抗酸菌による感染症 127
高在縦定位 84
高山病 78, 130
抗糸球体基底膜抗体病 125
光視症 54
口臭 55
公衆衛生と医療 30
公衆衛生の概念と機能 35
抗腫瘍薬 72
口唇 21, 40
亢進症・低下症 84
高身長 60
口唇の癌 94
高次脳機能 43
高次脳機能障害 58, 118
後縦靱帯骨化症 116
後縦隔 41
公助 30
甲状腺 10, 21, 44, 122
甲状腺^{123}I摂取率 12, 65
甲状腺悪性腫瘍 120
甲状腺機能異常合併妊娠 84
甲状腺機能障害 87, 120
甲状腺機能低下症 26, 120
甲状腺機能亢進症 26, 100, 120
甲状腺クリーゼ 61
甲状腺刺激ホルモン 10
甲状腺疾患 120
甲状腺腫 20, 54
甲状腺の炎症 120
甲状腺の腫瘍 120
甲状腺良性腫瘍 120
後陣痛 46
硬性鏡 70
向精神薬依存・中毒 129
光線過敏 53
光線過敏症 90
光線性眼障害 94
光線テスト 66
抗セントロメア抗体 11
光線療法 80
酵素 10, 63
梗塞 51
拘束型心筋症 100
酵素結合免疫吸着法 64
酵素阻害 71
酵素組織化学染色 12
酵素誘導 71
構造異常 49
構造・過程・結果 17
高体温 24
抗体検査法 64
抗体産生不全を主とする免疫不全症 125
抗体療法 80
抗第Ⅷ因子インヒビター 107
叩打痛 21
好中球 45
好中球機能検査 11
好中球性皮膚症 89
高張食塩水負荷試験 12
交通事故 130
交通性水頭症 118
肯定 18
高・低エコー域 68
公的扶助 30
後天性von Willebrand病 107
後天性血小板機能異常症 107
後天性血栓形成傾向 107
後天性血友病 107
後天性水疱症 90
後天性鉄芽球性貧血 106
後天性表皮水疱症 90
後天性免疫不全症候群 125, 126
喉頭 41, 70
後頭蓋窩 40
喉頭癌 93
喉頭疾患 93
喉頭損傷 95
喉頭内視鏡検査 13
喉頭乳頭腫 93
喉頭の異常 55, 93
行動 30
行動の変化 48
行動反応聴力検査 66
行動変容 16, 28
行動療法 80
行動レベルと行動変容 28
高二酸化炭素血症 55

高尿酸血症 26, 122
更年期 18
更年期障害 26, 112
更年期の健康問題 18
更年期の身体・心理・精神機能 18
更年期・閉経後障害 112
紅斑 53
紅斑症 89
広汎性発達障害 88
広範な脳機能障害 58
公費医療 30
公費医療の種類と対象 30
紅皮症 89
高ビリルビン血症 85
高フェニルアラニン血症 122
後腹膜腫瘍 104
興奮 20
項部硬直 59
後部ぶどう膜炎 92
高プロラクチン血症 112, 120
抗平滑筋抗体 11
公平性 17
後方後頭位 84
後房 40
硬膜外麻酔 74
硬膜静脈洞 44
硬膜動静脈瘻 114
抗ミトコンドリア抗体 11
肛門 70
肛門管癌 103
肛門癌 103
肛門疾患 102
肛門周囲膿瘍 102
肛門と直腸の診察 21
肛門内圧検査 12, 65
肛門の異常 105
絞扼性腸閉塞 105
交絡因子 23
効率性 17
抗利尿ホルモン 10
抗リン脂質抗体症候群 107, 112, 124
高齢者 71
高齢者医療確保法 32
高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律 32
高齢者総合機能評価 18, 61
高齢者の医療の確保に関する法律 32
高齢者の栄養マネジメント 71
高齢者の健康保持・増進 36
高齢者の疾患の特徴と頻度の変化 48
高齢者の診察 61
高齢者の診察と評価 61
高齢者の心理的特徴 48
高齢者の人口・死因・受療率・有訴率 36
高齢者の生理的特徴 48
高齢者保健 32, 36
高齢者麻酔 73
高齢者労働 37
後弯 59
後弯症 116
股関節の疾患 117
呼気延長 55
呼気終末二酸化炭素濃度 73
呼気終末陽圧換気 80
呼吸 18, 21, 47
呼吸運動 41
呼吸音 21
呼吸音の減弱・消失 55
呼吸音の増強 55
呼吸音の変化 55
呼吸器 19, 41, 46, 55, 77, 124
呼吸器合併症 73
呼吸器・胸壁・縦隔疾患 25
呼吸器作用薬 72
呼吸器疾患 129
呼吸機能 12, 41
呼吸機能検査 22, 65
呼吸窮迫症候群 85
呼吸筋 41
呼吸訓練 80
呼吸困難 19, 24, 55
呼吸困難の治療とケア 79
呼吸循環管理 73
呼吸・循環の変化 50
呼吸中枢 41
呼吸調節 41
呼吸調節異常 98
呼吸の異常 55
呼吸の調節 41
呼吸理学療法 80
呼吸リズムの異常 55
呼吸療法 77
国際協力機構 34
国際疾病分類 35
国際障害疾病分類 76
国際生活機能分類 35
国際標準化 17
国際保健 34
国際保健・医療協力 34
国際連合 34
国際労働機関 34
コクサッキーウイルス感染症 126
黒色便 56
国勢調査 35
告知 19
国民医療費 16, 30
国民栄養と食品保健 37
国民栄養の現状と対策 37
国民健康・栄養調査 37
国民健康づくり運動 28
国民健康保険法 32
国民生活基礎調査 35
心の健康 28
心の健康づくり 36
鼓室形成術 92
腰・背部痛 20
個人情報の保護 16
個人情報保護法 31
個体の構造 40
鼓腸 56
骨格 44
骨折 26, 118
骨折の治療・処置 78
骨 44, 74
骨Paget病 116
骨壊死 117, 118
骨・関節感染症 114
骨・関節系統疾患 116
骨・関節疾患 77
骨巨細胞腫 117
骨形成不全症 116
骨系統疾患 116
骨産道 46
骨腫瘍類似疾患 117
骨重積 46
骨髄 42, 45, 63
骨髄異形成症候群 106
骨髄系腫瘍 106
骨髄血塗抹 9
骨髄検査 63
骨髄腫 26
骨髄腫腎 109
骨髄生検 63
骨髄穿刺 63
骨髄バンク 74
骨粗鬆症 26, 112, 116, 120
骨軟化症 116, 120
骨軟骨腫 117
骨・軟部腫瘍と類似疾患 117
骨肉腫 117
骨年齢 47
骨の成長と骨形成・吸収 44
骨盤 24, 44
骨盤位 84
骨盤エックス線撮影 13
骨盤骨折 118
骨盤・四肢外傷 78
骨盤底筋群 43
骨盤内炎症性疾患 110
骨密度測定 48, 120
固定 78
固定姿勢保持困難 59
固定術 73
固定法 64
固定薬疹 89
コホート研究 36
鼓膜 40
鼓膜炎 92
鼓膜損傷 94
鼓膜チューブ挿入術 92
鼓膜の異常 92
コミュニケーションエイド 76
コミュニケーション症 88
コミュニケーション障害 88
コミュニティヘルス 35
コラーゲン代謝の異常 122
コリンエステラーゼ 10
コルチ器 40
コルチゾール 10
コルポスコピー 70
コレステロール塞栓症 109
コレラ 127
根拠に基づいた医療 23
混合性結合組織病 124

索引

混合性難聴 54
コンサルテーション 28
根治照射 75
昆虫・ダニアレルギー 124
コントラクションストレステスト 68
コンパートメント症候群 78，118
コンピューター断層複合撮影 70
コンピューテッドラジオグラフィ 68
昏迷 58

ご

誤飲 24，130
合計特殊出生率 35
誤嚥 19，24，56，130
語音聴力検査 66
誤差 22
誤差と精度 23
互助 30
ゴナドトロピン負荷試験 12

さ

サーカディアンリズム 43
サーベイランス 37
サーモグラフィ 66
災害 49
災害医療 24，33
災害拠点病院 33
災害時保健医療 33
災害派遣医療チーム 33
細気管支炎 25，96
細菌 96，126
細菌感染症 90
細菌検査 9，12
細菌（抗酸菌〈マイコバクテリア〉を除く）による感染症 126
細菌・真菌感染症 114
細菌性 96
細菌性・アメーバ性肝膿瘍 103
細菌性食中毒 129
細菌性髄膜炎 114
細菌性赤痢 127
細菌性腟症 84，110
細菌性腹膜炎 104
採血 22，63
細隙灯顕微鏡検査 66
再現性 23
採光 39
再興感染症 50
採取法 22
再生医療 74
再生産率 35
再生不良性貧血 106
砕石位 21
砕石術 76
臍帯 46
臍帯下垂 84
臍帯脱出 84
臍帯脱落 47
臍帯動脈血pH 62，68
臍帯動脈血液ガス 85
臍帯の異常 84
臍帯の検査 68
臍帯の診断 62
臍帯ヘルニア 105
採痰 22
最大羊水深度 84
再投与試験 11
サイトカイン 42，45
サイトメガロウイルス感染症 126
サイトメガロウイルス肺炎 96
採尿 22，63
再発 51
再発性多発軟骨炎 125
再発防止策の立案 17
臍ヘルニア 105
採便 22，63
細胞 40
細胞移植 74
細胞間脂質 40
細胞間接着 40
細胞質遺伝 49
細胞死と細胞生存曲線 74
細胞周期 75
細胞障害型 103
細胞傷害性Tリンパ球抗原4 45
細胞傷害性T細胞 45
細胞診 9，22，63，64
細胞数（種類） 9
細胞数（種類と比率） 9
細胞性免疫 64
細胞表面抗原 64
細胞免疫・食菌能検査 11
サイログロブリン 10
サイン 68
作業環境管理 38
作業管理 38
作業所 77
作業態様による障害 129
作業療法 76，77
作為体験 58
鎖肛 105
左室駆出率の保たれた心不全 99
左室駆出率の低下した心不全 99
左心系疾患に伴う肺高血圧症 97
左心不全 99
嗄声 19，55，98
させられ体験 58
擦過 22，70
錯覚 58
撮影法 69
撮像法 69
砂漠化 38
サブクラス 64
左右短絡疾患 99
サラセミア 107
サルコイドーシス 92，96，125
サルコペニア 36，48
サルモネラ感染症 127
酸塩基平衡 10，41，43，63，73
酸塩基平衡の異常 110
酸塩基平衡の評価 61
参加 30
産科DIC 85
産科ショック 79
産科的救急治療・処置 79
産科的骨盤エックス線撮影 13
産科麻酔 73
産休制度 36
産業医と労働安全衛生管理 38
産業医の資格と職務 38
産業構造 30
産業精神保健 37
産業中毒 129
産業中毒とその他の職業性疾患 129
産業廃棄物 38
産業保健 32，37
産業保健総合支援センター 38
産業保健の仕組み 37
サンゴ状結石 110
三叉神経 40
三叉神経痛 93，115
三次救急医療 33
三次救急に必要な処置 77
三次救急の治療 77
三次救急の診察 61
三次元CT 13
三次元CT血管撮影 13，69
三次元再構成画像 69
産褥 17，46
産褥期精神障害 85
産褥血栓症 85
産褥熱 85
産褥の異常 20，84，85
産褥の経過 46
産褥無月経 46
酸性雨 38
三尖弁閉鎖症 99
三尖弁閉鎖不全症 100
酸素欠乏症 78，130
酸素効果 75
酸素中毒 97
酸素投与法 77
酸素飽和度 21
酸素療法 80
産徴 46
産道 46，50
産道の異常 84
酸による損傷 50
三半規管 40
散布 70
産婦の診察 62
産瘤 46
霰粒腫 91

ざ

座位 21
剤型 71
在胎週数 47
在宅医療 27，30
在宅介護 30
在宅ケア 30
在宅酸素療法 80

在宅当番医 33
在宅ホスピス・緩和ケア 80
在宅リハビリテーション 30
坐骨神経痛 60
痤瘡 91
挫滅症候群 78, 118
残尿感 57
残尿量測定 65

し

死 27, 52
死因の究明 52
シェアードディシジョンメイキング 16
支援 18
視覚系の構造・機能 40
視覚障害 77
視覚誘発電位 66
視覚路 44
子癇 84
弛緩出血 85
紫外線 94, 130
閾〈しきい〉線量 52
視器一般検査 66
色覚 40
色覚異常 54, 91
色覚検査 66
色素異常 53
色素異常症 90
色素性乾皮症 90
色素性蕁麻疹 89
色素性母斑 89
色素性痒疹 89
色素内視鏡検査 13
色素排泄試験 65
色素斑 53
指揮と統制 24
視機能 40
視機能異常 91
視機能検査 66
視機能障害 54
子宮 43, 50, 75
子宮鏡 70
子宮筋腫 26, 111
子宮腔癒着{症} 113
子宮頸管炎 110
子宮頸管長 67
子宮頸管粘液 63
子宮頸管ポリープ 111
子宮頸癌 26, 111, 126
子宮頸部上皮内腫瘍 111
子宮頸部の類腫瘍・腫瘍 111
子宮支持組織 43
子宮性無月経 111
子宮腺筋症 111
糸球体 42
子宮体癌 26, 111
糸球体腎炎 109
糸球体病変 109
子宮体部の類腫瘍・腫瘍 111
糸球体濾過 43
糸球体濾過量 12
子宮脱 112
子宮内胎児死亡 85
子宮内反症 85
子宮内膜異型増殖症 111
子宮内膜炎・筋層炎 110
子宮内膜癌 111
子宮内膜症 26, 111
子宮内膜症性嚢胞 111
子宮内膜増殖症 111
子宮内膜の周期性変化 43
子宮内膜ポリープ 111
子宮肉腫 111
子宮の奇形 112
子宮破裂 85
子宮復古 46
子宮復古不全 85
子宮卵管造影検査 13, 69
子宮留膿症・腫 110
死腔 41
止血 72, 76, 78
止血機能と血管壁 42
止血法 23, 72
思考 43
嗜好 18
刺咬症 79
思考障害 58
刺咬症の治療・処置 79
嗜好品との相互作用 71
死後経過時間の推定 52
死後変化 52
視索 40
死産 35, 36
死産証書 17
死産の届出に関する規定 31
四肢 21, 44
四肢エックス線撮影 13
四肢外傷 78
四肢血管損傷 118
四肢骨折 118
四肢切断 118
脂質異常症 26, 112, 121
脂質および脂質代謝関連物質 63
脂質代謝異常 121
脂質代謝関連 10
脂質代謝の異常 51
四肢軟部損傷 118
四肢軟部病変 117
四肢の診察 21
四肢の跛行 56
思春期 18, 48
思春期危機 48
思春期の健康問題 18
思春期の身体・心理・精神機能 18
思春期の児の診察 62
思春期の発来機序 48
思春期発現 18
思春期早発症 122
視床 44
視床下部 44
視床下部・下垂体・副腎・精巣系 43
視床下部・下垂体・卵巣系 43
視床下部下垂体炎 120
視床下部機能障害 120
視床下部腫瘍 120
視床下部性無月経 111
視診 20
視神経 40
視神経萎縮 91
視神経炎・症 91
視神経管 40
視神経管骨折 95
視{神経}交叉 40
視神経疾患 91
視神経脊髄炎 115
視神経損傷 95
支持 18
支持的態度 18
矢状断 69
シスチン尿症 109
システマティックレビュー 36
システマティックレビューとメタ分析 36
システムエラー 17
システムレビュー 18
姿勢 21
歯性上顎洞炎 93
姿勢の異常 59
脂腺母斑 89
自然科学 28
自然気胸 25
自然災害 130
自然毒食中毒 129
自然免疫 45
刺創 49
死体解剖保存法 31
肢帯型 116
死体検案 27
死体検案書 17
死胎検案書 17
市中感染症 50
視中枢 40
市中肺炎 96
市町村保健センター 30
疾患関連遺伝子 49
疾患修飾性抗リウマチ薬 72
疾患に応じた薬物治療 71
疾患の特徴 48
失外套症候群 58
シックハウス症候群 130
シックビル症候群 130
失見当識 58
失行 58
失神 19, 24, 55
疾病構造 30
疾病・障害の概念と構造 16
疾病・障害の概念と社会 30
疾病・障害の分類・統計 35
疾病対策 32
疾病と影響因子 49
疾病の概念と社会環境 30
疾病の自然経過 49
疾病の自然史 35
質改善手法 17

索引

膝蓋軟骨軟化症 117
膝靭帯損傷 118
失語 20, 58
失語症訓練 76
湿疹 24, 89
膝関節の疾患 117
失認 58
質問紙法 67
質問の有無の確認 19
指導医への報告 19
死に至る心の過程 27
歯肉の異常 55
死の判定と診断 27
紫斑 53, 57
指標の比較 35
司法解剖 52
視放線 40
脂肪肝 25, 104
脂肪腫 103, 117
死亡診断 27
死亡診断書 17
脂肪塞栓症 118
脂肪肉腫 117
脂肪抑制像 69
死亡率 35, 50
市民参画 16
斜位 54, 91
社会環境と疾病 49
社会環境の変動と国民の健康 30
社会参加 76
社会資源 16
社会性 47
社会生活支援 28
社会的苦痛 79
社会的状況 18
社会的情報 18
社会的な健康規定要因 28, 33
社会的配慮 74
社会的要因 49
社会と医療 16
社会不安障害 24, 87
社会福祉 30, 33
社会福祉関係施設 30
社会福祉協議会 30
社会復帰 16
社会保険 30
社会保障制度 16, 28
社会保障制度と医療経済 30
社会保障の概念と制度 30
社会歴 18
斜頸 116
社交恐怖 87
社交不安症 87
社交不安障害 24, 87
斜視 54, 91
射精 43
射精障害 57
遮蔽化 36
視野 40
視野異常 19, 54
視野狭窄 54
視野検査 66
周囲臓器との位置関係 40
習慣および衝動の障害 88
習慣流産 84
集学的治療 75
周期性嘔吐症 122
周期性四肢運動障害 88
周期性四肢麻痺 116
就業制限 37
周産期 17, 20
周産期死亡 36
周産期心筋症 84
周産期の異常 24
周産期の保護 36
収縮期駆出性雑音 56
収縮性心膜炎 100
収縮中期クリック 55
収縮中期性雑音 56
周術期照射 75
周術期の管理 27, 72
修正大血管転位症 99
集団予防と個人予防 37
集団療法 80
羞恥心への配慮 20
終末期患者とのコミュニケーション 27
終末期ケア 27
終末期における意志決定 27
終末期における水・栄養管理 27
終末期の治療 27
羞明 54
就労支援 77
主観的所見 16
宿主 30, 35
手根管症候群 115
酒皶様皮膚炎 91
手術 27, 72
手術時期 72
手術切除検体取扱法 64
手術創の処置 74
手術適応 72
手術の記録 16
手術部位感染症 73
主訴 18
手段的日常生活動作 61
腫脹 21
出血 51, 70, 72, 75
出血傾向 57
出血傾向・血栓傾向 20
出血時間 9
出血性 51
出血性疾患と血栓傾向 107
出血性腸炎 102
出血性貧血 106
出血と産科ショック 85
出血斑 53
出産と労働 49
出生前検査・診断 67
出生 36
出生証明書 17
出生時の身長・体重 47
出生前診断 49, 62
出生と死亡 35
守秘義務 16
腫瘍 50, 75, 102, 103, 104, 122
腫瘍壊死因子 45
腫瘍細胞の異型性と多形性 50
主要疾患・症候群 24
主要症候 19
腫瘍随伴性多発ニューロパチー 115
腫瘍性 57
腫瘍性低リン血症性骨軟化症 120
腫瘍の疫学 50
腫瘍の定義 50
腫瘍の病因 50
腫瘍の病理・病態 50
腫瘍の放射線感受性 74
腫瘍・母斑性皮膚疾患 89
腫瘍マーカー 11, 63
腫瘤 53
種類 63, 68, 69, 71
種類と性質 68
種類と適応 68, 69, 76
手腕振動障害 130
春季カタル 91
初圧 9
消化 42, 47
消化管 10, 76
消化管Behçet 103
消化管アミロイドーシス 103
消化管アレルギー 103
消化管異物 105
消化管運動 42
消化管運動機能検査 65
消化管運動抑制薬 70
消化管壁の構造 42
消化管機能検査 65
消化管共通疾患 103
消化管出血 56
消化管神経内分泌腫瘍 103, 121
消化管生理活性物質 42
消化管穿孔 105
消化管損傷 105
消化管造影検査 69
消化管内圧減圧治療 77
消化管粘膜下腫瘍 103
消化管の構造・機能 42
消化管の消化・吸収 42
消化管の免疫 42
消化管ホルモン 42
消化管ホルモン産生腫瘍 121
消化管ポリポーシス 103
消化器 19, 42, 47, 56
消化器系 12
消化器作用薬 72
消化器・腹壁・腹膜疾患 25
消化性潰瘍 25, 102
障害 16, 28, 51
障害者基本計画 30
障害者基本法 33
障害者総合支援法 33
障害者の社会活動と社会参加 16
障害者の心理と態度 16
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 33

障害者のもつ心理・社会的問題‥16
障害児〈者〉への対応‥‥‥‥‥‥30
障害の概念と構造‥‥‥‥‥‥‥16
障害の概念と社会‥‥‥‥‥‥‥30
障害の概念と社会環境‥‥‥‥‥30
小奇形‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥53
症候‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥50
症候性肥満‥‥‥‥‥‥‥‥‥121
小細胞癌‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥97
硝子圧法‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥66
少子化社会・障害児〈者〉への対応30
硝子体‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥40
硝子体混濁‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥92
硝子体疾患‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥92
硝子体出血‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥92
硝子体の異常‥‥‥‥‥‥‥‥‥92
照射‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥76
照射の合併症‥‥‥‥‥‥‥‥‥75
症状・傷病別の初期対応‥‥‥‥24
症状性精神障害‥‥‥‥‥‥‥‥87
症状性を含む器質性精神障害‥‥87
掌蹠角化症‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥90
掌蹠膿疱症‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥90
掌蹠膿疱症性骨関節炎‥‥‥‥‥124
小線源治療‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥75
承諾解剖‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥52
小腸‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥70，77
小腸癌‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥102
小腸・結腸の異常‥‥‥‥‥‥‥105
小腸・結腸疾患‥‥‥‥‥‥‥‥102
小腸造影検査‥‥‥‥‥‥‥‥‥13
小腸内視鏡検査‥‥‥‥‥‥‥‥13
焦点意識減損発作‥‥‥‥‥‥‥116
焦点意識保持発作‥‥‥‥‥‥‥116
焦点起始発作‥‥‥‥‥‥‥‥‥116
小頭‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥59
小頭症‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥119
消毒と滅菌‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥72
小児‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥71
小児栄養‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥47
小児期‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥18，47
小児期の健康問題‥‥‥‥‥‥‥18
小児期の身体・心理・精神機能‥18
小児期のストレス関連症‥‥‥‥88
小児期発症流暢症‥‥‥‥‥‥‥88
小児期発症流暢障害‥‥‥‥‥‥88
小児血液疾患‥‥‥‥‥‥‥‥‥107
小児・高齢者麻酔‥‥‥‥‥‥‥73
小児性愛‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥88
小児・青年期の精神・心身医学的疾患‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥88
小児喘息‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥25
小児造血器腫瘍‥‥‥‥‥‥‥‥108
小児特有の全身症状‥‥‥‥‥‥20
小児の診察‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥61
小児の成長‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥47
小児の発達‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥47
小児の保健・福祉‥‥‥‥‥‥‥36
小児リハビリテーション‥‥‥‥76
小脳機能‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥21
小脳橋角部腫瘍‥‥‥‥‥‥‥‥93
小脳とその連絡路‥‥‥‥‥‥‥44
少分割照射‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥75
小脈‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥56
照明‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥39
証明書‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥17
小葉癌‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥122
症例対照研究‥‥‥‥‥‥‥‥‥35
初期・二次・三次救急医療‥‥‥33
食菌能‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥64
食菌能検査‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥11
職業がん‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥130
職業性アレルギー‥‥‥‥124，129
職業性因子による疾患‥‥‥‥‥26
職業性ストレスによる障害‥‥129
職業性喘息‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥129
職業性腰痛‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥129
職業と疾病‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥49
職業被ばく‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥39
職業リハビリテーション‥‥‥‥76
食行動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥28
食細胞機能不全症‥‥‥‥‥‥‥125
食思不振‥‥‥‥‥‥‥‥‥19，56
職種間コミュニケーション‥‥‥16
職種の役割と制度‥‥‥‥‥‥‥16
食思〈欲〉不振の治療とケア‥‥‥79
触診‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥21
食事・栄養療法‥‥‥‥‥‥26，71
食事・栄養療法の基本‥‥‥‥‥71
食事摂取基準‥‥‥‥‥28，37，44
食事摂取基準量‥‥‥‥‥‥‥‥71
食事調査‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥37
食事バランスガイド‥‥‥‥‥‥37
食事療法‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥71
食生活‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥28
食生活指針‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥37
食中毒‥‥‥‥‥‥‥‥‥26，129
食道‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥70，76
食道アカラシア‥‥‥‥‥‥‥‥102
食道・胃24時間pHモニタリング検査‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥12
食道異物‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥105
食道癌‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥25，102
食道気管瘻‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥98
食道憩室‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥103
食道疾患‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥102
食道静脈瘤‥‥‥‥‥‥‥‥25，102
食道穿孔・破裂‥‥‥‥‥‥‥‥102
食道内圧‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥42
食道内圧検査‥‥‥‥‥‥‥‥12，65
食道の異常‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥105
食道裂孔ヘルニア‥‥‥‥‥‥‥104
植皮‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥78
植皮術‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥73
食品衛生法‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥32
食品中の汚染物質‥‥‥‥‥‥‥37
食品添加物‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥37
食品の安全性と機能性‥‥‥‥‥37
食品保健‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥32
植物状態‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥58
食物アレルギー‥‥‥‥‥‥‥‥124
食物依存性運動誘発アナフィラキシー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥124
食物・嗜好品との相互作用‥‥‥71
食欲異常‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥56，58
食欲不振‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥19，56
書痙‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥115
初診時の評価‥‥‥‥‥‥‥‥‥61
食塊形成‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥42
触覚‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥21，41
ショック‥19，24，51，53，61，73
ショック指数‥‥‥‥‥‥‥‥61，85
ショックの治療‥‥‥‥‥‥‥‥77
所得‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥16，28
初乳‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥46
処方箋‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥16
処方内容‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥19
使用記録保管義務‥‥‥‥‥‥‥17
ショートステイ‥‥‥‥‥‥‥‥31
視力‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥40，47
視力検査‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥66
視力障害‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥54
視力障害・視野異常‥‥‥‥‥‥19
視路‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥40
脂漏性角化症‥‥‥‥‥‥‥‥‥89
脂漏性皮膚炎‥‥‥‥‥‥‥‥‥89
思路障害‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥58
心アミロイドーシス‥‥‥‥‥‥100
心エコー検査‥‥‥‥‥‥‥‥13，65
心音‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥21
新型コロナウイルス感染症‥‥‥126
心気症‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥58，87
心機能‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥12，41
真菌‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥12，127
心筋梗塞後合併症‥‥‥‥‥‥‥100
真菌感染症‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥114
心筋炎‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥25，100
心筋収縮性・拡張性‥‥‥‥‥‥41
心筋症‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥25
心筋シンチグラフィ‥‥‥‥‥‥65
心筋・心膜疾患‥‥‥‥‥‥‥‥100
心筋性‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥51
真菌性髄膜炎‥‥‥‥‥‥‥‥‥114
心筋トロポニンI‥‥‥‥‥‥‥‥10
心筋トロポニンT‥‥‥‥‥‥‥‥10
シングルフォトンエミッションCT‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥13，70
神経‥‥‥12，20，40，43，47，58
神経因性膀胱‥‥‥‥‥‥‥‥‥110
神経・運動器疾患‥‥‥‥‥‥‥26
神経・運動器の外傷‥‥‥‥‥‥118
神経・運動器の感染性・炎症性疾患‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥114
神経学的診察‥‥‥‥‥‥‥‥‥62
神経芽腫‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥121
神経・筋疾患‥‥‥‥‥‥‥‥‥77
神経筋接合部・筋疾患‥‥‥‥‥116
神経筋接合部疾患‥‥‥‥‥‥‥115
神経系‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥42，43
神経系の診察‥‥‥‥‥‥‥‥‥21
神経原性‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥51
神経原性腫瘍‥‥‥‥‥‥‥‥‥97
神経膠腫‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥114
神経根‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥43
神経根症‥‥‥‥‥‥‥‥‥59，116
神経根障害‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥59

索引

神経疾患 92
神経支配 44
神経障害性疼痛 74
神経鞘腫 114, 117
神経心理学的検査 67
神経性過食症 88
神経性食思不振症 120
神経性食欲不振症 120
神経性無食欲症 88, 111
神経性やせ症 88, 111
神経線維腫症 119
神経線維腫症1型 89, 119
神経叢 74
神経痛 115
神経伝達物質 43
神経伝導検査 65
神経皮膚症候群 118, 119
神経病性関節症 117
深頸部感染症 94
深頸部膿瘍 94
神経ブロック 74, 76
神経変性疾患 119
神経変性・代謝性・脱髄疾患 115
心血管CT・MRI 65
心血管機能検査 65
心原性ショック 51, 77, 99
心原性脳塞栓症 114
心原性肺水腫 97
進行がん 50
新興・再興感染症 50
進行性核上性麻痺 87, 115
進行性多巣性白質脳症 114
診察時の患者の体位 21
診察時の注意 61, 62
診察前後の標準予防策 20
診察のあり方 20
診察の基本手技 20
心サルコイドーシス 100
心雑音 21, 55
心室期外収縮 99
心室細動 99
心室{性}頻脈性不整脈 99
心室中隔欠損症 99
心室頻拍 99
心室瘤 100
心周期と時相 41
滲出性中耳炎 92
心身医学的疾患 24
心身症 24, 88, 129
心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律 32
真珠腫性中耳炎 92
浸潤・表面麻酔 74
新生児 47, 71
新生児壊死性腸炎 105
新生児黄疸 85
新生児黄疸に対する治療 80
新生児仮死 85
新生児肝炎 105
新生児期 18
新生児期の健康問題 18
新生児期の身体機能 18
新生児クレチン症 86
新生児集中治療室 79
新生児出血性疾患 107
新生児蘇生法 79
新生児低血糖症 122
新生児・乳児死亡 36
新生児・乳幼児の採血と穿刺法 63
新生児の異常 20
新生児の感染症 85
新生児の救急治療・処置 79
新生児のけいれん 85
新生児の検査 67, 68
新生児の呼吸障害 85
新生児の診察 62
新生児の診察と評価 62
新生児の生理 47
新生児の分類と異常 85
新生児搬送 79
新生児マススクリーニング 36, 68
新生児慢性肺疾患 85
新生児溶血性疾患 85
真性赤血球増加症 106
振戦 59
新鮮凍結血漿 72
心臓 11, 19, 41, 55, 77
心臓移植 100
心臓カテーテル検査 12, 65
心臓外傷 100
心臓・血管の構造・機能 41
心臓死 27
心臓腫瘍 100
心臓震盪 100
心臓{性}突然死 100
心臓{性}突然死をきたす症候群 99
心臓電気生理学的検査 65
心臓の興奮と伝導 41
心臓弁膜症 125
心臓・脈管疾患 25
身体活動 28
身体活動とエネルギー消費 28
身体機能と構造 30
身体醜形症 87
身体障害者福祉法 33
身体障害のリハビリテーション 76
身体症状症 24, 87
身体的苦痛 79
身体的苦痛症 24, 87
身体的苦痛症または身体的体験症 87
身体的苦痛の緩和 79
身体的特徴 47
身体的要因に関連した障害 88
身体の成長・発達 48
身体発育 47
心タンポナーデ 51, 100
診断 21
診断限界 64
診断書 17
診断に伴う医原病 52
診断による医原病 52
診断プロセス 52
シンチグラフィ 13, 69
身長 21, 47
身長の異常 60
心停止 24, 61
心停止下での臓器提供 74
心的外傷後ストレス症 87
心的外傷後ストレス障害 24, 87
心電図検査 12, 22, 65
浸透圧 9, 10
振動による障害 130
振動の健康影響と対策 38
心内膜床欠損症 99
心嚢液貯留 100
心嚢穿刺・ドレナージ 77
心拍出量 41
心肺蘇生法 77
真皮 40
心不全 25, 56, 73, 99
深部感覚 21, 41
深部静脈血栓症 25, 101
深部線量百分率 75
心房細動 56, 99
心房性ナトリウム利尿ペプチド 11
心房粗動 99
心房中隔欠損症 99
心膜開窓術 77
心膜疾患 100
心膜ノック音 55
心膜摩擦音 56
心理 20, 43, 57
心理学的検査 67
心理教育 80
心理・社会的情報 18
心理・社会的状況 18
心理・社会的要因 49
心理・精神機能 43
心理・精神機能検査 67
心理的評価 62
診療関連死 52
診療ガイドライン 23
診療支援 31
診療所 31
診療情報と諸証明書 16
診療情報の開示 16
診療情報管理・情報セキュリティ 17
診療に関する諸記録 16
診療に必要な一般的な医学英語 28
診療録 16
診療録・医療記録の管理と保存 16
診療録の内容 16
唇裂 95

じ

ジアルジア症 128
耳音響放射 66
耳介 40
耳介奇形 95
耳介血腫 94
ジカウイルス感染症 126
自家感作性皮膚炎 89
痔核 25, 103
自家・同種・異種移植 74

索引

耳管 40, 42
耳管機能不全 92
時間性 35
時間的線量配分 75
自我 43
自我障害 58
自我同一性形成 48
自記オージオメトリ 66
磁気共鳴画像 23
磁気共鳴画像検査の原理と技術 69
磁気共鳴血管撮影 13, 69
磁気共鳴胆管膵管撮影 13, 69
耳硬化症 92
耳垢栓塞 92
自己炎症性疾患 125
自己決定権 16
自己抗体 11, 22, 64
自己紹介 18
自己同一性形成 48
事故による障害 130
自己免疫疾患 50
自己免疫疾患による免疫不全症 125
自己免疫性胃炎 102
自己免疫性肝炎 103
自己免疫性後天性凝固因子欠乏症 107
自己免疫性視床下部下垂体炎 120
自己免疫性膵炎 104
自己免疫性溶血性貧血 106
事後確率 23
自殺 129
自殺対策 36
自殺対策基本法 32
自殺の予防 28, 37
耳小骨 40
耳小骨連鎖異常 95
自傷他害 61
地震 24
自助具 76
自助・互助・公助 30
ジスキネジア 115
ジストニア 59, 115
耳性帯状疱疹 92
次世代育成支援対策 30
耳せつ 92
事前確率 23
持続可能な開発のための2030アジェンダ 34
持続的気道陽圧法 80
持続的陽圧換気 80
持続勃起症 112
自治体との連携 33
実質性・間質性肺障害 97
実施の説明 22
耳痛 54
児頭回旋の診断・表現法 62
児頭骨盤不均衡 84
児頭の浮動・下降・進入・固定・嵌入 46
児頭の変形 46
児童虐待の防止等に関する法律 32
児童虐待の予防 36
児童相談所 30
児童の事故と対策 37
児童の慢性疾患と保健管理 37
児童福祉法 33
児の娩出 46
自発眼振 67
ジフテリア 127
自閉 58
耳閉感 54
自閉スペクトラム症 88
耳鳴 19, 54
弱オピオイド 79
弱視 91
若年性血管線維腫 94
若年性特発性関節炎 125
若年発症型両側性感音難聴 93
縦隔 41, 70, 98
縦隔炎 96
縦隔気腫 98
縦隔疾患 25
縦隔腫瘍 97
縦隔の感染症 96
縦隔の形態・機能異常と外傷 97
縦隔の腫瘍 97
重金属 10, 63
重金属などによる肺障害 97
重金属類 38
充血 51
重症感染症 61
重症救急病態 78
重症急性膵炎 104
重症筋無力症 97, 116
重症先天性好中球減少症 125
重症度と緊急度 61
重症度判定 78
重症複合免疫不全症 125
重心動揺検査 67
銃創 49
住宅改修 76
十二指腸 70
十二指腸潰瘍 25, 102
十二指腸憩室 103
十二指腸疾患 102
十二指腸腫瘍 102
十二指腸腺腫・癌 102
十二指腸乳頭部腫瘍 102
十二指腸の異常 105
重複がん 50
重複腎盂尿管 112
絨毛癌 111
絨毛検査 68
絨毛性ゴナドトロピン 10
絨毛性疾患 111
絨毛膜羊膜炎 84
重要臓器機能の障害を招く病態・疾患 23
授産所 77
樹状細胞 45
受精 46
受精卵の卵割と輸送 46
術中麻酔管理 73
術後管理と集中治療 73
術後合併症 73
術後創部痛 74
術後鎮痛法 73
術後副鼻腔嚢胞 93
術前合併症の評価と対処 73
術前・術中・術後照射 75
術前評価 73
術前麻酔管理 73
受動喫煙 28, 129
授乳性無月経 46
ジュネーブ宣言 16
寿命 48
受療行動 19
純音聴力検査 66
循環 18, 47
循環器 47
循環器作用薬 72
循環器疾患 129
循環器病対策基本法 32
循環血液量 42
循環血液量減少性ショック 51, 77
循環障害 51, 53
循環動態の調節 42
循環の変化 50
純型肺動脈閉鎖 99
準言語的コミュニケーション 18
常位胎盤早期剥離 84
上咽頭癌 94
上顎骨骨折 94
上眼窩裂 40
上気道炎 25, 96
上気道・下気道の構造・機能 41
上喉頭神経 41
上肢・下肢の運動器疾患 116
上室期外収縮 99
上室{性}頻脈性不整脈 99
上縦隔 41
上水道と下水道 38
浄水法と消毒 38
常染色体 65
状態特性不安検査 67
上大静脈症候群 98
上・中・下咽頭 42
上腸間膜血管 42
上腸間膜動脈症候群 102
上腸間膜動脈性十二指腸閉塞症 102
常動運動症 88
常動運動障害 88
上皮小体 10, 44
上皮小体機能障害 120
上皮小体機能低下症 120
上皮小体機能亢進症 120
上皮小体疾患とカルシウム・リン代謝異常 120
上皮性 50
上皮内がん 50
上皮内癌 111
上部消化管逆流症状 56
上部消化管造影検査 13
上部消化管内視鏡検査 13
上部尿路腫瘍 111
上部尿路閉塞性疾患 110

索引

情報収集法 23
情報セキュリティ 17
情報伝達 24
静脈 21, 27
静脈栄養・経腸栄養の選択 74
静脈確保 23, 27
静脈管 46
静脈還流 42
静脈奇形 89
静脈血栓 57
静脈血栓塞栓症 118
静脈血 63
静脈採血 27
静脈疾患 101
静脈性尿路造影検査 13
静脈洞血栓症 114
静脈麻酔 73
静脈瘤 75
静脈路選択と確保 77
常用薬 18
上腕骨外側上顆炎 116
褥瘡 24, 49, 94
褥婦と胎児の診察 62
褥婦の診察 62
徐呼吸 55
除細動 23, 77
女性 21
女性化乳房 60
女性性器 70
女性性器損傷 113
女性性器・膀胱の下垂・脱出 57
女性生殖器の異常 57
女性生殖器の炎症 110
女性生殖器の形態異常 112
女性生殖器の構造・機能 43
女性生殖器の類腫瘍・腫瘍 111
女性不妊症 112
除石術 76
徐脈性不整脈 99
自律訓練法 80
自立支援医療 36
自律神経系 44
自律神経系疾患 116
自律神経系の障害 59
自律神経作用薬 71
自律神経障害 59
自律神経・内分泌機能の変化 49
自立生活支援 76
自律尊重 16
痔瘻 25, 102
耳漏 54
腎 20, 42, 44, 47, 57
腎盂 43, 70
腎盂・尿管癌 111
人格 43
腎機能の障害による異常 110
腎梗塞 109
腎結石 76, 110
腎血管疾患 109
腎機能検査 65
人工栄養 47
人工換気 80
人工関節・骨・腱・靭帯 74
人工血管 74
人口構造 30
人工呼吸 73
人工呼吸療法 23, 77
人工心肺 74
人工授精 80
人工腎臓 74
人口静態 35
腎血管性高血圧症 100, 109
人工臓器 27, 74
人工臓器の種類と適応 74
人工聴覚器 74
人口統計と保健統計 35
人口動態 35
人工内耳埋込み術 93
人工内耳・中耳 74
人工妊娠中絶 36
人工弁 74
腎細胞癌 26, 111
腎障害 71
腎実質性高血圧症 100
人獣共通感染症 50
人獣共通感染症対策 37
尋常性痤瘡 91
尋常性白斑 90
尋常性疣贅 91
尋常性狼瘡 90
腎・上部尿路腫瘍 111
腎静脈血栓症 109
腎性全身性線維症 69
腎性尿崩症 109
人生のプロセス 48
腎性貧血 106, 110
腎前性・腎性・腎後性 110
迅速簡易超音波検査 13
迅速診断の適応 64
腎臓 10, 21, 47, 77
靭帯 44, 74
靭帯損傷 118
人体の構造と機能 17
人中 40
陣痛 46
陣痛の異常 84
陣痛の観察 62
人的 16
人的支援 28
腎・尿路・生殖器の炎症 110
腎・尿路損傷 113
腎・尿路・男性生殖器の腫瘍 111
腎・尿路の炎症 110
腎・尿路の形態異常 112
腎膿瘍 110
腎の構造・機能 42
腎の内分泌機能 43
じん肺 130
腎杯 43, 70
じん肺症 97
じん肺法 32
腎・泌尿器・生殖器疾患 26
腎不全 73
人文・社会科学 28
蕁麻疹 24, 89, 124

す

膵管 70
膵管内乳頭粘液性腫瘍 104
膵外腫瘍 121
膵癌 25, 104
膵機能検査 65
水系感染 38
遂行機能障害 58
推算糸球体濾過量 65
膵疾患 104
水質汚濁 38
水質基準 38
水腫 51
水晶体 40
水晶体混濁 54
水晶体偏位・脱臼 92
膵神経内分泌腫瘍 104, 121
水腎症 110
膵石症 104
膵損傷 105
錐体 40
錐体外路徴候 59
錐体路徴候 59
膵・胆管合流異常症 104
垂直感染 50
推定胎児体重 68
推定と信頼区間 23
水痘 24
膵島 10, 44
水頭症 118
水痘・帯状疱疹 126
水道法 32
膵内外分泌 42
膵嚢胞性腫瘍 104
膵の構造 42
膵の構造・機能 42
水疱 53
水泡音 55
水疱性類天疱瘡 90
睡眠 43
睡眠-覚醒障害 88
睡眠障害 20, 58
睡眠時無呼吸症候群 25, 88, 98, 100
睡眠時無呼吸症候群検査 65
睡眠の質 28
睡眠薬依存・中毒 129
数的異常 49
スキルス型胃癌 102
スクリーニング 22
スクリーニング検査 67
スクリーニング法 47, 67
健やか親子21 30
スティグマ 52
ステロイド糖尿病 121
ステントグラフト内挿術 75
ステント留置{術} 75, 76
ストレス 49

索引

ストレス関連疾患の誘発と症状増悪 49
ストレス関連症 87
ストレス対策 28
スパイロメトリ 65
スピリチュアルペイン 79
スピロヘータ 12
スペキュラーマイクロスコピー 66
スポーツ外傷 118
スポロトリコーシス 91, 128
座り方 18

ず

髄液の分泌・循環・吸収 43
髄液漏・脳脊髄液減少症 118
髄外造血 42
{随時}血糖 10
髄膜 43
髄膜炎 26, 59, 85, 114
髄膜炎菌感染症 127
髄膜癌腫症 114
髄膜刺激症候 21, 59
髄膜腫 114
髄膜瘤 86, 119
頭蓋 43, 44
頭蓋咽頭腫 114, 120
頭蓋腔の構造 40
頭蓋骨骨折 118
頭蓋骨腫瘍 114
頭蓋骨転移 114
頭蓋・頭蓋腔の構造 40
頭蓋内圧亢進 59
頭蓋内血腫 26
頭蓋内出血 85
頭蓋縫合早期癒合症 118
頭重感 60
頭痛 20, 24, 60

せ

精液 63
精液検査 112
精液の性状 57
声音振盪 55
生化学検査 22, 63
性格 43
性格の変化 48
生活環境 18, 61
生活環境因子・職業性因子による疾患 26
生活環境因子による障害 130
生活環境の評価 62
生活技能訓練 77
生活指導 77
生活習慣 18, 47, 49
生活習慣とリスク 28
生活習慣病と保健対策 36
生活習慣病のリスクファクター 28, 36
生活習慣病の罹患と死亡 36
生活・職業・社会環境と疾病 49
生活の質 16, 30, 36
生活の質の改善・維持 80
生活への復帰 28
生活保護法 33
生活様式 30
精管 43
性感染症 50, 111
性器異物 113
性器外周期 43
性器クラミジア感染症 126
正規雇用 37
性器出血 57
性器の異常 86
性機能不全 88
性器の復古 62
性器ヘルペス 111
正義 16
制御性T細胞 45
清潔操作 27, 73
生検 22, 63, 70
生検検体採取法 64
生検・手術切除検体取扱法 64
整合性 35
性索間質性腫瘍 111
精索静脈瘤 112
精索水瘤 112
性差と年齢差 22
生歯 47
性嗜好(パラフィリア)症 88
性周期 43
生殖医療 80
生殖器 20, 42, 47, 57
生殖器異常 112
生殖器外傷 78
生殖器疾患 26
生殖機能 18
生殖器の炎症 110
生殖器の機能異常 112
生殖器の診察 21
生殖器の損傷 113
生殖毒性 51
生殖補助医療 80, 112
生殖補助技術 80, 112
精神 43, 47
精神医療審査会 37
精神運動興奮 61
精神運動性興奮 58
精神科救急 24, 61
精神科コンサルテーション 81
精神機能 20, 43, 57
精神機能検査 67
精神機能と身体 43
精神作用物質使用による精神および行動障害 87
精神障害者 36
精神障害者社会復帰施設 37
精神神経系 44
精神・心身医学的疾患 24
精神状態 21
精神遅滞 57, 88
精神・知的・発達障害のリハビリテーション 77
精神的 16
精神的苦痛 79
精神的健康の保持・増進 37
精神発達 48
精神病性障害 87
精神分析療法 80
精神保健 32
精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 32
精神保健福祉 36
精神保健福祉センター 37
精神保健福祉相談 37
精神保健福祉法 32
精神療法 80
成熟B細胞性腫瘍 106
成熟T細胞・NK細胞腫瘍 107
成熟徴候 47
成熟乳 46
成熟の診断 62
正常圧水頭症 114
星状神経節 40, 74
正常組織耐容線量/腫瘍致死線量 74
正常組織の放射線感受性 74
正常妊娠・分娩 20
成人Still病 124
成人T細胞白血病・リンパ腫 107
成人・高齢者保健 32
成人の人格・行動障害 88
成人のパーソナリティ・行動障害 88
成人保健 36
性腺 44
性腺機能障害 121
性染色体 65
精巣 43
精巣炎 110
精巣癌 26, 111
精巣系 43
性早熟症 122
精巣上体 43
精巣上体炎 110
精巣水瘤 105
精巣・精索水瘤 112
精巣性女性化症候群 86
精巣損傷 113
精巣痛 24
精巣捻転症 112
生存分析 35
生存率 50
声帯 41
生体機能検査 22, 65
生態系と生物濃縮 38
声帯結節 93
生体色素 10, 63
生体臓器提供 74
生体弁 74
声帯ポリープ 93
正中頸嚢胞 94
成長曲線 47
成長スパート 48
成長速度曲線 47

索引

成長軟骨 44
成長の評価 46, 47
成長・発達の障害 86
成長・発達の評価 61, 62
成長ホルモン 10
成長ホルモン分泌不全性低身長 122
生と死にかかわる倫理的問題 16
成乳 46
青年期 18, 48
青年期の精神・心身医学的疾患 88
成年後見制度 32
青年・壮年期の健康問題 18
青年・壮年期の身体・心理・精神機能 18
精嚢 43
性発達の異常 20
政府開発援助 34
整復 78
整復・固定術 73
生物学的原理 74
生物学的製剤 80
生物学的妥当性 35
生物学的モニタリング 38
性分化疾患 86
性分化・性器の異常 86
性分化・染色体異常 86
成分輸血 72
精密度 23
生命表 35
声門上器具 73
性欲異常 58
生理的黄疸 47
生理的障害 88
生理的体重減少 47
生理的変動 22
世界の人口 35
世界の保健・医療問題 34
世界保健機関 34
赤外線 94, 130
赤芽球癆 106
脊索腫 117
脊髄 43
脊髄外傷 78
脊髄腔造影検査 69
脊髄空洞症 119
脊髄くも膜下麻酔 74
脊髄血管系とその支配領域 44
脊髄血管障害 116
脊髄疾患 116
脊髄腫瘍 116
脊髄症 116
脊髄障害 59
脊髄小脳変性症 115
脊髄・神経根障害 59
脊髄性筋萎縮症 119
脊髄損傷 26, 76, 118
脊髄動脈系 44
脊髄の機能局在と主な伝導路 44
脊髄の形成異常 118, 119
咳喘息 96
脊柱 21, 43, 44
脊柱靱帯骨化症 116
脊柱管狭窄症 26, 116
脊柱の異常 59
脊柱変形 59
赤沈 9, 63
脊椎 43
脊椎圧迫骨折 118
脊椎運動制限 59
脊椎エックス線撮影 13
脊椎カリエス 114
脊椎関節炎とその類縁疾患 124
脊椎骨折 118
脊椎腫瘍・脊髄腫瘍 116
脊椎すべり症 116
脊椎・脊髄外傷 78
脊椎・脊髄疾患 116
脊椎脱臼骨折 118
脊椎分離症 116
石綿肺 97
セキュリティ 16
切開 76
切開法 72
積極的疫学調査 37
赤血球 9
赤血球液 72
赤血球凝集抑制試験 64
赤血球系疾患 106
赤血球酵素異常症 107
赤血球浸透圧抵抗試験 10
赤血球沈降速度 63
赤血球破砕症候群 106
赤血球・白血球・血小板形態 63
窃視症 88
摂食・嚥下訓練 76
摂食嚥下障害 48
摂食機能 42
摂食障害 88
接触皮膚炎 24, 89
節足動物による疾患 129
窃盗症 88
切迫早産 84
切迫流産 84
せつ 90
窃触症 88
切除 76
切除術 72
切断 77
説明義務 31
説明と報告 19
セデーション 79
セミノーマ 111
セラチア感染症 127
線維化マーカー 11
線維筋痛症 125
線維性骨異形成 117
線エネルギー付与 75
遷延分娩 84
腺癌 97
線形回帰 35
尖圭コンジローマ 111, 126
潜血 63
穿孔 70
潜在がん 50
穿刺 22, 27, 63
穿刺液 63
穿刺液検査 9
腺腫様甲状腺腫 120
染色体 17
染色体異常 49, 86
染色体異常の原因 49
染色体異常の種類 49
染色体・遺伝子異常 86
染色体検査 65
染色法 12, 22, 64
洗浄 78
洗浄赤血球液 72
潜性遺伝 49
選択的IgA欠損症 125
選択的動脈造影検査 13
先端巨大症 100, 120
線虫症 96
穿通性損傷 49
先天異常 49
先天異常および成長・発達の障害 86
先天異常・代謝異常に基づく疾患 97
先天異常の検査 68
先天奇形 118
先天性アミノ酸代謝異常症 122
先天性巨大結腸症 105
先天性筋強直性ジストロフィー 119
先天性筋疾患 119
先天性筋ジストロフィー 119
先天性頸嚢胞・瘻 94
先天性血小板機能異常症 107
先天性血栓形成傾向 107
先天性甲状腺機能低下症 86, 122
先天性股関節脱臼 117
先天性小腸狭窄・閉鎖症 105
先天性食道閉鎖症 105
先天性心疾患 25, 99
先天性十二指腸閉鎖・狭窄症 105
先天性耳瘻孔 95
先天性表皮水疱症 90
先天性風疹症候群 126
先天性副腎皮質過形成 86, 122
先天性補体欠損症 125
先天代謝異常 122
せん妄 20, 58, 87
線溶異常 72
線溶系 42
線溶系検査 22
線溶検査 9, 63
線量限度の適用 68
線量当量 68
線量分布図 75
線量率効果 75

ぜ

舌下 71
舌下神経 40
舌下神経麻痺 93
絶食試験 12
舌苔 54
絶対的不整脈 56

索引

舌 42
舌咽神経痛 93
舌咽神経麻痺 93
舌炎 93
舌癌 94
舌神経 40
舌の異常 54
前眼部の疾患 91
前期破水 84
前駆陣痛 46
善行 16
全収縮期雑音 56
前処置とその合併症 70
全身倦怠感 19, 53
全身倦怠感・食思〈欲〉不振・呼吸困難の治療とケア 79
全身疾患に伴う腎疾患 109
全身症候 19, 53
全身振動 39
全身性 124
全身性アミロイドーシス 121
全身性エリテマトーデス 26, 87, 109, 124
全身性強皮症 109, 124
全身性結合組織病とその関連疾患 124
全身性疾患に伴う肺病変 96
全身の外観 21
全身の診察 21
全身の復古 46, 62
全身浮腫の治療とケア 79
全身麻酔 73
全身療法 78
前縦隔 41
前陣痛 46
全人的苦痛 27
全人的苦痛の緩和 79
全人的苦痛の種類と原因 79
喘息COPDオーバーラップ 96
前置胎盤 84
前徴 46
前庭神経炎 93
前庭窓 40
前庭の異常 93
前庭反射 40
前庭平衡系の構造・機能 40
前庭路 44
前頭蓋窩 40
前頭骨骨折 95
前頭側頭型認知症 87
前頭側頭葉変性症 115
前頭葉機能検査 67
前頭葉てんかん 116
全般運動発作 116
全般起始発作 116
全般性不安障害 87
全般てんかん 116
全般非運動発作 116, 119
全般不安症 87
前部ぶどう膜炎 92
前房・後房 40
喘鳴 19, 24, 55
前立腺 43
前立腺炎 110
前立腺癌 26, 111
前立腺経直腸超音波検査 13
前立腺肥大症 26, 111
前臨床期 49
前弯 59

そ

躁 20
躁うつ病 24, 87
騒音障害 130
騒音・振動の健康影響と対策 38
騒音性難聴 38, 92, 130
騒音の生理的・心理的影響 39
騒音の聴器・聴覚への影響 38
早期がん 50
早期産児 85
早期死体現象 52
早期焼痂切除 78
早期相 69
早期破水 84
双極Ⅰ型障害 87
双極性障害 24, 87
双極Ⅱ型障害 87
装具 76
総コレステロール 10
総合的臨床判断 23
早産 24, 84
創傷 130
創傷治癒に影響する因子 49
創傷の治癒過程 49
創傷の治療・処置 78
創傷被覆・保護材 74
相乗 71
躁状態 58
巣状分節性糸球体硬化症 109
双胎間輸血症候群 85
相対危険度 23, 35
総蛋白 10
総鉄結合能 10
挿入 70
壮年期 18
壮年期の健康問題 18
壮年期の身体・心理・精神機能 18
創の消毒 27
総肺静脈還流異常症 99
総ビリルビン 10
創閉鎖 78
僧帽弁逸脱症候群 99
僧帽弁狭窄症 99
僧帽弁疾患 99
僧帽弁閉鎖不全症 99
僧帽弁膜症 25
瘙痒 19, 53
足関節捻挫 118
側臥位 21
側頸嚢胞 94
塞栓 51
塞栓症 118
促通訓練 76
測定 68
側頭骨骨折 94
側頭葉てんかん 116
速脈 56
側弯 59
側弯症 116
鼠径ヘルニア 25, 104, 105
阻血 51
素行障害 88
素行・非社会的行動症 88
組織 40
組織移植 27, 74
組織診 22
組織適合検査 11
組織適合{性}抗原 45, 64
組織内照射 75
組織反応 50
組織バンク 74
咀しゃく 42
咀しゃく機能障害 77
咀しゃく障害 55
蘇生的投与速度・量 77
蘇生的輸液療法 23
鼠族・節足動物による疾患 129
足関節上腕血圧比 65
疎通性障害 58
その他56, 60, 100, 116, 118, 119
その他の異常 110
その他の機能障害 121
その他の血管性障害 114
その他の月経異常 112
その他の疾患 123
その他の職業性疾患 130
その他の神経の異常 93
その他の新生児疾患 85
その他の重要な小児領域の疾患105, 107, 119, 122, 125
その他の造影検査 69
その他の代謝異常 122
その他の治療法 80
その他の内分泌疾患 121
その他の難産 84
その他の尿路・生殖器異常 112
その他の排尿の異常 57
その他の皮膚疾患 90
その他の病原体 127
その他の病原体による感染症 127
その他の複雑心奇形 99
その他の婦人科腫瘍 111
その他の類縁疾患 125
尊厳死 27
損傷 24, 49, 94, 102, 103, 105
存続絨毛症 111
尊重 18

ぞ

造影 23
造影CT 13, 69
造影MRI 13, 69
造影効果 69
造影剤 69

索引

造影剤腎症 69
造影磁気共鳴画像検査 69
造影超音波診断法 68
臓器腫大 56
臓器障害の状態把握 61
臓器・組織移植 27
臓器・組織・細胞移植 74
臓器提供 74
臓器の移植に関する法律 31
臓器不全 51
増強 55
造血因子 42
造血幹細胞 42
造血器 20, 42, 47, 57
造血器疾患 25
造血器の構造・機能 42
造血ビタミンの代謝 42
造血不全症 106
増殖因子 42
造精機能 43
続発性 97, 121
続発性アミロイドーシス 106
続発性免疫不全症 125

た

タール便 56
体位 73
胎位 46, 62
胎位・胎向の診断 62
胎位の異常 84
退院時要約 17
体液 47
体液喪失 51
体液の分布と組成 42
体温 21, 47, 73
体温異常に対する救急処置 24
体温管理療法 24
体格 37
体格の評価 21
胎芽 46
体外衝撃波結石破砕術 80
体外受精-胚移植 80
大気汚染 38
体型 21
帯下 57
胎向 46, 62
体細胞遺伝子検査 65
対策 71
体質性黄疸 105, 122
代謝 20, 41, 44, 47, 60, 71
代謝異常に基づく疾患 97
代謝機能 12
代謝機能検査 22, 65
代謝経路 44
代謝疾患 26, 61
代謝性合併症 71
代謝性骨疾患 116
代謝性疾患 103, 104, 115
代謝性反応 50
代謝性ミオパチー 116
代謝調節 44
代謝と栄養 44
代謝と内分泌 44
代謝の異常 51
大食症 88
対処行動 19
対診 28
胎児 46
胎児異常 85
胎児下降度の診断・表現法 62
胎児機能不全 79, 85
体軸性脊椎関節炎 124
胎児血液検査 68
胎児・新生児期 18
胎児・新生児期の健康問題 18
胎児・新生児期の身体機能 18
胎児・新生児の異常 20, 85
胎児・新生児の診察と評価 62
胎児新生児溶血性疾患 85
胎児心拍数陣痛図 62, 67, 68, 85
胎児心拍数の測定 62
胎児水腫・胸水・腹水 85
胎児性アルコール症候群 129
胎児成熟度検査 68
胎児・胎盤系 46
胎児・胎盤循環 46
胎児中大脳動脈最大血流速度 85
胎児の位置の診断 62
胎児の形態 46
胎児の検査 67
胎児の健全性<健常性、fetal well-being>の検査 68
胎児の診察 62
胎児の発育 46
胎児発育 46
胎児発育・成熟の検査 68
胎児発育不全 85
胎児貧血 85
胎児付属物 46
胎児付属物の診察 62
胎児への影響 129
胎児ヘモグロビン 47
胎児母体間輸血症候群 85
体重 21, 47
体重減少・増加 19, 53
体重増加不良 20
他医受診 19
体循環 42
帯状疱疹 126
帯状疱疹後神経痛 115
耐性 87
胎勢 46, 62
体性感覚系の構造・機能 41
耐性菌 96
体性痛 56
苔癬化 53
体調への配慮 18
耐糖能異常合併妊娠 84
タイトレーション 79
胎動 62, 68
体内植込みデバイス 69
胎盤 46
胎盤機能不全 84
胎盤系 46
胎盤・臍帯・羊水の検査 68
胎盤・臍帯・羊水の診断 62
胎盤循環 46
胎盤の異常 84
胎盤の位置 62
胎盤剥離徴候 62
胎盤娩出 46
胎便 47
胎便吸引症候群 85
胎便性腹膜炎 105
大麻精神病 87
体毛の異常 60
体力 37
多因子遺伝 49
他覚的聴力検査 66
高安動脈炎 101, 124
多汗症 90
多形滲出性紅斑 89
多形腺腫 94
多系統萎縮症 115
多形皮膚萎縮 53
多国間協力 34
たこつぼ心筋症 100
多疾患合併 48
多職種の各専門性の理解 27
多職種連携とチーム医療 31
多職種連携教育 31
多数傷病者事故 24
多臓器機能障害症候群 51, 73
多臓器不全 51, 73, 78
多胎 85
多胎妊娠 84
多動 58
田中・Binet式知能検査 67
多尿 20, 57
多嚢胞性卵巣症候群 112, 121
他の気管支・肺腫瘍 97
他のよく定義された免疫不全症 125
多発単ニューロパチー 115
多発外傷 78
多発血管炎性肉芽腫症96, 109, 124
多発性筋炎 116, 124
多発性硬化症 87, 115
多発性骨髄腫 106
多発性内分泌腫瘍症 121
多発性軟骨性外骨腫 117
多発ニューロパチー 115
タバコ依存 129
タバコ煙 129
タバコ煙中の有害物質 129
たばこ(主流煙・副流煙)関連疾患26
多脾症 99
多分割照射 75
多毛 60
多門照射 75
単位 68
単一遺伝子病 49
胆管炎 25, 104
胆管癌 104
単球 45
探索 18

索引

単心室 99
単心房 99
胆汁うっ滞型 103
胆汁および胆汁分泌 42
胆汁酸 42
単純 23
単純性血管腫 89
単純性甲状腺腫 120
単純性腎嚢胞 112
単純性腸閉塞 105
単純性肥満 121
単純・造影CT 13
単純・造影MRI 13
単純部分発作 116
単純ヘルペス 91
単純ヘルペスウイルス感染症 126
単純ヘルペス脳炎 114
胆石 76
胆石症 25, 104
単染色 64
短腸症候群 102
タンデムマス・スクリーニング 68
胆道 70, 76
胆道機能検査 65
胆道疾患 104
胆道損傷 105
胆道造影検査 69
胆道の異常 105
胆道の構造 42
胆道構造・機能 42
胆道閉鎖症 105
丹毒 90
単ニューロパチー 115
胆嚢炎 25, 104
胆嚢癌 104
胆嚢収縮の調節 42
胆嚢腺筋腫症 104
胆嚢・胆管造影検査 69
胆嚢ポリープ 104
蛋白 63
蛋白・アミノ酸代謝異常 121
蛋白{質}代謝の異常 51
蛋白・蛋白分画 10
蛋白定量 9
蛋白尿 20, 57, 109
蛋白分画 10, 22, 42, 63
蛋白漏出試験 65
単発性骨嚢腫 117

だ

ダーモスコピー 66
第1～4回旋 46
第1期 46
第2期 46
第3期 46
第Ⅷ因子 107
第Ⅸ因子 107
大横径 68
ダイオキシン類 38
大規模災害 24
大血管 41
大血管障害 121
大後頭孔 40
大細胞癌 97
大細胞神経内分泌癌 97
大泉門 47
大腿 24
大腿骨近位部骨折 118
大腿骨長 68
大腿骨頭すべり症 117
大腿ヘルニア 104
大腸CT 13, 69
大腸癌 25
大腸菌感染症 127
大腸憩室 103
大腸腺腫 102
大腸ポリープ 102
大頭 59
大動脈解離 101
大動脈疾患 101
大動脈縮窄症 99
大動脈弁狭窄症 99
大動脈弁疾患 99
大動脈弁閉鎖不全症 100
大動脈弁膜症 25
大動脈弁輪拡張症 101
大動脈離断症 99
大動脈瘤破裂 25
ダイナミックMRI 69
ダイナミックCT 13, 69
大脳基底核とその連絡路 43
大脳皮質基底核変性症 115
大脳皮質と機能局在 43
大脈 56
唾液 42
唾液腺 21, 42
唾液腺炎 94
唾液腺癌 94
唾液腺疾患 93
唾液腺の異常 94
唾液腺良性腫瘍 94
唾液分泌検査 12, 65
唾液分泌異常 55
打診 21
唾石症 94
堕胎 31
脱臼 26, 118
脱臼の治療・処置 78
脱水 19, 53
脱水と浮腫 110
脱髄疾患 115
脱毛 53, 60
脱毛症 91
脱抑制型対人交流障害 88
脱抑制性対人交流症 88
ダニ 129
ダニアレルギー 124
ダブルバブルサイン 105
ダメージコントロール 78
男性 21
男性化徴候 60
男性性機能の異常 57
男性生殖器の炎症 110
男性生殖器の形態異常 112
男性生殖器の構造・機能 43
男性生殖器の腫瘍 111
男性生殖器腫瘍 111
弾性線維性偽性黄色腫 122
弾性線維性仮性黄色腫 90
男性不妊症 112
ダンピング症候群 102

ち

チアノーゼ 19, 56
地域移行 37
地域医療 33
地域医療構想 33
地域医療支援センター 33
地域医療支援病院 31
地域医療支援病院の整備 33
地域医療でのチームワーク 28
地域医療搬送 33
地域産業保健センター 38
地域社会構造 30
地域社会と公衆衛生 35
地域社会との連携 33
地域診断 33
地域生活支援センター 77
地域精神保健福祉活動 37
地域包括ケア 33
地域包括ケアシステム 28
地域包括支援センター 30
地域保健 32, 33
地域保健・地域医療と医師の役割33
地域保健福祉活動 33
地域保健法 32
地域リハビリテーション 76
地域連携 33
地域連携パス 28
チームアプローチ 79
チーム医療と多職種連携 27
遅延相 69
知覚 43
知覚障害 58
地球温暖化 38
地球環境の変化と健康影響 38
蓄尿 43
蓄尿症状 57
致死性不整脈 99
致死的骨折の固定法 24
致死的な病態・疾患・外傷の鑑別23
致死的不整脈の治療 77
致死量 51
チック 59
チック症 88
チック障害 88
窒息 79
腟 43
腟炎 110
腟癌 111
腟欠損症 86
秩序破壊的または非社会的行動症群 88
腟脱 112

腔内照射 75
腟分泌物 63
腟裂傷 85
知的障害 57, 88
知的障害者福祉法 33
知的障害のリハビリテーション 77
知的発達症 88
知的発達障害 88
知能 43
知能検査 67
知能指数 47
知能障害 57
遅発性内リンパ水腫 93
地方衛生研究所 30
遅脈 56
着床 46
着床前診断 67
注意義務 31
注意欠陥 58
注意欠如多動症 88
注意欠如多動性障害 88
注意障害 58
中咽頭 42
中咽頭癌 94
肘関節の疾患 116
中間痛 57
注射 27, 71
中心静脈ポート留置術 75
中心静脈栄養 71
中心性漿液性脈絡網膜症 92
中心・側頭部に棘波をもつ良性小児てんかん 119
中耳 40, 70
中耳奇形 95
中耳疾患 92
中耳の異常 92
中縦隔 41
虫垂炎 102
中枢性免疫系臓器 45
中枢 44
中枢神経作用薬 71
中枢神経(脳・脊髄)症状 59
中枢神経・末梢神経の構造・機能 43
中枢性 98
中枢性性早熟症 120
中枢性摂食異常症 120
中枢性尿崩症 120
中腸軸捻転 105
注腸造影検査 13
中頭蓋窩 40
中毒 26, 51, 115
中毒疹 89
中毒性疾患 115
中毒性腎障害 109
中毒性表皮壊死症 89
中毒の発生要因 51
中毒の病態生理 51
中毒量 51
肘内障 116
肘部管症候群 115
昼盲 54
虫卵 9, 63
中和試験 64
腸炎ビブリオ感染症 127
超音波下治療 76
超音波検査 13, 23, 67, 68
超音波所見 68
超音波ドプラ法 68
超音波内視鏡 70
超音波内視鏡検査 13
腸回転異常症 105
聴覚系の構造・機能 40
聴覚生理 40
聴覚・前庭路 44
聴覚の電気現象 40
聴覚・平衡機能検査 66
腸管出血性大腸菌感染症 127
腸管軸捻転症 105
腸肝循環 42
腸管洗浄 70
腸間膜静脈血栓症 105
腸間膜動脈閉塞症 105
腸管無神経節症 105
聴器 40
聴器癌 92
長期透析患者の合併症 110
腸球菌感染症 127
腸結核 102
兆候 68
調査的態度 18
腸雑音 21
聴診 20
聴神経腫瘍 93
腸重積症 25, 105
腸性肢端皮膚炎 122
聴性脳幹反応 65, 66
調節 40
調節異常 91
調節検査 66
腸洗浄 78
腸チフス 127
腸内細菌叢 42
腸閉塞 25
聴力 40, 47
聴力障害 19
直接・間接Coombs試験 11
直接・間接生活介護 31
直接ビリルビン 10
直腸 70, 71, 77
直腸癌 103
直腸・肛門の異常 105
直腸・肛門疾患 102
直腸肛門反射 42
直腸脱 102
直腸腟瘻 113
直腸瘤 112
治療 17, 24
治療関連白血病 106
治療計画 75
治療効果判定 21
治療に伴う医原病 52
治療の基本 26
治療への動機付け 19
治療薬物モニタリング 71
陳旧性心筋梗塞 100
沈渣 63
鎮痛補助薬 79
鎮痛薬 70

つ

椎間板 44
椎間板炎 114
椎間板ヘルニア 26, 116
椎骨・脳底動脈領域 44
椎体炎 114
墜落 49
痛覚 21, 41
通過障害 56
通所介護 30
通所リハビリテーション 30
通常分割照射 75
痛風 26, 117, 122, 125
痛風腎 109
杖 76
突き指 118
槌指 118
ツツガ虫病 126
津波 24
ツベルクリン反応 11, 64
爪の異常 53
爪・毛髪異常 53
津守・稲毛式発達検査 67
ツルゴール 53

て

手足口病 126
手洗い 27
ティンパノメトリ 66
低CO_2血症 55
低O_2血症 55
定位放射線照射 75
低栄養 51
低エコー域 68
帝王切開 79
帝王切開後分娩 85
低温・高温環境による疾患 130
低下症 84
低カルシウム血症 85
提供者と被移植者 74
低血糖 85
低血糖昏睡 61
低血糖症 121
低血圧 51, 56
抵抗 41
低ゴナドトロピン性性腺機能低下症 120
低酸素血症 55
低酸素脳症 115
低在横定位 84
低周波空気振動 39
低出生体重児 85
低身長 60
定性 63

低体温{症}……24，78，86
低体温療法……73
低蛋白血症……121
低二酸化炭素血症……55
停留精巣……112
定量……63
適応……68，69，71，74，75
適応障害……24，87，129
適応と一般的注意……72
適応と禁忌……69，70，71
適応と採血法……22
適応能力の低下……48
適応反応症……24，87
笛音……55
摘出術……73
適時性……17
適正使用……72
テストステロン……10
徹照法……66
鉄過剰症……106
哲学などに関連する一般教養的知識や考え方……28
鉄欠乏性貧血……25，84，106
鉄染色……63
鉄・造血ビタミンの代謝……42
鉄代謝障害……106
テニス肘……116
手の疾患……117
テロ……24
転移……51
転医……28
転移がん……50
転移性肝癌……103
転移性骨腫瘍……117
転移性腫瘍……100，111
転移性脳腫瘍……114
転移性肺腫瘍……97
てんかん……26，119
転換……58
転換症……87
てんかん重積状態……24，116
転換性障害……87
点眼……71
転座……49
点状出血……57
転倒……48，49
点頭てんかん……119
転倒・転落……130
点鼻……71
添付文書……17
天疱瘡……90
転落……49

で

ディジタルサブトラクション血管造影検査……13
デイケア……30，77
デイサービス……30
デキサメタゾン抑制試験……12
溺水……24，79
溺水の治療・処置……79
デジタルラジオグラフィ……68
デスカンファレンス……80
デブリドマン……78
デルマトーム……44
デルマドローム……53
伝音機構……40
伝音難聴……54
電解質……10，63
電解質の異常……110
電解質の代謝調節……43
電解質の評価……61
電解質分析……61
電気けいれん療法……80
電気ショック……77
電気治療……80
電気味覚検査……67
デング熱……126
電顕標本……12
電撃傷……49，94
電撃症……61
電子顕微鏡による病理検査……64
電子スコープ……70
伝染性紅斑……84，126
伝染性単核{球}症……107
伝染性軟属腫……126
伝染性膿痂疹……90
伝達麻酔法……74
癜風……90，128
電離放射線……68，94
電離放射線障害……130
電離放射線の健康影響……39

と

頭囲……47
頭位・頭位変換眼振……67
頭囲の異常……59
頭位変換眼振……67
投影法……67
統計解析……35
頭頸部……19，40，54
頭頸部疾患……24
頭頸部の診察……21
頭頸部の生理的間隙……40
頭頸部の先天異常……95
頭血腫……85
凍結切片……64
凍結治療……76
凍結療法……80
糖原病……122
橈骨遠位端骨折……118
統合失調感情障害……87
統合失調症……24，87
統合失調症と類縁疾患……87
糖質および糖代謝関連物質……63
糖{質}・脂質・蛋白{質}代謝(核酸代謝を含む)の異常……51
糖{質}代謝異常……121，122
凍傷……49，78，94，130
透析アミロイドーシス……110
凍瘡……49，89，94，130
糖代謝異常……121
糖代謝関連……10
疼痛……21，53
疼痛緩和の薬物療法……79
疼痛のアセスメント……27
疼痛の管理……74
疼痛の種類と原因……79
糖定量……9
頭殿長……68
糖尿……57，60
糖尿病……26，84，91，121
糖尿病ケトアシドーシス……121
糖尿病・高血圧・動脈硬化による眼底変化……24
糖尿病神経障害……121
糖尿病腎症……26，109，121
糖尿病性昏睡……61
糖尿病足病変……121
糖尿病の高血糖緊急症……121
糖尿病の慢性合併症……121
糖尿病網膜症……92，121
逃避的態度……18
頭部……21
頭部エックス線撮影……13
頭部外傷……26，76，78，118
投与経路と種類の特徴……71
投与法……77
トータルヘルスプロモーションプラン……38
トータルペイン……27
トータルペインの種類と原因……79
兎眼……54
兎眼{症}……91
トキシックショック症候群……127
トキシドローム……61
トキソプラズマ抗体……11
トキソプラズマ症……128
特異的IgE……11
特異的IgE検査……64
特異度……23
特殊な治療法……78
特定機能病院……31
特定健康診査……36
特定行為……33
特定保健指導……36
特発性……97
特発性間質性肺炎……97
特発性器質化肺炎……97
特発性細菌性腹膜炎……103
特発性心筋症……100
特発性正常圧水頭症……118
特発性大腿骨頭壊死症……117
特発性肺線維症……97
特発性膝骨壊死……117
特発性門脈圧亢進症……104
特別支援学校……30
特別養護老人ホーム……31
特別用途食品……37
吐血……19，56
徒手筋力テスト……21
閉じ込め症候群……58
閉じこもり……36
突発性難聴……92

突発性発疹 126
突然死 52
都道府県労働局 38
届出 37
塗抹 12
塗抹検査 22
トラコーマ 126
トリアージ 23，24，33
トリグリセリド 10
トリコモナス症 128
トリコモナス腟炎 110
トルコ鞍 40
トレーサー原理 69
トロンビン・アンチトロンビン複合体 9
トロンボポエチン 42

ど

同意の条件 74
動眼神経麻痺 91
動悸 19
同期 77
同期式間欠的強制換気 80
動機付け 18
動機付けインタビュー 19
洞結節 41
瞳孔 40
同種移植 74
同種生体弁 74
同種輸血と自己輸血 72
動態検査 69
動注化学療法 75
同定 12
洞不全症候群 99
動物性皮膚疾患 91
動脈 21
動脈化学塞栓療法 75
動脈管 46
動脈管開存症 99
動脈血栓 57
動脈血 63
動脈血ガス分析 12，22，65
動脈血酸素飽和度 61
動脈硬化 112
動脈硬化による眼底変化 24
動脈採血 27
動脈塞栓術 75
動脈優位相 69
動脈瘤 75
動脈瘤コイル塞栓術 75
動脈瘤様骨嚢腫 117
動揺病 93，130
毒劇物中毒 129
毒蛇咬傷 129
ドクターカー 33
ドクターヘリ 33
毒物及び劇物取締法 31
毒物の吸収・分布・代謝・排泄 51
土壌汚染 38
ドナーと被移植者 74
ドプラ法 65，68
ドレーン管理 74
ドレッシング 27
ドレナージ 73，77
呑酸 56
鈍的外傷 49
鈍的眼外傷 94

な

ナイアシン欠乏 122
内因と外因 49
内頸動脈海綿静脈洞瘻 114
内頸動脈領域 44
内喉頭筋 41
内視鏡下手術 76
内視鏡検査 13，23，70
内視鏡検査の基本手技と合併症 70
内視鏡検査の適用部位 70
内視鏡治療 27，76
内視鏡的鉗子生検 64
内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査 13，69
内視鏡的止血術 77
内視鏡的粘膜下層剥離術 76
内視鏡的粘膜切除 64
内視鏡の種類と原理 70
内耳 40
内耳炎 93
内耳奇形 95
内耳・神経疾患 92
内耳道 40
内耳の異常 92
内臓心房錯位 99
内臓痛 56
内的妥当性 23
ナイトケア 77
ナイトホスピタル 77
内軟骨腫 117
内反足 117
内部障害 77
内{部}照射療法 75
内部被ばく 52
内分泌・代謝機能 12
内分泌 18，20，44，47，60
内分泌異常による低血糖 121
内分泌異常による貧血 106
内分泌かく乱化学物質 38
内分泌器官 44
内分泌器官の構造・機能 44
内分泌機能 46
内分泌機能検査 65
内分泌機能の変化 49
内分泌系と免疫系・精神神経系 44
内分泌腫瘍 121
内分泌性高血圧症 100
内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患 26
内分泌・代謝・栄養の異常 51
内分泌・代謝機能検査 22，65
内分泌・代謝疾患 61
内分泌・代謝性ミオパチー 116
内分泌の異常 86
内リンパ嚢 40
泣き入りひきつけ 119
ナトリウム代謝異常 110
生ワクチン 37
ナルコレプシー 88
軟口蓋麻痺 93
軟骨 44
軟骨肉腫 117
軟骨無形成症 116
軟産道 46
軟性下疳 127
難聴 19，54
難病対策 33
難病の患者に対する医療等に関する法律 33
難病法 33
軟部腫瘍と類似疾患 117

に

二国間協力 34
肉眼的所見 9
肉芽腫症 91
肉芽組織 49
肉離れ 118
ニコチン酸欠乏 122
ニコチン代替療法 129
二次感染 50
二次救急医療 33
二次救命処置 23
二次・三次救急に必要な処置 77
二次・三次救急の治療 77
二次・三次救急の診察 61
二次性血小板減少症 107
二次性高血圧 100
二次性高脂血症 121
二次性腫瘍 111
二次性心筋疾患 100
二次性赤血球増加症 106
二次性徴 48
二次性徴の評価 62
二次性糖尿病 121
二次性認知症 57
二次性脳障害 78
二次性白血病 106
二次性貧血 25，106
二次性膜性腎症 109
二次治癒 49
二重免疫拡散法 64
日常生活障害 48
日常生活動作 36，61
日常生活動作訓練 76
日光角化症 90
日内リズム 43
二分脊椎 119
二分頭蓋 119
日本住血吸虫症 103
日本臓器移植ネットワーク 74
日本脳炎 126
日本の人口 35
日本版Denver式発達スクリーニング検査 67
ニューモシスチス肺炎 96，128

索引

入院 37
入院診療計画書 16
乳管癌 122
乳管内乳頭腫 122
乳癌 26, 122
乳酸アシドーシス 121
乳児化膿性股関節炎 114
乳児期 47
乳児健康診査 36
乳児下痢症 25, 105
乳児死亡 36
乳児の救急治療・処置 79
乳汁分泌 46, 62
乳汁分泌の機序 46
乳汁分泌不全 85
乳汁漏出 60
乳汁漏出症 112
乳腺 41
乳腺炎 85, 122
乳腺疾患 20, 26
乳腺症 123
乳腺線維腺腫 122
乳腺・乳房疾患 122
乳腺の異常 60
乳糖不耐症 121
乳糖分解酵素障害症 121
乳突洞 40
乳突洞削開術 92
乳び胸 98
乳び尿 57
乳房 21, 41
乳房Paget病 122
乳房外Paget病 90
乳房疾患 122
乳房超音波検査 13
乳房のしこり・左右差・皮膚の陥凹 20
乳幼児の栄養マネジメント 71
乳幼児の救急時の状態把握 61
乳幼児の採血と穿刺法 63
乳幼児の診察 61
乳幼児の難聴 93
尿 63
尿意切迫感 57
尿管 43, 70
尿管癌 111
尿管結石 110
尿管腟瘻 113
尿検査 9, 22
尿細管 42
尿細管間質疾患 109
尿細管機能異常 109
尿細管性アシドーシス 109
尿細管病変 109
尿細胞診 9
尿酸 10
尿酸腎症 109
尿失禁 20, 57
尿潜血 9
尿線途絶 57
尿勢低下 57
尿素呼気試験 12, 64
尿素サイクル異常症 122
尿素窒素 10
尿蛋白 9
尿蛋白・酵素 65
尿中アルブミン 65
尿中・血清抗体 64
尿中ホルモン 11
尿中ホルモン測定 65
尿沈渣所見 9
尿糖 9
尿道 43, 70
尿道炎 110
尿道カテーテルの挿入と抜去 27
尿道下裂 112
尿道結石 110
尿の性状の異常 57
尿の生成 43
尿の濃縮と希釈 43
尿の量の異常 57
尿閉 24, 57
尿膜管遺残 105
尿膜管癌 111
尿流測定 65
尿量 9
尿量の異常 20
尿路 76
尿路感染症 26
尿路結石 26, 110
尿路・性器異物 113
尿路・生殖器の機能異常 112
尿路・生殖器の損傷 113
尿路損傷 113
尿路造影検査 69
尿路の炎症 110
尿路の形態異常 112
尿路の構造・機能 43
尿路の腫瘍 111
尿路閉塞性疾患 110
妊・産・褥婦と胎児の診察 62
妊産婦健康診査 36
妊産婦死亡 36
妊産婦の栄養マネジメント 71
妊娠 17, 46
妊娠維持の機構 46
妊娠悪阻 57, 84
妊娠期間 46
妊娠高血圧症候群 24, 84
妊娠・周産期の異常 24
妊娠・出産・育児と労働 49
妊娠初期の異常 84
妊娠時期と放射線感受性 51
妊娠時期の診断 62
妊娠持続期間 46
妊娠時の異常 57
妊娠中・後期の異常 84
妊娠中の明らかな糖尿病 84
妊娠中の検査 67
妊娠徴候 46
妊娠糖尿病 24, 84, 121
妊娠による臓器の変化 46
妊娠による母体変化 46
妊娠の異常 84
妊娠の検査 67
妊娠の診断 62
妊娠の成立・維持 46
妊娠反応 9, 67
妊娠反応検査 22
妊娠貧血 84
妊娠・分娩・産褥の異常 20
妊娠・分娩・胎児・新生児の検査 67
認知機能 61
認知機能の低下 48
認知機能の評価 21
認知行動療法 80
認知症 26, 57, 87, 115
認知障害 20
認知バイアス 52
認知リハビリテーション 76
妊婦 21, 71
妊婦健康診査 62
妊婦・胎児への影響 129
妊婦の診察 62
妊婦の栄養 46
妊卵 46

ね

ネーザルハイフロー 80
熱傷 24, 49, 61, 94, 130
熱傷指数 78
熱傷の治療・処置 78
熱傷面積の評価 78
熱性けいれん 26, 119
熱中症 26, 78, 130
ネフローゼ症候群 26
粘液腫 100
粘液性嚢胞腫瘍 104
年金保険 30
捻挫 26, 118
捻挫・骨折・脱臼の治療・処置 78
燃焼式・加熱式 28
捻髪音 55
粘膜 19, 71, 124
粘膜関連リンパ組織 45
粘膜関連リンパ組織リンパ腫 103, 106
粘膜疹 19, 53
粘膜波動 41
年齢調整率 35
年齢に応じた麻酔法 73

の

脳 43
膿 63
脳圧管理 74
脳炎 26, 114
脳幹 44
脳器質精神症候群 58
膿胸 96
脳血管疾患 129
脳血管障害 61, 76, 114
脳血管性認知症 87, 114, 115

脳血管攣縮 114
濃厚血小板 72
脳梗塞 26, 114
脳挫傷 118
脳死 27
脳死下での臓器提供 74
脳室 43
脳室ドレナージ 77
脳死判定 27
嚢腫 53
脳出血 26
脳腫瘍 114
脳症 26
脳神経 21, 44
脳神経障害 58
脳振盪 118
脳実質外腫瘍 114
脳実質内腫瘍 114
脳静脈系 44
脳性ナトリウム利尿ペプチド 11
脳性麻痺 26, 77, 119
脳脊髄液 63
脳脊髄液検査 9, 22
脳脊髄液減少症 118
脳・脊髄血管系とその支配領域 44
脳・脊髄の形成異常 118, 119
脳槽 43
脳卒中後遺症 114
脳卒中後の急性期・回復期・維持期リハビリテーション 114
脳底動脈領域 44
脳動静脈奇形 114
脳動脈解離 114
脳動脈狭窄・閉塞 114
脳動脈瘤 75, 114
脳内出血 114
膿尿 57
脳膿瘍 114
脳波検査 12, 23, 65
脳ヘルニア 59
脳ヘルニア対策 24
膿疱 53
膿疱症 90
嚢胞腎 112
膿疱性乾癬 90
嚢胞性腫瘍 97
嚢胞貯留液 63
脳保護療法 24
農薬 38
農薬中毒 129
膿瘍 76
脳瘤 119
ノーマライゼーション 16, 30
ノカルジア症 127
ノルアドレナリン 10
ノロウイルス感染症 126
ノンストレステスト 68, 85
ノンレム睡眠 43

は

歯 42, 55
胚 46
肺悪性腫瘍 97
肺炎 25
肺炎球菌感染症 127
肺拡散能力 65
肺癌 25, 97
肺気腫 96
廃棄物処理 38
廃棄物処理法 32
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 32
肺気量分画 41, 65
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 32
肺結核 25
肺結核症 96
肺血管系 41
肺血栓塞栓症 51, 97, 101
敗血症 24, 78, 85
敗血症性 51
肺高血圧症 97, 99
肺コンプライアンス 41
肺サーファクタント 68
胚{細胞}腫 120
胚細胞腫瘍 97, 111, 114
肺疾患あるいは低酸素血症に続発する肺高血圧症 97
排出規制 38
肺腫瘍 97
肺真菌症 25, 96
肺実質感染症 96
肺循環 42
肺循環異常 97
肺水腫 25, 97
肺性心 97
排泄 71
排泄障害 48
肺塞栓症 25, 85
肺損傷 96
排痰法 80
肺低形成 85
肺動静脈瘻 97
肺動脈性肺高血圧症 97
肺動脈閉鎖症 99
排尿 43
排尿機能検査 65
排尿困難 20
排尿後症状 57
排尿障害 20
排尿症状 57
排尿遅延 57
排尿痛 57
肺の異常 96
肺の形態・機能異常 96
肺の構造・機能 41
肺の腫瘍 97
肺のリンパ管とリンパ節 41
肺表面活性物質 41
背部痛 20, 24, 60
背部の叩打痛 21
肺分画症 96
排便機能 42
肺胞 41
肺胞気-動脈血酸素分圧較差 41
肺胞呼吸音 21, 55
肺胞蛋白症 97
肺胞低換気症候群 98
肺胞微石症 97
廃用症候群 36, 77
廃用性萎縮 114
排卵 43
排卵痛 57
ハイリスク妊娠 84
排臨 46
肺リンパ脈管筋腫症 97
破瓜型統合失調症 87
白質変性症 115
白色瞳孔 54
白色便 56
白杖 76
白癬 90, 127
白内障 24, 92
白斑症 93
白板症 93
波形診断 65
ハサップ手法 37
橋本病 120
播種 51
播種性血管内凝固 26, 78, 85, 107
破傷風 127
破傷風とガス壊疽の予防 78
破水 46, 57
ハチ 129
発汗 40, 53
発汗異常症 90
発汗テスト 66
白血球 9
白血球系疾患とその他の骨髄性疾患 106
白血球形態 63
白血球反応 9
白血球分画 9
白血病 96, 108
発声 21
発声器 40
発声機能検査 66, 67
発声器の構造・機能 41
発声・発語検査 67
発生率 50
発達 18
発達区分 48
発達指数 47
発達障害 58
発達障害のリハビリテーション 77
発達性学習症 88
発達性協調運動症 88
発達性協調運動障害 88
発達テスト 67
発達の遅れ 20
発達の障害 86
発達の評価 61
発達理論 48
発育区分 47
発育指数 47

索引

発育性股関節形成不全 117
発育・成熟の診断 62
発がん因子 50
発がん性 51
発語検査 67
発熱 19, 53
発熱性好中球減少症 106
発露 46
鼻 21, 40, 41
鼻アレルギー 124, 130
話の伝え方 19
鼻の異常 54
鼻・副鼻腔癌 93
鼻・副鼻腔の異常 93
針筋電図検査 12, 23, 65
針刺し切創 17
針反応 66
反映 18
反回神経 40, 41
反回神経麻痺 93, 98
半月板 44
半月板障害 117
半月板損傷 118
反抗挑発症 88
瘢痕 53
瘢痕組織 49
半座位 21
反射 44, 47
反射異常 59
汎収縮期雑音 56
搬送 24
反跳痛 56
反応性 57
反応性愛着障害 88
反応性アタッチメント症 88
反応性関節炎 124
反応性低血糖 121
汎発性腹膜炎 25
汎ぶどう膜炎 92
反復性脱臼 116
反復投与 71
反復誘発筋電図検査 65
半盲 54

ば

バイアス 23
バイオテロ 61, 127
バイオテロ対策 37
バイオテロに関連する感染症 50
バイタルサイン 21, 61
バイタルサインの把握 23
梅毒 127
梅毒血清反応 11
培養 12
培養検査 22
爆傷 49, 78
バクテロイデス感染症 127
麦粒腫 91
バソプレシン 10
ばち指 56
抜糸 27
抜毛症 87, 91
馬蹄腎 112
バニリルマンデル酸 11
ばね指 117
場面緘黙 88
バリアフリー 30
バリウム 69
バルーン内視鏡 70
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 102
晩期死体現象 52
晩期反応 51
バンコク憲章 33
晩発性放射線障害 75

ぱ

パーソナリティ 43
パーソナリティ症 88
パーソナリティ障害 88
パッチテスト 11, 66
パニック症 87
パニック障害 24, 87
パニック値と緊急対応 22
パニック発作 58
パラコート中毒 97
パラチフス 127
パルスドプラ法 68
パルトグラム 62
パルボウイルスB19 84
パルボウイルスB19感染症 126
パワードプラ法 68
パンデミック 34

ひ

脾 45
非アルコール性脂肪性肝炎 104
非アルコール性脂肪性肝疾患 104
皮下 27
皮下気腫 98
皮下組織 40
光パッチテスト 66
非観血的 78
非感染性骨・関節・四肢軟部疾患 116
非感染性疾患 28, 34, 36
非がん疼痛 79
引きこもり 37
脾機能亢進症 107
非結核性抗酸菌症 90, 96, 127
非血管系治療 75
非言語的コミュニケーション 18
肥厚性瘢痕 49
肥厚性幽門狭窄症 105
皮脂 40, 53
皮脂欠乏性湿疹 89
非社会的行動症 88
脾腫 56, 57
皮疹 19, 53
非侵襲的陽圧換気 80
比重 9
非上皮性 50
非正規雇用 37
非政府機関 34
非セミノーマ 111
非穿通性損傷 49
脾損傷 105
脾臓 21, 42
悲嘆のケア 27, 80
肥大型心筋症 100
非チフス性サルモネラ症 127
必須栄養素 51
必須元素 51
非定型精神病 87
非定型的症状 48
非定型病原体 96
非電離放射線の健康影響 39
非電離放射線障害 130
ヒトT細胞白血病ウイルス感染症 126
非特異性間質性肺炎 97
ヒトパピローマウイルス感染症 126
ヒト免疫不全ウイルス感染症 126
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 16
非同期 77
皮内 27
皮内テスト 66
皮内反応 11
泌尿器 20, 42, 47, 57, 70
泌尿器疾患 26
泌尿器・生殖器外傷 78
避妊 112
被ばく低減3原則 39
被ばくの種類 52
非びらん性胃食道逆流症 102
皮膚 19, 21, 40, 46, 53, 71, 124
皮膚悪性腫瘍 89
皮膚悪性リンパ腫 90
皮膚温測定法 66
皮膚炎 24, 89
皮膚潰瘍 24
皮膚・感覚器・発声機能検査 66
皮膚筋炎 116, 124
被覆 27
皮膚欠損の処置 78
皮膚血流障害 89
皮膚検査 66
皮膚抗酸菌症 90
皮膚真菌症 90
皮膚線維腫 89
皮膚腺病 90
皮膚・頭頸部疾患 24
皮膚・頭頸部の先天異常 95
皮膚の異常 56
皮膚の緊張度 53
皮膚の構造・機能 40
皮膚反応 11
皮膚描記法 66
皮膚分泌異常 53
皮膚良性腫瘍 89
飛蚊症 54
非閉塞性腸管虚血症 105

非閉塞性無精子症 112
被包化膵臓壊死 104
肥満 20, 51, 60, 98
肥満細胞 40
肥満症 121
肥満度 47
秘密漏示 31
非Mendel遺伝様式 49
百日咳 127
ヒヤリ・ハット 17
ヒューマンエラー 17
評価 16, 24, 47
評価尺度 67
評価的態度 18
評価と原因の鑑別 61
評価と対策 39
表在がん 50
標準化死亡比 35
標準型失語症検査 67
標準誤差 35
標準偏差 35
標準予防策 17
ひょう疽 90
表層上皮性・間質性腫瘍 111
標的体積 75
表皮 40
表皮ブドウ球菌感染症 127
表皮母斑 89
標本作製法 64
標本の抽出 35
標本の取扱法 64
費用対効果分析 23
日和見感染症 50, 96
非淋菌性尿道炎 111
ヒルの基準 35
比例ハザードモデル 35
広場恐怖 24
広場恐怖症 87
貧血 20, 57
頻呼吸 55
頻度と分布 35
頻度を表す指標 35
頻尿 57

び

鼻炎 93
鼻腔 41, 70
鼻腔・副鼻腔・喉頭疾患 93
鼻骨骨折 94
鼻根 40
鼻出血 19, 54
微小血管減圧術 93
微小変化群 109
微弱陣痛 84
微生物学検査 64
微生物抗原検査 64
鼻せつ 93
ビタミン 10, 51, 63
ビタミンB_1 10
ビタミンB_{12} 10, 42
ビタミンB_{12}欠乏症 115
ビタミンB_{12}欠乏性貧血 106
ビタミンB_1欠乏症 122
ビタミンD 43
ビタミンK欠乏症 85, 107
ビタミン過剰症 122
ビタミン欠乏症 71, 122
ビタミン類の代謝異常 122
鼻閉 54
びまん性軸索損傷 118
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 106
びまん性汎細気管支炎 96
病因 30, 35
病院 31
病院感染症 50
病院機能評価 17
病院・診療所・薬局の連携 33
病院前救護 33
病害動物および鼠族・節足動物による疾患 129
病害動物による疾患 129
病型 49
病期 49
病原体 50
病原体遺伝子〈核酸〉検査 22
病原体検査 12
病原体の迅速検査 22
病原体別検査 64
病原微生物の同定・検鏡 64
病原微生物の培養・分離・同定 64
病死及び自然死 52
病識欠如 58
病診連携 28
病状説明 18
病態 50, 71
病態に応じた診察 61
病的反射 21
病病連携 28
病理解剖 52
病理学的組織検体の染色法 64
病理組織学検査 22, 64
病理発生 49
病歴情報 18
びらん 53
微量アルブミン 9
微量栄養素 51
微量元素 10, 51, 63
微量元素欠乏 71
ビリルビン 9, 63
ビリルビン代謝 47
ビリルビン代謝異常 104
ビリルビン代謝の異常 122
ビリルビン尿 57
鼻漏 54

ぴ

ピークフローメトリ 65

ふ

ファイバースコープ 70
不安 20, 58
不安症 87
不安障害 87
不安定狭心症 100
不育 57, 111, 112
不育症 84, 112
風疹 24, 126
フェティシズム 88
フェニルケトン尿症 122
フェリチン 10
負荷試験 65
不活化ワクチン 37
不機嫌 20
不規則抗体 67
吹き抜け骨折 95
腹圧 46
腹圧性尿失禁 112
腹圧排尿 57
腹囲 68
副咽頭間隙 40
腹臥位 21
腹腔 27, 70
腹腔鏡 73
腹腔穿刺・ドレナージ 77
腹腔内臓器 42
副甲状腺 10, 44
副甲状腺機能障害 120
副甲状腺機能低下症 120
副甲状腺機能亢進症 120
副甲状腺疾患とカルシウム・リン代謝異常 120
副甲状腺ホルモン 10
複合型免疫不全症 125
複合性局所疼痛症候群 118
副作用 69
副作用への対応 17
副雑音 21, 55
複雑部分発作 116
複視 19, 54
福祉工場 77
福祉施設 30
福祉ホーム 77
福祉用具 28, 76
副神経 40
副腎 10, 43
副腎過形成 120
副腎偶発腫 120
副腎静脈サンプリング 120
副腎髄質機能障害 121
副腎腺腫 120
副腎その他の疾患 122
副腎白質ジストロフィー 115
副腎{皮質}癌 121
副腎皮質機能障害 87, 120
副腎皮質刺激ホルモン 10
副腎皮質・髄質 44
副腎皮質・髄質疾患 120
副腎不全 61
腹水 21, 56, 63
腹水の検査 22
腹水・の治療とケア 79
複数菌感染 50

索引

輻湊 40
腹痛 19, 24, 56
副反応 37
副鼻腔 21, 40, 70
副鼻腔炎 93
副鼻腔癌 93
副鼻腔真菌症 93
副鼻腔の異常 93
副鼻腔疾患 93
腹部エックス線撮影 13
腹部外傷 78, 105
腹部腫瘤 56
腹部大動脈瘤 75, 101
腹部超音波検査 13
腹部の診察 21
腹部膨満・腫瘤 20
腹部膨隆 56
腹壁 42
腹壁血管怒張 56
腹壁疾患 25, 104, 105
腹壁の筋肉・筋膜 42
腹壁破裂 105
腹壁瘢痕ヘルニア 104
腹壁・腹膜の構造・機能 42
腹膜 42
腹膜癌 111
腹膜偽粘液腫 104
腹膜刺激症状 56
腹膜刺激徴候 21
腹膜疾患 25, 104
腹膜中皮腫 104
腹膜透析 72
服薬計画 71
服薬指導 71
福山型 119
フグ 129
浮腫 19, 21, 53, 56
浮腫性硬化症 91
不詳の死 52
不随意運動 20, 59
不正軸進入 84
不正性器出血 20
不整脈 25, 51, 56, 99
付属器 40
付着部痛 60
腹腔鏡下手術 76
不定愁訴 58
不妊 36, 57, 111, 112
不飽和鉄結合能 10
不眠 28, 58
不眠症 88
不良姿勢 59
振舞い 18
フレイル 36, 48
フレイルの評価 61
フローサイトメトリー 63
フロセミド負荷試験 12
フロッピーインファント 62
憤怒けいれん 119
糞便 63
糞便検査 9, 22
粉瘤 89

ぶ

部位 63
部位別治療優先順位の判断 23
部位別治療優先順位の判定 78
部位別優先順位の判断 61
物質関連障害および嗜癖性障害 87
物的 16
物的支援 28
物理・化学的外傷 94
物理的原因・生活環境因子による障害 130
物理的損傷 49
物理療法 76, 80
舞踏運動 59
ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群 90
ブドウ糖負荷試験 10, 12
ぶどう膜 40
ぶどう膜炎 92
ぶどう膜・網膜・硝子体疾患 92
部門間連携 16
ブラ 96
ブレブ 96
文化的配慮 74
文献検索法 23
分子標的薬 72, 97
文書偽造 31
分析モデル 35
分染法 65
分泌物検査 67
分布 71
分娩 17, 20, 46
分娩開始 46
分娩外傷 86
分娩・産褥の異常 84
分娩時期 46
分娩時期の診断 62
分娩時裂傷 85
分娩停止 84
分娩の3要素 46
分娩の異常 20
分娩の経過 46
分娩の検査 67
分娩麻痺 118

ぷ

プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮 20
プライバシー・体調・環境への配慮 18
プライバシー保護 16
プライマリ・ケア 33
プライマリヘルスケア 33
プラスミン・プラスミンインヒビター複合体 9
プラセボ 36
プラセボ効果 71
プリオン病 114, 128
プリックテスト 11, 66
プリン(尿酸)代謝の異常 122
プレコンセプションケア 62
プロカルシトニン 11
プロゲステロン 10
プロゲステロン負荷試験 12
プロテインC欠乏症 107
プロテインS欠乏症 107
プロトコール 27
プロトロンビン時間 9
プロトン密度強調像 69
プロポーション 47
プロラクチノーマ 120
プロラクチン 10

へ

平易な表現 19
平滑筋腫 103
平滑筋肉腫 118
平均寿命 35
平均赤血球ヘモグロビン 9
平均赤血球ヘモグロビン濃度 9
平均赤血球容積 9
平均余命 35
閉経 18
閉経後障害 112
閉瞼 40
閉瞼不全 54
平衡・感覚・自律神経系の障害 59
平衡機能検査 66, 67
平衡障害 59
平衡相 69
閉鎖孔ヘルニア 104
閉塞性 98
閉塞性細気管支炎 96
閉塞性ショック 51, 77
閉塞性水頭症 118
閉塞性動脈硬化症 101
閉塞性無精子症 112
平背 59
併用禁忌 71
併用薬 71
へき地医療 34
へき地医療・救急医療の確保 33
へき地医療拠点病院 34
へき地医療支援機構 34
へき地診療所 34
へき地保健医療対策 34
ヘパリン起因性血小板減少症 107
ヘプシジン 42
ヘマトクリット 9
ヘモクロマトーシス 104, 106, 122
ヘモグロビン 9
ヘモグロビン尿 57
ヘモジデローシス 106
ヘモフィルス感染症 127
ヘリコバクター・ピロリ感染症102, 107, 127
ヘリカルCT 69
ヘルシンキ宣言 16
ヘルスプロモーションの概念 33
ヘルパーT細胞 45
ヘルパンギーナ 93, 126

索引

ヘルペス……24
辺縁系……44
変換症……87
変形……21
変形性足関節症……117
変形性関節症……26，117
変形性股関節症……117
変形性膝関節症……117
変形性脊椎症……26，116
変形治癒骨折……118
変視症……54
片頭痛……26，116
変性近視……92
扁桃……21，42，45
扁桃炎……25
扁桃周囲炎・膿瘍……94
扁桃体……44
扁平上皮癌……97
扁平苔癬……90

べ

便細菌検査……9
娩出期……46
娩出物……46
娩出力……46
便潜血反応……9
便中抗原……64
便通異常……19，56
便秘……19，56
便秘症……25，102
弁膜症……25，99

ぺ

ペインクリニック……74
ペースメーカ……74，99
ペプシノゲン……10
ペプシノゲン測定……65
ペラグラ……122
ペルオキシダーゼ染色……63

ほ

法医学的試料の採取……63
蜂窩織炎……90
放火症……88
包茎……112
報告義務……17
報告様式……64
縫合……27，78
縫合法……72
放射性医薬品……69
放射性同位元素……68
放射性同位元素内用療法……75
放射性廃棄物……39
放射線……36
放射線管理……39
放射線効果の修飾……75
放射線障害……49，51
放射線性腸炎……102
放射線治療……27，74
放射線治療の適応……75
放射線治療可能比……74
放射線による発がん……52，130
放射線の影響……46
放射線の確率的影響・確定的影響52
放射線の健康影響と管理……39
放射線の身体的影響……51
放射線の単位と測定……68
放射線肺炎……97
放射線防護3原則……68
放射能……68
胞状奇胎……84，111
放線菌症……127
蜂巣炎……90
方法……76
訪問介護……30
訪問看護……30
訪問看護ステーション……31
訪問診療……30
訪問リハビリテーション……30
保菌者……50
保健・医療・福祉・介護・教育の制度と連携……16
保健・医療・福祉・介護・教育の連携……28
保健・医療・福祉・介護の仕組み30
保健・医療・福祉・介護の施設と機能……31
保健・医療・福祉・介護の資源・31
保健・医療・福祉・介護の組織と連携……30
保健・医療・福祉・介護関係法規31
保健・医療・福祉・介護従事者・31
保健・医療・福祉介護従事者の現状と役割……31
保健機能食品……37
保健指導……35
保健所……30
保険薬局……31
歩行……21
歩行器……76
歩行訓練……76
歩行障害……20，59
歩行障害・転倒……48
保護・防御機能……41
補償……17
ホスピス……79
ホスピス・緩和ケア……80
ホスピスケアの基準……80
保存期間……22，63
保存方法……22
補体……11，45，64
補体欠損症……125
補体結合反応……64
発作性異常波……65
発作性寒冷血色素尿症……106
発作性・機能性・自律神経系疾患……116
発作性上室頻拍……99
発作性夜間ヘモグロビン尿症‥106
哺乳力低下……20
ホメオスタシス……43，44
ホモシスチン尿症……122
ホルモン……10，11，63
ホルモン受容体異常症……121
ホルモンの合成・分泌とその調節44
ホルモンの合成・分泌の異常‥‥51
ホルモンの作用機序……44
ホルモンの種類……44
ホルモン補充療法……112
本態性血小板血症……106
本態性高血圧……100
本態性振戦……115
奔馬調律……55

ぼ

防御機能……41
膀胱……43，70，77
膀胱炎……110
膀胱癌……26，111
膀胱憩室……112
膀胱結石……110
膀胱穿刺・ドレナージ……77
膀胱腟瘻……113
膀胱腸瘻……113
膀胱内圧測定……65
膀胱尿管逆流症……110
膀胱の下垂・脱出……57
膀胱瘤……112
防護の最適化……68
房室結節……41
房室中隔欠損症……99
房室ブロック……99
膨疹……53
帽状腱膜下出血……85
房水セル……54
房水フレア……54
乏尿……20，57
ボーダーラインパターン……88
墨汁染色……64
墨汁法……64
母子感染……37，50，84
母子健康手帳……36
母子の健康状況……34
母子保健……32，36
母子保健法……32
母集団……35
母性保健……36
母体・新生児搬送……79
母体保護法……32
勃起……43
勃起障害……57，112
ボツリヌス症……127
母乳……50
母乳栄養……47
母斑……89
母斑症……89，119
母斑性皮膚疾患……89

ぽ

ポジトロン核種 69
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 13
ポジトロン断層撮影 13, 70
ポリープ切除 64
ポリオ 126
ポリソムノグラフィー 65
ポリファーマシー 48, 71
ポルフィリン症 122
ポルフィリン代謝の異常 122

ま

マイクロバブルテスト 68
マイコバクテリア 127
マイコバクテリアによる感染症 127
マイコプラズマ 12
マイコプラズマ抗体 11
マイコプラズマによる感染症 126
マイコプラズマ肺炎 126
膜性腎症 109
膜性増殖性糸球体腎炎 109
マクログロブリン血症 106
マクロファージ 45
マクロファージ活性化症候群 107
マグネシウム代謝異常 110
麻疹 24, 126
麻酔 27, 72
麻酔合併症 73
麻酔事故 73
麻酔導入 73
麻酔の維持 73
麻酔前投薬 73
マスキング 36
末梢T細胞性リンパ腫 107
末梢血管 41
末梢血管抵抗 42
末梢血・骨髄血塗抹 9
末梢神経 44, 74
末梢神経・神経筋接合部・筋疾患 115
末梢神経症状 59
末梢神経障害 59
末梢神経損傷 118
末梢神経伝導検査 12, 23, 66
末梢神経の炎症性・遺伝性・代謝性疾患 115
末梢神経の構造・機能 43
末梢神経の絞扼性疾患 115
末梢受容体 41
末梢循環障害 53
末梢静脈栄養 71
末梢性脊椎関節炎 124
末梢性動脈疾患 25
末梢性免疫系臓器 45
末梢前庭器官 40
末梢動脈疾患 101
マナー 18
麻痺性イレウス 105
麻薬依存・中毒 129
麻薬及び向精神薬取締法 31
麻薬性鎮痛薬・鎮静薬 72
マラリア 128
慢性 96
慢性アルコール性臓器障害 129
慢性胃炎 102
慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー 115
慢性肝炎 25, 103
慢性間質性腎炎 109
慢性期 80
慢性気管支炎 96
慢性好酸球性白血病 106
慢性甲状腺炎 120
慢性光線性皮膚炎 90
慢性喉頭炎 93
慢性硬膜下血腫 118
慢性骨髄性白血病 106
慢性糸球体腎炎 109
慢性糸球体腎炎症候群 26
慢性疾患に伴う貧血 106
慢性心不全 99
慢性心不全の急性増悪 99
慢性腎盂腎炎 110
慢性腎臓病 26, 110
慢性腎不全 110
慢性膵炎 25, 104
慢性穿孔性中耳炎 92
慢性中毒 51
慢性疼痛 79
慢性肉芽腫症 125
慢性肺血栓塞栓症 97
慢性白血病 26
慢性副腎不全 120
慢性閉塞性肺疾患 25, 96, 129
慢性扁桃炎 94
慢性リンパ性白血病 106
マンモグラフィ 13

み

ミエリン塩基性蛋白 9
ミエログラフィ 69
ミオクローヌス 59
ミオグロビン尿 57
味覚系の構造・機能 41
味覚検査 67
味覚障害 54
未承認薬・適応外使用の取扱い 31
未熟児貧血 86
未熟児無呼吸発作 85
未熟{児}網膜症 85, 92
水 63
水制限試験 12
水・電解質の異常 110
水・電解質の代謝調節 43
未成年者の喫煙 129
身だしなみ 18
密封小線源治療 75
ミトコンドリア脳筋症 115
ミネラル 51
ミネラル骨代謝異常 110
耳 21
耳の異常 54
耳の損傷 94
脈拍 21
脈拍異常 56
脈拍の欠損 56
脈波検査 22
脈絡膜 40
脈絡膜炎 92
脈絡膜腫瘍 92
脈絡膜の異常 54
脈管 40, 41
脈管異常 53
脈管系 42, 43
脈管疾患 25, 101
味蕾 41
民生委員・社会福祉協議会 30
民法 31, 32

む

無為 58
無医地区 34
ムカデ 129
無顆粒球症 106
無汗症 90
無害性雑音 55
無ガンマグロブリン血症 125
無危害 16
無機質 51
無気肺 96
無筋症性皮膚筋炎 124
無月経 20, 111
無呼吸 55
無呼吸反射 41
ムコ多糖症 122
無症候性脳梗塞 114
むずむず脚症候群 88
夢中遊行症 88
ムチン沈着症 91
無痛性虚血性心疾患 100
無痛性甲状腺炎 120
無動 59
無動性無言症 58
無尿 20, 57
むねやけ 56
胸やけ 19
無排卵 112
無脾症 99
ムンプス 126

め

迷走神経 40, 41
メープルシロップ尿症 122
メタアナリシス 23, 36
メタネフリン・ノルメタネフリン 11
メタ分析 23, 36
メタボリックシンドローム 121

索引

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 127
眼の乾燥感 54
眼の外傷 94
眼の充血 54
めまい 19, 24, 53
メラニン生成 40
メレナ 85
免疫 20, 45, 47, 57
免疫異常疾患 50
免疫応答とその調節 45
免疫介在性壊死性筋症 124
免疫学的機序が考えられる肺疾患 96
免疫機能 40
免疫学的検査による診断 64
免疫学的便潜血検査 9
免疫寛容 45
免疫系 44
免疫グロブリン 45, 64
免疫グロブリン製剤 72
免疫グロブリン大量療法 80
免疫系の調節 45
免疫血清学検査 22, 64
免疫系臓器 45
免疫性血小板減少症 84
免疫性血小板減少性紫斑病 107
免疫組織化学染色 12, 64
免疫蛋白 11
免疫チェックポイント阻害薬 72
免疫異常 50
免疫調節不全症 125
免疫電気泳動 11, 22
免疫反応 50
免疫複合体 11
免疫不全 50
免疫抑制薬 72
免疫療法 80
面接者の態度 18
メンタルヘルス対策 38

も

毛細血管拡張 53
毛細血管拡張症 103
毛細血管拡張性失調症 125
毛細血管拡張性肉芽腫 89
毛細血管奇形 89
毛細血管血 63
毛周期 40
網状皮斑 89
網赤血球 9, 63
妄想 20, 58
妄想型統合失調症 87
妄想性障害 87
毛髪異常 53
網膜 40
網膜疾患 92
網膜静脈閉塞症 92
網膜上膜 92
網膜色素変性 92
網膜前膜 92
網膜電図検査 66
網膜動脈閉塞症 92
網膜剝離 92
網膜芽細胞腫 92
網膜・脈絡膜の異常 54
網膜の異常 92
網脈絡膜炎 92
毛様体 40
もうろう状態 58
モザイク 49
モニタリング 73
もやもや病 114
モラクセラ・カタラリス感染症 127
森田療法 80
問題解決への援助的態度 18
問題志向型医療記録 16
門脈圧亢進症 104
門脈系 42
門脈相 69

や

夜間遺尿症 112
夜間頻尿 57
薬剤感受性試験 12, 22, 64
薬剤性 107, 109, 115
薬剤性過敏症症候群 89
薬剤性難聴 92
薬剤性肺障害 97
薬剤性平衡障害 93
薬剤性無顆粒球症 106
薬剤耐性 17, 50
薬剤耐性・院内感染対策 17
薬剤による低血糖 121
薬剤リンパ球刺激試験 66
薬疹 24, 89
薬事 31
薬物 36, 46
薬物アレルギー 124
薬物依存症 26
薬物依存・中毒 129
薬物性肝障害 103
薬物性腸炎 102
薬物中毒 24
薬物動態 71
薬物の選択 71
薬物の相互作用 71
薬物療法 26, 71
やせ 20, 60
薬効 71
薬効の評価 71
夜尿 57
夜尿症 112
夜盲 54

ゆ

有意水準 35
有害事象 37, 71
有害事象と副作用 17
有害物質の吸収・排泄 38
有機塩素剤 129
有機酸代謝異常症 122
有棘細胞癌 89
有機溶剤依存・中毒 129
有機溶剤中毒 129
有機リン剤 129
遊戯聴力検査 66
遊戯療法 80
有効性 17
優性遺伝 49
尤度比 23
有病率 35
有毛細胞 40
遊離コルチゾール 11
遊離サイロキシン 10
遊離トリヨードサイロニン 10
輸液 27, 72, 73
輸液管理 74
輸液の公式 78
輸液の種類と用法 72
輸液療法 77
輸血 27, 72, 73
輸血関連急性肺障害 72
輸血関連検査 10, 22, 63
輸血後GVHD 72
輸血による感染症 72
輸血副作用 72
輸血療法 23, 77
癒着胎盤 84
ユニバーサルデザイン 30
ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ 34
輸入感染症 50

よ

癰 90
養育医療 36
要介護 31
要介護認定 31
溶血性尿毒症症候群 107, 110
溶血性貧血 106
溶血に関する検査 10, 63
養護教諭 37
葉酸 10, 42
葉酸欠乏性貧血 106
要支援 31
要支援・要介護の原因 36
痒疹 89
幼児・学童の栄養 47
幼児期 47
幼児血管腫 89
幼児聴力検査 66
幼児突然死症候群 52
羊水 46, 63
羊水過少症 84
羊水過多症 84
羊水検査 67, 68
羊水指数 68, 84
羊水塞栓症 85
羊水の検査 68
羊水の診断 62
羊水の性状 62

羊水ポケット……68，84
羊水量……62，68
腰髄損傷……118
腰椎……27
腰痛……24，60
腰痛症……116
用法・用量……71
容量血管と抵抗血管……42
用量反応曲線……51
ヨード造影剤……69
抑うつ……20
翼状片……91
朽創……49
予見性……31
予後指数……78
予備力・適応能力の低下……48
予防……50，69
予防医学……35
予防医学と健康保持増進……35
予防医学の概念……35
予防照射……75
予防接種……37
予防接種と検疫……37
予防接種法……32
予防対策とその評価……36

ら

ライフサイクル……48
ライフスタイル……49
ラクナ梗塞……114
ラジオ波焼灼術……76
ラトケ嚢胞……120
卵円孔……46
卵管……43
卵管癌……111
卵管留膿症・腫……110
卵形嚢……40
卵巣……43
卵巣過剰刺激症候群……112
卵巣癌……26
卵巣系……43
卵巣腫瘍……111
卵巣性無月経……111
卵巣チョコレート嚢胞……111
卵巣嚢腫……26
卵巣・卵管・腹膜癌……111
ランダム化比較試験……36
ランブル鞭毛虫……128
卵胞刺激ホルモン……10
卵膜……46

り

リウマチ性疾患……26
リウマチ性心炎……100
リウマチ性多発筋痛症……124
リウマチ熱……125
リウマトイド因子……11
リウマトイド血管炎……124
リエゾン精神医学……81
理解的態度……18
理解の確認……19
罹患率……35，50
理学療法……76
リケッチア……12
リケッチアによる感染症……126
リサイクル……38
離床……74
離人感・現実感喪失症……87
離人症……58
リスク差……23，35
リスク臓器……75
リスク比……23，35
リスクファクター……30，35
リステリア感染症……127
リスボン宣言……16
離脱症状……87
離断性骨軟骨炎……118
立位……21
離島・へき地医療……34
離乳……47
利尿薬……72
理念……76
リハビリテーション……27，76
リハビリテーション工学……76
リハビリテーション・チーム……76
リハビリテーションの概念……76
リハビリテーションの技術……76
リハビリテーションの理念……16
リバーミード行動記憶検査……67
リパーゼ……10
リビングウィル……27
リピドーシス……122
リフト……76
リベド……89
流行……34
流行性角結膜炎……126
流行性耳下腺炎……126
流産……84
粒子線治療……75
流・早産……24
流涙……54
療育……77
両価性……58
両眼視……40
両眼視機能検査……66
良好なコミュニケーション……18
良肢位……59
良性……50
良性家族性血尿……109
良性小児てんかん……119
良性軟部腫瘍……117
良性肺腫瘍……97
良性発作性頭位めまい症……93
両大血管右室起始症……99
量反応関係……35
療養病床……31
緑内障……24，92
緑膿菌感染症……127
旅行者下痢症……129
旅行者疾患……129
淋菌感染症……127
淋菌性尿道炎……111
臨床疫学的指標……23
臨床期……49
臨床研究と倫理性……16
臨床研究中核病院……31
臨床試験……36
臨床試験・治験の倫理と制度……16
臨床判断の基本……23
臨床病理検討会……52
輪状甲状靭帯穿刺・切開……77
輪状甲状軟骨間膜穿刺・切開……77
鱗屑……53
隣接遺伝子症候群……49
リン代謝異常……110，120
リンパ管奇形……53
リンパ管疾患……101
リンパ管腫……89，94
リンパ管とリンパ節……42
リンパ管の構造と機能……42
リンパ還流障害……51
リンパ球刺激試験……11
リンパ球性下垂体炎……120
リンパ球表面抗原検査……11
リンパ行性転移……51
リンパ系疾患……106
リンパ腫……107
リンパ節……45
リンパ節腫脹……20，53，57
リンパ節転移……53，94
リンパ節の触診……21
リンパ組織……42
リンパ浮腫……51，101
リンパ漏……51
リンパ濾胞……45
倫理的・社会的・文化的配慮……74

る

涙液分泌障害……91
涙器……40
類乾癬……90
涙器の異常……91
涙道狭窄・閉塞……91
類腱腫……117
類骨骨腫……117
涙嚢炎……91
涙液分泌検査……66
類白血病反応……106
ループス腎炎……109
ループスアンチコアグラント……9

れ

礼儀……18
冷式抗体による溶血性貧血……106
冷暖房……39
レーザー……76，130
レーザー光線……94
レーザー療法……80
歴史的変遷……30
レクリエーション療法……77

レシピエント……74
レジオネラ症……127
レスキュードーズ……79
レスパイトケア……80
裂肛……103
劣性遺伝……49
レニン……43
レノグラム……12
レム睡眠……43
レム睡眠行動障害……88
連合弁膜症……100
連鎖球菌感染症……127
連続性雑音……56

ろ

老化……48
労作性狭心症……100
老人性難聴……92
老人福祉法……33
漏斗胸……98
労働安全衛生マネジメントシステム……38
労働安全衛生法……32
労働衛生管理体制……38
労働環境……49
労働基準監督署……38
労働基準法……32
労働災害……38
労働災害の補償……37
労働者災害補償保険法……32
労働者の安全衛生管理……37
労働者の健康増進……37
労働力の動向……37
老年期……18
老年期の健康問題……18
老年期の身体・心理・精神機能……18
老年症候群……48
ロービジョン……77
ロービジョンケア……77
ロコモティブシンドローム……36，48
濾紙ディスク検査……67
露出症……88
ロジスティック回帰……35
ロタウイルス感染症……126
肋間神経……41
肋骨骨折……98
濾胞性リンパ腫……106

わ

ワークライフバランス……49
悪い知らせの伝え方……19
腕神経叢損傷……118
弯曲……21
腕神経叢……40

索引

医師国家試験改善検討部会
報告書

令和2年 11 月

目次

1．はじめに.....3
2．医師国家試験問題について.....3
（1）出題数及び合格基準について.....3
（2）出題基準について.....4
（3）禁忌肢について.....4
（4）その他.....5
3．コンピュータ制の導入等について.....6
（1）医師国家試験へのコンピュータ制の導入について.....6
（2）試験問題のプール制について.....6
（3）問題の非公開化について.....7
4．　OSCE の導入について.....7
5．受験回数の制限について.....9
6．外国の医学部を卒業した者に対する医師国家試験について.....10
（1）基本的な考え方.....10
（2）受験資格認定基準について.....10
（3）予備試験等の共用試験 CBT 及び OSCE による代替について.....11
（ⅰ）予備試験について.....11
（ⅱ）日本語診療能力調査について.....12
7．おわりに.....12

１．はじめに

○　医師国家試験は、医師法第 9 条に基づき「臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能」について行うこととされており、昭和 21 年に第 1 回が実施され、以後、医療を取り巻く状況及び医療の進歩に合わせ、その都度改善が行われてきた。

○　近年、卒前教育、臨床研修、専門研修、及びその後の生涯教育にわたり、医師の養成を一貫して行う必要性が認識されてきている。平成 27 年医道審議会医師分科会医師国家試験改善検討部会報告書(以下、「前回報告書」という。)に基づく第 112 回医師国家試験の見直し以降、令和 2 年度からの臨床研修制度の見直しや、卒前教育におけるいわゆる Student Doctor の法的位置づけに向けた議論など、一貫した医師養成に向けた改革が進められており、医師国家試験においてもさらなる改善に向けた取り組みが求められている。

○　令和元年 7 月に設置された医道審議会医師分科会医師国家試験改善検討部会において、現行の医師国家試験に関する評価と改善事項の検討を開始し、以後ワーキンググループでの議論も含めて 8 回にわたり検討を重ねてきた。今般、医師国家試験の改善に関する基本的な方向性等についての意見を取りまとめたので、ここに報告する。

○　本報告書で示している改善事項のうち、速やかに着手可能な事項については、早急に対応することが求められる。また、出題基準に関する事項については、今後の改定を経て令和 5 年（第 117 回）の試験から適用することが望ましい。

２．医師国家試験問題について

（1）出題数及び合格基準について

○　平成 27 年度からの共用試験 CBT の最低合格基準の設定を踏まえ、前回報告書に基づき、第 112 回医師国家試験から、問題数が 500 題から 400 題へ変更されるとともに、従来各々合格基準が設けられていた「一般問題」と「臨床実地問題」について、両者をあわせて相対基準を設定することとされた。

○　本部会において、第 112 回からの出題数及び合格基準の変更による評価の信頼性に対する影響について、分析・検討を行ったが、著しい信頼性の低下は認めなかったことから、現時点でさらなる見直しは行わず、現行の問題数及び合格基準による試験をさらに重ね、得られたデータを基に引き続き検討を行うことが妥当である。

（2）出題基準について

○　前回報告書においては、出題内容について「高度な専門的事項を問う内容ではなく、臨床研修において、指導医の下で診療に従事するのに必要な知識および技能を問う水準とするとともに、診療科に関わらずに総合的鑑別診断や治療方針の選択に関する能力を問う内容とする必要がある」とされるとともに、共用試験 CBT との重複を考慮して一般問題を削減し、臨床問題については臨床実習の経験に即した出題傾向とする方針が確認されている。

○　近年、一貫した医師養成への取り組みが進む中で、医学生がより集中して診療参加型臨床実習に取り組める環境を構築する重要性は増しており、医師国家試験の出題基準を可能な限り臨床実習における経験を評価する内容に絞るよう見直しを行うことが妥当である。

○　具体的には、「臨床研修において、指導医の下で診療に従事するのに必要な知識および技能を問う水準とする」という前回報告書における原則に基づき、特にブループリントの各論について出題する疾患を厳選すること、出題する疾患についてはどの程度の知識を求めるかを示すこと、臨床実習前に修得可能な単純な知識を問う領域を除外すること等を検討し、全体として出題範囲を絞るべきである。例として、臨床研修の到達目標を超えるような高度な医療を必要とする病態あるいは頻度が極めて低い疾患等については、原則、臨床研修において適切なコンサルテーションができるための知識を求める程度にとどめるべきである。

○　出題基準の見直しについては、医道審議会医師分科会医師国家試験出題基準改定部会において検討が行われるものであるが、可能な限り精緻な検討を行うべきであることから、部会に先立ち、研究班等における専門家による検討を踏まえて上記の考え方に沿った原案を作成する等、あらかじめ整理することが望ましい。

（3）禁忌肢について

○　医師国家試験における禁忌肢は、平成 9 年の第 91 回医師国家試験より導入され、「患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項」を新たに禁忌肢問題として出題することとされた。また、平成 15 年の医師国家試験改善検討委員会報告書において、前述の内容に加え、「極めて非倫理的な事項」も明示的に加わり、禁忌肢として出題される可能性のある範囲が拡大して現在まで出題が継続されている。

○　禁忌肢については、導入から約 20 年が経過し、医師として不適格な者を判別するという当初の目的が達成されるものとなっているか等、その在り方については様々な意見が

あり、医療安全をめぐる社会的な要請や禁忌肢の設定による教育的な効果など様々な観点からの議論が必要である。

○　本部会において、禁忌肢の選択数とその後の医師の行政処分との関係性について調査するなど、可能な範囲で分析を行ったが、禁忌肢問題の撤廃に足る根拠は不十分であり、現時点では継続することが妥当である。

○　ただし、禁忌肢の内容について、「極めて非倫理的な事項」に相当する問題については、禁忌肢を選択する者が非常に少ないため有効性の判断が困難であることに鑑み、禁忌肢導入当初の「患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項」に限定することが妥当である。

○　禁忌肢を含む問題数について、第 112 回より全体の問題数が削減されているが、禁忌肢を一定数以上選んだ者を判別するという禁忌肢本来の目的に鑑みると、現時点では、概ね現在の問題数を維持することが望ましい。問題数については、今後、今回の出題内容の変更後の解答状況等を再度評価した上で、引き続き検討を行うべきである。

○　禁忌肢の公開についても、今回の出題内容の変更後の解答状況等を再度評価し、3（3）に記載する、問題の非公開化の議論の進捗とあわせ、教育的な効果等も考慮した上で、引き続き検討を行うことが望ましい。

（4）その他

○　英語問題について、近年出題された問題について正答率の変動が大きいことが指摘されており、医学生にとっても学習が困難な領域となっている。医師として具有すべき英語能力については、英語文献を読む能力や診療を行う能力など多岐にわたるが、臨床研修医に特に求められる英語能力は、臨床研修医が実際の医療現場において上級医をはじめとした医療従事者間でのコミュニケーションをとる際や、外国人患者への診察を行う際に必要な基礎的な英語の能力であることから、これらを医師国家試験における英語問題の出題の中心とすることが望ましい。

○　計算問題について、近年の電子機器の発展により、診療の現場において必要な数値計算をより簡便に行うことができる環境が整った。その状況に鑑み、計算問題については、単純な計算結果の数値自体を問う問題ではなく、計算結果を得るために必要な知識や結果の解釈、臨床判断への活用などを問うような問題とすることが望ましい。

３．コンピュータ制の導入等について

（１）医師国家試験へのコンピュータ制の導入について

○　前回報告書においても指摘されたように、医師国家試験のコンピュータ化により、連続して判断が求められる問題やマルチメディアを用いたより臨床に即した問題の出題が可能となり、診療参加型臨床実習の活性化にも寄与することが期待できることから、今後、コンピュータ化に向けた検討を具体的に進めていくべきである。

○　コンピュータ制の導入にあたり、最終的な到達目標としては、臨床実習前の共用試験CBT と同様に、個々の受験者に対して異なる問題が出題され、異なる日時においても受験が可能となるシステムが構築されることが望ましい。

○　一方で、前回までの報告書において指摘がなされたように、実施方法や、出題手法、合格基準、諸経費等の課題の解決が必要であることから、例えば視覚素材からのコンピュータ化や一斉受験を前提としたコンピュータ化など、段階を踏んだ導入の検討も行うことが望ましい。

○　コンピュータ化については、災害時や感染症のパンデミック時等、通常の試験実施が困難となった場合において、試験の複数回化や実施場所の増加等への対応が容易となることが想定される観点からも、可能な限り早期の導入が望まれる。

（２）試験問題のプール制について

○　医師国家試験へのプール制の導入については、医師国家試験改善検討部会において長年その導入を目指す提言がなされてきており、実際に平成 13 年(第 95 回)の国家試験から問題冊子の回収が行われてきたところである。しかし、平成 17 年度の「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」に基づく異議申し立てに対する、内閣府情報公開・個人情報保護審査会の答申を受けて、平成 19 年（第 101 回）以降、問題冊子の持ち帰りが認められたことから、事実上プール制への移行は困難となり、試験委員会が毎年作成する新規問題が現在もなお医師国家試験の主体をなしている。

○　過去の報告書でも指摘されているように、良質な問題の作成には、一度使用された試験問題のブラッシュアップ作業が不可欠であるが、プールされた問題を適切な手法で再利用することは医師国家試験の質の向上に大きく寄与すると考えられる。

○　また、前項のコンピュータ制の導入にあたり、個々の受験者に対して異なる問題を出題するシステムを構築するためには、大量のプール問題が必要となることからも、早期にプール制を導入するべきである。

○　医師国家試験の問題については、医療の進歩が早いために過去に作成された問題の妥当性が後になって損なわれることも多く、一定以上年数を経た問題はプール問題としての活用が困難であることから、使用して間もない問題をプール問題として活用できる体制を構築するためには、次項に記載する試験問題の非公開化が不可欠である。

（3）問題の非公開化について

○　平成 17 年度の「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」に基づく異議申し立てに対する、内閣府情報公開・個人情報保護審査会の答申を受け、現行の医師国家試験の問題及び正解肢は公開することとされている。

○　問題の非公開化により、試験問題のプール化が促進され、①コンピュータ化に向けた課題の一つが解消されること、②良問の再利用が促進され医師国家試験の質の向上につながること、③試行問題の導入が可能となること、④実施回ごとの試験問題の難易度によらない評価基準が設定できることで絶対評価が可能となること等のメリットが考えられる。

○　これらの点を踏まえ、受験生に対する教育的効果の観点等から、問題の一部を公開するなどの対応はとり得るものの、本部会の結論として、医師国家試験は再度、原則非公開とすることが妥当と考える。

4．　OSCE の導入について

○　技能および態度を評価する試験である OSCE(Objective Structured Clinical Examination)の医師国家試験への導入については、長年その必要性が指摘されており、近年の一貫した医師養成を目指す動きの中で、臨床実習終了後に行う OSCE の重要性はさらに増している。

○　前回報告書において、「(現時点では、) 全ての医学部での臨床実習終了時 OSCE の導入を進めていくことが重要である」とされ、「医師国家試験への OSCE の導入の是非については、その達成状況を確認してから、改めて議論していく必要がある。」とされている。

○　公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構(CATO)により実施されている臨床実習後 OSCE(Post-CC OSCE)は令和元年度に全大学が参加したトライアルが行われ、令和 2 年度より正式実施が開始されている。

○　一方で、共用試験 CBT 及び臨床実習前 OSCE(Pre-CC OSCE)は、平成 17 年度より実

施されており、令和２年５月に取りまとめられた医道審議会医師分科会報告書において、その成熟に鑑み公的化すべき試験とされ、今後法改正も視野に入れて具体的な検討が行われる予定とされている。

○　以上を踏まえ、Post-CC OSCE の医師国家試験への導入については、CATO による正式実施が開始されて間もない現状に鑑み、現時点では医師国家試験に相当する位置付けとすることは妥当ではなく、将来的に Post-CC OSCE の成熟を見きわめて判断を行うべきである。

○　Post-CC OSCE の医師国家試験への将来的な導入について、本部会においては下記のように課題を整理した。

Ⅰ．試験の実施について

①実施時期が医師国家試験の受験勉強期間と重なること。

②実施場所について、現在は各大学で実施しているが、国家試験とした場合に利用可能な施設の確保が必要であること。

③実施経費について、受験料、大学負担分、国・都道府県（地域）の負担分等の検討が必要であること。

④必要な機材について、録画機材、シミュレーター等標準的に具備すべき機材・物品の用意が必要であること。

⑤評価結果の集計について、現場で評価結果を入力、集計するためのシステムの導入が必要であること。

Ⅱ．問題作成と評価について

①現在は CATO 提供課題３課題に各大学が独自に作成した大学独自課題３課題を加えて実施しており、統一が必要であること。

②国家試験と同様に、各問題の適切性の評価を試験実施後に行うことが必要であること。

③実技試験の受験勉強化を避けるために、多様な問題のプールが必要であること。

④問題の作成・検証及び合否判定を行うための、公的な場が必要であること。

⑤所定の課題を同一日程に実施するための体制作り、あるいは同一日程に実施できない場合における課題設定等についての検討が必要であること。

Ⅲ．評価者及び模擬患者について

①評価者・模擬患者の絶対数の不足等に伴う継続的な人材育成への対応が必要であること。

②評価者・模擬患者の標準化が必要であること。

③評価者・模擬患者の認定について、国がどのように関与するかの検討が必要であること。

④現在は、内部評価者（大学教員・臨床実習実施関連病院医師）と外部評価者（他大学教員・臨床研修病院指導医）の両者により評価を実施しているが、国家試験化する場合の評価者について検討が必要であること。
⑤評価者・模擬患者の派遣システムの構築が必要であること。
⑥評価者・模擬患者からの問題の漏洩について、対策が必要であること。

○　次回の医師国家試験改善検討部会において、上記の様々な課題に関する観点から改めて Post-CC OSCE の実施状況を確認し、医師国家試験に相当する位置づけとすることについて、改めて検討を行うことが望ましい。

５．受験回数の制限について

○　医師国家試験における受験回数制限の導入の是非については、少なくとも昭和 60 年の医師国家試験改善検討部会より断続的に検討が行われ、直近では平成 23 年の医師国家試験改善検討部会において、多数回の不合格を経て合格した者を排除する必要性を明確に示すことができないこと等の理由から、導入を行わないとされた。

○　昨今、医学教育における OSCE の導入など、環境が大きく変化するなか、医学部卒業から期間が空いた者に対する質の担保が課題となり得るとの意見もあったことから、本部会において改めて検討を行った。

○　医学部卒業から期間が空いた者の卒業後の進路や医道審議会の処分歴等の客観的な情報も踏まえた検討を行ったが、明らかに他の医師と異なるといった事実は明らかとされなかったことから、受験回数の制限を現時点で導入することは妥当ではない。

○　ただし、臨床実習から長年離れていることから技能に関する確認は行われることが望ましく、Pre-CC OSCE が公的化された際には、Pre-CC OSCE の受験がない時代に医学部を卒業した者及び Pre-CC OSCE の受験から一定程度期間が経過した者については、移行期間を設けた上で Pre-CC OSCE の受験を必須とするべきであり、将来的には Post-CC OSCE の成熟を見きわめて、Post-CC OSCE の受験を課すことの検討を行うことが望ましい。

○　また、基礎医学等の医師国家試験で出題されない領域の知識についても改めて確認が行われることが望ましく、今後、出題基準の見直し等の状況を踏まえて、共用試験 CBT を課すことについても検討を行うことが望ましい。

６．外国の医学部を卒業した者に対する医師国家試験について

（１）基本的な考え方

○　外国の医学部を卒業した者に対する医師国家試験受験資格については、医師法第 11 条に基づき、①医師国家試験予備試験に合格した者で、合格後 1 年以上の実地修練を経た者 ②外国の医学校を卒業し、又は外国で医師免許を得た者で、我が国の大学において医学の正規の課程を修めて卒業した者と同等以上の学力及び技能を有し、かつ、適当と認定された者に対して受験資格が与えられている。

○　近年、海外の医学部を卒業して医師国家試験を受験する者が増加傾向にあり、医師の需給の観点から合格者数の制限を行うべきとの意見もあったことから、改めて本部会において、これらの者に対する合格判定の在り方について議論を行った。

○　医師国家試験の第一義的な目的は、我が国における医師として求められる知識及び技能を評価し、質の担保を行うことであること、及び「医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会」における議論等を踏まえ、海外の医学部を卒業した者に対しても、公平性を持った評価を行うべきであり、現時点でこれらの者に対して別途基準を設けることは妥当ではない。

○　一方で、今後さらに受験者が増加した場合においては、医師の需給バランスの適正化のための一つの手段として、医師国家試験及びその受験資格認定による調整も検討すべき状況となる可能性が考えられるため、医師需給分科会等の検討会等の議論を注視し、必要に応じて引き続き検討すべきである。

（２）受験資格認定基準について

○　「本試験認定見込み」及び「予備試験認定」については、医学校の教育年限や専門課程の時間数等の基準により判定が行われている。

○　近年、世界医学教育連盟(WFME)による卒前教育の標準化が進められていることを背景に、前回の報告書において、「外国の医学部における卒前教育の内容（カリキュラム、臨床技能の評価等）について、我が国の医学の正規の課程と同等以上であることをより客観的に評価する体制を検討すべき」とされている。

○　海外においても WFME の活用が進められており、米国においては、2024 年度から、USMLE の受験要件として、受験者が卒業した大学が WFME 公認の認証機関による認定を受けていることが必須となる予定である。

○　我が国においても全国医学部長病院長会議を中心にWFME公認の認証機関である日本医学教育評価機構（JACME）が設立された後、全国の医学部が順次JACMEによる認定を受けており、2023年度を目途に日本の全医学部の初回の評価が終わる予定である。

○　以上の状況を踏まえ、将来的には、外国の医学部における卒前教育の内容が、我が国の医学の正規の課程と同等以上であることを評価するための一つの基準として、卒業した大学がWFME公認の認証機関の認定を受けていることを要件とすることが望ましい。

○　現時点では、申請者の多い国の中にはWFMEの認証機関が設立されて間もない国等も存在することから、近年の WFME の公認基準の変更や、各国における認定の状況を見ながら、引き続き慎重に検討を行う必要がある。

（3）予備試験等の共用試験CBT及びOSCEによる代替について

○　前回報告書において、外国の医学部を卒業した者が受験する日本語診療能力調査について、「申請者数が増えつつあることから評価方法を充実すべきであるとの意見があったことを踏まえ、引き続き評価方法の検討を行うとともに適宜見直しを行っていく必要がある」とされていた。

○　我が国の大学における卒前教育において、医師国家試験前に受験する試験として、平成17年からCATOにより実施されている、共用試験CBT及びPre-CC OSCEがあり、全ての医学生が臨床実習前に受験を行っている。

○　前述のとおり、共用試験CBT及びPre-CC OSCEについては、その成熟に鑑み公的化すべき試験とされ、今後法改正も視野に入れて具体的な検討が行われる予定とされており、これらの関連する制度にかかる近年の動向等を踏まえ、予備試験及び日本語診療能力調査について、下記の見直しを行う。

（i）予備試験について

○　医師国家試験予備試験は、1年以上の実地修練を行う前段階で受験される試験であることから、その位置づけは、我が国の卒前教育においては共用試験CBT及びPre-CC OSCEに相当することから、共用試験CBT及びPre-CC OSCEが公的化された場合においては、予備試験の代替として共用試験CBT及びPre-CC OSCEを課すことが妥当である。

○　適用を行う時期については、今後法改正等により共用試験CBT及びPre-CC OSCEが公的化された場合においては、公的化後の試験を受験した我が国の医学生が、初めて医師国家試験を受験する際の試験から適用することが望ましい。

（ⅱ）日本語診療能力調査について

○　日本語診療能力調査は、「本試験認定見込み」と認定された者が我が国の医学生と同等以上の①聴く能力、②話す能力、③書く能力、④読み取る能力、⑤診察する能力を具有するかについて評価するための日本語による実技試験である。

○　Pre-CC OSCE の公的化にあたり、日本語診療能力調査の代替として、技能および態度を評価する試験である Pre-CC OSCE の受験を課すとともに、筆記試験を併せて受験させることで、前述の５つの能力について、我が国の医学生と同等以上の能力を持つことを確認することが、当面の取り扱いとして妥当である。

○　また、適用を行う時期については、予備試験と同様、今後法改正等により共用試験 CBT 及び Pre-CC OSCE が公的化された場合においては、公的化後の試験を受験した我が国の医学生が、初めて医師国家試験を受験する際の試験から適用することが望ましい。

○　今後、Post-CC OSCE の成熟度を見極めつつ、将来的には Post-CC OSCE で代替することも引き続き検討すべきである。

７．おわりに

○　一貫した医師養成に向けた改革の中で、医師国家試験は卒前教育と卒後教育を繋ぐ最も重要な要素の一つであることから、その見直しの重要性は回を重ねるごとに増しており、一連の養成課程において教育を受ける医学生・医師、及びその医療を受ける患者に対する影響も非常に大きなものとなっている。

○　このような状況を踏まえ、本報告書における医師国家試験の見直しについては、医学生が積極的に診療参加型臨床実習に取り組み、その後の臨床研修においてより充実した研修を行うために必要な知識及び技能を修得していることを評価することで、より質の高い医療を提供できる医師が養成されることを念頭に検討を行った。

○　各養成課程における一貫した医師養成に向けた改革の進捗状況を見極めつつ、適宜、継続的な見直しを行っていくことが重要である。

医 道 審 議 会 医 師 分 科 会
医師国家試験改善検討部会委員

	岩間　亨	岐阜大学大学院医学系研究科長・医学部長
	北村　聖	東京大学名誉教授
	清水　貴子	聖隷福祉事業団顧問
	瀬尾　宏美	高知大学教授
	高木　康	昭和大学副学長
◎	中谷　晴昭	千葉大学理事・副学長
	野上　康子	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構研究部専門員
	伴　信太郎	愛知医科大学医学教育センター長
	平川　俊夫	公益社団法人日本医師会常任理事（～令和２年６月 30 日）
	福井　次矢	聖路加国際病院院長
	前野　哲博	筑波大学医学医療系教授
	山口　育子	認定ＮＰＯ法人ささえあい医療人権センターＣＯＭＬ理事長
	吉田　穂波	神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科　教授
	渡辺　弘司	公益社団法人日本医師会常任理事（令和２年７月 28 日～）

※◎は部会長。敬称略、50 音順。

医師国家試験改善検討部会報告書概要

1．はじめに

- 卒前・卒後の一貫した医師養成に向けた改革が進められる中で、医師国家試験についてもさらなる改善に向けた取組みが必要である。
- 早期に改善できる点は可及的速やかに改善し、出題基準については全体の範囲を絞る等の見直しを行い、第117 回（令和５年）の試験から適用することが望ましい。

2．医師国家試験問題について

① **出題数・合格基準について：**第112回から変更したことによる著しい信頼性の低下は認めないことから、**現行の出題数・合格基準による試験を継続**し、引き続き検討することが妥当。

② **出題基準について**：医学生が診療参加型臨床実習に集中して取り組めるよう、**可能な限り臨床実習における経験を評価する内容に絞るよう見直す**べき。

具体的には、特に各論について出題する疾患を厳選すること、出題する疾患はどの程度の知識を求めるかを示すこと、臨床実習前に修得可能な単純な知識を問う領域を除外すること等を検討し、**全体として出題範囲を絞るべき。**

③ **禁忌肢について**：**現時点では禁忌肢問題を従前どおりの出題数で継続する**ことが妥当。内容について、「極めて非倫理的な事項」では禁忌肢選択者が少なく有効性の判断が困難であり、**導入当初の「患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項」に限定**すべき。

3．コンピュータ制の導入等について

① **コンピュータ制の導入：**

- 最終的な到達目標は、個々の受験者に対して異なる問題が出題され、異なる日時においても受験が可能となるシステムの構築がなされることが望ましい。
- 実施方法、合格基準等の課題の解決が必要なことから、一部の問題のみの導入や、一斉受験を前提とした導入など、**段階的な導入について、より具体的に検討を進めていくべき。**

② **試験問題のプール制：**プール問題を適切に再利用することは試験の質向上に大きく寄与すると考えられ早期導入すべき。

③ **問題の非公開化：**プール制導入に不可欠であり、試行問題や絶対評価の導入が可能となる等想定されるメリットを踏まえ、**再度、原則非公開とすべき。**

4．OSCEの導入について

○ Post-CC OSCEの国家試験への導入は、**正式実施開始から間もない現状に鑑み現時点では妥当ではない**が、実施状況を確認した上で、**将来的に成熟を見極めて判断を行うべき。**

5．受験回数の制限について

○ **現時点で導入は妥当ではない。**

○ ただし、臨床実習から長年離れていることから技能に関する確認は行うべきであり、**Pre-CC OSCEが公的化された際には、移行期間を設けた上でPre-CC OSCEの受験を必須とすべき。**

○ さらに出題基準の見直し等の状況を踏まえ、共用試験CBTを課すことについても今後検討すべき。

6．外国の医学部を卒業した者に対する試験について

① **基本的な考え方**：現時点で別途基準を設けることは妥当でないが、医師需給分科会等の議論を注視し、必要に応じて引き続き検討すべき。

② **受験資格認定について：**将来的にはWFME公認の認証機関の認定を受けた大学の卒業を要件とすることが望ましい。WFMEの公認基準の変更や、各国の認定状況などを注視し、引き続き慎重に検討を行うべき。

③ **予備試験等の代替について：**

- 予備試験の代替として、**共用試験CBT及びPre-CC OSCEを課す**ことが妥当。
- 日本語診療能力調査の代替として、**Pre-CC OSCE及び筆記試験の受験を課す**ことで、我が国の医学生と同等以上の能力を持つことを確認することが、当面の取り扱いとして妥当。

→いずれも共用試験CBT及びPre-CC OSCEが公的化された場合、両試験を初めて受験した我が国の医学生が、初めて医師国家試験を受験する際の試験からの導入が望ましい。

参考資料

医道審議会 医師分科会 医師国家試験改善検討部会
報告書

※ 本参考資料は、報告書の理解に役立つよう、審議会におけるこれまでの議論で各委員や参考人から提出された資料の一部をまとめたものであり、必ずしも審議会として合意されたものではない。

医師法

（試験の内容）

第9条　医師国家試験は、臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能について、これを行う。

（試験の実施）

第10条　医師国家試験及び医師国家試験予備試験は、毎年少なくとも1回、厚生労働大臣が、これを行う。

2　厚生労働大臣は、医師国家試験又は医師国家試験予備試験の科目又は実施若しくは合格者の決定の方法を定めようとするときは、あらかじめ、医道審議会の意見を聴かなければならない。

医師国家試験の一年

（例）一般的な医師国家試験の流れ

○4月頃、医道審議会医師分科会で医師国家試験の方針決定

↓

○7月頃、試験日、試験地、試験委員などの公表

↓

○**翌年2月頃、医師国家試験実施**

↓

○3月頃、医道審議会医師分科会で合格基準の決定

↓

○3月頃、合格発表

【参考】
第113回医師国家試験

平成31年2月9、10日
実施

平成31年3月18日（月）
合格発表

※上記は医師国家試験の流れの一例を示しているに過ぎず、毎年必ずしもこのとおりに進行するわけではない。

医師国家試験の出題内容

内容と形式

【出題内容】

○試験問題は、臨床上必要な医学又は公衆衛生に関し、医師として具有すべき知識、技能について広く一般的実力を試し得るものとされている。

○具体的な出題範囲は、「医師国家試験出題基準（ガイドライン）」に準拠している（平成30年実施分からは平成30年版ガイドラインに準拠）。

○生命や臓器機能の廃絶に関わるような解答や、倫理的に誤った解答をする受験者の合格を避ける目的で、禁忌肢が設定されている。

【出題形式】

○多肢選択式・マークシート方式であり、出題総数は400題である。

○試験問題の内訳は次表の通り。なお、ブループリント(医師国家試験設計表)において、各項目・評価領域毎の出題割合が示されている。

	一般問題	臨床実地問題
必修問題：100題	50題	50題
医学総論：150題	100題	200題
医学各論：150題		

医師国家試験の合格基準

医師国家試験の合否

（１）基本的な考え方

○必修問題、必修問題を除いた一般問題・臨床実地問題の合計の得点と、禁忌肢の選択状況をもとに合否を決定する。

○必修問題の合格基準は絶対基準を用いて最低の合格レベルを80%とし、必修問題を除いた一般問題・臨床実地問題の合計得点の合格基準は平均点と標準偏差とを用いた相対基準を用いる。

（２）合否判定の方法

○試験の実施結果を踏まえ、医道審議会医師分科会医師国家試験K・V部会において問題の妥当性を検討している。

○同分科会の意見を踏まえて厚生労働大臣が合格者を決定している。

医師国家試験の歴史

○ **昭和21年**　第1回医師国家試験　（年2回実施、筆記3日間、論述式）
（国民医療法施行令の一部改正により開始）

↓

○ **昭和28年**　筆記が1日になり、口頭試問を導入（第14回）

↓

○ **昭和47年**　問題が論述式から客観式へ変更（第53回）

↓

○ **昭和50年**　筆記1．5日になり、口頭試問を廃止（第59回）
出題数が190題から260題へ（第59回）
出題基準作成のための医師国家試験専門委員会が初めて設置（10月）

↓

○ **昭和51～53年**　医師国家試験出題基準が初めて策定（昭和53年版）

↓

○ **昭和60年**　秋試験を廃止し、年1回の実施となり、試験日数も2日間へ（第79回）
出題数が260題から320題へ

↓

○ **平成13年**　試験日数が3日間へ（第95回）
出題数が320題から500題へ（第95回）

↓

○ **平成30年**　試験日数が2日間へ（第112回）
出題数が500題から400題へ（第112回）

近年の医師国家試験の変遷

回		第87～90回	第91～94回	第95～111回	第112回～
年		平成5～8年	平成9～12年	平成13～29年	平成30年～
一般問題	内容	医学総論 医学各論	**必修** 医学総論 医学各論	必修 医学総論 医学各論	必修 医学総論 医学各論
	数	200問		**250問**	**150問**
臨床実地問題	内容	医学総論 医学各論	**必修** 医学総論 医学各論	必修 医学総論 医学各論	必修 医学総論 医学各論
	数	120問		**250問**	**250問**
設問数		計320問		**計500問**	**計400問**
試験日数		2日間		**3日間**	**2日間**

出題基準：昭和53年～
医師国家試験設計表（ブループリント）：平成13年～

平成13年～問題の公募

平成13年～問題回収

平成18年～問題の持ち帰り可

平成18年～正答肢の公表

平成30年版医師国家試験出題基準（概要）

(1)定義

医師国家試験出題基準(ガイドライン)は、医師国家試験の「妥当な範囲」と「適切なレベル」とを項目によって整理したもので、試験委員が出題に際して準拠する基準である。

(2)基本的考え方

①全体を通じて、臨床実習での学習成果を中心とした臨床研修開始前の到達度を確認することに主眼を置く。

②「必修の基本的事項」では、医師としての基本的姿勢を含めた基本的診療能力を主題として出題する。

③「医学総論」、「医学各論」では、原則、我が国のどの医療機関であっても対応できるような内容に限定する。

【必修の基本的事項】

(大項目)	(ブループリント)
1 医師のプロフェッショナリズム	約4%
2 社会と医療	約6%
3 診療情報と諸証明書	約2%
4 医療の質と安全の確保	約4%
5 人体の構造と機能	約3%
6 医療面接	約6%
7 主要症候	約15%
8 一般的な身体診察	約13%
9 検査の基本	約5%
10 臨床判断の基本	約4%
11 救急初期診療	約9%
12 主要疾患・症候群	約10%
13 治療の基本	約4%
14 基本的手技	約4%
15 死、緩和ケア、終末期ケア	約2%
16 チーム医療	約2%
17 生活習慣とリスク	約5%
18 一般教養的事項	約2%

【医学総論】

(章)	(ブループリント注)
Ⅰ 保健医療論	約13%
Ⅱ 予防と健康管理・増進	約17%
Ⅲ 人体の正常構造と機能	約9%
Ⅳ 生殖、発生、成長、発達、加齢	約9%
Ⅴ 病因、病態生理	約12%
Ⅵ 症候	約12%
Ⅶ 診察	約7%
Ⅷ 検査	約9%
Ⅸ 治療	約13%

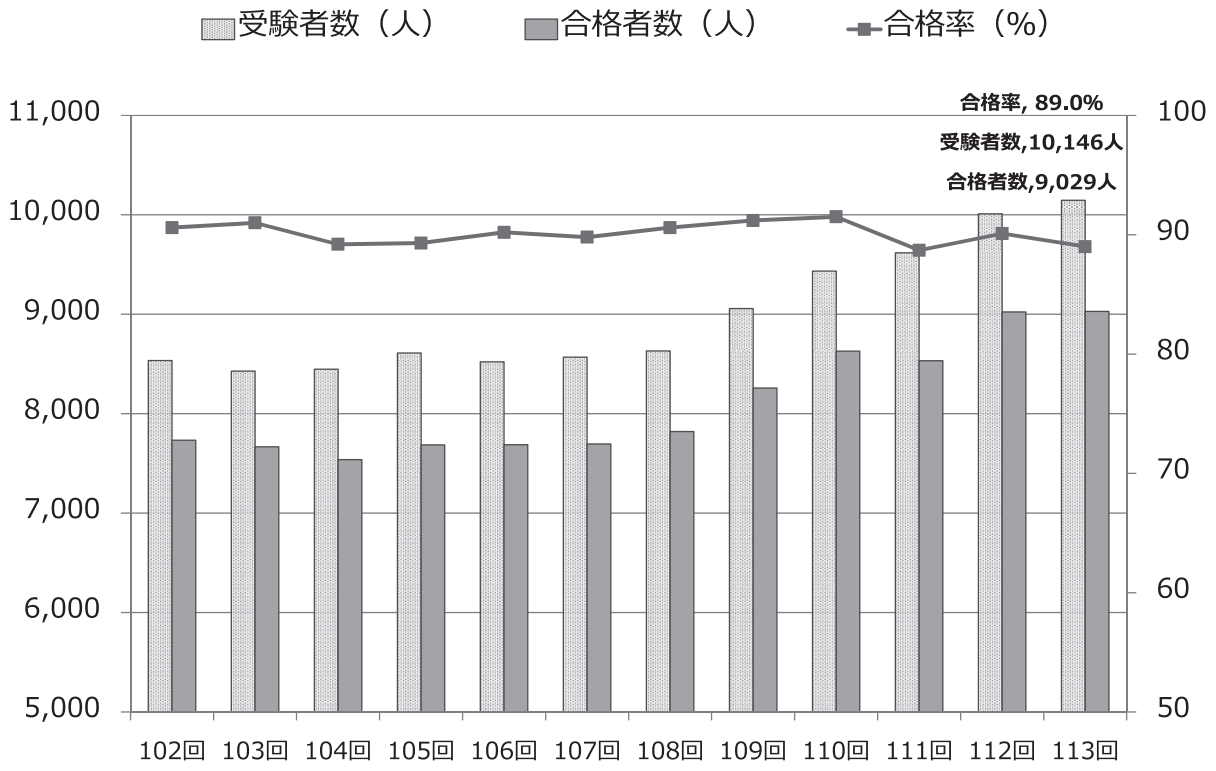
注：「医学総論」では大項目までブループリント（医師国家試験設計表）を設定

【医学各論】

(章)	(ブループリント)
Ⅰ 先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常	約5%
Ⅱ 精神・心身医学的疾患	約5%
Ⅲ 皮膚・頭頸部疾患	約11%
Ⅳ 呼吸器・胸壁・縦隔疾患	約7%
Ⅴ 心臓・脈管疾患	約10%
Ⅵ 消化器・腹壁・腹膜疾患	約13%
Ⅶ 血液・造血器疾患	約5%
Ⅷ 腎・泌尿器・生殖器疾患	約12%
Ⅸ 神経・運動器疾患	約9%
Ⅹ 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患	約8%
Ⅺ アレルギー性疾患、膠原病、免疫病	約5%
Ⅻ 感染性疾患	約8%
XIII 生活環境因子・職業性因子による疾患	約5%

※ブループリントの数字は概数のため必ずしも合計が100%にならない。

医師国家試験の合格率等の推移



医師国家試験の回数別合格状況

回数	施行年月日	受験者数	合格者数	合格率
第113回	H31.2.9～10	10,146 人	9,029 人	89.0 %
第112回	H30.2.10～11	10,010人	9,024 人	90.1 %
第111回	H29.2.11～13	9,618 人	8,533 人	88.7 %
第110回	H28.2.6～8	9,434 人	8,630 人	91.5 %
第109回	H27.2.7～9	9,057 人	8,258 人	91.2 %
第108回	H26.2.8～10	8,632 人	7,820 人	90.6 %
第107回	H25.2.9～11	8,569 人	7,696 人	89.8 %
第106回	H24.2.11～13	8,521 人	7,688 人	90.2 %
第105回	H23.2.12～14	8,611 人	7,686 人	89.3 %
第104回	H22.2.13～15	8,447 人	7,538 人	89.2%

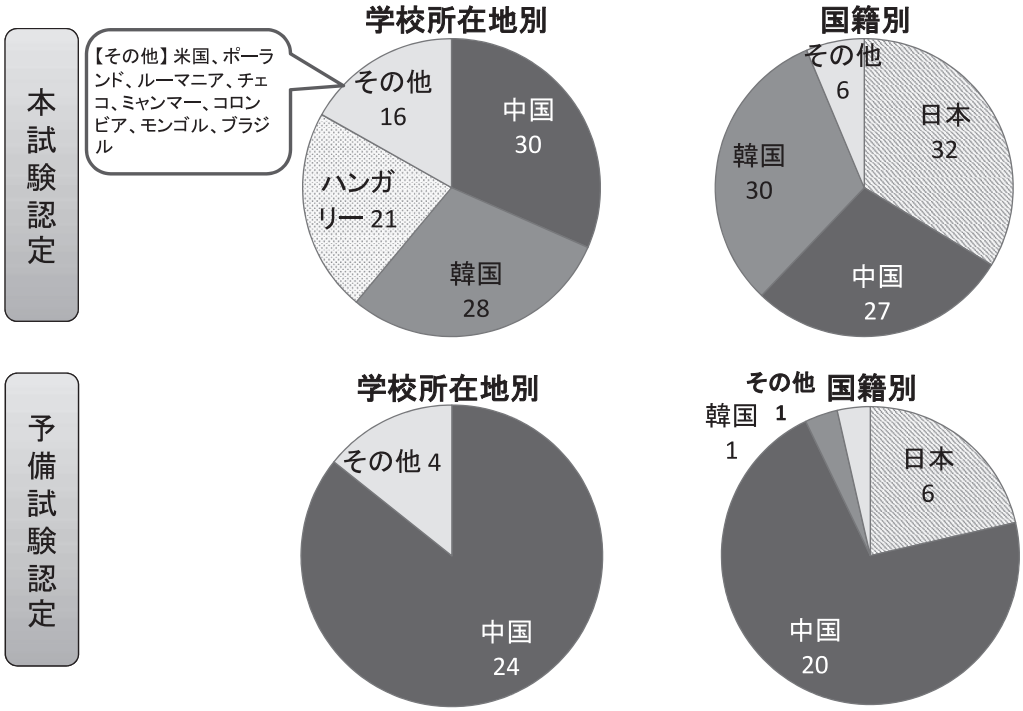
医師国家試験の男女別合格者数等の推移

回 数		総 数	男 性	女 性	男女別合格率	
					男 性	女 性
第113回（H31春）	受験者数（%）	10,146人	6,843人 (67.4%)	3,303人 (32.6%)	―	―
	合格者数（%）	9,029人	6,029人 (66.8%)	3,000人 (33.2%)	88.1 %	90.8 %
第112回（H30春）	受験者数（%）	10,010人	6,685人 (66.8%)	3,325人 (33.2%)	―	―
	合格者数（%）	9,024人	5,958人 (66.0%)	3,066人 (34.0%)	89.1 %	92.2 %
第111回（H29春）	受験者数（%）	9,618人	6,368人 (66.2%)	3,250人 (33.8%)	―	―
	合格者数（%）	8,533人	5,593人 (65.5%)	2,940人 (34.5%)	87.8 %	90.5 %
第110回（H28春）	受験者数（%）	9,434人	6,400人 (67.8%)	3,034人 (32.2%)	―	―
	合格者数（%）	8,630人	5,802人 (67.2%)	2,828人 (32.8%)	90.7 %	93.2 %
第109回（H27春）	受験者数（%）	9,057人	6,245人 (69.0%)	2,812人 (31.0%)	―	―
	合格者数（%）	8,258人	5,655人 (68.5%)	2,603人 (31.5%)	90.6 %	92.6 %
第108回（H26春）	受験者数（%）	8,632人	5,948人 (68.9%)	2,684人 (31.1%)	―	―
	合格者数（%）	7,820人	5,337人 (68.2%)	2,483人 (31.8%)	89.7 %	92.5 %

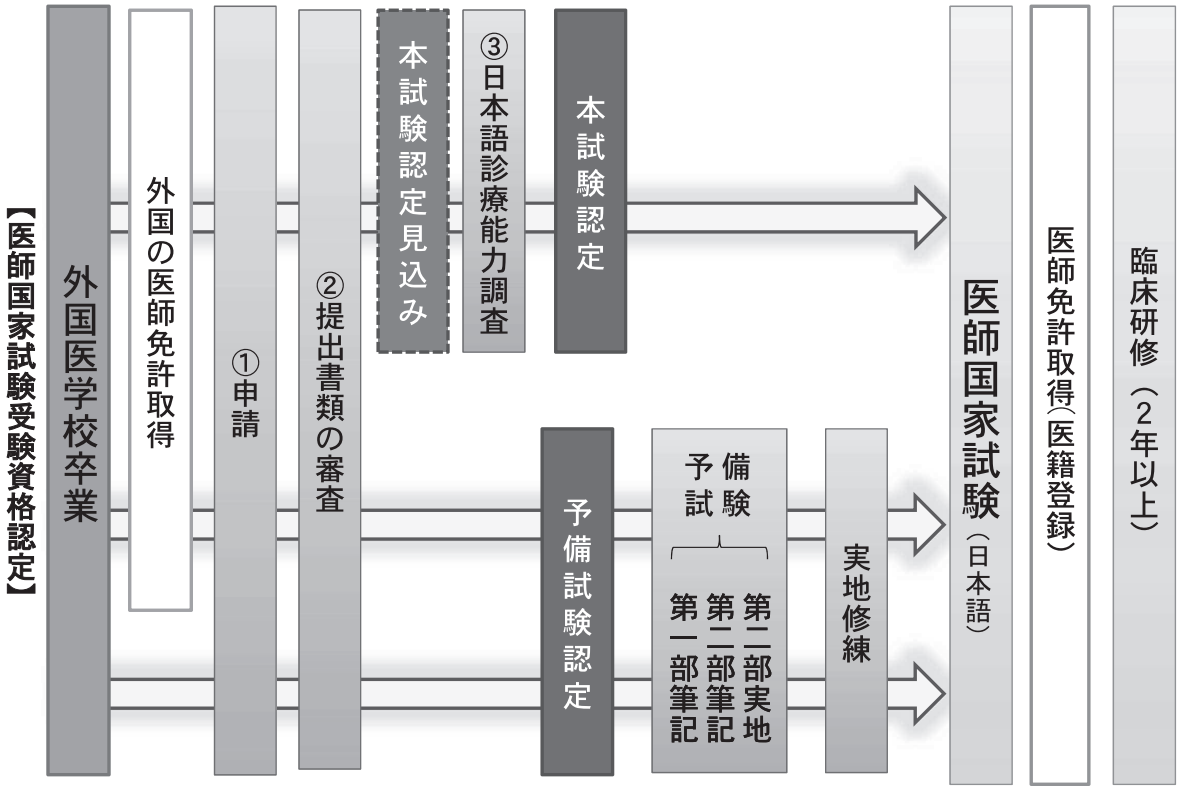
第113回医師国家試験　卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次		受験可能回数	受験者数	構成比	合格者数	合格率
新卒	**H30年4月～ H31年3月**	**1 回**	**9,176人**	**90.4 %**	**8,478人**	**92.4 %**
既卒	H29年4月～ H30年3月	2 回	595人	5.9 %	435人	73.1 %
	H28年4月～ H29年3月	3 回	134人	1.3 %	69人	51.5 %
	H27年4月～ H28年3月	4 回	67人	0.7 %	23人	34.3 %
	H26年4月～ H27年3月	5 回	27人	0.3 %	7人	25.9 %
	H25年4月～ H26年3月	6 回	26人	0.3 %	5人	19.2 %
	H24年4月～ H25年3月	7 回	14人	0.1 %	6人	42.9 %
	H23年4月～ H24年3月	8 回	9人	0.1 %	1人	11.1 %
	H22年4月～ H23年3月	9 回	11人	0.1 %	2人	18.2 %
	H22年3月以前	10回以上	87人	0.9 %	3人	3.4 %
	既卒　計		**970人**	**9.6 %**	**551人**	**56.8 %**
総　　計			10,146人	100%	9,029人	89.0 %

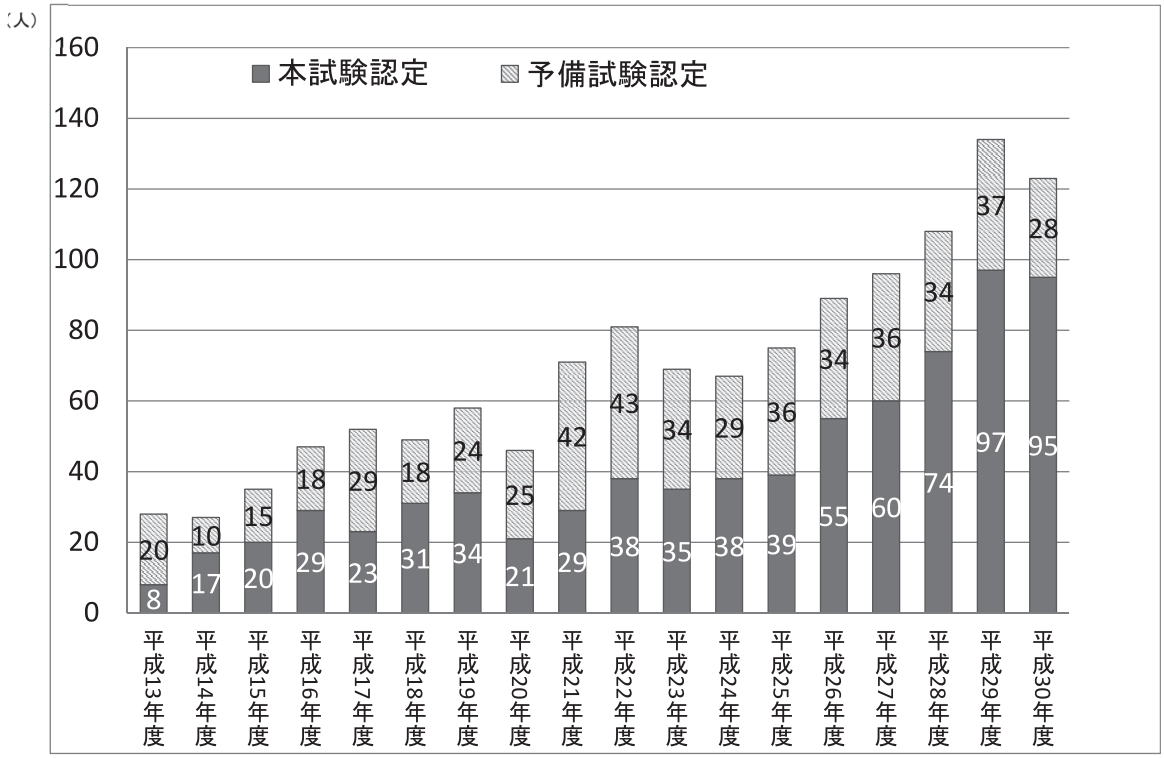
受験資格認定者の内訳（平成30年度）



外国医師による日本の医師免許取得の流れ



受験資格認定者数の推移



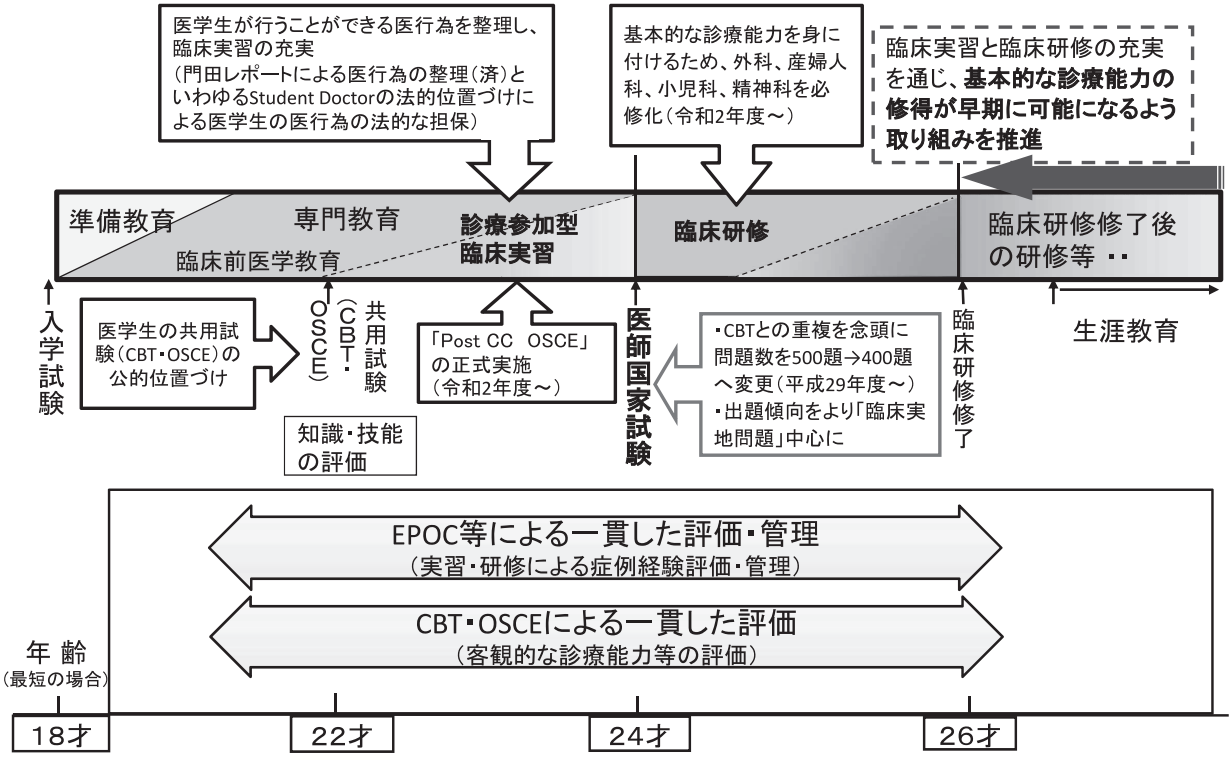
現行の医師国家試験受験資格認定基準（書類審査）

		「本試験認定」	「予備試験認定」
修業年数	医学校の入学資格	高等学校卒業以上（修業年数12年以上）	
	医学校の教育年限※	6年以上 [進学課程:2年以上、専門課程:4年以上] （ただし、5年であっても5,500時間以上の一貫した専門教育を受けている場合には基準を満たすものとする。）	5年以上 [専門課程:4年以上]
	医学校卒業までの修業年限	18年以上	17年以上
専門科目の授業時間		4,500時間以上で、かつ一貫した教育を受けていること	3,500時間以上で、かつ一貫した教育を受けていること
医学校卒業からの年数		10年以内 （但し、医学教育又は医業に従事している期間は除く）	
専門科目の成績		良好であること	
教育環境		大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学とほぼ等しいと認められること	大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学より劣っているものでないこと
当該国の政府の判断		WHOのWorld Directory of Medical Schoolに原則報告されていること	
医学校卒業後、当該国の医師免許取得の有無		取得していること	取得していなくてもよい
日本語能力		日本の中学校及び高等学校を卒業していない者については、日本語能力試験N1の認定を受けていること	

※：大学院の修士課程、博士課程等は算入しない。

（医政局長通知）

シームレスな医師養成に向けた改革全体案



医師国家試験改善検討部会報告書(平成27年3月)の概要

1. 基本的な考え方

● 医師国家試験は、卒前教育・卒後臨床研修・新しい専門医の仕組みを含めた一連の医師養成過程の中に位置付けられることから、それぞれの到達目標との整合性を図りつつ、近年の卒前教育を巡る動向を踏まえ、その果たすべき役割を十分に発揮できるものとする必要がある。

● 平成27 年度より全ての医学部において、卒前教育における共用試験CBT の合格基準が統一化される予定であり、基本的な知識が担保された医学生が医師国家試験を受験する第112 回(平成30 年)から出題数や合格基準等の設定を適用することが適当である。

＜参考＞医師法(昭和23年法律第201号)・抄
第九条　医師国家試験は、臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能について、これを行う。

2. 医師国家試験について

① **出題数について**:共用試験CBT の出題内容と医師国家試験の出題内容の重複を精査し、基本的診療能力を問う「必修問題」は現状通りとし、「医学総論」及び「医学各論」から「一般問題」を100 題程度減らす。「臨床実地問題」は、臨床実習の経験に即した出題傾向とするために現状維持が適当。

② **出題内容について**:引き続き、高度な専門的事項を問う内容ではなく、臨床研修において指導医の下で診療に従事するのに必要な知識および技能を問う水準とするとともに、診療科に関わらずに総合的な鑑別診断や治療方針の選択に関する能力を問う内容とする。また、少子高齢化など、今後の医療現場の動向に応じた出題内容とする。

③ **合格基準について**:「必修問題」以外の「一般問題」の出題数を減じるにあたり、「一般問題」と「臨床実地問題」を併せて相対基準を設定する等の算出方法の見直しを行う。「必修問題」の合格基準は従前通り、絶対基準を用いて80%以上の得点とし、「禁忌肢」の選択状況を加味して合否を決定する。

④ **出題基準(ガイドライン)について**:「臨床実地問題」の出題数の比率を高めることとともに、各領域における基本的な問題や保健医療論・公衆衛生等の「一般問題」での出題数は担保するべきであるという点を考慮した上で、ブループリント(医師国家試験設計表)については、分野毎に必要な出題数が確保されるよう見直しを行う。

⑤ **共用試験CBTとの連携について**:CBTは一連の医師養成課程として医師国家試験と密接に関連することから、全国医学部長病院長会議及びCBTを実施する医療系大学間共用試験実施評価機構は、CBT の運用状況や検証結果などの試験の改善・評価に必要な情報を国と共有する必要がある。なお、共用試験CBT における臨床に関する内容については、引き続き、医師国家試験に求める水準ではなく、臨床実習開始前に必要な基本的な知識を問うものとすべきである。

⑥ **試験日数について**:出題数の見直しに伴い、試験日数を3日間から2日間に変更する。

3. OSCEについて

● OSCE が筆記試験より優れている点として、臨床技能を評価するのにより適していること、態度やコミュニケーション能力など筆記試験では測れない部分の評価を行うことができるという点で共通の認識を得た。

● OSCE を医師国家試験として実施する場合は、国民に対して安心感を与えるメッセージとなること等の利点がある一方で、統一的な模擬患者、評価者及び実施場所等の確保が困難であること等の課題がある。

● OSCE を医師国家試験としてではなく各医学部で臨床実習終了時OSCE として実施する場合は、6年間の卒前教育に携わった者が態度やコミュニケーション能力などについて細かな評価を行うことが可能であること等の利点がある一方で、現状では医学部毎に評価者や会場等の実施体制、問題の数や質の差が大きいこと等の課題がある。

● 現在、全ての医学部における統一的な臨床実習終了時のOSCE を導入する準備が進められており、平成32 年度を目処に全国的に正式実施が開始される見込みであることなどから、現時点では、全国医学部長病院長会議及び医療系大学間共用試験実施評価機構による全ての医学部での臨床実習終了時OSCE の導入を進めていくことが重要である。医師国家試験へのOSCEの導入の是非については、その達成状況を確認してから、改めて議論をする。

4. その他の論点

● コンピュータ制の導入に関して、動画や音声等を活用し、臨床現場に近い形での出題が可能となるという指摘がある一方、日本の卒前教育に沿い、かつコンピュータの特性を活かした出題手法の開発、及び諸経費等の問題について検討が必要であり、プール問題の活用、医師国家試験の年間の実施回数等と合わせて検討すべき課題である。

● 外国で医師免許を得たものに対する国家試験受験資格に関して、外国における卒前教育の内容について、我が国の医学の正規の課程と同等以上であることをより客観的に評価する体制を検討すべきであり、申請者数が増えつつあることから、引き続き評価方法の検討を行う。

医師臨床研修制度の見直しについて（2020年度研修より適用予定）
～医道審議会医師分科会医師臨床研修部会報告（概要）～

○医師臨床研修制度は、医師の基本的な診療能力の習得のため、平成16年度に努力義務から必修化され、概ね５年毎に見直しを行ってきた。
○今回は、**①卒前卒後の一貫した医師養成、②到達目標、③臨床研修病院の在り方、④地域医療の安定的確保**等について見直し。
○**今後、臨床研修制度が研修医、患者、医療制度等に与えた影響を評価**し、卒前・卒後教育の連続性の観点から**制度の在り方の検討が必要**。

１．　卒前・卒後の一貫した医師養成について
・卒前と卒後の医師養成過程が整合的であることが必要

（１）医学教育モデル・コア・カリキュラムと**整合的な到達目標・方略・評価**を作成
（２）今後、臨床研修制度について、医学部の共用試験、医学教育モデル・コア・カリキュラム、国家試験と**同時期に検討**

２．到達目標・方略・評価について
・現行の到達目標は、目標、方略、評価が不明確
・基本的診療能力や臨床推論の更なる習得
・評価方法の標準化が必要

（１）目標、方略、評価に分けて整理・**簡素化**
（２）目標を「医師としての基本的な価値観（プロフェッショナリズム）」、「資質・能力」、「基本的診療業務」に整理し、**入院、外来、救急、地域医療の基本的な診療能力を担保**
（３）方略は、内科、救急、地域医療に加え、**外科、小児科、産婦人科、精神科を必修化**し、**一般外来の研修を含む**ことを追加
（４）評価は、モデル・コア・カリキュラムとの連続性を考慮しつつ、**標準化**

３．　臨床研修病院の在り方について
・臨床研修病院の更なる質の向上

（１）指導・管理体制等についての**訪問調査の見直し**
　➢ 改善の見られない病院は**指定取消の対象**へ
　➢ 課題の見られる基幹型病院は**訪問調査の対象**へ
（２）プログラム責任者養成講習会の**受講義務化**
（３）第三者評価を強く推奨し、次回以降義務化を前提に検討

４．地域医療の安定的確保について
・地域医療の確保に対する更なる対応が必要
・都道府県の実情に応じた対応が必要

（１）大都市圏の募集定員を圧縮し、それ以外の募集定員を確保
　➢ 臨床研修病院の募集定員倍率を2025年度に**1.05倍**まで圧縮
　➢ **医学部入学定員による募集定員の算定には上限**を設ける
　➢ **地理的条件等の加算を増加**
（２）**地域枠**等の一部について、**一般のマッチングとは分けて選考**
（３）国が一定の基準等を示した上で、**臨床研修病院の指定・募集定員設定を都道府県**が行う

５．その他
・基礎研究の国際競争力の低下

（１）中断・未修了の対応は継続
（２）**大学病院に基礎研究医養成枠を設置**

シームレスな医師養成に向けた共用試験の公的化といわゆるStudent Doctorの法的位置づけについて
医道審議会医師分科会　報告書 概要 (令和２年５月)

○従来より卒前教育と卒後教育は分断され、連続性が乏しいと評されてきたが、医師が修得すべき知識・技能が増加していることや、プロフェッショナリズム教育の重要性が増していることなどから、**卒前教育においても医学生が診療に参加し、医療現場を中心として一員して行う必要性が認識**されてきた。
○医学生が診療チームの一員として診療に参加する診療参加型臨床実習の充実のため、**医学生の質の担保とその医行為について法的な位置付けが重要。**
○今回は、**(1)共用試験CBTの公的化、(2)共用試験臨床実習前OSCEの公的化、(3)いわゆるStudent Doctorの法的位置づけ**について検討した。

（1）共用試験CBTの公的化
・全大学で実施され、項目反応理論などの問題の精度管理の手法や評価手法が確立している。
・医学教育でその位置付けは確立されており、医師国家試験の受験要件とする等による公的化に相当する試験である。

（2）共用試験臨床実習前OSCEの公的化
・現状の医学教育の中で臨床実習前に技能と態度を試験する機会として確立している。
・臨床実習前に一定水準の技能・態度のレベルに達していることを試験することは極めて重要であり、共用試験CBTとともに公的化すべきである。
・模擬患者が重要な役割を果たしており、全国的に取り組む組織の創設や模擬患者に対する研修体制の整備などの検討が必要。

（3）いわゆるStudent Doctorの法的位置づけ
・臨床実習開始前の共用試験を公的化することで、一定の水準が公的に担保されることから、実習において医行為を行う、いわゆるStudent Doctorを法的に位置づけることが可能となる。
・実施する行為については、指導する医師が適宜、医学生の能力と患者の状態等を勘案して判断すべき。

共用試験の公的化といわゆるStudent Doctorの法的位置づけによる影響

(1)医学教育への影響
・臨床実習の診療参加型化の促進につながる。

(2) 医学生(医師)個人への影響
・手技等を経験する機会が増加し、手技の比重が高い診療科に対する積極的な効果により、診療科偏在是正に対する効果が期待される。
・臨床研修における負担が一部軽減され医師の働き方改革にも資することが期待される。

(3) いわゆるStudent Doctorが診療参加型臨床実習を行う際の患者同意等
・同意を患者から得られやすくなることで、診療参加型臨床実習が促進される。
・将来的に患者理解が進んだ場合、一般的な処置について、特別な同意取得の必要なく、診療参加型実習において行うことを可能となることが望ましい。

(4) 地域における実習と地域医療への影響
・主体性を持って地域医療を体感することで、将来のキャリアに良い影響が。与えられる
・各養成課程の中で現状よりも地域に貢献することが可能となる。

他の診療参加型臨床実習の充実のための取組

(1) 患者の医育機関等へのかかり方
患者自身も共に医師を育てる認識に基づいた、患者の協力が不可欠であり、下記の点を国民に広く周知する取り組みを行う必要がある。
・いわゆるStudent Doctorが共用試験に合格し、診療参加型の臨床実習を行うに足る学生であること。
・大学病院はその設置目的に医学生の育成が盛り込まれていること。
・将来的な地域医療や総合的な診療能力を持つ医師の確保のため、大学病院以外の医療機関で臨床実習が行われること。

(2) 診療参加型臨床実習の指導体制
・教員等が十分に学生教育に時間を充てることができ、また評価される必要がある。
・臨床研修医や専攻医も屋根瓦式に医学生への指導を積極的に行うことが望ましい。

(3) 医学生が加入する保険
・医学生を保護する観点から強く推奨されるべき。